建築と社会

社団法人　日本建築協会
昭和50年１月25日発行
毎月１回25日発行
昭和24年３月19日第３種郵便物認可

1975
第56輯第１号
1
特集：図書館



カ

人気上昇中、メリット集約構造部材



昨今の材料の暴騰、人手不足は深刻です。特に建築面においては節材節労が重要な課題となり、それに適合する構造部材が要求されてきました。住友の軽量H形鋼、リップ付軽量H形鋼、及び軽量H形鋼を素材としたスミフレームHは、こうした状況に対処すべく生まれた画期的な製品。現在、全国で販売され軽量のため、他の形鋼に比べコストが安く、しかも加工性、施工性抜群。工期が大幅に短縮できるといった数々のメリットが絶賛をあび、各地の倉庫、工場、畜舎、体育館、事務所、モータープールに数多く利用されつつあります。なお、大型構造物用プレハブ骨組としては先に開発したスミフレームVが大活躍。好評を博しておりますので、併せてご利用ください。

軽量H形鋼の特長

1．大形サイズの生産可能
　最大サイズ(450×250)。軽量H形鋼としては今までにない大形肉厚サイズ(12㎜)
2．材料から製品まで垂直的一貫生産でコストダウンを実現。品質も最高。
3．走行切断機によるプレスカットのため、切断面が美しい。
4．オンラインによるエアスプレー式塗装のため美麗・強固でかつ均一な塗膜厚が得られる。
5．軽量のため他の部材に比べて総鋼重が少くてすみ経済的。
6．標準設計が完備（スミフレームH）



☆軽量H形鋼
☆リップ付軽量H形鋼
☆スミフレームH

住友金属
住友金属工業株式会社
大　阪＝大阪市東区北浜5－15（新住友ビル）　電（220）5111
東　京＝東京都千代田区丸の内1－3－2（新住友ビル）　電（282）6111
営業所＝郡山・福岡・広島・岡山・高松・名古屋・富山・静岡・新潟・宇都宮・仙台・札幌

謹賀新年
1975

'75年を迎えて

（社）日本建築協会会長　塚本猛次

新年おめでとうございます。
昨年は前年にひきつづいて景気の後退がはげしく、金融引き締めも一層強化され、歯をくいしばってもそれに対応していかねばならない状勢でした。そのつづきは恐らく本年にも重なってきて、個人個人の生活もますます切りつめざるを得ない状況となり、節約ムードは幅広くわれわれの生活におおいかぶさってくると思われます。
あれほど多かったゴミの量も減少し古新聞も安く買いたたかれるような時代になりましたが、それでも生活必需品は依然高値を続けております。
しかし、一部のものはジリジリ低落しつつあるのではないでしょうか。
建設業界も一昨年以降、不急の建設に待ったがかかりましたが、同時に住宅建設も足踏み状態になりました。
しかし、この状況がいつまでつづくかは米国をはじめ、諸外国の景気如何にかかっていることでもあり、貿易の改善が計られるのを待つよりほかに方法がないかもしれません。
多少建築抑制が緩んだとしても、手持ち資金がなければ建設意欲は出てこないでしょうし、それならばわれわれは官庁方面の建設の発注を待つよりほかに仕方がないと思います。
幸いに政府をはじめ地方自治体も徐々に生活福祉の方への関心が深まりつつあるのでいくらか望みがあるのではないかと考えます。
わが協会も会の運営上、昨年十月に会費の値上げをご承認いただき、会員各位の負担も増加したわけですが、「建築と社会」誌もご担当理事はじめ会員の旺盛な活動によって立派なものが作られ、また若い会員のつどいはじめ、その他の企画も大いにやっていただいており、まことにご同慶の至りに存じます。
世間の風通しはよすぎる位で寒さを感じますが、内部の充実を充分に計って、次の飛躍への地固めとしたいものであります。
建築クラブの朝食会も回を重ねること30数回、ようやく皆様方お互いになじむことのできる場の一つとなりました。
本年も前途多難とは思いますが、会員各位におかれても健康に充分ご留意され、強く、明るく、新たな一年を迎えようではありませんか。

大阪中央卸売市場新本場

設計監理：大阪市建築局　日建設計 大阪本社
施　　工：浪速共同企業体＝錢高組・鴻池組・奥村組・松村組
所 在 地：大阪市福島区下福島３－38
敷地面積：38,375.50m²
建築面積：20,806.18m²
延床面積：48,621.21m²
構造規模：SRC　４Ｆ
　　基礎 ＰＣ杭径350～600㍉×28ｍ約1,400本
施設内容：卸売場 9,500m²、仲卸売場 27,400m²、駐車場 21,100m²
工　　期：1972.11～1974.11
設備工事：〈電気〉近畿電気工事・関東電気工事
　　〈給排水衛生〉浦安工業 〈換気他〉山田工業

戦前から戦後にかけて安治川沿いの風物誌の一つに、安治川発電所の８本煙突があった。それは高くそびえ、辺りとは異質な様相を呈しており、通行する人たちにとって６本にも見え５本にも見えた。その８本煙突の姿が消えてから久しい。

このたびこの発電所跡地に中央卸売市場新本場が拡張建設され、大阪本場大規模低温貯蔵庫とならんで巾 250ｍの偉容を川面に映し出すこととなった。

この拡張計画は、昭和初年に建設された旧場の交通事情変革にともなう狭隘化、食品流通の多様化、取扱量の増加に対応することを目標にし、一部青果、加工食品部門を移設し旧場と新場との連繋によって食品流通センターとしての機能を発揮させたいというものである。

設計関係者は諸要素を調査分析し試行錯誤をくり返して実施案を決定した。

その主なポイントをあげれば次のとおりである。

●敷地条件と平面計画

敷地は旧場の西、一部公道民有地をはさんで隣接して居り、その面積は39,000m²であるが地方都市に建設されている卸売市場にくらべて広



くはなく、建家を立体化することにより空地を残し建蔽率を60%以下におさえる。さらに周辺通路を改修拡巾して旧場に接続、場内に10m道路をとり、空地を駐車スペースとし、屋上駐車場と合せてパーキングスペースを確保する。また旧場と新場との動線を合理的に処理するため本場連絡高架道路をつくり別に場内昇降ランプ、新場両翼に昇降ランプを二本設置し、屋上駐車場用ランプも計画する。平面計画は要求面積を配分、立体化しメインフロア二層、管理フロア二層、計4層の4階建とすると共に巾15mの道路を建家中央に設ける、柱割は大型車の乗入、荷捌、集荷の効率化をはかるため可能な限りロングスパンとし15.5×15.5mのパターンを採用する。

●内外装計画

新本場は安治川沿い右岸の川口町に近く大阪中枢部中之島に接属する位置にある。そのために外装は都市景観になじみ将来改造が予想される旧本場の先達的構成とし、清潔感があり新本場としてのイメージアップにつながるものとする。内装は耐火構造にすることを前提に軽量化をはかり仕上は簡素で堅実なものであること。

●構造計画

卸売市場としての重積載物を支持し、長大スパンとするためＰＣ杭打独立きそを持つ高張力鋼使用の溶接造とし柱、つなぎ梁を鉄骨鉄筋コンクリートにし他を鉄筋コンクリート造とする。きそ工事は在来きその撤去工事とにらみ合せ若干の設計変更を予測する。

●設備計画

ＣＯガス検知と温度設定とに連動する機械換気装置、諸設備の集中検針装置、セントラルガス冷暖房装置の具備、電気引込の予備線方式採用等、重層型卸売市場にマッチした設備を構想する。

また同敷地内に建設された大阪本場大規模低温貯蔵庫も全国にさきがけて計画された野菜専用貯蔵庫としての新鋭設備を持ち新本場と共に機能を発揮する日も近い。新本場拡張工事が完了するに当って関係者の間にはさまざまな思いが去来するが、とりわけきそ工事の難渋をきわめたこと、石油ショック前後の狂乱物価にあおられたことなど印象は深い。それだけに関係者の本計画に対する愛着は深く、バトンタッチされた建築主側の有効利用を願う気持は大きいのである。

大阪市建築局・日建設計大阪本社







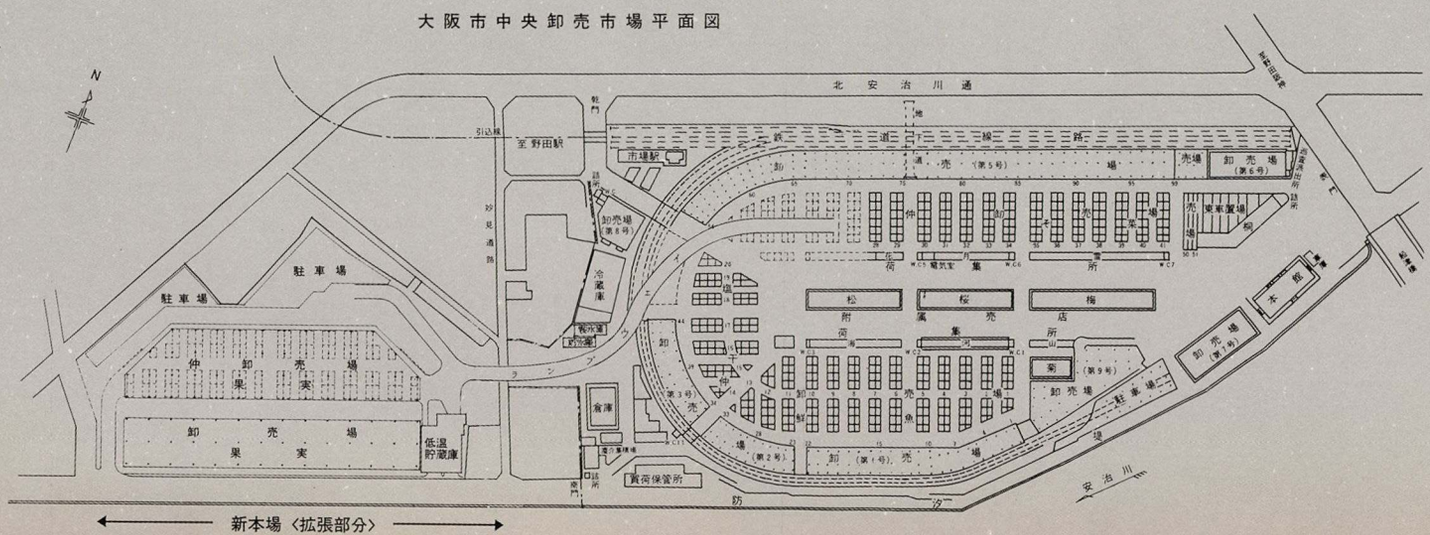
大阪中央卸売市場新本場

施工〈浪速共同企業体〉 錢高組　鴻池組　奥村組　松村組

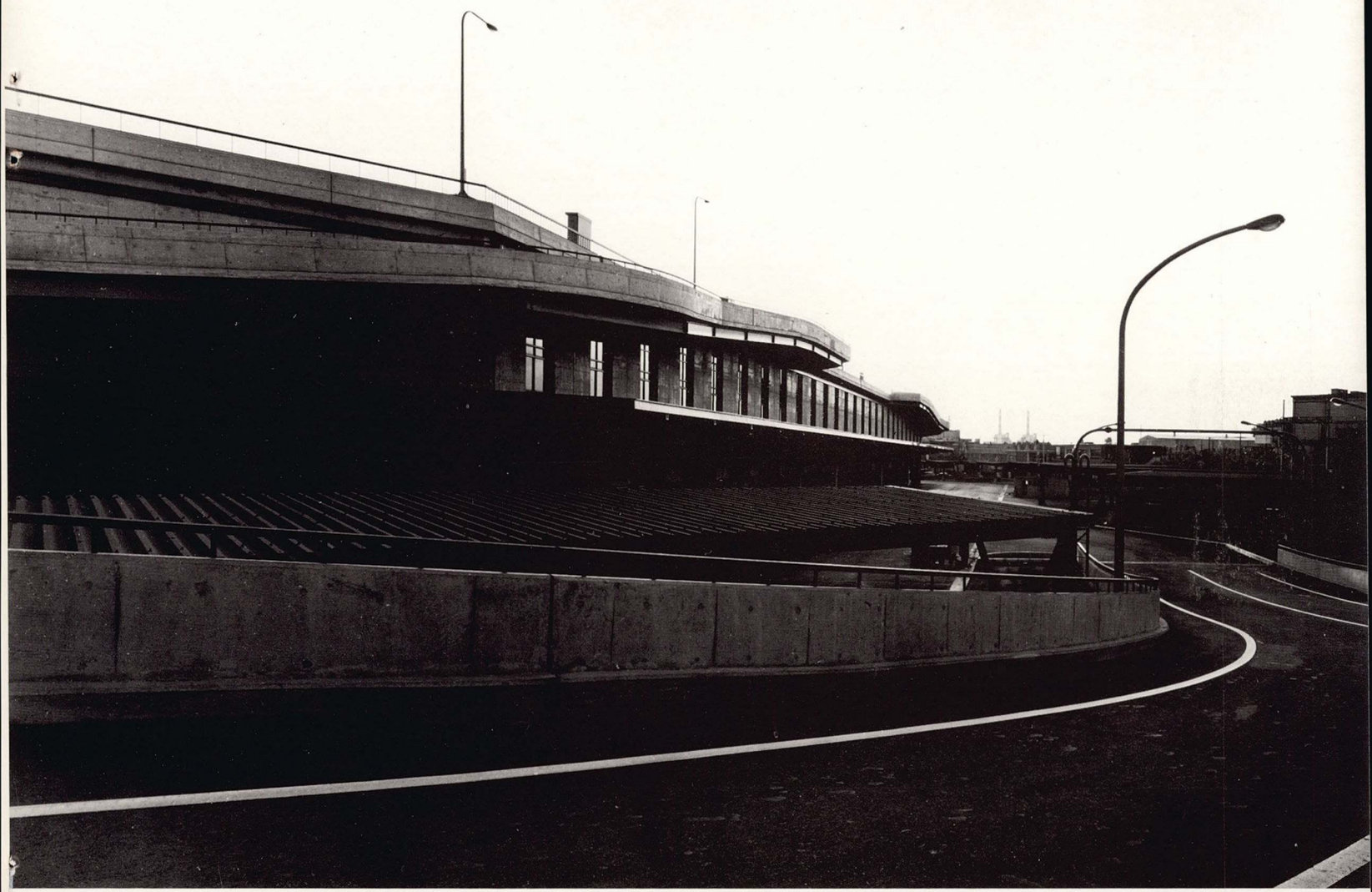


▲航空写真：日刊建設工業新聞社提供

大阪市中央卸売市場平面図


N
北安治川通
至野田駅
市場駅
駐車場
駐車場
仲卸売場
果実
卸売場
果実
低温貯蔵庫
倉庫
冷蔵庫
卸売場（第5号）
卸売場（第6号）
卸売場（第7号）
卸売場（第8号）
卸売場（第9号）
東車置場
駐車場
荷捌所
荷捌所
荷捌所







京都市大受市営住宅

設　　計：昭和設計
所 在 地：京都市伏見区石田大受町地内
建築面積：　1,716.08m²
延 面 積：18,924.37m²
構造規模：H.P.R造　11F、P 2
工　　期：1973.9～1974.11

施工　鹿島建設



協和銀行大阪支店
大阪事務センター

設　　計：松田平田坂本設計事務所
所 在 地：大阪市東区伏見町３－10
建築面積：　3,021.31m²
延 面 積：22,973.76m²
構造規模：SRC　Ｂ２、８Ｆ、Ｐ２
工　　期：1970.5－1974.11

施工　鹿島建設



西武タカツキ
ショッピングセンター

所 在 地：高槻市白梅町150－3
建築面積：10,685.62m²
延 面 積：60,670.44m²
構造規模：RC造　B1、S造　6F
工　　期：1972.1～1974.10

設計施工　大成建設



西脇カントリークラブハウス

所 在 地：西脇市上比延町字奥野７
建築面積：2,995m²
延 面 積：5,231m²
構造規模：RC造　Ｂ１、２Ｆ
工　　期：1973.8～1974.9

設計施工　大成建設


正面外観


北面外観


レストラン

ホテル ドゥ・スポーツ プラザ

施工　戸田建設



設　　計：日建設計
所 在 地：大阪市南区塩町通３－11
建築面積：1,320.626m²
延 面 積：9,581.523m²
構造規模：RC　B２、SRC　９F、RC塔屋
工　　期：1972.12～1974.6



舞子グランドハイツ

設　　計：根津建築事務所
所 在 地：神戸市垂水区東舞子町2042－6
建築面積：1,854.29m²
延 面 積：10,048.51m²
構造規模：RC　7F、P2
工　　期：1973.11～1974.10

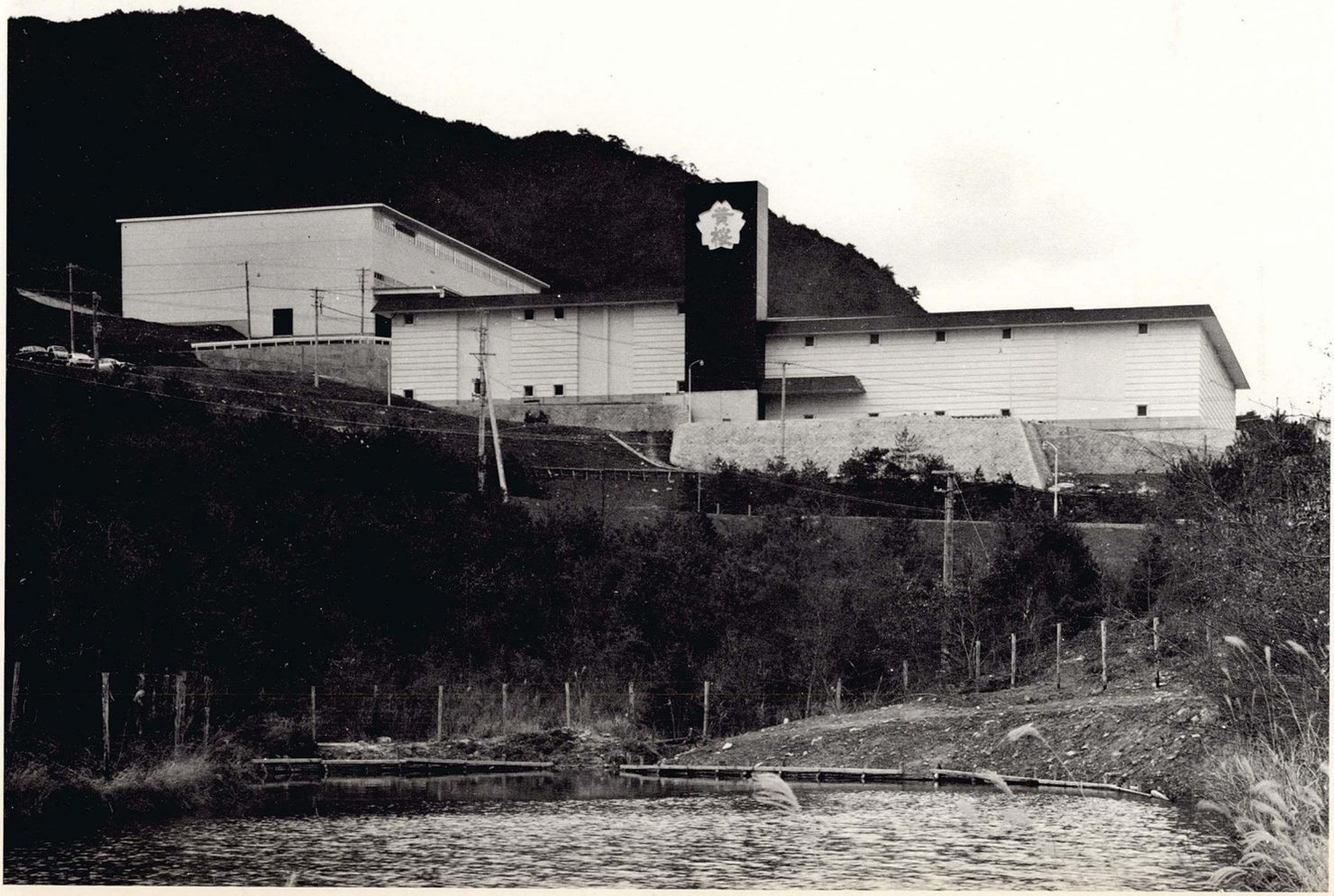
施工　西松建設



黄桜酒造丹波工場

設　　計：久米建築事務所
所 在 地：兵庫県多紀郡今田町本荘字堂ヶ谷
建築面積：9,051.660m²
延 面 積：9,211.065m²
構造規模：S平屋建
工　　期：1973.8～1974.11

施工　西松建設



藤井寺市立市民総合会館

設計・監理：池田宮彦設計事務所
所 在 地：藤井寺市北岡１－２－３
建築面積：3,367.34m²
延 面 積：9,586.78m²
構造規模：RC　一部S
工　　期：1972.3～1973.9

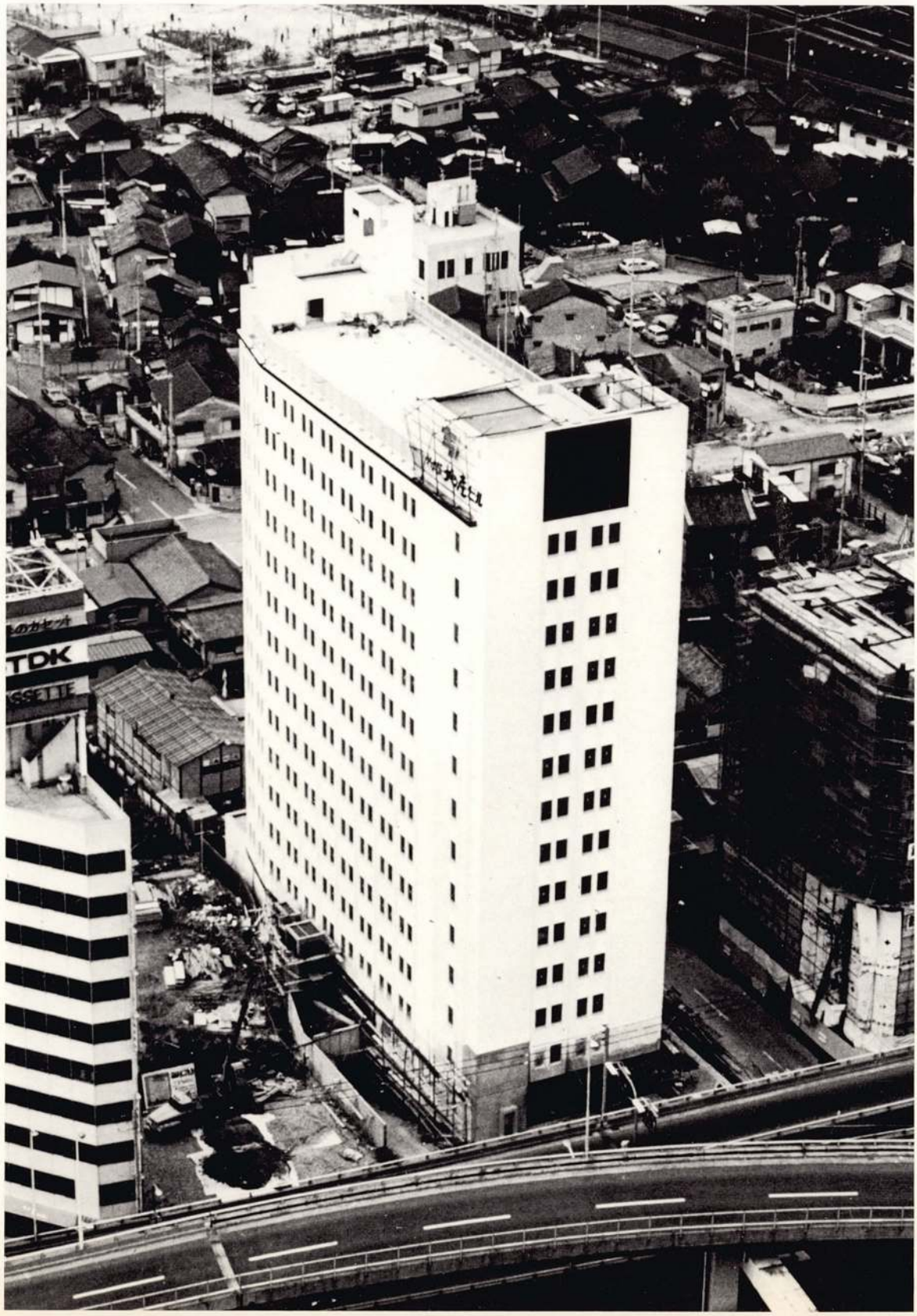
施工　淺沼組



新大阪地産ビル

設　　計：柳建築設計事務所
所 在 地：大阪市淀川区西中島８－29
建築面積：　683m²
延 面 積：11,310m²
構造規模：SRC造　Ｂ２、14F、Ｐ２
工　　期：1973.6～1974.11

施工　奥村組



京都労働会館

設　　計：富家建築事務所
所 在 地：京都市中京区壬生仙念町30
建築面積：1,346.15m²
延 面 積：7,312.72m²
構造規模：SRC　B１、６F、P２
工　　期：1973.2～1974.4

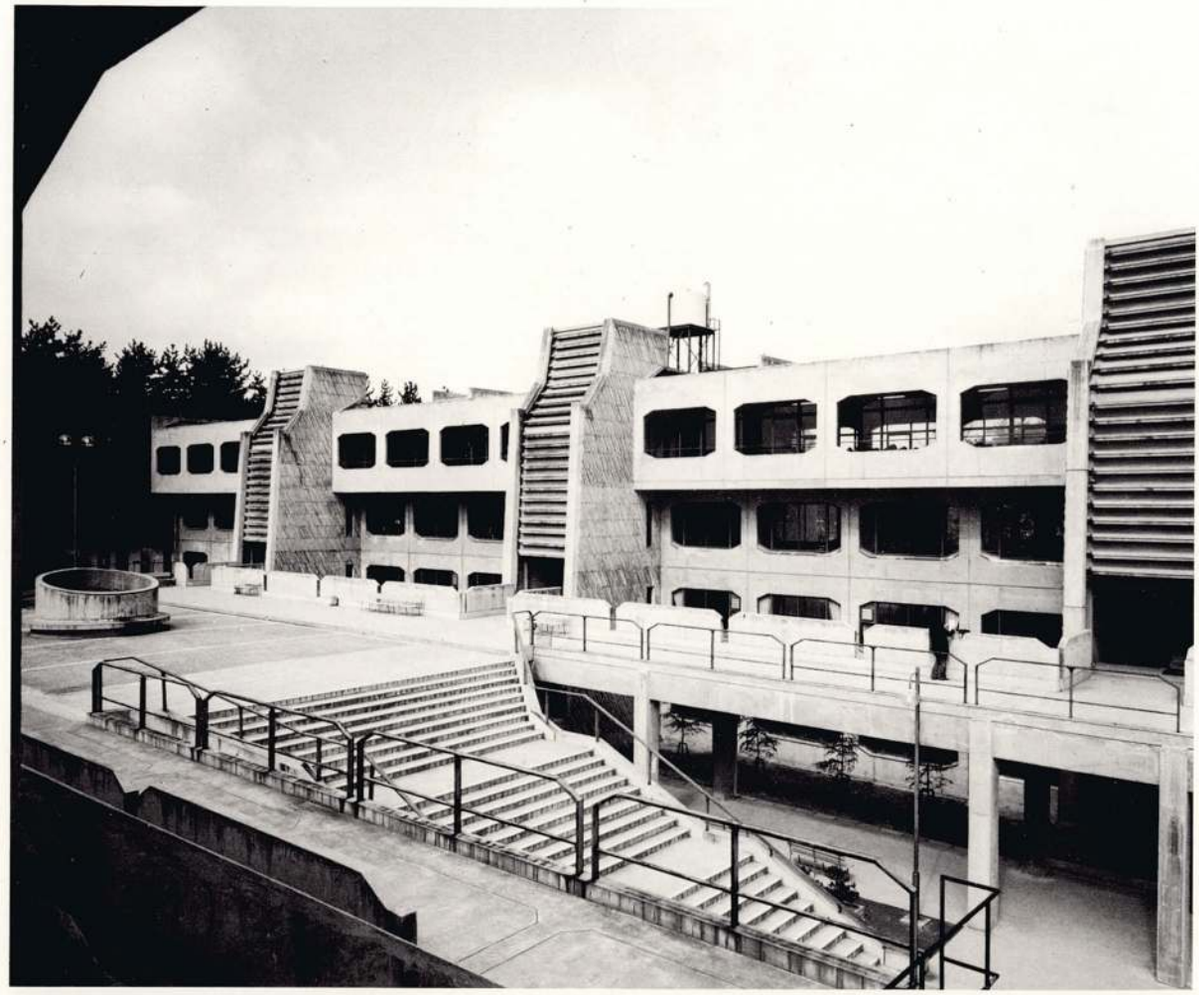
施工　鴻池組



奈良大学

所 在 地：奈良市宝来町
建築面積：3,862.16m²
延 面 積：7,790.43m²
構造規模：RC　4 F
工　　期：1968.11～工事中

設計施工　清水建設





荻窪勧業ビル

設計・監理：協立建築設計事務所
所 在 地：東京都杉並区天沼３－２－２
建築面積：　733.9m²
延 面 積：5,870.3376m²
構造規模：SRC　10F、P２
工　　期：1973.1～1974.4

施工　不二建設



西道頓堀分譲住宅

設　　計：久米建築事務所
所 在 地：大阪市西区西道頓堀通5
建築面積：1,044.74m²
延 面 積：14,732.72m²
構造規模：SRC　14F
工　　期：1972.12～1974.6

施工　松村組



ハイツ苦楽園

所 在 地：西宮市苦楽園一番町14
建築面積： 2,340.68m²
延 面 積：10,724.27m²
構造規模：RC　5F、P1
工　　期：1973.2～1974.3

設計施工　新井組



中百舌鳥第２高層団地

施　　工：島藤建設、東急建設、間組、

所 在 地：堺市中百舌鳥町
建築面積：　8,780㎡
延 面 積：91,995㎡
構造規模：SRC　11F、SRC　14F
工　　期：1971.4～1972.11

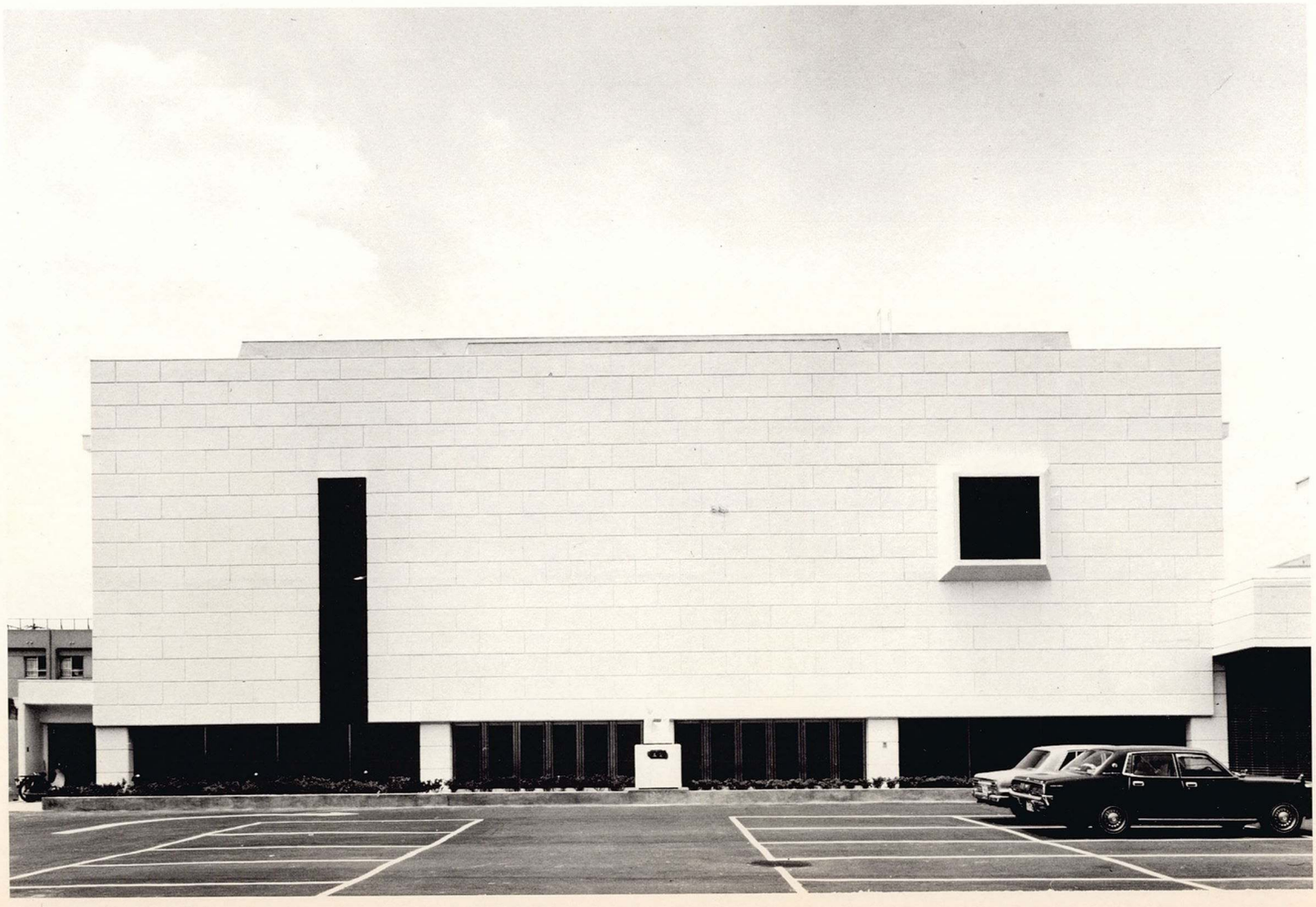
設計　大建設計



川西市文化会館

施　　工：フジタ工業
所 在 地：川西市丸ノ内町１－１
建築面積：3,117.25m²
延 面 積：6,020.11m²
構造規模：SRC　４F、別棟RC　Ｂ１、４F
工　　期：1972.12～1974.6

設計　昭和設計



環境科学研究所

設　　計：大阪市建築局営繕部 東畑建築事務所
施　　工：戸田建設
所 在 地：大阪市天王寺区東上町21
建築面積：1,470.9m²
延 面 積：9,031.4m²
構造規模：SRC　B1、F9、P1
工　　期：1972.11～1974.10

設計　東畑建築事務所



広島修道大学

施　　工：大林組、清水建設、フジタ工業
所 在 地：広島市沼田町大字大塚字檜梅甲324
建築面積：20,047.17m² (合計)
延 面 積：43 152.87m² (合計)
構造規模：ＲＣ、一部Ｓ
工　　期：1972.7～1974.12

設計　日建設計



日本生命博多駅前ビル

施　　工：大林組
所 在 地：福岡市博多区博多駅前３
建築面積：2,091.66m²
延 面 積：35,011.91m²
構造規模：RC造 B3、SRC造 B2、5F、S造 6F～13F
工　　期：1972.10～1974.11

設計　安井建築設計事務所



大阪中央卸売市場新本場

設計・監理　大阪市建築局、日建設計

施　　工　浪速共同企業体(錢高組・鴻池組・奥村組・松村組)

設　　備　浦安工業、関東電気工事、近畿電気工事、山田工業



●浪速共同企業体協力業者 (50音順)●

防熱工事
株式会社井上冷熱
大阪市西区江戸堀1丁目101番地 電話 06(441)8531番

スタットジベル工事・デッキプレート貼工事
岡部株式会社
大阪支店　大阪市西区北堀江通5－55 電話06(538)2381番

アスファルト被覆鉄板工事
オリエンタルメタル製造株式会社
尼崎市昭和南通3－26(松本ビル) 電話 06(412)5131番

鋼材リース
川商建材リース株式会社
大阪市北区小松原町27(富国生命ビル) 電話06(313)4741番

鉄骨工事
株式会社駒井鉄工所
大阪市港区福崎2丁目1番30号 電話 06(572)1112番

木工事
三共建設株式会社
京都市右京区嵯峨野有栖川町1の15 電話075(871)0231番

グレーチング工事一式
神鋼建材工業株式会社
大阪市北区梅田町529の3 電話 06 (344) 1 3 2 1 番

仮設材リース
住金物産株式会社
大阪市東区瓦町4丁目31番地 電話06(203)2141番

生コン及び耐火被覆工事
住友商事株式会社
大阪建材部 大阪市東区北浜5丁目15 電話06(220)7101番

シャッター工事
鈴木シヤタア商会
大阪市北区茶屋町33番地 電話 06 (371) 4 1 5 1 番

コーキング工事
セメダイン株式会社
大阪支店 大阪市南区大宝寺町東之町41 電話06(251)3555番

塗装工事
竹林塗装工業株式会社
大阪市淀川区新北野1丁目12番2号 電話06(301)9281番

木工事
高田工務店
吹田市吹東町11の5 電話 06 (382) 3 2 2 4 番

コンクリートブロック工事
大日窯材商事株式会社
尼崎市東難波町5丁目8番19号 電話 06(481)7056番

内装工事
合名会社利倉幸商店
大阪市南区長堀橋筋2丁目20 電話 06(211)0571番

溶接金網
東洋金網株式会社
四条畷市大字中野766番地 電話 0720(76)1121番

左官工事
株式会社浪花組
大阪市南区玉屋町12番地 電話 06 (211) 1 5 0 1 番

PC・ONAパイル工事
日本コンクリート工業株式会社
大阪営業所 大阪市東区本町4丁目4番1(本町野村ビル) 電話06(262)1761番

タイル工事
藤本タイル株式会社
東大阪市高井田本通4丁目1の2 電話 06(783)1151番

内装工事一式
マルコマ工事株式会社
大阪市西区南堀江通2丁目48番地 電話 06(538)7221番

鋼製建具工事
三井軽金属加工株式会社
特約店 本田工業株式会社
大阪市北区芝田町65の1 電話 06(372)0371番

アスファルト防水工事
三星産業株式会社
大阪出張所 大阪市西区江戸堀1丁目74 電話 06(443)9721番

舗装工事
株式会社森舗道
大阪市東区横堀2丁目18(サンビル内) 電話 06(203)0035番

建築装飾金物工事
株式会社森下製作所
寝屋川市池田2丁目114番地 電話0720(29)1612番

開閉ツマミなし

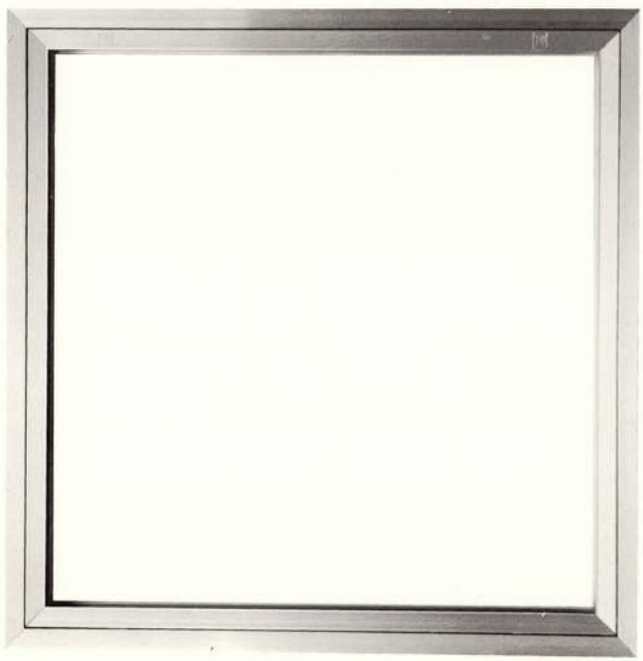
顔がいいから…丈夫だから…性能バッグン…

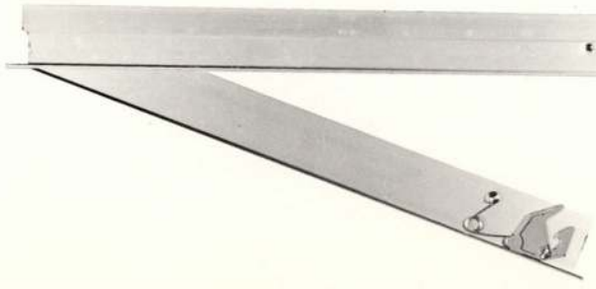
硬質アルマイト加工処理

特許ワンタッチ機構を採用









●ワンタッチ開閉操作です●

弊社独特のワンタッチ開閉機構(PAT.P)をセットしているため、内枠を押し上げる操作だけで、簡単に開閉します。

●施工が簡単です●

開閉機構が内蔵されているため、開閉ツマミの穴をあける必要がなく、更に従来品と異なり点検口を天井にセットした状態のまま、簡単に内枠ボードを取付けることが出来ます。

●丈夫で美しい外観です●

アルマイト処理を完全に施しているため、いつまでも美しく、丈夫です。しかも開閉ツマミなど附属品が外部に出ていませんので、外観がシンプルでスッキリしています。

●種類が豊富です●

規格寸法(m/m)

品　番	タテ　ヨコ　高サ
#N30	303×303×45
#N45	454×454×45
#N60	606×606×45

ご注文により、規格寸法以外も製作いたします。

●床点検口も魅力いっぱいです●

＊アルミニウム床点検口はハードアルミニウムを使用、ビス・アンカーなども強力なメッキをほどこしていますから、強度、耐腐触性はバッグンです。
また、モルタルなどの接触面には、高度なアルマイト処理をほどこしています。

＊真鍮・ステンレス張り床点検口は露出部分の強度も高く、いつまでも美しさを保ちます。

＊A・B兼用型床点検口は、1台でPタイルとモルタル塗それぞれに使い分けることが出来ます。

＊精度の高い押出機の組合せであるため、気密性が高く、臭気のもれる心配がありません。

●規格寸法●　m/m

品　番	タテ　ヨコ　高サ
#303	303×303×40
#460	460×460×40
#606	606×606×40

ご注文により、規格寸法以外も製作いたします。また、オールステンレス、オール真鍮製も別注製作いたします。

住宅産業の総合メーカーである弊社では、天井点検口・床点検口のほか、ガーデン・フェンス、ガーデン門扉、ガーデンハウス、カーハウス、カーロビー、ベランダ、テラス、クールトイレ、その他住宅関連資材を各種製作・販売しております。

カタログをご請求下さい

HA TO

株式会社 ダイケン

本　社：大阪市淀川区新高2丁目7番13号
☎06(392) 5551代
東京営業所☎03(262) 4191代　札幌営業所☎011(881) 3121～4
本社工場☎06(392) 5551代　東京工場☎0472(87) 6111代
十三工場☎06(302) 7721～3　堂島工場☎0143(43) 3223～6
岡山工場・営業所☎086928-2301代
中部出張所☎0582(71) 0709

日本建築協会常設委員会・本年の抱負

編集委員会本年の抱負

編集委員長　松村慶三

資材不足は落ち着きをみせたものの、狂乱物価にひきつづく公共料金の値上等で、「建築と社会」誌も、時にはパンフレットと見まがうすうすさになってきた。その内容にしても、幅広い会員層の一人ひとりにご満足願える堂々たるMENUを展開したいのだが、心ならずもCHEF'S　SUGGESTIONが数点並ぶ程度となる。しかしそれは、執筆者や委員をはじめ関係者全員の献身的な努力による文字どおりの「おすすめ品」であると思うし、今年もぜひそうしてゆきたいと思っている。何しろ、目次頁に明記されている（1917年創刊）という文字の重みがずっしりと身にこたえるのである。とくに今年は、昭和半世紀、戦後30年の区切りの年である。大きくゆれ動く世界のなかでの、われわれの周辺の「昭和50年」を、何らかの形で明確に捉えて記録に残したいと考えている。

建築データシート委員会本年の抱負

建築データシート委員長　井上　滉

建築データシート委員会が誕生して８年目を迎え、皆様のお手許へすでに約700シートをお届けしています。この間における建築の構法、材料等の進歩、改良は著しく、これらの情報をでき得る限り詳しく敏速かつ適確に会員諸氏へお届けするべく委員一同頑張っております。

しかし実際は不行届の点があって時にはご迷惑をおかけする場合もあるかと思いますが、よろしくご寛容いただき、一層のご協力をお願いする次第です。なお当初から監修していただいております坂静雄先生には引き続きご迷惑ながらお願いして、内容の充実したシートといたしたく、皆様のご期待に添いたいと思います。

教育委員会本年の抱負

教育委員長　谷口尚武

ここ数年、毎年のことながら年頭から景気のよくない「本年の抱負」を載せていただくことになって恐縮しています。会員の皆様がすでにご承知のように当協会の経理面の苦しさのため、収支面に心配のないことが実績によって明白にされている事業以外には手が出せないので、昨年も全く平凡に１年をすごしてしまいましたが、今年も同様な経過になるのではないかと思っています。しかし、実績のある事業の大半は新しく職場につかれた人など特定の会員だけを対象としたものが多いので、今年はぜひ一般会員の参加できる新しい事業を一つでも採り上げたい――これがささやかな本年の抱負です。

昨年は検討のみで終わり実現をみなかった「コンピューター」関係の講習会・「鉄筋コンクリート構造物の耐震安全性」についての講習会もその事業の一つと考えています。

法規委員会本年の抱負

法規委員長　市川　宏

その道のベテランを揃えた当委員会、この一年何とか官民のパイプ役として会員各位のお役にたちたいものと種々模索してきましたが、法令というものが思ったほど簡単には割り切れない多くの問題を抱えていることを改めて痛感。ことに協会という特殊な土俵の枠内でできることには自からの制約もあり、未だ目立った成果をあげるまでに至らず、申しわけなく思っています。現在本誌５月号に法令特集を企画中ですが、これと平行して継続中の企画をさらに発展させ、あるいはその経験を生かしつつ、ますます複雑多岐にわたる法令の問題点をとりあげ、従来の法令コーナーにまた違った味をそえるべく、委員一同努力するつもりでいますので、よろしくご支援をお願いいたします。

建材委員会本年の抱負

建材委員長　山田幸一

本委員会では月１回例会を開いて、その時々に問題になっているような建材を採り上げ、委員相互の間で討議し、必要に応じてメーカーなど外部の人を招いて説明を聞き、さらに見学会を交えて実地の見聞を広めている。昨年も討議を９回、見学を２回それぞれ行ってそれなりの成果をあげたが、本年も委員会活動の形式としてはこの方針を推進したいと思っている。しかしそれだけでは委員にはよい勉強になっても、一般会員にとって直接のプラスとはならない。それで以上の成果を委員が分担してとりまとめ、本誌技術のページや特集号に掲載し、会員全体の参考に供するように心がけている。それから見学会等はなるだけ関連の委員会と協同して企画するようにしたいし、また関連メーカーとの交流も深め協会への認識を一層深めてもらうようにしていきたい。

住宅委員会本年の抱負

住宅委員長　小西　岬

住宅委員会最大の行事は「よろず住宅展」で、昨年度は第11回を迎える予定のところ、例年の会場たる阪神百貨店が、改装やら何かで、実現できなかったので、新年早々には別の企画で開催の予定をしている。百貨店を借りて展示を削減して、相談を主にしたものにするか、大阪市および衛星都市を廻り、住宅を建てたい人々の相談に応ずるかのいずれかを選びたい。そして第12年目からの「よろず住宅展」のあり方を探る参考にしたく考えている。

ただ昨年は朝日新聞社主催で京阪くずはで開催中の、朝日住いのロータリー「くずは会場」のセンターハウスの企画を当委員会で行った。本年は太陽熱利用による暖房を３月から、冷房を６月頃より、センターハウスで行い、住宅ひいてはビル、工場の空調用エネルギー節減の先駆者となりたい。

新しい展開を目指して

事業委員長　窪田　祐

昨年は急激な経済状勢の変化にとまどいながら経過したように思います。その激動のなかで、20年にわたって続けられてきた最大の行事である忘年懇親会も、昨年は中止になるという結果になりました。長い間、高度経済成長という美酒に酔ってきた建築界も、これからは、建築の社会的役割についてあらためて反省をしながら、新しい展開を図らなければならない節点に立っております。

日本建築協会は、大阪でつちかわれた伝統と幅広い会員層の支持によって、建築界におけるユニークな存在を誇ってきて参りましたが、この転換期に、当協会もそのよき伝統を継承しながら、新しい行動に踏みだすべきであろうと考えます。事業委員会も、従来から続けられてきた経常的な事業活動を踏み台にして、新しい役割の展開を目指して、一層の努力を図りたいと考えております。

会員の皆様のご支援とご鞭韃をお願いいたします。

出版委員会本年の抱負

出版委員長　小林　清

毎年本年こそは、会員各位のお役に立つ図書出版をと考えておりますが、なかなか思うように企画が進まず、まことに申しわけないと存じます。

昨年は、神戸大学工学博士山田稔先生にご執筆をお願いいたしております「鉄筋コンクリート構造物の耐震安全性(実例を網羅して)」に関する図書出版を企画しておりましたが、諸種の事情で出版の運びに至りませんでした。本年はこれが発刊に努力をいたすとともに実際に役立つ平易な建築技術の参考図書についても検討いたしてまいりたいと考えております。

◀日商岩井(株)大阪本社ビル新築工事の見学会(第2回)

共催　日本建築協会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部

昨年3月に第1回として、主に軀体工事を中心として見学いたしました日商岩井本社ビルがほどなく竣工されます。

緑のオープンスペースを市民に広く公開するにふさわしい白色のスマートなビルを、東畑建築事務所殿および日商岩井大阪本社ビル新築工事共同企業体殿のご厚意とご協力により竣工間際に見学することにいたしました。

今回は上記建築3団体の共催で催しますが、3会のうちいずれか1つの会にお申込み願います。

日　　時　2月8日(土)　集合14.00→解散16.30

集合場所　大阪市東区北浜3丁目1
日商岩井㈱大阪本社ビル1階北側玄関前・目標会旗
ただし、御堂筋・淀屋橋から一ツ東の交叉点を南へ（三休橋筋）、最初の四ツ角の左側。

定　　員　70名（本会割当30名）

申　　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚1名限りとし、氏名・勤務先名・所在地・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し、「日商岩井本社ビル見学」と明記の上、1月20日(月)までに建築協会事業課へ。定員を超過した場合は3会協議の上抽せんにて決定し、ご通知いたします。

工事概要
所在地　大阪市東区北浜3－22他、今橋3－1他
建築主　日商岩井株式会社
設計監理　㈱東畑建築事務所
施　　工　清水建設㈱、㈱大林組、
鹿島建設㈱共同企業体
敷地面積　6,067.20㎡
建築面積　2,014.47㎡
延面積　48,842.62㎡
規　　模　地下3F・地上21F・塔屋2F
構　　造　地下3F→1F　SRC造(一部RC造)
2F以上S造
高　　さ　最高高さGL＋87.55m
掘さく深さGL－12.90m
外　　装　アルミ大型押出材、カーテンウオール
工　　期　昭和47年11月7日→昭和50年2月18日
主要施設　自社ビル事務室
駐車場（主にB1、B2F）137台収容
屋外庭園
見学時の状況　完成

◀清酒白雪の西宮工場見学会

“酒の名は　あまたあれども今はこは　この白雪にます酒はなし„と若山牧水にうたわれた清酒「白雪」は、天文19年（1550年)、今を去る400有余年もの昔に摂津の国・伊丹の里で生まれました。

始祖以来、酒一筋に、常に“最高の品質„をモットーとして新しい感覚の酒造りに一貫された白雪の見学は、富士山2号、3号、綜合精米工場など今までに数回催して参りましたが、今回は新しく建設されたマンモス自動洗びん機を備えた西宮の醸造蔵・びん詰工場を見学することにいたします。

この度も小西酒造㈱殿の多大のご厚意と、白雪の酒造蔵、その他の新築工事はほとんど手がけてこられた竹中工務店の小原弘光作業所長殿のご協力をいただきました。

本会恒例の酒蔵の見学に多数ご参加をお待ちいたします。

日　　時　2月15日(土)　集合13.30→解散16.35

集合場所　阪神電車、神戸線「久寿川駅」改札出口付近・目標会旗
〔参考〕交通費は各自負担（阪神電車梅田駅より片道100円）
交通→阪神電車梅田より急行乗車→「甲子園」で普通に乗替え一ツ目「久寿川」で下車。

見学場所　小西酒造株式会社西宮工場
西宮市今津港町13　電話0798－34－0001

定　　員　40名

行　　程
14.00→14.15　工場長挨拶
14.20→15.30　醸造蔵および瓶詰工場見学
15.35→16.30　酒の話、映画説明・懇親会
16.35　現地解散

申　　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名とし、氏名・勤務先名及役職・所在地・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し、「清酒白雪西宮工場見学会」と明記の上1月30日(木)までに建築協会事業課へ。
ただし、定員を超過したときは抽せんにて決定してご通知いたします。

昭和49年度　第9回若い会員の集い

◀解体修理中の古建築見学会(3)

――清水寺釈迦堂(重文)と成就院庭園――

若い会員の集いでは、古建築をより詳しくしり、また文化財保護事業を理解するため過去2回解体修理中の古建築見学会を催してきました。

シリーズ第3回として、京都清水寺・釈迦堂(重文)の見学会を計画いたしました。清水寺では昭和47年7月の風水害により崩壊した釈迦堂の修理工事が現在進められており、今回の見学では特に仕上工程について興味ある一面が学び取れることと期待しております。

なお、釈迦堂のほか、京都府文化財保護課殿、清水寺殿のご厚意により、一般には非公開とされている本堂内陣および成就院庭園も見学できることになりました。

会員諸氏の多数のご参加をおまちしております。

(1)清水寺本堂……江戸初期の建物で国宝に指定されている。昭和41年に解体修理完了。

(2)成就院庭園……江戸時代初期を代表する名園で、秀吉寄進の「誰か袖の手水鉢」や、三角燈籠、毛毬燈籠、烏帽子岩などの名石がある。

日　　時　2月22日(土)　集合14.00→解散17.00

集合場所　京都市東山区・清水寺、仁王門前付近・目標会旗。

〔参考〕交通費は各自負担のこと。

- 市電→京都駅前より15分、「清水道」下車
- バス→阪急電車、四条河原町より⑥⑯⑳に乗車「五条坂」または、「清水道」下車・清水坂を登ったところ、徒歩10分
- 京阪電車→「京阪五条」駅より真すぐ東へ、徒歩約20分
- 車の駐車場は清水坂の中程にありますが、よく混雑します。

定　　員　30名

会　　費　700円（拝観料、抹茶代、資料代その他）

行　　程　14.00→15.00 修理中の釈迦堂の見学
15.00→15.30 本堂、舞台拝観
15.30→16.10 成就院の庭園拝観
16.10→16.50 抹茶、懇談会・現地にて解散
見学終了後、清水寺のご厚意により成就院を拝借し、京都府文化財保護課の佃 忠夫、三上皓造氏にご同席願い懇談会を催します。

申　　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名とし、氏名・勤務先名・役職・所在地・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し、「若い会員の集い、清水寺の見学」と明記の上2月10日(月)までに、建築協会事業課へ。
ただし、定員を超過したときは抽せんの上、参加者を決定いたします。

◀日本建築協会名誉会長

竹腰健造先生米寿を祝う会開催ご案内

昨年12月号で会告いたしましたとおり、竹腰健造先生には、本年まことにおめでたい米寿をお迎えになります。つきましては下記のとおり米寿を祝う会を開催することになりましたので、多数ご参加下さいますようご案内申しあげます。

記

日　　時　昭和50年2月1日(土)午後2時～3時半

会　　場　太閤園（ビュッフェ・スタイルのパーティー）
大阪市都島区網島町9番10号　電話06－351－8201
（京阪電車京橋駅より西へ徒歩10分・市バス東野田より徒歩5分）

参加会費　7,000円（記念品料を含む）

記念品料　2,000円（記念品贈呈のみに参加される方）

申込締切　昭和50年1月10日(金)までのこと。

申　　込　申込みされる方はご面倒ですが、12月号挟み込みの振替用紙をご利用下さい。なお、詳細は12月号をご覧下さい。

◀会員の受章

このたび下記会員諸氏は、秋の叙勲並びに国家褒章を受けられました。ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

記

秋の叙勲

勲四等　瑞宝章　小河吉之助氏　小河建築設計事務所長

勲五等双光旭日章　中出　友作氏　中出商会代表取締役

〃　〃　蜷川　辰造氏　大阪装飾代表取締役

〃　〃　原田　重信氏　原田セメント化工社長

勲五等　瑞宝章　佐藤　音松氏　今西組会長

国家褒章

黄綬褒章　新井　辰一氏　新井組社長

〃　川口喜代枝氏　篠田川口建築事務所代表取締役

〃　沢井　修氏　大和商会代表取締役

〃　渡辺　道輝氏　渡辺建築事務所代表取締役

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

謹賀新年

昭和50年元旦

（50音順）

安部　章

松下電器産業株式会社　特機営業本部
〒571 大阪府門真市門真1006　電話06(908)1121

安部恒夫

安部建設株式会社　取締役社長
〒558 大阪市住之江西住之江2丁目7番5号　電話06(678)3212代
〒558 自宅・大阪市住之江区西住之江2丁目7番5号
電話06(671)7774

阿部貞市

株式会社　大気社　常務取締役技術本部長
〒530 北区中之島2—22　新朝日ビル　電話06(203)3721
〒660 自宅・尼崎市椎堂法師丸81—5　電話06(491)0829

阿部暢

東洋土建株式会社　取締役社長
〒546 大阪市東住吉区田辺東ノ町6丁目33 電話06(629)1331～5
〒546 自宅・大阪市東住吉区田辺本町3丁目188
電話06(629)0780

会長 青島憲輔
代表取締役 青島邦夫

株式会社　青島設計室
〒460 本社事務所・名古屋市中区大須4丁目14番51号
電話052(262)2341
〒103 東京事務所・東京都中央区日本橋茅場町2丁目6
千歳ビル　電話03(666)5021代

青盛繁男

青盛建材株式会社　取締役社長
〒733 広島市舟入幸町19—10　電話0822(92)3200
〒734 自宅・広島市翠町1507の10　電話0822(51)6730

青山正義

株式会社 青山建築積算事務所　取締役所長
〒550 大阪市西区江戸堀1—128　江南ビル　電話06(443)0430
〒610-11 自宅・京都市右京区大原野上里勝山町14—6
電話075(331)8082

赤崎尚信

株式会社　赤崎建築事務所　代表取締役
〒550 大阪市西区立売堀北通1の90　第三富士ビル
電話06(541)7625代
〒659 自宅・芦屋市三條町47番30　電話0797(31)8781

赤松　修

株式会社 赤松菅野建築設計事務所　代表取締役
〒530 大阪市北区梅ケ枝町123　瑞穂ビル　電話06(364)5651
〒560 自宅・豊中市千里園2丁目2—33　電話06(852)4622

浅井貞治

株式会社 双星社竹腰建築事務所　代表取締役
〒530 大阪市北区豊宮町3番2住生豊崎ビル　電話06(373)2281
〒659 自宅・芦屋市東山町213　ローズハイツ芦屋406号
電話0797(31)2339

代表取締役社長 浅井潤一
代表取締役所長 浅井　謙

株式会社　浅井建築設計事務所
〒542 大阪市南区安堂寺橋通5—30　第2農林会館5階
電話06(245)4651代
〒583 自宅・羽曳野市羽曳ケ丘2—5—6　電話0729(56)2152
〒583 自宅・羽曳野市羽曳ケ丘5—18—1　電話0729(57)3588

浅井　泰

株式会社　笠谷工務店　専務取締役
〒659 芦屋市業平町4—2　電話 0797 (22) 0703
〒659 自宅・芦屋市翠ケ丘町13—5　電話0797(22)5291

浅野真澄

株式会社 浅野建築設計事務所 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区城南寺町9—27　電話06(768)0201
〒572 自宅・寝屋川市成田西町4番21号　電話0720(31)1750

浅沼猪之吉

株式会社　淺　沼　組　取締役社長
〒543 大阪市天王寺区東高津町8番地の1　電話06(768)5222
〒631 自宅・奈良市学園南1丁目7番15号　電話0742(45)0681

浅沼誠夫

株式会社　淺　沼　組　常務取締役
〒543 大阪市天王寺区東高津町8番地の1　電話06(768)5222
〒630-02 自宅・生駒市東松ケ丘7番30号　電話07437(3)4805

浅海正雄

浅海電気株式会社　代表取締役
〒530 大阪市北区老松町1丁目22番地　電話06(362)8701～8
〒665 自宅・宝塚市御殿山2丁目31—50—109号
電話0797(85)0745

東　秀保

株式会社　東建築設計事務所　代表取締役
〒530 大阪市北区天神橋筋3丁目67　マチスビル
電話06(358)5598
〒572 自宅・大阪府寝屋川市成田町15—25　電話0720(31)3986

姉川正男

東光電気工事株式会社大阪支社　取締役支社長
〒541 大阪市東区高麗橋5丁目28番地　電話06(202)0325
〒565 自宅・吹田市藤白台4の30の12　電話06(872)3214

網野　栄

株式会社　研　文　社　代表取締役
〒530 大阪市北区堂山町66　電話06(361)0351代

天羽　鴻

天羽鴻建築事務所
〒770 徳島市中前川町2丁目14番地　電話0886(52)5231

荒木芳邦

株式会社 荒木造園設計事務所 代表取締役
〒563 池田市鉢塚2丁目8番21号　電話0727(61)8874代

謹賀新年

昭和50年元旦

(50音順)

安藤俊雄

安藤俊雄建築設計事務所　所長

〒540大阪市東区常盤町2の30高木産業ビル 電話06(942)4602～3

〒560 自宅・豊中市上野西2丁目16—29　電話06(856)0619

井上達明

株式会社 井上達明建築事務所 代表取締役

〒530 大阪市北区鶴野町51番地 安田ビル　電話06(372)2821代

〒555 自宅・大阪市西淀川区竹島3丁目7の4 電話06(473)1069

池田昭

株式会社 池田宮彦設計事務所 代表取締役

〒542 大阪市南区瓦屋町三番丁68　オートセンタービル3階
電話06(761)0360

〒591 自宅・堺市東上ノ芝町2丁321　電話0722(52)7753

井崎梁次

株式会社 井崎工務店 代表取締役

〒640 和歌山市北河岸4丁目1番地　電話0734(24)6195代

〒640 自宅・和歌山市玉藻丁2丁目5番地　電話0734(22)0382

伊地知堅一

大鉄工業株式会社　取締役社長

〒530 大阪市北区茶屋町38番地　電話06(361)0171

〒661自宅・尼崎市南武庫之荘5丁目13番15号 電話06(428)2148

諫早信夫

フドウ建研株式会社　社長

〒110 東京都台東区台東1—2—1　日本地所第二ビル
電話03(835)2661

〒157 東京都世田谷区南烏山2—18—4　電話03(300)3705

井上浄夫

株式会社 井上冷熱 取締役社長

〒550 大阪市西区江戸堀1の101　電話06(441)8531代

〒663 自宅・西宮市甲子園三番町9の5　電話0789(41)4661

伊藤喜三郎

株式会社 伊藤喜三郎建築研究所 代表取締役社長

〒102 東京都千代田区紀尾井町3番地　文芸春秋ビル
電話03(263)1481代～7

〒141 東京都品川区東五反田3-16-55　電話03(441)5437

石井蔀

東洋基礎工業株式会社大阪営業所取締役営業所長

〒550 大阪市西区京町堀1丁目156　中谷ビル
電話06(441)6678～9

〒565 自宅・大阪府豊中市新千里北町3丁目1番地
新千里北町第三団地C40の204　電話06(872)3050

井上正一

名古屋建築設計事務所　所長

〒453 名古屋市中村区椿町20—15　国鉄会館内
電話052(452)1271大代
052(451)2025直通

〒464 自宅・名古屋市千種区下方町4の30　電話052(711)9400

伊藤鑛一

株式会社 伊藤建築設計事務所 取締役社長

〒460 名古屋市中区錦3丁目3－6　日本経済新聞ビル
電話052(951)1110代

〒101 東京事務所　東京都千代田区神田美土代町7　久保ビル
電話03(294)6061代

石上利吉

株式会社 不二建築設計事務所 代表取締役

〒550 大阪市西区江戸堀北通1—19 オカダビル
電話06(441)2232～3

〒662 自宅・西宮市枝川町10番69の304　電話0798(48)7756

井上久雄

株式会社井上久雄建築設計事務所代表取締役所長

〒550 大阪市西区京町堀1—38　千島ビル
電話企画部06(443)7386
設計部06(443)7338

〒565 自宅・吹田市青山台3丁目20番7号　電話06(831)3256

伊藤三郎

大栄電気株式会社大阪支店　専務取締役支店長

〒550 大阪市西区京町堀2－35　電話06(443)0631

〒550 自宅・豊中市北桜塚3－8－7　電話06(854)7747

石川清

日星企業株式会社 取締役建築部長 兼技師長

〒530 大阪市北区万才町47番地　日生不動産梅田ビル
電話06(312)4631代

〒546 自宅・大阪市東住吉区田辺東之町1ノ56 電話06(719)7915

井上博

株式会社　井上博設計事務所　代表取締役

〒107 東京都港区南青山2—11—15　電話03(401)7177代

〒154 自宅・東京都世田谷区弦巻3—6—18　電話03(420)1001

飯田精次郎

共同設計株式会社　取締役社長

〒530 大阪市北区富田町9番地　電話06(364)5836

〒150 東京事務所・東京都渋谷区渋谷1丁目10番地1号
八千代ビル内　電話03(407)0912　03(409)1837

〒730 広島事務所・広島市牛田本町4丁目8—16
電話0822(21)0436

石川寛三
石川宏

石川建築事務所

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町111番地　電話06(779)9491代

〒665 自宅・兵庫県宝塚市雲雀丘山手1丁目5番1号
電話0727(59)2963

井上福蔵

株式会社　井上組　代表取締役

〒534 大阪市都島区網島町6番25号　電話06(352)4031～4
電話 06(351)0530

〒577 自宅・東大阪市東石切町6丁目4番4号　電話0729(81)2526

生田重政

日本建設株式会社　取締役社長

〒541 大阪市東区安土町4丁目5番地　電話06(261)7591～8

〒659 自宅・芦屋市朝日ケ丘22番11号　電話0797(23)0657

石川良興

日本冷熱工産株式会社　取締役社長

〒564 吹田市豊津町40番38号　電話06(387)2000

〒560 自宅・豊中市螢ケ池東町4丁目7番12号　電話06(841)0032

謹賀新年

昭和50年元旦

（50音順）

石田綽男

株式会社 石田建築研究所 代表取締役

〒108 東京都港区高輪4丁目2番6号 電話03(443)9321～3
〒106 東京都港区六本木7—17—2
六本木ビジネスアパートメンツ209 電話03(478)0362
〒155 自宅・東京都世田谷区代沢4—31—6 電話03(422)4452

石原季夫

株式会社 石原建築設計事務所 代表取締役

〒530 大阪事務所 大阪市北区宗是町1 大ビル916
電話06(443)1225～6
〒100 東京事務所 東京都千代田区内幸町1—3—6
新日比谷ビル 電話03(502)8921～4
〒650 自宅・神戸市生田区中山手通6—38 電話078(341)2073

泉治郎一

株式会社熊谷組大阪支店専務取締役大阪支店長

〒543 大阪市都島区片町2丁目10番5号 電話06(352)1151

泉沢哲史

株式会社 泉沢建築設計事務所 代表取締役

〒530 大阪市北区真砂町48—1 オオシマビル 電話06(364)9071

板井正彦

西松建設株式会社大阪建築支店 取締役支店長

〒540 大阪市東区釣鐘町2丁目41番地 電話06(942)1131大代
〒272 留守宅・市川市平田3—21—5 電話0473(23)2647

板垣精治郎

株式会社 板垣建築事務所 代表取締役社長

〒556 大阪市浪速区日本橋筋4丁目3の29番地
電話06(633)7535
〒591 自宅・堺市中百舌鳥町7丁1183の2 宮路池住宅5の103

市川繁雄

日本管工業株式会社 取締役社長

〒601 京都市南区西九条豊田町20 電話075(681)5101～5
〒606 自宅・京都市左京区下鴨芝本町37 電話075(781)0289

指宿真智雄

株式会社 建築デザイン 1級建築士事務所
株式会社 緑地デザイン 技術士事務所 代表取締役
株式会社 設備デザイン 設備士事務所

〒542 大阪市東区南本町4—47イトウビル 電話 06(252)1011～4
〒100 東京都千代田区永田町2—14—3 赤坂東急ビル
電話 03(580)1011～4
〒604 京都市中京区柳馬場通御池下る柳八幡町65 京都朝日ビル
電話075(221)1101～4
〒606 自宅・京都市左京区下鴨北野々神町8の5
電話075(781)6573

今井正隆

有限会社 三和建築事務所 代表取締役

〒538 大阪市鶴見区緑1丁目5番6号 川端ビル
電話06(939)9903代
〒573 自宅・大阪府枚方市香里ケ丘1丁目22 電話0720(54)4630

今西茂雄

株式会社今西建築デザインルーム代表取締役

〒550 大阪市西区北堀江通2丁目47番地 電話06(541)3051～3
〒550 自宅・大阪市西区北堀江通2丁目47番地 電話06(541)3054

今西壽雄

株式会社 今西組 取締役社長

〒543 大阪市天王寺区上本町7丁目2番地の1 上六ビル
電話06(772)1251
〒592 自宅・大阪府高石市羽衣2丁目4番1号 電話0722(61)1179

今村騰

取締役会長

平木寛

取締役社長

中央電気工業株式会社

〒530 大阪市北区梅ケ枝町56 電話06(312)8881大代

今元康彦

近畿電気工事株式会社 取締役副会長

〒530 大阪市北区南扇町11番地 電話06(312)1281
〒560 自宅・豊中市北桜塚4丁目5番5号 電話06(852)5887

岩井金三郎

株式会社 大亜建設 代表取締役

〒460 名古屋市中区栄4—1—1 中日ビル 電話052(262)7531
〒464 自宅・名古屋市千種区月見坂町1—23 電話052(751)3724

岩﨑甚太郎

〒666 自宅・兵庫県川西市花屋敷1丁目32の11
電話0727(59)9317

岩崎茂雄

恒和化学工業株式会社 取締役会長

〒561 大阪府豊中市豊南町南6丁目3番13号 電話06(332)5721
〒659 自宅・芦屋市三條町86番地 電話0797(22)2746

岩崎徹

株式会社 岩崎建築設計事務所 代表取締役

〒606 本社・奈良市法蓮立花町1046 電話0742(22)2217
〒630 奈良事務所・奈良市大森町57の3 農協会館内
電話0742(22)2283代
〒631 自宅・奈良市学園北1丁目5—11 電話0742(45)1513

岩崎久雄

高千穂電機株式会社 取締役社長

〒534 大阪市都島区中野町4丁目8番10号 電話06(358)1171代
〒565 自宅・豊中市新千里南町3丁目34—7 電話06(831)5118

岩崎弘

株式会社教育施設研究所大阪事務所常務取締役所長

〒550 大阪市西区立売堀北通2の27 電話 06(531)0913
大信ビル2階3階 電話 06(541)7301
〒630 自宅・奈良市法蓮立花町1046 電話0742(22)2217

岩本義心

野村建設工業株式会社 取締役社長

〒541 大阪市東区高麗橋2丁目9番地 電話06(202)4791代

上田良治

株式会社 上田建築事務所 代表取締役

〒556 大阪市浪速区新川2丁目677 電話 06 (633) 3655
〒572 自宅・大阪府寝屋川市本町17の18 電話0720(21)2483

謹賀新年

昭和50年元旦

(50音順)

上西圭治

株式会社 大気社 代表取締役社長

〒530 大阪市北区中之島2—22 新朝日ビル5階 電話06(203)3721

〒659 自宅・兵庫県芦屋市浜町12—14 電話0797(22)5949

遠藤剛生

㈱遠藤剛生建築設計事務所 所長

〒541 大阪市東区伏見町2丁目22 青山ビル 電話06(203)0888

〒562 自宅・箕面市半町3丁目13の31 電話0727(22)2064

大下順三郎 大下順良 大下浩正 熊澤六朗

平和建設株式会社

〒536 大阪市城東区関目町1丁目40 電話06(939)4741代

上蓑義一

共立建設株式会社大阪支店 取締役支店長

〒540 大阪市東区谷町5丁目30番地 新野村ビル内 電話06(761)0112代

〒514 自宅・京都府綴喜郡八幡町橋本栗ケ谷26—142

小川正

株式会社 竹中工務店 常務取締役

〒541 大阪市東区本町4—27 電話06(252)1201

大林芳郎

株式会社 大林組 取締役社長

〒540 大阪市東区京橋3丁目37番地 電話06(943)1131

〒658 自宅・神戸市東灘区御影町御影字上の山1682の1 電話078(85)2501

内輪勝

株式会社 創構造建築事務所 代表取締役

〒733 広島市十日市町1丁目2番20号 電話0822(91)4495

〒730 自宅・広島市中山299の6 電話0822(89)1658

小河吉之助

株式会社 小河建築設計事務所 代表取締役所長

〒542 本社・大阪市南区瓦屋町4番丁8 電話06(763)2301

〒106 支社・東京都港区六本木5—18—3 六本木ベニービル7階 電話03(583)9501代

分室・和歌山・箕面新船場・北陸金沢

〒573 自宅・枚方市香里ケ丘12丁目22—37 電話0720(54)0690

大平國夫

大末建設株式会社 専務取締役

〒542 大阪市南区大和町1 電話06(213)0555

〒580 自宅・松原市柴垣1—25—26 電話0723(31)2260

浦野三男

株式会社 浦野設計事務所 取締役社長

〒452 名古屋・名古屋市西区山田町上小田井字中浦1254の5 電話052(502)1991代

〒113 東東・東京都文京区本郷1—27—8 本郷ハウス 電話03(811)9128・9585

〒452 自宅・名古屋市西区山田町上小田井字中浦1254の5

尾原庸夫

株式会社 松田平田坂本設計事務所 大阪出張所所長

〒530 大阪市北区堂島上3—10 電話06(344)7821

〒338 自宅・埼玉県与野市大字上落合540—1—1—103 電話0488(52)7544

大森久司

近畿電気工事株式会社 取締役会長

〒530 大阪市北区南扇町11番地 電話06(312)1281

〒630 自宅・奈良市今辻子町12 電話0742(22)2390

浦辺鎮太郎

株式会社 浦辺建築事務所 代表取締役

〒530 大阪市北区梅田8番地 新阪急ビル 電話06 (341)1727 (341)1680

〒662 自宅・西宮市甲東園1丁目7の8 電話0798(51)0389

大井弘治郎

株式会社 大井建築設計事務所 代表取締役

〒550 大阪市西区京町堀1丁目76福岡ビル 電話06(444)4521〜2

〒562 自宅・箕面市百楽荘4丁目4—11 電話0727(21)4113

岡澤勇

岡澤建築設計事務所 所長

〒530 大阪市北区梅ケ枝町146 梅ケ枝ビル2階 電話06(362)6082代

〒567 自宅・大阪府茨木市大字清水433 電話0726(43)5230・8953

榎栄

株式会社 東峰美建

〒574 大阪府大東市赤井1丁目3の23 電話0720(72)1850代

大倉三郎

西日本工業大学 学長

〒606 自宅・京都市左京区下鴨北園町33 電話075(781)0636

岡田孝男

帝塚山学院大学 教授

〒589 大阪府南河内郡狭山町今熊 電話0723(65)0865

〒565 自宅・吹田市千里山西5丁目40—4 電話06(384)3019

榎敏男

日東工業株式会社 専務取締役

〒541 大阪市東区瓦町5丁目37番地 電話06(227)1000

〒631 自宅・奈良市鶴舞西町1番24—103 電話0742(45)9275

取締役社長 大澤幸平 取締役副社長 大澤博

大幸建設株式会社

〒550 大阪市西区長堀北通1丁目5番地 電話06(538)0881代

〒560 自宅・豊中市玉井町1丁目8番18号 電話06(852)3237

〒560 自宅・豊中市玉井町1丁目8番18号 電話06(855)5338

岡田正昭

河内石材工業株式会社 代表取締役

〒574 大東市灰塚6—3—22 電話06(745)7761

〒572 自宅・寝屋川市池田本町20—34 中瀬ハイツ202号 電話0720(27)3978

謹賀新年

昭和50年元旦

(50音順)

岡橋作太郎

株式会社 日建設計 相談役

梶本秀尾

八千代電設工業株式会社 取締役社長
〒540 大阪市東区森之宮東之町392 電話06(941)6531代
〒588 自宅・堺市大美野107の4 電話0722(37)2548

亀田晃

島藤建設工業株式会社大阪支店 取締役支店長
〒530 大阪市北区茶屋町31番地2 電話06(372)6001代～4
〒565 自宅・豊中市新千里南町2—27—1 電話06(832)0641

岡本繁一

近畿電気工事株式会社 取締役社長
〒530 大阪市北区南扇町11番地 電話06(312)1281
〒640 自宅・和歌山市三木町南ノ丁18 電話0734(23)0308

数井利美

株式会社 西村建築事務所 取締役社長
〒652 神戸市兵庫区荒田町2丁目1番地 旭ビル
電話078(521)0205・0207
〒654 自宅・神戸市須磨区白川台2丁目39—13
電話078(741)5862

柄谷吉太郎

株式会社 柄谷工務店 取締役社長
〒660 尼崎市玄番南之町4番地 電話06(411)1451

岡本全男

筧組建設株式会社 取締役社長
〒543 大阪市天王寺区東高津町14—5 電話06(768)1515代
〒557 自宅・大阪市西成区玉出東1丁目6番15号
電話06(661)3317

片桐正人

清水建設株式会社 常務取締役大阪支店長
〒550 大阪市西区土佐堀通2—2 電話06(443)5431
〒560 自宅・豊中市桜塚4丁目9—38 ユタカマンション501号
電話06(852)4531

川岸繁夫

株式会社 川岸窯業商店 代表取締役
〒550 大阪市西区靭本町2丁目98番地 電話06(532)0461代
〒563 自宅・池田市天神1丁目10—10 電話0727(61)8598

岡本行善

株式会社 昭和設計 取締役社長
〒550 大阪市西区長堀北通1丁目8番地 四ツ橋ビル
電話06(532)3421代
〒659 自宅・芦屋市岩園町35—7 電話0797(31)3201

金光五郎

万年スレート株式会社 取締役社長
〒557 大阪市西成区千本南2丁目14番20号 電話06(661)8181

川口喜代枝

株式会社 篠田川口建築事務所 所長
〒461 名古屋市東区富士塚町3丁目2番地 電話052(962)7581代
〒464 自宅・名古屋市千種区稲舟通2丁目7番地
電話052(751)2613

岡山竹雄

株式会社 岡山建築事務所一級建築士事務所 代表取締役
〒612 京都市伏見区深草平田町18 電話075(641)0536
〒612 自宅・京都市伏見区深草平田町18 電話075(641)0536

鎌谷秀男

修成建設専門学校 校長
〒555 大阪市西淀川区大和田5丁目19—30 電話06(474)1644
〒665 自宅・宝塚市千種4丁目3番3号 電話0797(72)1380

川崎軍一

近畿電気工事株式会社広島支店 取締役支社長
〒730 広島市稲荷町4番1号 住友生命広島ビル
電話0822(62)1471
〒734 広島市宇品御幸2丁目2番2号 電話0822(51)7535

奥野晴弘

株式会社 和光建築設計事務所 代表取締役
〒556 大阪市浪速区新川3丁目630 電話06(633)0141～3
〒550 自宅・大阪市西区北堀江御池通3丁目40番地
電話06(541)0261

神谷新一

コクヨ株式会社 取締役
〒557 大阪市東成区大今里南6—1—1 電話06(976)1221
〒657 自宅・神戸市灘区五毛通3—2—21 電話078(861)0596

川崎敬三

株式会社 近畿建設 取締役社長
〒550 大阪市西区江戸堀5丁目118和光ビル 電話06(448)5601
〒556 自宅・大阪市浪速区新川2丁目666 電話06(632)7369

海上静一

株式会社 海上静一建築事務所 代表取締役
〒541 大阪市東区博労町2丁目41番地 中博ビル
電話06(271)1149・(261)4428～9
〒591 自宅・大阪府堺市日置荘西町13番地2 電話0722(85)2120

亀井晃治

一級建築士事務所 株式会社 A・R・I建築事務所 取締役社長
〒542 大阪市南区谷町7丁目12の1 新谷町第3ビル・2F
電話06(768)1405代～8
〒631 自宅・奈良市中町1丁目479 電話0742(43)1226

川瀬啓一郎

扶桑管工業株式会社 代表取締役
〒616 京都市右京区太秦和泉式部町12番地 電話075(861)1157
〒616 自宅・京都市右京区秦安井車道町21 電話075(811)1509

謹賀新年

昭和50年元旦

(50音順)

川谷　勇

川谷建築設計事務所　自営
〒606 京都市左京区一乗寺清水町15　電話075(781)1148代
〒606 自宅・京都市左京区一乗寺清水町15 電話075(781)1148代

川廷誠治郎

神鋼建材工業株式会社　取締役社長
〒660 尼崎市西向島町77番地　電話06(411)1301代

川村　宏

株式会社 汎建製作所　代表取締役
〒554 大阪市此花区酉島町3丁目15番地　電話06(462)4661
〒699-11 自宅・大和郡山市冠山町2—55　電話07435(2)5995

河裾和夫

螢光産業株式会社　代表取締役
〒531大阪市大淀区本庄川崎町2丁目18番地4 電話06(371)5146

河原義夫

新日本空調株式会社 大阪支店 支店長
〒530 大阪市北区堂島浜通り1—25—1　電話06(344)6031
〒659 自宅・芦屋市岩園町23番34号　電話0797(31)5492

神﨑吾明

株式会社 神崎組　取締役社長
〒670 姫路市北條口86の3　電話0792(23)2021代
〒670 自宅・姫路市北條口62　電話0792(23)0210

木藤友樹

株式会社 団地サービス西部支社　常務取締役 西部支社長
〒536 大阪市城東区森之宮1丁目5番101号　電話06(969)1001

城戸武男

株式会社 城戸武男建築事務所 代表取締役所長
〒460 名古屋市中区栄1—22—27　電話052(231)5451代
〒460 自宅・名古屋市中区栄1—22—27　電話052(201)4061

木下國男

内外パーキング施設株式会社　代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1丁目32番地　電話06(441)0477代
〒560 自宅・豊中市北桜塚3丁目9番15号　電話06(853)0892

草浦　治

清水建設株式会社九州支店　取締役支店長
〒810 福岡市中央区赤坂1丁目1番29号　電話092(771)9151
〒814 自宅・福岡市西区西新6丁目7—4　電話092(821)2383

熊澤六朗

平和建設株式会社　常務取締役
〒536 大阪市城東区関目町1丁目40番地 電話06(939)4741代～5
〒564 自宅・吹田市内本町3丁目23番8号　電話06(381)0451

栗山和三

株式会社 シエル石油 大阪発売所　本部長
〒532 大阪市淀川区西中島2丁目11番30号　電話06(303)7131
〒663 自宅・西宮市枝川町1—144—304 電話0798(48)9428

黒川巳喜

株式会社　黒川建築事務所 代表取締役
〒466 名古屋市昭和区鶴舞2—10—5　電話052(882)0281代
〒497 自宅・愛知県海部郡蟹江町大字蟹江新田字鹿島119 電話05679(5)2255

桑田正造

桑田硝子株式会社　取締役社長
〒650 本社・神戸市生田区多聞通4丁目9—8 電話078(371)1861代
大阪・神戸・姫路

小池章元

株式会社 小池商店　代表取締役社長
〒557 大阪市西成区出城2丁目2番29号　電話06(562)3038
〒659 自宅・兵庫県芦屋市山手町37番地　電話0797(31)7411

小泉善重

株式会社 栄和設計事務所 取締役社長
〒553 大阪市福島区堂島浜通4丁目14　電話06(452)1651
〒583 自宅・大阪府羽曳野市高鷲7丁目3番11号 電話0729(55)4416

小坂忠勝

株式会社 東海設計　代表取締役
〒460 名古屋市中区栄3—7—1　電話052(261)2651代
〒467 自宅・名古屋市瑞穂区岳見町4—20—2 電話052(831)4459

小島勝巳

有限会社 小島勝巳建築事務所 取締役社長
〒541 大阪市東区南本町4丁目41番地(イヨビル6階) 電話06(252)8088代
〒101 東京事務所・東京都千代田区岩本町2丁目9番地 藤野ビル　電話 03 (861)9538
〒662 自宅・西宮市五月ケ丘6番35号　電話 0798(33)5120

小杉茂治

シャープ設備機器株式会社　常務取締役
〒545 大阪市平野区加美南3丁目7番19号　電話06(791)7221
〒583自宅・大阪府羽曳野市野々上5丁目6の7 電話0729(54)4488

小西　岬

株式会社 田中小西建築事務所 取締役社長
〒550 大阪市西区阿波座南通2の60　電話06(532)4051
〒546 自宅・大阪市東住吉区平野西脇町373の4 電話06(701)0297

小林　清

株式会社 新住宅社　代表取締役
〒530 大阪市北区常安町17番地　電話06(444)4677
〒545 自宅・大阪市阿倍野区北畠3丁目1番7号 電話06(651)1594

謹賀新年

昭和50年元旦

(50音順)

小林四郎

太陽工藤工事株式会社　社長

〒553 大阪市福島区上福島区北2丁目1番地
電話06(452)1151大代

小林得志

株式会社 小林得志建築事務所 代表取締役所長

〒530 大阪市北区堂島北町20藤田ビル　電話 06(341) 5650 5658 5659
〒662 自宅・西宮市丸橋町6－16　電話0798(66) 2394

小林三甫朗

小林住宅産業株式会社　社長　一級建築士

〒541 大阪市東区南久宝寺町5－18　電話06(245)2181

小松英二

東海興業株式会社大阪支店 大阪駐在専務取締役

〒530 大阪市北区豊宮町3番2 住生豊崎ビル 電話06(373)1181
〒659 自宅・芦屋市東山町213　ローズハイツ芦屋610
電話0797(31)0996

小山武

住友建設株式会社大阪支店 常務取締役 大阪支店長

〒541 大阪市東区北浜5丁目22　電話06(220)8798
〒664 自宅・伊丹市鈴原町4丁目23－1　電話0727(81)2853

小島義矩

株式会社 巴商会大阪支店 取締役 大阪支店長

〒530 大阪市北区堂島上2－38　電話06(344)1441代
〒665 宝塚市雲雀ケ丘1－9－8　メゾン花屋敷203号

高武主計

コータケ建築設計事務所　所長

〒550 大阪市西区江戸堀5丁目155　新山越ビル
電話06(448)0178・2408
〒550自宅・大阪市西区北堀江御池通6丁目21
北堀江コーポ706号　電話06(531)2812

河内義就

有限会社 河内義就設計事務所 代表取締役

〒730 広島市上幟町2番37号　電話0822(28)2271代
〒739-17自宅・広島市高陽町字翠光台1—237 電話08284(2)4141

鴻池藤一

株式会社 鴻池組 取締役社長

〒541 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地
電話06(252)3100大代
〒603 自宅・京都市北区平野鳥居前町86　電話075(461)1526

金剛利隆

株式会社 金剛組 取締役社長

〒543 大阪市天王寺区椎寺町56－2　電話06(779)7731代
〒543 自宅・大阪市天王寺区椎寺町56—2　電話06(779)7731

佐治誠次

株式会社 佐治建築事務所 代表取締役

〒550 大阪市西区立売堀南通1—24　丸栄ビル南館
電話06(541)5831
〒662 自宅・西宮市苦楽園一番町1—36　電話0798(35)2516

佐藤音松

株式会社 今西組 取締役会長

〒543 大阪市天王寺区上本町7丁目2番地の1　上六ビル内
電話06(772)1251
〒659 自宅・芦屋市六麓荘町12番32号　電話0797(22)2226

佐藤次夫

株式会社 佐藤武夫設計事務所 代表取締役

〒105 東京都港区新橋4丁目6番15号　DKB新橋ビル6階
電話03(436)3511代
〒156 自宅・東京都世田谷区赤堤1—16—13　電話03(420)5810

佐野正一

株式会社 安井建築設計事務所 取締役社長

〒540 大阪市東区島町2丁目7番地　電話06(943)1371代
〒662 自宅・西宮市雲井町4の9　電話0798(22)1569

佐野春吉

森井電業株式会社 取締役副社長(関西駐在)

〒530 大阪市北区玉江町1丁目17番地　正宗ビル
電話06(443)8381大代

雑賀孝夫

株式会社 雑賀建築設計事務所 代表取締役

〒640 和歌山市西汀丁1番地　電話0734(31)1371代～5
〒640 自宅・和歌山市小松原通り5丁目1番地
電話0734(23)5888

雑賀幸夫

株式会社 大阪雑賀建築事務所 代表取締役

〒543 大阪市天王寺区東平野町5丁目9番地　吉盛ビル
電話06(772)4426・4436
〒573 自宅・枚方市香里ケ丘7丁目11—16　電話0720(54)0004

斎藤博
尾亀清四郎

株式会社 三晃空調

〒530 大阪市北区富田町16　電話06 (363) 1371

四方靖郎

四方設計工務株式会社
1級建築士事務所　代表取締役社長

〒612 京都市伏見区深草関屋敷町32—2
電話075(641)6091・6092・6324
〒612 自宅・京都市伏見区深草関屋敷町32—2

清水愛明

株式会社 清水工業所 代表取締役

〒531 大阪市大淀区南浜町3－14　電話06(372)2851代
〒662 自宅・兵庫県西宮市南郷町3—12　電話0798(22)1184

清水和彌

株式会社 清水和彌設計事務所 代表取締役

〒530 大阪市北区万才町43浪速ビル　電話06(312)7278代・4616
〒560 自宅・豊中市中桜塚4－3－10　電話06(852)7056

謹賀新年

昭和50年元旦

(50音順)

宍戸正輔

日本建鐵株式会社大阪支店　支店長
〒530 大阪市北区梅田町47　新阪神ビル9階　電話06(341)4331

城口庸平

株式会社　大阪城口研究所 取締役社長
〒530 大阪市北区高垣町1番地　電話06(372)7151代

隅田正美

第一工業株式会社　相談役

品川二三男

株式会社 品川建築事務所 代表取締役所長
〒910 福井市田原1丁目1番20号　電話0776(22)6683
〒910 自宅・福井市経田町70－2　電話0776(23)3552

進藤汎海

株式会社　企画設計社　代表取締役
〒556 大阪市浪速区日本橋東4－16　電話06(643)3631
〒591 自宅・西宮市柏堂町83－3　電話0798(72)3070

関守

株式会社 関建築設計事務所　代表取締役
〒541 大阪市東区北浜4丁目48番地の3　電話06(201)4710
〒662 自宅・西宮市屋敷町4番10号　電話0798(34)2327

篠原太郎

株式会社 なにわ建築設計事務所 取締役所長
〒550 大阪市西区南堀江通2の48　電話06(531)4428
〒562 自宅・箕面市箕面5－7－6　電話0727(23)3836

須賀孝

須賀工業株式会社　取締役社長
〒550 大阪市西区土佐堀通1丁目14　電話06(441)5171
〒662 自宅・西宮市雲井町6番14号　電話0798(33)0269

銭高輝之

株式会社　銭高組　取締役社長
〒550-91 大阪市西区阿波座上通3丁目2番地
電話06(531)6431大代

島田孝治

株式会社　片山鉄工所　代表取締役社長
〒551 大阪市大正区南恩加島町1番地　電話06(552)1231大代
〒545 自宅・大阪市阿倍野区昭和町3—5—7　電話06(622)1561

須賀好富

株式会社　近畿建築構造研究所　所長
〒543 大阪市天王寺区椎寺町76　天王ビル　電話06(779)9316
06(771)3216
〒577 自宅・東大阪市下小阪172－2　電話06(789)8114

仙田四郎

株式会社　カンダン　取締役社長
〒558 大阪市住吉区万代東6丁目3番地　電話06(672)1281大代

島村佐次郎

島村建築事務所
〒640 和歌山市四番丁4　電話0734(22)3338・4335
〒640 自宅・和歌山市四番丁4　電話0734(22)3338・4335

菅良春

理事
支所長

近藤貢

副支所長

日本住宅パネル工業協同組合　大阪支所
〒530 大阪市北区富田町46番地
第二富田町ビル　電話06(313)3321

相臺淳吉

日新工業株式会社　専務取締役
〒120 東京都足立区千住東2丁目21番28号　電話03(882)2424
〒271 自宅・松戸市北松戸3の7の3　電話0473(62)9314

島村忠男

西日本建設業保証株式会社　取締役社長
〒540 大阪市東区上町5番地　電話06(762)5701代

菅谷健児

大阪電気暖房株式会社　取締役社長
〒550 大阪市西区江戸堀1－60　電話06(441)8231

園田従博

株式会社　川本製作所　大阪営業所　所長
(ポンプ専門メーカー)
〒533 大阪市東淀川区瑞光通5丁目7の2　電話06(328)0877代

白石登喜男

株式会社　藤木工務店　常務理事
〒541 大阪市東区両替町1丁目13番地　電話06(942)1461
〒558 自宅・大阪市住吉区墨江中1の68　電話06(671)3792

杉村正三郎

阪急電気工事株式会社　取締役社長
〒532 大阪市淀川区十三本町2丁目13番15号 電話06(302)0231代
〒665 自宅・宝塚市栄町3丁目9番20号　電話0797(86)3623

田賀勉

株式会社 田賀建築設計事務所 取締役社長
〒550 大阪市西区北堀江通4丁目33番地　電話06(531)7193代
〒586 自宅・河内長野市千代田台町13—13　電話07215(3)0455

謹賀新年

昭和50年元旦

（50音順）

田口信夫

株式会社 恵美須建設 代表取締役
〒606 京都市左京区浄土寺馬場町151 電話075(761)1151
〒606 自宅・京都市左京区鹿ケ谷法然院町7 電話075(771)3543

高橋慶夫

株式会社 大建設計 取締役社長
〒550 大阪市西区京町堀2丁目75 電話06(441)9351
〒533 自宅・大阪市東淀川区相川中通2丁目2-4
電話06(328)0935

知見義夫

春日設備工業株式会社 取締役社長
〒601 京都市南区西九条春日町48 電話075(681)6455(691)9228
〒601 自宅・京都市南区西九条春日町48 電話075(691)3860

田中巖夫

東海興業株式会社大阪支店常務取締役支店長
〒530 大阪市北区豊宮町3—2 住生豊崎ビル 電話06(373)1181
〒658 自宅・神戸市東灘区深江北町1—7—29 フラワー芦屋205
電話078(452)1945

竹腰健造

株式会社 双星社竹腰建築事務所
〒530 大阪市北区豊宮町3番2 住生豊崎ビル 電話06(373)2281
〒662 自宅・西宮市松園町7番22号 電話0798(24)2650

地頭政人

小俣シャッター工業株式会社
〒530 大阪市北区此花町2丁目51 第5新興ビル
電話06(353)7377代
〒661 自宅・尼崎市東富松字長溝331—25 電話06(421)5228

田中政二

大島應用化学工業株式会社 取締役社長
〒578 東大阪市新庄114番地 電話 06(745)5121代
06(745)6736～8
〒536 自宅・大阪市城東区野江東ノ町4-99 電話06(931)3506

橘春重

橘建築事務所 所長
〒577 大阪府東大阪市御厨16 電話06 (781)0937
〒632-02 自宅・奈良県生駒市新旭ケ丘11番34号
電話07437(3)2401

千原大五郎

株式会社 大建設計 代表取締役副社長
〒105 東京本社・東京都港区新橋1—10—7 大和銀行新橋ビル
電話03(572)4595代
〒550 大阪本社・大阪市西区京町堀2—75 電話06(441)9351代
〒251 自宅・神奈川県藤沢市鵠沼松が岡1—15—25
電話0466(23)3124

田中照雄

株式会社 タナカ風呂 代表取締役
〒556 大阪市浪速区元町1丁目747 電話06(649)3726代

橘泰治

東邦パーライト株式会社 取締役社長
〒540 大阪市東区森之宮西の町594 電話06(941)9243～7
〒590-01 自宅・堺市若松台3丁26番3号 電話0722(91)2267

津村健児

オリエンタルメタル製造株式会社 代表取締役
〒660 尼崎市昭和南通り3丁目26番地 電話06(412)5131

田渕誠也

株式会社 田渕建築設計事務所 代表取締役
〒640 和歌山市下町19町地 電話 0734 (31) 0261～2
〒640 自宅・和歌山市下町19番地 電話 0734 (31) 0261～2

立田清

有限会社 柳々堂（建築専門書店）
〒550 大阪市西区京町堀2—49 電話06 (443)0167～8
営業所：鴻池ビル 電話06(251)8233

塚本猛次

株式会社 日建設計
〒541 大阪市東区横堀2丁目38番地 電話06(203)2361

高田伊三郎

昭和アルミニウム株式会社 取締役社長
〒590 堺市海山町6丁224番地 電話0722(33)1181

谷川丈夫

株式会社 西原衛生工業所大阪店 専務取締役
〒531 大阪市大淀区中津南通4丁目11番地 電話06(458)3531代

辻本豊

辻本豊一級建築設計事務所 所長
〒640 和歌山市東長町中ノ丁12—3 電話0734(24)6346代
〒640 自宅・和歌山市東長町中ノ丁12—3 電話0734(24)6346代

高野徳男

山陽電気工事株式会社 大阪支社 常務取締役 支社長
〒531 大阪市大淀区本庄中通4丁目10 電話06(372)1664代

谷口尚武

株式会社 大林組 専務取締役
〒540 大阪市東区京橋3丁目37番地 電話06(943)1131
〒659 兵庫県芦屋市浜芦屋町3番15号506号 電話0797(31)6406

堤兼雄

㈱ 大林組 本店建築本部 工務部長
〒540 大阪市東区京橋3丁目37番地 電話06(943)1131
〒567 自宅・茨木市南春日丘5—8—22 電話0726(23)0379

謹賀新年

昭和50年元旦

(50音順)

手塚尚義

大垣セメント工業株式会社 代表取締役社長
〒530 大阪市北区金屋町1丁目1番地 電話06(353)4101代
〒567 自宅・茨木市西駅前町4番1012号 電話0726(23)3833

時岡保雄

株式会社 三和地質 代表取締役
〒550 大阪市西区靱本町4丁目35番地
電話06(443)7606代・4157

代表取締役社長 中井康勝

株式会社 中井總組
〒660 尼崎市常光寺元町1－3 電話06(481)5461代
〒561 自宅・尼崎市東園田町9－17 電話06(491)1386

寺田徳重

大成建設株式会社 取締役
〒541 大阪市東区本町4丁目27 電話06(262)1131
〒562 自宅・大阪府箕面市桜井2丁目4－39 電話0727(21)4641

時山龍太郎

時山設計事務所 所長
〒530 大阪市北区曽根崎上2丁目21番地 美都ビル
電話06(361)6248
〒532 自宅・大阪市淀川区三国本町2丁目7番21号
電話06(393)9557

中尾義昭

株式会社 旭設計事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区靱1丁目123番地 近畿富山会館5F
電話06(445)2050代
〒657 自宅・神戸市灘区六甲台町7番19 ハイツ六甲308号
電話078(881)2907

傳馬正明

ムツ三産業株式会社 代表取締役
三協アルミニウム工業株式会社代理店
〒550 大阪市西区靱本町2丁目47番地 電話06(441)0378
〒531 自宅・大阪市大淀区中津浜通1－3
中津リバーサイドコーポC-929 電話06(371)0385

代表取締役 徳永正三
代表取締役 田村又夫

株式会社 徳永・田村建築事務所
〒541 大阪市東区博労町2－41 中博ビル 電話06(262)2310
〒103 東京都中央区日本橋兜町2－36 大洋ビル
電話03(668)3056

中川匠

中川匠建築設計事務所 所長
〒530 大阪市北区浪花町38 新興ビル 電話06(371)3651
〒665 自宅・宝塚市米谷石田18 電話 0797 (86) 2391

寺西芳一

株式会社 寺西建築設計事務所 代表取締役
〒658 神戸市東灘区本庄町2丁目13番24号 電話078(451)2456
電話078(411)0139
〒658 自宅・神戸市東灘区本庄町2丁目13番24号
電話078(451)2457

富田光男

丸善冷熱工業株式会社 代表取締役
〒556 大阪市浪速区河原町2丁目1470番地 丸善ビル
電話06(631)1431代
〒573 自宅・大阪府枚方市三栗1丁目3ノ5 電話0720(56)4451

中川真佐吉

アポロ印刷株式会社 代表取締役
〒540 大阪市東区北新町2丁目7 電話06(942)2951～5

東郷武

大和ハウス工業株式会社 取締役
〒550 大阪市西区阿波座中通1丁目40番地 電話06(532)6351

友田俊夫

友田工業株式会社 取締役社長
〒534 大阪市都島区都島中通3丁目3番6号 電話06(921)0331代

中澤誠一郎

株式会社 中澤建築事務所 代表取締役
〒530 大阪市北区富田町38 高橋ビル北5号館 電話06(363)3881
〒570 自宅・守口市滝井元町3の27 電話06(991)1848

東畑謙三

株式会社 東畑建築事務所 代表取締役
〒541 大阪市東区伏見町5－19 電話 06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉町繩手下1680 電話078(851)5043

富吉志乃武

株式会社 日本設備エンジニアリング 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1丁目156 中谷ビル内
電話06(444)4848

中野順次郎

株式会社 創研設計事務所 代表取締役所長
〒541 大阪市東区淡路町4－54 興和淡心ビル
電話06(231)4701～5
〒561 自宅・豊中市曽根西町3丁目9番11号 電話06(852)4145

一級建築士 栂野正春

株式会社 栂野建築事務所 代表取締役社長
〒640 和歌山市五番丁4番地 電話 0734 (22) 2826

内藤正克

株式会社 内藤建築設計事務所 代表取締役所長
〒675-13 兵庫県小野市上本町240小野ビル 電話07946(2)4757代
〒675-13 自宅・兵庫県小野市久保木町1063 電話07946(2)4668

中原茂

株式会社 中原茂建築事務所 代表取締役
〒560 大阪市西区靱本町3丁目90番地 岡崎橋ビル
電話06(445)0039

謹賀新年

昭和50年元旦

（50音順）

中原英雄

株式会社 創美設計 代表取締役

〒530 大阪市北区末広町17 日生不動産扇町ビル9階
電話06(312)3587代

〒659 自宅・芦屋市打出小槌町1番地405

西村虎一

株式会社 ナイガイ 代表取締役社長

〒530 大阪市北区堂島北町16 電話06(345)9055
06(343)1727直

〒143 自宅・東京都太田区南馬込2丁目30—14 電話03(771)1408

長谷川幸雄

株式会社 新日本設備計画 代表取締役社長

〒530 大阪市北区金屋町2丁目31 電話06(353)4061

中村正一

中村タイル株式会社 社長

〒550 大阪市西区南堀江通1丁目11番地 電話06(538)7101代

〒590 自宅・堺市若松台3丁目17番9号 電話0722(91)5592

根津耕一郎

株式会社 根津建築事務所 代表取締役

〒530 大阪市北区梅ケ枝町81 大阪弁護士ビル
電話06(364)8301代

〒655 自宅・宝塚市川面6丁目19番10号 電話0797(86)6226

萩正勝

株式会社 萩建築設計事務所 代表取締役

〒153 東京都目黒区青葉台2—20—14 電話03(719)1734代

中村豊

株式会社 日邦建築企画設計 代表取締役

〒530 大阪市北区梅ケ枝町114 関西ビル 電話06(362)1766代

〒600 自宅・京都市下京区七条通東堀川西入八百屋町12
電話075(371)2755

野口清

安藤建設株式会社大阪支店取締役大阪支店長

〒553 大阪市福島区上福島北通1丁目17番地の1
電話06(453)2190

橋詰一雄

株式会社 橋詰工務店 取締役社長

〒504 京都市中京区猪熊通三条上ル姉猪熊町326
電話075(801)2356代

〒604 自宅・京都市中京区猪熊通三条上ル姉猪熊町326
電話075(841)2803

永井賢城

株式会社 久米建築事務所 取締役社長

〒106 東京都港区西麻布1丁目13番11号 電話03(403)0251大代

〒251 自宅・藤沢市鵠沼海岸2丁目8の26 電話0466(36)7706

会長 野崎謙三
社長 津田輝夫

株式会社 山下設計

〒104 東京都中央区八丁堀2の7の1 電話03(552)8311代

浜口幹三郎

株式会社 淺沼組 専務取締役

〒543 大阪市天王寺区東高津町8の1 電話06(768)5222

〒631 自宅・奈良市二名町3336—7 電話0742(44)3237

永田鼎三

大阪電気暖房株式会社 相談役

〒550 大阪市西区江戸堀1の60 電話06(441)8231

〒560 自宅・豊中市上野東3の2の10 電話06(855)3710

野中駒市

野中建産株式会社 取締役社長

〒550 大阪市西区靱本町2—29 電話06(441)6631

林唯夫

株式会社 昭和設計 代表取締役専務

〒550 大阪市西区西長堀北通1丁目8番地 四ッ橋ビル
電話06(532)3421

〒565 自宅・吹田市青山台3丁目41—11 電話068(72)3608

成田正彦

株式会社 設計事務所ゲープラン 代表取締役

〒550 大阪市西区土佐堀通3—61 電話06(443)8216

〒662 西宮市甲子園九番町12—10 電話0798(47)3227

能勢次郎

株式会社 能勢建築設計事務所 代表取締役

〒550 大阪市西区江戸堀5丁目118番地 和光ビル7階
電話06(443)6451代

原精一

甲南建設工業株式会社 代表取締役

〒532 大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号 電話06(302)1551

〒662 自宅・西宮市名次町12番9号 電話0798(22)1504

西嶋徳太郎

株式会社 大建設計 取締役副社長

〒550 大阪市西区京町堀2—75 電話06(441)9351代

〒562 自宅・箕面市桜ケ丘3丁目11番地35号 電話0727(21)2432

能勢善樹

株式会社 能勢建築構造研究所 代表取締役

〒550 大阪市西区靱本町2丁目107 新興産ビル
電話06(538)0378～9
電話06(538)2829

原田重信

原田セメント化工株式会社
大統商事株式会社
泉州生コンクリート工業株式会社 代表取締役
大統ハウス工業株式会社
播州コンクリート工業株式会社

〒554 本社・大阪市此花区朝日橋通2-13 電話06(462)1212代
電話06(462)1471代・電話06(462)1421代
電話06(463)0401代・電話06(461)1248代

〒661 自宅・尼崎市塚口町3丁目41の8 電話06(421)4518代

謹賀新年

昭和50年元旦

（50音順）

伴　一郎

株式会社 西原衛生工業所大阪店 取締役社長
〒531 大阪市大淀区中津南通4－11 電話06(458)3531代

坂　静雄

理事長

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 本所・大阪府吹田市藤白台5の125 電話06(872)0391
〒531 大淀分室・大阪市大淀区長柄西通2の35 電話06(351)7217

平田作太郎

株式会社 平田タイル 社長
〒550 大阪市西区阿波座中1の5 電話06(532)1234代
〒600 自宅・京都市下京区綾小路通大宮東 電話075(801)1806

広谷嘉秋

合資会社中建築設計事務所 代表社員
〒460 名古屋市中区西瓦町11番地の1 広瀬ビル
電話052(262)4411
〒464 自宅・名古屋市千種区月ヶ丘2丁目2—83
電話052(711)8010

深江　實

大装株式会社 社長
〒550 大阪市西区西長堀北通4－14 電話06(532)0171

福田朝生

株式会社 双星社竹腰建築事務所 代表取締役
〒530 大阪市北区豊宮町3番2 住生豊崎ビル 電話06(373)2281
〒677 自宅・西宮市甲子園砂田町2番8号 電話0798(48)0989

澤田彰逸

社長

福田好雄

副社長

住友ウォールシステム株式会社
〒100 東京都千代田区神田美土代町1 住友商事美土代ビル
電話03(294)8511大代

福中定三郎

社団法人 日本建築協会 常務理事
〒541 大阪市東区北浜3の37 電話06(231)9648
〒573 自宅・枚方市香里園町26の68 電話0720(31)0549

福永　薫

代表取締役

福永健一

代表取締役

株式会社 福永建築設計事務所
〒542 大阪市南区順慶町通4の61 電話06(251)3102
〒542 自宅・大阪市南区順慶町通4の61 電話06(251)5189

福村　久

日本住宅パネル工業協同組合 常勤相談役 大阪支所駐在 西日本地区担当
〒530 大阪市北区富田町46番地 第二富田町ビル
電話06(313)3321
〒565 自宅・吹田市竹見台2丁目2番4号 電話06(381)8971

福賴圭蔵

株式会社 新興建材工業所 取締役社長
〒550 大阪市西区南堀江通6の39 電話06(541)5757代
〒558 自宅・大阪市住吉区住吉町242の22 電話06(673)5120

藤井　章

株式会社 藤井工業所 取締役社長
〒520 大津市本宮2の2の9 電話0775(23)0119代
〒606 自宅・京都市左京区松ケ崎泉川町23 電話075(781)5333

藤井　稔

阪神不動産株式会社 常務取締役
〒530 大阪市北区梅田町47 電話06(346)1171

藤岡正一

藤岡設計事務所 所長
〒730 広島市段原山崎町15番7号 電話0822(81)2840
〒759-41 長門市仙崎 漁協ビル20号室 電話08372(6)1580
〒759-44 自宅・山口県大津郡日置村古市 電話08373(7)101

藤木鐵三

株式会社 藤木工務店 取締役社長
〒540 大阪市東区両替町1の13 電話06(942)1461代

藤田初蔵

三機工業株式会社 大阪支店 取締役大阪支店長
〒541 大阪市東区北浜2－22 電話06(202)3071
〒560 自宅・豊中市曽根西町2－8—19 電話06(852)4801

藤原稔恭

㈱藤原工務店 取締役社長
〒562 箕面市箕面3－1－60 電話0727(21)7268
〒562 自宅・箕面市箕面4—15—40 電話0727(21)2774

藤村清一

株式会社 日新建築設計事務所 代表取締役
〒530 大阪市北区壺屋町1丁目66番地 電話06(352)6161代
〒631 自宅・奈良市登美ケ丘5丁目5－5 電話0742(44)0201

藤本一男

代表取締役

社員一同

株式会社 都市・建築設計工房
〒542（本社）大阪事務所 大阪市南区安堂寺橋通3—40
第二芦池ビル8階 電話06(252)8757代
〒103（支店）東京事務所 東京都中央区日本橋小伝馬町3－4
梅月ビル4階 電話03(662)1580代

藤本庄之助

株式会社 工盛社
〒536 大阪市城東区鴫野西5丁目18－9 電話06(961)4460
〒536 自宅・城東区鴫野西5丁目16—43 電話06(962)1288

船橋　明

高砂熱学工業株式会社大阪支店
常務取締役大阪支店長
〒530 大阪市北区芝田町55 北阪急ビル 電話06(372)2511

謹賀新年

昭和50年元旦

（50音順）

古屋才兵衛

日新工業株式会社大阪支店　取締役支店長

〒533 大阪市東淀川区瑞光通4丁目30番地の2
電話06(329)7737代

〒533 自宅・大阪市東淀川区瑞光通4—30—2　電話06(328)3343

堀元也

神戸材料株式会社　取締役社長

〒651 神戸市葺合区熊内町2丁目1の37　電話078(231)1421代

〒653 自宅・神戸市長田区花山町1丁目79　電話078(691)8350

前野慶太郎

株式会社　あめりか屋　取締役社長

〒530 大阪市北区常安町17　電話06(444)1501

〒659 自宅・芦屋市翠ケ丘町4番18号　電話0797(22)2005

松浦潤一郎

株式会社　松浦構造設計事務所　代表取締役

〒657 神戸市灘区八幡町4丁目9—27　六甲ビル
電話078(861)3304・(881)3302

松岡晃一郎

アイエム換気工業株式会社　代表取締役

〒556 大阪市浪速区芦原町1183番地　電話06(561)3901

〒590 自宅・堺市車之町東2丁2番9号　電話0722(38)2582

松田昌平
松田順吉

株式会社　松田設計事務所

〒812 福岡市博多区網場町2番1号　明治屋ビル
電話092(271)7441代

〒150 東京出張所・東京都渋谷区神宮前5丁目2の18
電話03(400)3854

〒810 自宅・福岡市中央区今泉1丁目16—5　電話092(741)2497

松田誠

松田まこと設計事務所

〒662 自宅・西宮市苦楽園六番町4—16　電話0798(36)7594

松田昌久

株式会社　都市設計所　長

〒541 大阪市東区高麗橋3の7　電話06(231)6617

〒665 自宅・宝塚市青葉台1丁目2—9　電話0797(72)2362

松村慶三

株式会社　浦辺建築事務所　取締役設計室長

〒530 大阪市北区梅田8新阪急ビル11階　電話06(341)1680

松村雄二

株式会社　松村組　代表取締役社長

〒530 大阪市北区空心町1の70　電話06(353)1131

松本六郎

松本金物株式会社　取締役社長

〒543-91 大阪市天王寺区上綿屋町6　電話06(779)1581大代

〒580 自宅・松原市北新町2丁目3の7　電話0723(31)0158

丸山信

株式会社　丸山建築事務所　代表取締役

〒107 東京都港区北青山3丁目5番25号
電話03(401)2287・6703・2426

〒901-22 出張所・沖縄県宜野湾市大山1003
電話09889(7)2974・4077

三上富三

株式会社　汎美設計事務所　代表取締役

〒604 京都市中京区御池通御幸町西入 京都府旅館会館ビル2階
電話075(231)4638・6472

〒604 京都市中京区御池通堺町西入御所八幡町225
電話075(222)0006

三木清経

エスエム工業株式会社　取締役社長

〒559 大阪市住之江区東加賀屋1—8—16　電話06(685)1661代

〒559 大阪市住之江区東加賀屋1—8—16　電話06(685)4051

水野喜一郎

水野建設株式会社　取締役社長

〒600 本社・京都市下京区西七条市部町77番地
電話075(312)0431代

〒530 支店・大阪市北区鶴野町72番地　電話06(372)7761代

南長吉

斎久工業株式会社　代表取締役会長

〒530 大阪市北区常安町11番地　電話06(443)5041代

〒661 自宅・尼崎市塚口町6—20—7　電話06(421)5136

南沢甚八

株式会社　バンデックス・ジャパン関西営業所
取締役関西営業所所長

〒530 大阪市北区伊勢町19—2　高橋ビル北2号館
電話06(312)5765～7

宮後健

株式会社　宮後建築事務所　代表取締役

〒543 大阪市天王寺区上沙町6丁目35番地　電話06(772)0165代

〒543 自宅・大阪市天王寺区上沙町6丁目35番地
電話06(772)0167

宮崎辰敬

宮崎辰五郎建築事務所　所長

〒466 名古屋市昭和区折戸町5丁目13　電話052(751)3096

〒466 自宅・名古屋市昭和区折戸町5丁目13　電話052(751)3096

宮武伊三郎

大阪建設業協会　常務理事

〒540 大阪市東区京橋3丁目70　電話06(941)3651

謹賀新年

昭和50年元旦

（50音順）

村石秋吉

浪速合板株式会社　取締役社長

〒556 大阪市浪速区幸町3丁目2番地の1　電話06(561)2201代

〒659 自宅・芦屋市岩園町10番16の401号　電話0797(31)2643

森忠一

㈲村野・森建築事務所

〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋2—3—8　電話06(624)0926

〒665 自宅・宝塚市武庫山1—10—8　電話0797(72)4461

藪本芳一

〒640 自宅・和歌山市東長町10丁目13　電話0734(22)9930

村上晃一

株式会社　村上工務店　代表取締役

〒531 大阪市大淀区豊崎東通3—16—16　電話06(372)2924

〒657 自宅・神戸市灘区宮山町1丁目2の22 電話078(851)8466

森馬健次

宏電工業株式会社　代表取締役

〒542 大阪市南区安堂寺橋通1—7　電話06(261)2095代

〒663 自宅・西宮市甲子園五番町3—9　電話0798(45)1287

山家啓助

株式会社ＲＩＡ建築綜合研究所大阪支店　支店長

〒530 大阪市北区太融寺町33大阪合同ビル 電話06(312)9154～5

村上二郎

サンエス石膏株式会社　社長

〒530 大阪市北区堂島北町20　藤田ビル　電話06(344)6526

〒565 自宅・吹田市千里山西3丁目7番5号　電話06(384)1002

八十島健二

株式会社　竹中工務店　常務取締役

〒541 大阪市東区本町4—27　電話06(252)1201

〒663 自宅・西宮市甲子園二番町5—30　電話0798(41)0598

山内栄一

近庄化学株式会社　代表取締役

〒604 京都市中京区四条大宮入ル　電話075(821)2111～5

〒600 自宅・京都市下京区黒門通高辻上ル今大黒町206
電話075(801)6828

村田よ志子

明研化学工業株式会社　代表取締役

〒673 明石市藤江中谷町888番地　電話078(928)3456代

〒655 自宅・神戸市垂水区塩屋町西の田164　電話078(751)4186

矢作貞司

株式会社やはぎ屋工務店
矢作1級建築士事務所　代表取締役

〒543 本店・大阪市天王寺区逢阪上之町18—10
電話06(771)0555

〒543 自宅・大阪市天王寺区逢阪上之町18—10
電話06(771)0678

山口吾郎

不二建設株式会社　取締役社長

〒550 大阪市西区阿波座上通4丁目8番地　電話06(541)5534代

〒665 自宅・宝塚市雲雀丘1丁目13番25号　電話0727(59)2018

村野藤吾

有限会社 村野・森建築事務所 代表取締役

〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋2—3—8　電話06(624)0925

〒665 自宅・宝塚市清荒神2丁目18—27　電話0797(86)2559

安井忠生

株式会社　安井建築設計室 代表取締役

〒550 大阪市西区靱1丁目130番地　電話06(448)2765～6

〒558 自宅・大阪市住吉区長居町東6丁目24　電話06(698)2422

山崎敏明

辰巳興業株式会社　取締役社長

〒650 神戸市生田区栄町2丁目21　電話078(321)0655代

〒662 自宅・西宮市五月ケ丘5の7　電話0798(26)2763

室谷山水

室谷商事株式会社　取締役社長

〒650 神戸市生田区北長狭通4丁目1　英和ビル
電話078(331)0881

〒650 自宅・神戸市生田区山本通4丁目108の37
電話078(221)5050

安田誠一

安田株式会社　会長

〒542 大阪市南区末吉橋通1丁目17　電話06(251)7091代

山下宗一

山下建設株式会社　代表取締役

〒640 和歌山市弁財天丁1番地の1　電話0734(24)3245代

〒640 自宅・和歌山市弁財天丁1番地の1 電話0734(24)3245代

元木貞次

東洋紡エンジニアリング㈱　建築総括部長

〒531 大阪市北区堂島浜通2丁目8番地　電話06(345)1810

〒569 自宅・高槻市上田辺町20番4号　電話0726(85)2027

藪本弦三

株式会社　笹川組　取締役社長

〒520 大津市打出浜13—15　電話0775(23)2314

〒520-21 自宅・大津市瀬田南大萱町2087—4 電話0775(45)3966

山下密男

合同特許建材工業株式会社　代表取締役

〒546 大阪市東住吉区駒川町3の54　電話06(702)7814代

〒546 自宅・大阪市東住吉区田辺東之町3の193
電話06(621)9086

謹賀新年

昭和50年元旦

(50音順)

山田恒治

株式会社 山田工務店 取締役社長
〒651 神戸市葺合区八雲通1丁目1番6号 電話078(221)1013代
電話078(231)5601代
〒651-12 自宅・神戸市北区山田町上谷上古々山29
電話078(581)2055

山本博三

朝陽電気株式会社 代表取締役
〒530 大阪市北区中之島3の3 朝日ビル内
電話06(385)1361代
〒565 自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号 電話06(872)9087

和田眞一

株式会社 東和組 代表取締役
〒530 大阪市北区梅ヶ枝町175 電話06(363)4051
〒659 自宅・芦屋市公光町3番8 電話0797(22)3282

山田昌次

花豊造園株式会社 専務取締役
〒600 京都市下京区大宮通五条下ル 電話075(341)2246代
〒600 京都市下京区大宮通五条下ル 電話075(341)6980

吉岡源治郎

高砂熱学工業株式会社大阪支店 取締役 大阪支店次長
〒530 大阪市北区芝田町55番地 北阪急ビル 電話06(372)2511

若林繁吉

二葉屋装備工業株式会社 社長
〒564 摂津市東別府3丁目7番8号 電話06(349)9193代
〒605 自宅・京都市東山区清水2丁目232番地
電話075(561)6283

常務取締関西駐在

山田豊

常務取締役支店長

高木政夫

大日本土木株式会社 大阪支店

吉田廣助

株式会社 ナニワ 代表取締役
〒543 本社・大阪市天王寺区鳥ケ辻町61 電話06(771)9123
〒544 営業所・大阪市生野区巽西2-7-24 電話06(757)1101代
〒662 自宅・西宮市樋ノ池町14の14 電話0798(33)0845

若山繁

近畿電気工事株式会社 専務取締役
〒530 大阪市北区南扇町11 電話06(312)1281
〒661 自宅・兵庫県尼崎市武庫之荘2丁目25番11号
電話06(421)1381

山根正次郎

株式会社 日建設計

吉田信武

株式会社 吉田建築事務所 取締役社長
〒550 大阪市西区北堀江上通3丁目22番地 電話06(538)2991代
〒574 自宅・大東市住道1丁目7—5 電話0720(72)0409

渡辺恵

東洋シヤッター株式会社 代表取締役会長
〒540 大阪市東区両替町1—12 日生ビル 電話06(943)6571代
〒560 自宅・豊中市緑丘3丁目21番8号 電話06(856)0988

山本憲三

株式会社 ヤマト電気商会 専務取締役
〒530 大阪市北区西堀川町15 電話06(364)3056代
〒524 自宅・滋賀県守山市今宿町 電話07758(2)2665

吉村清三

関西電力株式会社 取締役社長
〒530 大阪市北区中之島3丁目5番地 電話06(441)8821

渡辺道輝

株式会社 渡辺建築事務所 代表取締役
〒541 大阪市東区今橋2丁目21番地 藤浪ビル 電話06(231)1696
〒651 自宅・芦屋市岩園町21—13 電話0797(22)2266

追補

山本昇一

株式会社 大登建設 取締役社長
〒661 尼崎市東園田町9丁目35の1 電話06(491)1139代
〒664 伊丹市梅ノ木6丁目4の9 電話0727(72)2210

米沢昭午

米沢建築
〒920 金沢市二宮町イ28—4 電話0762(33)3388
〒920 自宅・金沢市二宮町イ28—4 電話0762(33)3388

佐々木米太郎

社団法人 日本建築協会京都支部 支部長
〒604 京都市中京区押小路通柳馬場東入橘町645
電話075(211)2857

追補

山本哲夫

昭和鉄工株式会社 取締役社長
〒812 福岡市東区箱崎4121 電話092(651)2931
〒810 自宅・福岡市中央区薬院2丁目11番4号
電話092(741)5095

蓮佛亨

株式会社 京都建築事務所 代表取締役
〒604 京都市中京区三条柳馬場東入 電話075(211)7277代
〒611 自宅・宇治市小倉町西山74—43 電話0774(21)3617

芝﨑邦夫

大同鋼板株式会社 取締役社長
〒660 尼崎市杭瀬字午新田22番地 電話06(488)1181
〒662 自宅・西宮市霞町5—48 電話0798(36)5288

謹賀新年

昭和50年元旦

（50音順）

追補

清田文永

株式会社 梓設計 代表取締役社長

〒141 東京都品川区西五反田2—27—3 三井生命五反田ビル 電話03(492)3591大代

〒164 自宅・東京都中野区中野5—37—23 電話03(387)1539

追補

小守義人

相互建設産業株式会社設計部 会社役員

〒599-02 大阪府泉南郡阪南町和泉鳥取1133—1 電話0724(72)1528

〒599-02 自宅・阪南町和泉鳥取1133—1 電話0724(71)1376

追補

田中弘

淡陶株式会社 取締役社長

〒550 大阪市西区阿波座中通1の9 電話06(532)5301

〒659 自宅・芦屋市楠町1番8—106号 電話0797(22)7686

追補

小中村繁次郎

富士建設機工株式会社 代表取締役

〒601 京都市南区東九条河西町27番地 電話075(691)0791～2 電話075(691)8224

追補

澤井修

株式会社 大和商会 取締役社長

〒542 大阪市南区高津町4番丁73 電話06(631)6221代

〒577 自宅・東大阪市下小阪79 電話06(721)0098

追補

渡辺紋左衛門

渡辺建築設計事務所 所長

〒510 四日市市中部11—9 電話0593(53)5505代

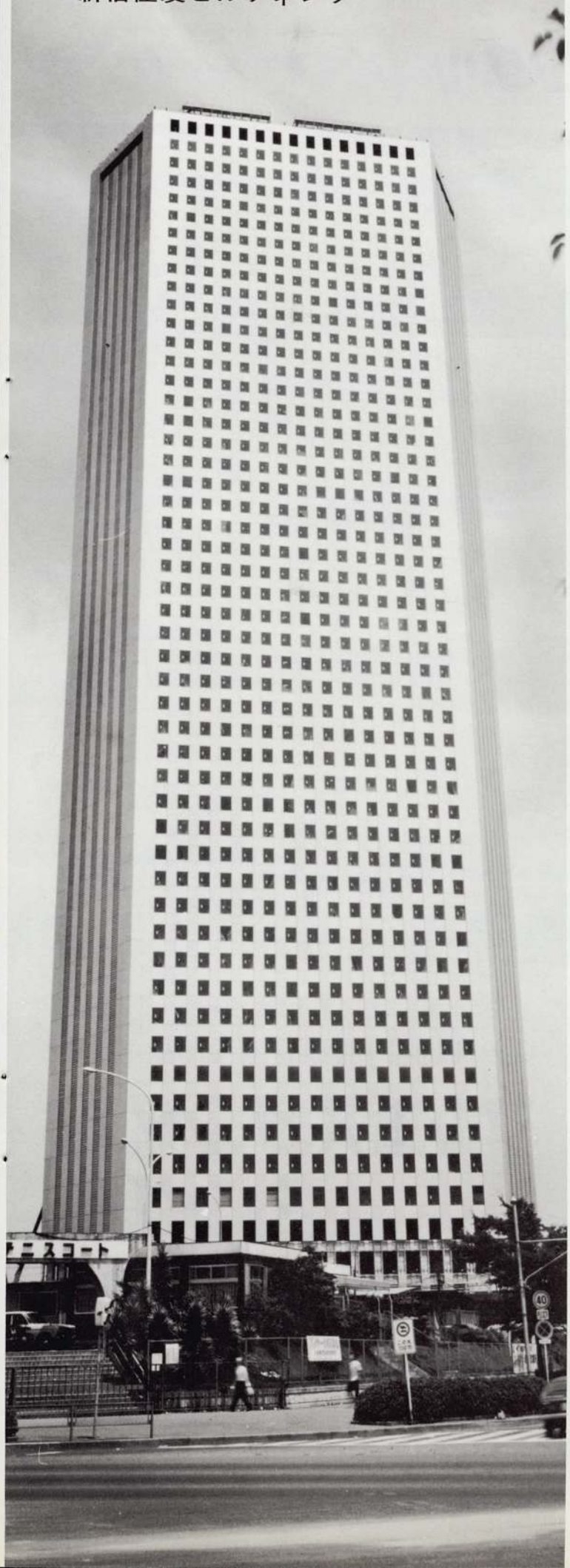
〒512 自宅・四日市市東富田町13—8 電話0593(65)2523

「建築と社会」誌バックナンバーのおしらせ

下記バックナンバーがそろっておりますので、購入ご希望の方は日本建築協会まで（電話06—231—9648）お申し込み下さい。

＊印は欠号

	昭和42年（48集）	昭和43年（49集）	昭和44年（50集）	昭和45年（51集）	昭和46年（52集）	昭和47年（53集）	昭和48年（54集）	昭和49年（55集）
正月号	国立劇場＊	都市生活	建築産業の＊構造と方向	現代社会とは何か	住宅—60年代の総括と70年代の展望	冬季オリンピックと札幌	建築教育	歴史的環境保全
2月号	建設機械	都市のいこいの場	鉄筋コンクリート構造耐震設計の再検討	建築と安全	都市エネルギと無公害化ビル	600号記念号	泉北ニュータウンのコミュニティ施設	明日の建築はどうなるか
3月号	日本建築協会50周年記念号	50周年記念＊事業記録号	計画と住民—中部からの報告	日本万国博と技術開発	建築基準法	インテリアデザイン	大阪大林ビルディング	保養所作品
4月号	社会と建築	幼児施設	老人とすまい	設計のシステム化	都市生活とみどり	都市交通問題	レジャーと施設	既成市街地の住宅地整備の方策
5月号	都市と流通空間	教育施設	建築史の方向—現代によみがえる過去—	グッドデザイン運動	企画と設計＊のプロセス	水利用	大阪国際ビルディング	北摂ニュータウン計画
6月号	住宅と設備	医療施設＊	建築行政に期待するもの	高層建築問題	解体工学	量産住宅の設備	老人コミュニティ	建築生産と流通機構の変容
7月号	生産施設	都市交通施設	転換しつつある住宅生産	欧米における契約	都市と港湾	一般＊号（桂中学）	住宅—建築家のすまい	ビルの省エネルギ化
8月号	モントリオール万博	都市供給処理施設	解決をせまられる＊公害問題	建築家の課題と責任	転換期のニュータウン		新用途地域制と環境	高層プレハブ住宅の構造設計
9月号	建設資金	群としての住居	海洋開発	工事計＊画	軟弱地盤と震災	都市住環境へのアプローチ	構造と施工	みどり
10月号	最近の外装	都市のアクセサリー	民家の系＊譜と保存計画	ディベロッパー	変貌する建築生産	都市防災	仕上と材料	屋根防水工事の失敗例とその対策
11月号	第14回青年建築家	第15回青年技術者	第16＊回青年技術者	第17回青年技術者	第18回青年技術者	第18回青年技術者	第20回青年技術者	第21回青年技術者
12月号	建築と生命	新都市計画法の諸問題	九州からの報告	山陽・山陰からの報告	自然とレジャ空間	北陸の新建築	ヨーロッパのまちづくり	ビル防災に関する12章



新宿住友ビルディング

機能美を誇る超高層ビル

その内外装、各種製品は
米国のカップルス社との
技術提携により
多様性に富んだ創造力と
すぐれた技術により
具現化されたものです

営業品目

オーダーカーテンウォール
スタンダードカーテンウォールシリーズ
オーダーサッシ・ドア
レディメイド　ビル用サッシシリーズ
（DR－60　DR－70）
（DA－60　DA－70）
各種防潮パネル：各種防音パネル

JIS 表示許可工場、KJ 認定工場

住友ウォールシステム株式会社

本　　社／東京都千代田区神田美土代町1（住友商事美土代ビル）
TEL　03－294－8511（大代表）
大阪支社／大阪市東区南本町5－14（南本町ビル）
TEL　06－252－1881（大代表）
営業所／札幌・仙台・名古屋・広島・福岡
出張所／函館・秋田・盛岡・郡山・前橋・新潟・静岡・京都・
和歌山・神戸・姫路・岡山・北九州・沖縄
工　　場／埼玉工場・堺工場・鳳工場

コミュニティをメーキャップする

マルエス印 アスファルトシングル

■マルエスシングル　8色
■ＢＰシングル　8色
■ランダムシングル　3色



マルエスランダムシングルで家を一層美しく!!

すでに欧米諸国では、屋根葺き材の主流はシングルとなっております。
最近日本においても建築様式の多様化にともない、壁状屋根は増加の一途を辿っています。
マルエスランダム・シングルは、この壁状屋根に最もマッチした素材として開発されたものです。
従来のシングルでは難しいとされていた、力量感・立体感を家全体に、もたせることも特徴の一つです。

カナダ直輸入の高級屋根材

BP BUILDING PRODUCTS OF CANADA LIMITED

マルエスランダムシングル

《カラー》
RS－1(シダーウッド)/ RS－2(レッドウッド)/ RS－3(ドリフトウッド)

マルエスシングル製造発売元・BPシングル日本総発売元

日新工業株式会社

本　　社■120／東京都足立区千住東２丁目21番２８号
ＴＥＬ　東京(882)2424(代表)
大阪支店■533／大阪市東淀川区瑞光通４丁目３０の２
ＴＥＬ　大阪(329)7737～7740
営 業 所■札幌・山形・東京・名古屋・広島・九州

日本建築協会法規委員会

法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

87

建築基準法の一部改正案に対する条項別の解説 (49.3.7)

●第6条第1項第1号の特殊建築物を別表第一の建築物を対象とし、100㎡を超えるものとする。なお別表中(い)欄2号に診療所を追加している。公衆浴場は令第115条の2第三号に指定されている。

●第7条4項を単独条項として整理し、新築にかかるものについては従来通りであるが、増築改築移転、大規模の修繕もしくは大規模の模様替の工事で、防火、避難に関わる工事を行う建築物については、特行政庁の使用承認が必要とされることとなった。この場合、対象建築物は棟別に取扱とされるものである。使用承認については消防法の改正によりスプリンクラー等消火設備については消防署が検査をし検討済書の交付がなされたのち仮使用の承認となる。

●第22条の屋根不燃化の区域の内外にわたる建築敷地の建築物の法22条の適用区域を当該区域内にあるものとしたものである。

第52条第1項の前面道路に関する容積制限規定を第1種住居専用地域、第2種住居専用地域、住居地域においては10分の6を、10分の4に改め、その他の地域については10分の6とするものである。その他の用途地域においても特定行政庁が都市計画審議会の議を経て指定した区域についても10分の4とすることができる。

●第2種住居専用地域内の容積率を10分の10、10分の15、10分の20、10分の30の選択制を採用した。

容積率の違う地域または区域が2以上にわたる場合は面積加重平均を採用する。

●第2種住居専用地域の建ペイ率を第1種住専地域と同様に選択制を採用し、建ペイ率の違う地域または地区が2以上にわたる場合は面積の加重平均制とすることとなる。

●法55条第1種住居専用地域内における建築物の高さの限度において、公園、広場、道路その他の空地等に隣接するものまたは学校等で用途上やむを得ないものもしくは政令で定める（敷地面積が700㎡以上としかつ令136条と同様に建ペイ率はきびしくする。たとえば5/10の建ペイ率を4/10とする等）ところにより12mまで高さを緩和し特定行政庁の許可および認定として処理することとした。許可については建築審査会の同意が必要である。

●北側斜線制限は第1種住居専用地域のみとし、地域、地区が2以上にわたる道路斜線および隣地斜線についてもそれぞれの地域の制限によることとされている。

●法56条の2.日影（ひかげ）による中高層の建築物の高さの制限は冬至日の真太陽時による午前8時から午後4時までの時間帯とし、当該建築物の平均地盤面（建築物の周囲に接する平均地盤）から1.5mおよび4m高い水平面において測定するもので当該建築物の敷地外に5m以上に4時間以上の日影、10m以上に2.5時間以上の日影を規制するものである。がけ地の場合および市街地改造事業等客観的に判断した場合等で居住環境（日影をうけるものを対象とする）を害しないと判断したとき建築審査会の同意を得て日影規制制限の緩和ができる。

●3項建築物の敷地が道路、川または海、軌道敷等に接する場合は½だけ外側にあるものとみなす。公園はだめ、隣地の地盤面と高低差が著しい場合について北斜面の敷地について緩和を考える。

●4項の地方の気候、風土の特殊性は市もしくはは県単位で別表の各項を連動させて(に)欄においては1時間(ほ)欄においては0.5時間の強化、緩和の措置がとれるよう政令で定められる。土地の利用状況等によりやむを得ず局部的に行う場合のその部分のみに適用させることも検討される。

●日影規制を確認する場合省令により添付図書として日影図を添付させ基準定規により審査することとなる。この定規の使用手引書を作成して配布するが日影チャートは鹿島方式とし日本建築センターが評定したものとする。

●法第59条2敷地内に広い空地を有する建築物の延べ面積の敷地面積に対する割合等の特例は従来の総合設計制度を単一条文化したものである。

●法第69条中、土地の所有権者の定義を明確にし、臨時または一時使用のため供地権者を除くこととした。

●法76条の3.建築協定の設定の特例は、大規模開発団地等に対する一人協定ができることとなった。この建築協定の施行は認可後1年以内に二人以上の土地の所有者等が存したときから効力が生じるものとされている。（一人協定）

●法86条の2.既存の建築物に対する制限の特例（「特定用途」の建築物に対する避難防火の規定の遡及適用）で遡及される規定は、避難施設、非常用の照明装置、非常用の進入口、防火区画並びにこれらの規定にもとづく法40条により制定されている条例の規定に限るものとされている。

＊特定用途——

①百貨店、マーケット、展示場、物品販売業を営む店舗に供する建築物で3階以上の階または地階で床面積の合計が1,500㎡を超えるもの（3年後）

②病院その他政令で定める特殊建築物で5階以上の階においてその用途に供する床面積の合計が1,500㎡を超えるもの（5年後）

③ホテル、旅館、劇場、キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等で5階以上の階また地下におけるこれらの用途の床面積の合計が2,000㎡を超えるもの（ホテル、旅館は5年後）

④1号～3号の特殊建築物で5階以上または地下でそれぞれの用途の床面積の合計が2,000㎡を超えるもの

⑤地下街における居室の床面積の合計が1,500㎡を超えるもの。

●遡及する規定の適用は特定用途部分に限るものとし、ただし特定用途が地下にある場合は最下階から地上の出入口まで適用する。

●第40条により遡及適用の事項にかかるものについては条例で遡及適用条項を附加することが必要である。

●第90条の2.工事中の特殊建築物等に対する措置は、法第6条第1項の第1号から第3号までの建築物を対象とし、確認を要しない工事でも安全上、防火上、または避難上支障があるときの使用制限をするものである。これらの措置については消防、労基、特定行政庁で協議し、それぞれの機関とタイアップして執行するものとする。

●第90条の3.工事中の安全上の構造等に関する計画の届出については承認受理形式とし、消防と協議されたものとすること。

●別表第1(3)項に2号が追加され、第2種住居専用地域内における建築物で3階以上の部分に(い)項以外の建築物を制限する。ただし病院、学校、郵便局等は政令で除くものとする。また大規模な建築物1,500㎡をこえるものは(い)項の建築物に限るものとされた。

「建築関係法令の研究3」頒布のお知らせ

日本建築学会建築計画委員会建築規準小委員会では、白石博三主査を中心として、近畿支部の委員によって、建築法令を法学的立場で研究してこられたが、昭和47年版、48年版にひきつづいて、今般、「建築関係法令の研究3」をだされた。内容は、建築関係法令コンメンタールとして、「建築面積及び床面積の算定」をはじめとして、58項目の具体的適用例に対する評釈が収録されている。

その他、小委員会で討論された各種の資料や議事などが付されており、法令に関心のある人には参考になるところも多いと思われる。購入の申込先は、日本建築学会本部資料頒布所（東京都中央区銀座3－2－19　電 03－535－6511）または同近畿支部（大阪市西区靱1－118 大阪科学技術センター内　電 06－443－0538）へ。

頒価¥ 1,000.



※ギリシャ神話でプロメテウスは〈予見する者〉ともいわれ、天上の火を人間にあたえました。

《現代のプロメテウス》

近電工はあすを具現します

総合設備産業のパイオニア――――

〈近電工〉は新しい時代の展開とともに成長をつづけます。電気工事はもとより計装・空調・土木工事まで、その総合力を広範な分野で発揮し、国際的レベルの技術・技能をほこる精鋭企業として、70年代のエネルギーを先導します。

電気・計装・空調・土木

近畿電氣工事株式會社

取締役社長 岡本繁一

読者の頁

ガラス・空間・人間

上谷 重男

古代と呼ばれる時代には、人々は、自分の手と自分の力で集めた材料をもって、「自分の為に自分の空間」を創ってきた。これを現代的に呼ぶとすれば、旅人的な行為と思考を続けながら創ってきた人々といえるのではないだろうか。長い日本史の中で、それらの行為が大部分の日本空間の歴史を書いてきた。田舎へ行くと今なお茅葺の屋根の葺きかえの中に、それは生きつづけている。しかし、現代の人々にはこのような行為を探し出すことはできないであろう。実際、現代の人々にとって自分の為に創られた空間に住む機会は、きわめて少なくなってきている。住宅団地・民間アパートの設計者なりオーナーが居住者と相談して、その平面なり立面を決定してゆくことは、全くといってよいほどない。このような、自分の為に創られたものではない環境空間の中で、つまり、自分でコンクリートも支配できないと思われがちな環境空間の中で自分の存在を、自分の方法をどのように創造してゆけば良いのかを探し出すことは、少数の特定の能力ある人でない限り不可能のように思われる。欲求不満に埋もれているかのように思われる現代人にとって、哲学的な分析をする事は決してないであろう。しかし、人々は実際の行動において自分を創造しているといえるのではないだろうか。

たとえば、「カッコいい」という言葉が発せられるが、この言葉ほど自分の為にのみ創られたものはないであろう。この中に自己を埋没させ、それを第三者にあたかも自己の存在を知らしめる手段の表現としてみせようとしてゆく。このような現代の状況の中、ガラスという素材が、「カッコいい」という言葉の中で生きる人々に、実存としての演技の場を与える空間構成の手法として見い出せる。そして、人々は自分の為に創られたものではない空間の中でそれらの確証を得る為に、ガラスの可能性をふんだんに利用してゆこうとしてきている。

人々のできる創造的努力の多くは、ガラスに自分の姿を写すという行動により自己を露出し、格好良く、ガラスで創られた空間の中で、あたかも、人生の主役のように振るまう事である。日本人はガラスの中の純粋性と透明度のある白色が好きである。そこには「障子」という素材から一生懸命に抜け出そうとしてきた日本人の姿がある。透明ガラス越しに足を組んでお茶を飲んでいる若い女性を見ると、自分もその透明空間の中でそのように演技したい気持にさせられその中に夢遊病者のようになって入ってゆく。そして、自分がその空間のコントロールに参加しているという意識の中へ入ってゆく事により満足感を知る。こうした場合には、ガラスを通してお客さんにどれほど多く演技させるかが、商業施設の判定基準となってくる。しかし、人々はこの意味を知りながらも、その判定基準の尺度の中に入ってゆく。彼らは「見る事」よりも「見られる事」によって、自己の存在を確かめ、また、自分の創造的努力を他の人々に認めさせようとする。大多数の人々は、確かに環境空間の創造者ではないかもしれないが、空間をコントロールしうる意味では空間管理者といえるのではないだろうか。

一方、現代の社会の中ではタブーといわれるものが失なわれてゆこうとしている。それはあたかも、ガラスという素材が障子という紙で創った「曖昧な空間」を負かし、環境の中で大きなウエイトを占めてきた事と一致している。ガラスという素材が使われていくにつれ、ガラスで創られた空間状況が、人間のもっていたタブーといわれるものを除々にではあるが、透明なものへと変えてきているのであろう。

建築というものは人間を守るシェルターを創っていくものであろうが、現代では、かなりそのシェルター的意味合をなくして露出症的になってきているといえるかもしれない。以前は非常に高価であったと思われる「ガラス」が、多くの人々の手中に入ってゆき、あらゆる空間構成に使用される事により、空間の考え方の中から根本的なる思考の変革を促してきたともいえるであろう。それは、今まで存在してきた「隠す」という空間構成の根本原理を「見せる」という方向へ空間原理を変えていくということにより正反対とも思われる思考構成をなしてきた。その中で演技を演じる人々は、歌舞伎の中の主人公のような心理でもって、そのガラスで創られた空間の中へ入っていく。それは、シンデレラ姫のあのもろいガラスの靴にも似た「おとぎ話」の世界でしかないのであろうが、現代の混乱の中で創造をしてゆく演技者としての悲しい宿命であるかもしれない。また、同時に管理者であり被管理者であるといった人々の中にある生活空間を自己の力で創り得ないという悲哀の中にしか素材としての「ガラス」は存在しえないのかもしれない。

透明度が増せば増すほど、人の心の中へ入っていく事のできえない管理者的な空間構成の素材として、ガラスは冷めたく風景を写し、また、反面人々の心の中を切りきざむといった事があるのではないだろうか。それを少なくするものは、日本の民家の中で長い間使用されてきた障子との対比なり融合なりの中から探し出すことができるのではないだろうか。（U建築企画室）

私の職場 〈No.7 会社営繕〉

野沢 明雄

サラリーマンづれしつつある能無し建築屋が、私の横にいる。彼は常に建築屋であることを意識しているが、車は動く気配がいっこうに無い。彼は運転免許を本当に持っているのだろうか。彼が6年前、阪急電車に入社し、運輸現業に勤務し初めた頃、私は彼にいったことがある。「お前は建築屋である前にサラリーマンである」と。その時、彼は「建築屋であることがサラリーマンであることになるのではないのか」と、問い返してきた。しかし、その問い返しの声は次第に小さくなり、やがて彼自身にも聞えなくなってしまったようだ。

彼が現業を終えて建設部に配属になったとき、彼自身の頭の中に建築屋としての意識がほとんど消えてしまっていることに私は気付いた。それでも半年程過ぎると、彼はその意識を取り戻し、赤鉛筆を右手に持って人の書いた図面を一生懸命見ていた。そんなある時、彼が私にいってきた。「赤鉛筆を右手に持って人の書いた図面をみるのが建築屋だろうか」と。そこで私は彼にいってやった。「建築屋であればこそ人の図面が見られるのではないか」と。しかし、自分で図面を書いたことのない彼は次第に焦りを感じていった。

もともと阪急電車の建設部の仕事は監理である。監理の仕事の成果には0から10までである。設計や現場には、0という成果は存在しない。それだけに監理の仕事に成果をみることは難しく、逆に能無しにも一見務まっているように見える。従って彼には、自分の知識がどの程度のものか自覚できずに悩んでいたようだ。

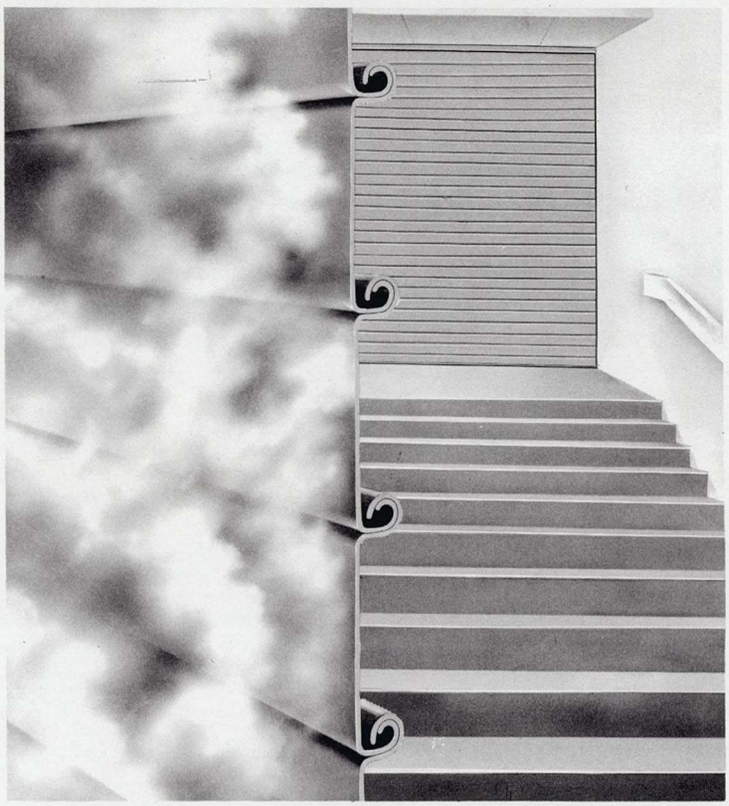
そんな時、会社は彼を阪急エンジニアリングという設計事務所に勉強させるために出向させた。勉強の場を与えられて2年半、彼は一人前の監理者への道を少しづつは登っているようだが、相変わらず焦りと不安を抱きつづけている。与えられた仕事だけをやっていては駄目だと彼もわかっているのだろうが、クラッチを踏んだままアクセルをふかすようでは、交通ラッシュの街の中に出るには技量不足だと思われる。再度教習所に入所するには随分な投資が必要と思われるが、安全・迅速・確実な運転をするためには、その投資は彼にとって是非とも必要なことであろう。（阪急エンジニアリングK.K.）



煙の惨事を未然に防ぐ 防煙シャッター

NS防煙シャッターは建設省告示第2564号の規定に適合!!

政令基準、火災時の空気圧2kg/m²時、煙の漏気量0.2m³/min. m²をはるかに下廻る0.03 m³/min. m²（業界No.1）を記録しました。

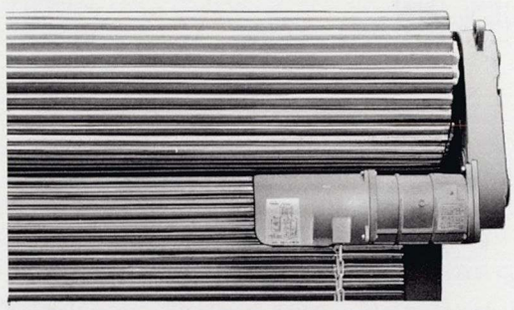


近年、ビル火災でのいたましい、犠牲者の続出はそのほとんどが《火》よりも《煙》によるものでその為建築物の防煙性能の向上が一段と重要になってまいりました。

建築物の設計上、防煙、防火区画でのシャッターの役割は非常に重要なポイントとなっております。

その防煙区画に、すばらしい遮煙性能を備えた、　ＮＳ防煙シャッターを、御採用下さい。

防煙シャッターの開閉には、業界最高の性能を誇る、L型電動開閉機を使用しております。



御一報次第カタログお送りします。

株式会社 日本シャッター製作所

大阪本社　大阪市淀川区田川北３丁目２番４号　電話06(301) 3656～9
大阪工場　大阪府枚方市招提田近１丁目７番地　電話0720(57)4535～9
東京工場　川崎市中原区新丸子東３丁目１１５９番地　電話㈹044 (411) 6325
名古屋支店　名古屋市中川区北江町２丁目１２番地　電話㈹052 (361) 7441
九州支店・工場　福岡県粕屋郡粕屋町大字仲原字明神984－4　電話 09293 (８) 4661

営業所　横浜・大宮・静岡・千葉
北陸・京都・神戸・高松
広島・北九州・大分・宮崎
鹿児島・佐賀・長崎

建築と社会 ニュース

ニュース原稿をお送りください。

住宅建設促進協議会 発足

さる11月20日、赤坂プリンスホテルにおいて、㈳国土政策研究会、全国木材協同組合連合会、㈳全国木材組合連合会、全国木毛セメント板工業組合、㈳日本建設材料協会、㈳日本建築材料協会、日本硬質繊維板工業会、日本合板工業組合連合会、㈳日本サッシ協会、日本住宅パネル工業協同組合、日本石膏ボード工業組合、日本特殊合板工業会、㈳プレハブ建築協会の諸団体により住宅建設促進協議会が結成され、・本年度住宅金融公庫新規融資の早期再開、・民間住宅ローンの大幅増額促進、・50年度住宅関係予算の大幅拡充の要望書を、政府・与党関係当局に提出した。

建築基準法改正案等講習会開催

さる11月29日御堂会館において、日本建築協会ほか8団体共催、大阪府・府下特定行政庁後援による、建築基準法改正案等の講習会が開催された。

十日会 創立25周年記念祝賀会

さる11月11日「大閤園」において、創立25週年を迎えた〝十日会〟（田中幸三郎会長）の記念祝賀会が催された。祝賀会は、竹中錬一大建協会長、島村忠男西日本建設保証社長の来賓のほか十日会員約 200人が出席。過去25年を回顧するとともに、今後の業界の発展と会員相互の親睦、協力を誓いあった。

建設業のジョイント・ヴェンチャー

富島一夫監修　松下五夫・松尾政和・山本正夫著

建設業経理実務選書・清文社発行・A5判・240頁・￥1,800

わが国の建設業の共同企業体（Joint Venture）による請負方式は、昭和25年にアメリカから導入されて以来、大規模工事における請負方式として一般的によく知られている。本書は、この共同企業体の理解を深めるための法律的意味、効用、形態などの解説、共同企業体の組織と運営、経理業務、それに参考資料として協定書等諸規則の作り方を中心にのべられており、その方面の人たちには好適の書である。筆者は、大林組や、昭和監査法人に籍をおくベテランたちで、それぞれの長い実務経験が生かされている。なお、富島、松下両氏は、日本建築協会の会計監査に関係の深い人たちである。

西洋建築思潮史

森田慶一著・限定 500部・非売品・中央図書刊

本書は、森田先生が京大退官後、東海大学大学院工学研究科の建築学専攻学生のために講じられた講義の草稿を採録されたもので、その内容は、Ⅰ古代ギリシャの建築思想、Ⅱウィトルウイウスの建築論　Ⅲ中世の建築観　Ⅳルネサンスの建築思想　Ⅴフランスの建築思想　Ⅵ古典主義とロマン主義に分かれている。その簡潔な文体にもかかわらず、その建築思想の正鵠さ、かつ、ずっしりとした重みが読む者をして伝わってくる小冊子である。この講義録は、その道の人たちによく知られていたが、今般、近畿所在大学の堀田友也教授らの手により、限定出版とはいえ陽の目をみたわけである。なお、附録として「いろいろな空間」も収められている。

住環境を住民とともに ―新建

新建築家技術者集団（新建）の第四回大会が、74年11月2日・3日の両日にわたって、100名をこす全国各支部からの代議員、幹事らの参加を得て、浜松で開催された。「住環境を住民とともに創りかえよう」という大会スローガンのもとに、現下の不況下をはねかえす建築家技術者のこんごの活動のあり方について活潑に討議された。第1日目は、全国15支部からの活動報告、第2日目は大会議案書を討議・採択されたが、第1日目の夜には、鴨江神社境内において、恒例の「新建まつり」が行なわれ、「あさり焼き」のいろりを囲み、また折から初来日中のベトナム民主共和国の建築家一行を迎えて楽しい交欲がくり広げられた。大会では最後に特別決議として、①不況に苦しむ中小零細建設関連職種の危機突破策と住みよい住環境をつくるための積極的な対策を要望する。②「国土利用計画法」の実施を点検しつつ住環境を住民とともにつくりかえる努力をつよめよう。③各種災害に対する点検・予防の対策を住民とともにつよめよう。④「第3回新建研究集会アピール」*の実践にとりくもう。⑤ベトナム建築家代表団の訪日を歓迎し一層の連帯・協力を。⑥核兵器の持ちこみに抗議し「非核三原則」の厳守を要求する、の6つが採択された。

注＊去る10月5日・6日の両日にわたって神戸で開催された「第3回新建研究集会」は「住環境をどう創りかえるか」を総合テーマにして、パネルディスカッションと「歴史的環境」「街づくり」「日照問題」「建築計画」の4分科会がもたれ、つぎの4点を確認しアピールをだした。

1. 住環境を住民主体で創りかえる課題をただしくとらえ、その理論・技術を深め、発展させ、積極的な提案づくりをおしすすめよう。
2. 住環境を住民主体で創りかえるために、自治体の役割を重視し、はたらきかけをつよめよう。
3. 歴史環境を守り育てるために、保存運動を住民主体のまちづくりの主要な指標として発展させよう。
4. まちづくりについて住民と民主的討議を進めるなかで、日照問題を解決させることを基本とし、日照基準の一方的制定に反対しよう。

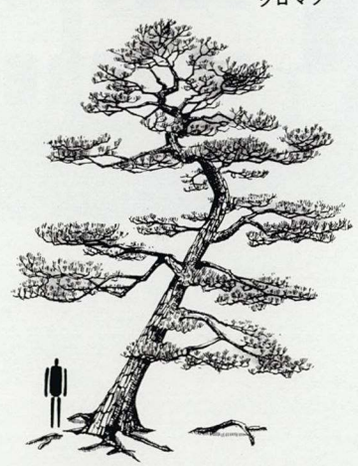
樹の話シリーズ・5

くろまつ　Pinus Thubergii Parl.

いわゆる日本的風景というものがイメージされるとすれば、その背景には松が欠かせないだろう。日本三景を形づくっているのは松であり、古都の景観には松林が大きく寄与している。また、おめでたの席には何らかの型で松がでてくる。松は常にあおい葉を保っていることが、古来良しとされたのであろう。松は常緑で雌雄同株であるが、松葉はおよそ二年程経てば枯れ落ち、松ぼっくりも二年で成熟し、かさを開き風で種子を飛ばす。松葉も松ぼっくりもともにかつては燃料となったし、松葉はタバコ畑の堆肥としても役立った。仙人の食べるものとしての話があるが中国では松の実を食用とするし、結構養分を含んでいるらしい。一般に松と呼ばれているものには二葉のくろまつ・あかまつと五葉のごようまつ・はいまつ等があり、とどまつやえぞまつ・からまつはヒマラヤスギ等と同じくまつ科ではあるが属が違う。くろまつは暖地の海岸地方に生える樹皮の暗黒色のもので、内陸地、やや北方に多い樹皮の赤褐色のあかまつと区別される。島根県の関の五本松はくろまつ、松島の松はあかまつである。海岸の砂防、防風の用に松を利用してきたのは日本独特のものである。くろまつは耐潮性があり、乾湿の激しい砂質壌土にも育ち、移植力がある。また、松苗は安価であるので、現在ではゴルフ場植栽に大量に使われている。ゴルフ場という自然環境上劣悪な場所に耐えうるみどりとして、同じ海岸性植物である芝とともに活用されるのである。かつて幕府が日光廟建設等の財政難の折に石垣上の塀の工費が乏しく、やむなく植えたのが、現在の宮城の石垣上の松という話も残っている。松は早春に植え付けるが、普通の木と違って水を注がず、根元の土を杭でよくつつく、いわゆる土極めを行う。高木を移植した際は幹に縄を巻きその上に泥を塗り付けて養生する。松は成長が非常に早く、毎春新芽の延びは激しく一ヶ所から数本の芽が出る。このうちやがて強風などの影響で残った部分のみが生長し、あのくねくねした不整形の樹型となる。根元が洗われたり、盛り上って独特の根上がり松という景にもなる。こうした松の自然型を人工的に作るために、庭師は春にみどり摘みを行い、盆栽では根を洗い針金をかける。一方、あかまつも花崗岩風化土を好み、峰の松と呼ばれるように稜線の栄養分の少ない場所に生育する。あかまつの材はかつて関西方面では床柱として利用されたが、その赤味の材と樹脂を生かしてぞうりの裏で磨き艶出しされたものという。まつたけがとれるのもあかまつ林が主であり、中国地方が主産地である。近頃はまつたけにお目にかかることが少なくなっているが、松自体も次第に少なくなっている。開発の波の激しさによる直接的減少と、かつてのような薪採集が行なわれず経済林でないので放置され、葛類がはびこり、日照が悪くなったり、土壌の養分が増してかえって松が衰えるという現象がみられる。京都の西山は東山の方にくらべて開発の波におかされなかったので、照葉樹林が復元され、かえって松が少なくなっている。くろまつはあかまつに比べて幾分大気汚染に強いといわれるが、針葉樹が一般に大気汚染に弱いという点ではほとんどかわらない。大気汚染や開発の波に寄る地下水脈の変化等による樹勢の衰えはマツクイムシの侵入に対する松ヤニの修復機能の低下をおこし、また、虫を食う鳥の減少もわをかけて立枯の蔓延状況をつくっていると考えられ、日本的景観と呼ばれるものの変質が進行している。　（関根記）



クロマツ



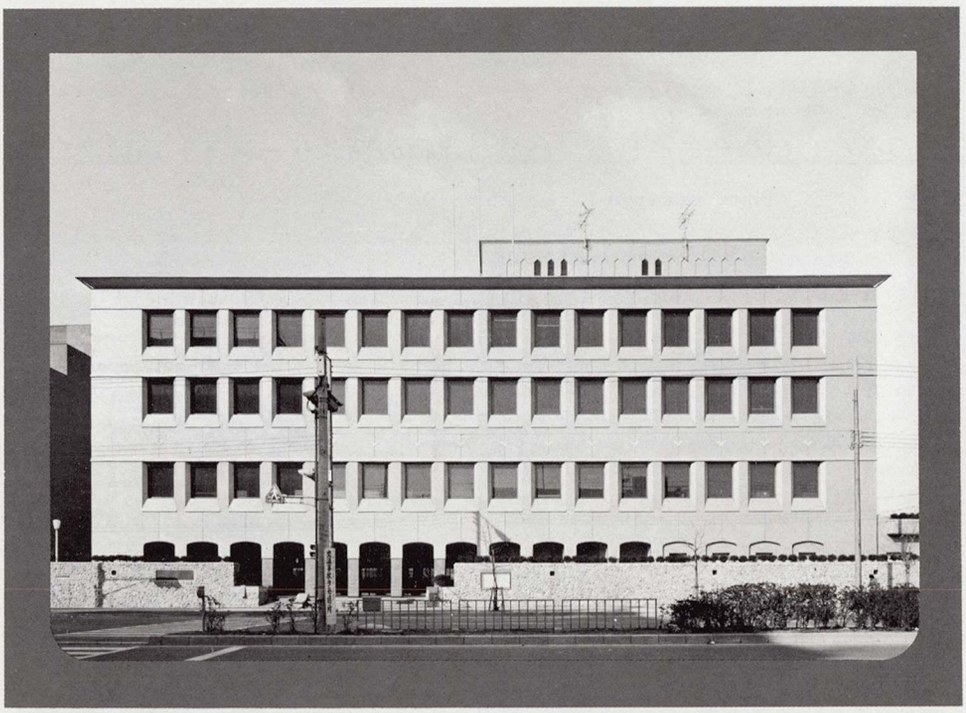
樹の話シリーズについて

本シリーズは昨年の第9号特集「みどり」を契機に始まり、昭和52年第3号までの予定で、身のまわりの樹木についてエピソードを紹介いたします。本欄を切抜きファイルされ、みどりへの配慮を深めるためにお役立て下さい。

空調エネルギー節約!

断熱/二重ガラス/横軸回転/ブラインド内蔵 エルミン窓

石油(=電力)エネルギーの危機が大きな社会問題となっている
今日、北欧スェーデンで生まれた、すぐれた断熱性・気密性を発揮する
エルミン窓は空調エネルギーの大巾な節約を実現します。さらに
清掃の簡単な横軸180度回転機構、遮蔽率の高いブラインド内蔵など
数多くの特長が理想の総合窓として、高い評価をいただいています。



❶すぐれた断熱性と気密性で、空調設備費・維持費を大巾に低下させます。
❷70㎜の空気層をもった二重ガラスが騒音を遮断します。
❸横軸180度回転機構により、外側のガラス清掃が室内から簡単におこなえます。
❹内蔵されたブラインドは遮蔽率が高く冷房費の節約になります。
❺内蔵されたブラインドは損傷しにくく、維持管理が容易です。
❻二重ガラスとサッシの断熱材により、結露を防止します。
❼確実なロックと気密材によって、素晴らしい水密性を発揮します。
❽独得な製造方法により、精度の高い窓、大型窓も簡単にできます。

日本エルミンサッシ株式会社
大阪営業所　大阪市西区京町堀1の125(東洋ビル) TEL.06(441)1978(代表)
本　　社　東京都千代田区岩本町1丁目11番2号(三泉ビル)TEL.03(861)1891(代表)

□ 写真と概要をどしどしお送りください。

凡例：a. 所在地　b. 敷地面積　c. 建築面積　d. 延面積　e. 構造規模　f. 工期



1054. 新宮市立図書館

設計：富松建築設計事務所
施工：谷地建設株式会社
a. 新宮市新宮6634－4
b. 806.59㎡
c. 389.64㎡
d. 699.76㎡
e. RC、3F
f. 昭和48年11月～昭和49年7月



1055. 奈良県浄化センター（管理課）

設計：㈱日本水道コンサルタント
施工：奥村組関西支店
a. 奈良県大和郡山市額田部南町，磯城郡川西村
b. 全面積58.6ha㎡
c. （管理棟のみ） 2216.9㎡
d. （管理棟のみ） 2043.6㎡
e. RC造、B2、3F
f. 昭和47年10月～昭和49年10月



1056. 住之江区庁舎

設計：安井建築設計事務所
施工：奥村組関西支店
a. 大阪市住之江区御崎3丁目1番7号
b. 5700.0㎡
c. 1913.94㎡
d. 5933.38㎡
e. RC、B1、4F
f. 昭和48年5月～昭和49年7月



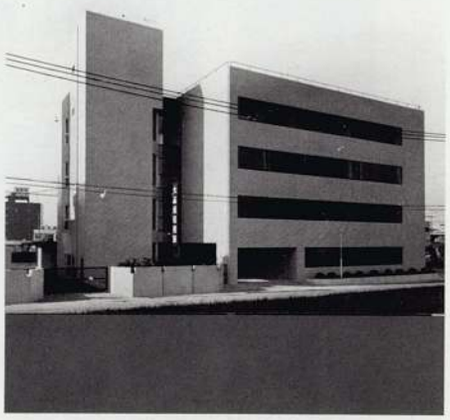
1057. ブンミットビルディング

設計：竹中工務店
施工：竹中工務店・大林組・三井建設
a. タイ国バンコク市シーロム路
b. 6,096.4㎡
c. 2,124.3㎡
d. 25,665.5㎡
e. RC、12F、P1
f. 昭和47年11月～昭和49年5月



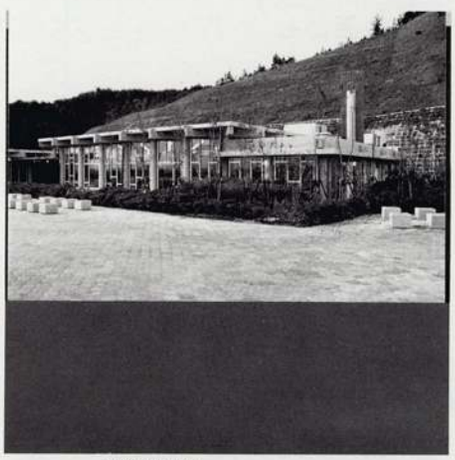
1058. 弘容ビル

設計：清水建設㈱大阪支店
施工：清水建設㈱大阪支店
a. 東大阪市長堂1－101－5
b. 1,081.12㎡
c. 970.14㎡
d. 10,819.80㎡
e. SRC、B3、9F、P2
f. 昭和47年8月～昭和49年4月



1059. 大昌通信建設㈱本社ビル

設計：日本総合建築事務所 大阪支所
施工：共立建設株式会社大阪支店
a. 吹田市広芝町5－5
b. 1,155.88㎡
c. 402.66㎡
d. 1,656.25㎡
e. RC、5F
f. 昭和48年11月～昭和49年8月



近畿自動車道

1060. 紀の川サービスエリア休憩施設

設計：㈱昭和設計
施工：大日本土木株式会社 大阪支店
a. 和歌山県和歌山市字北野
c. 2,223.456㎡
d. 1,713.956㎡
e. RC、1F
f. 昭和48年11月～昭和49年7月



1061. 関西電力株式会社 大津電力所

設計：㈱新日本技術コンサルタント
施工：関電興業株式会社
a. 大津市秋葉台14－13
b. 3,144㎡
c. 365㎡
d. 680㎡
e. RC、2F
f. 昭和48年7月～昭和49年2月



1062. 関西電力株式会社 長興寺変電所

設計：㈱新日本技術コンサルタント
施工：関電興業株式会社
a. 豊中市長興寺北3丁目185
b. 1,009㎡
c. 401㎡
d. 665㎡
e. RC、2F
f. 昭和48年9月～昭和49年5月

フリントコート®

マスチックフローリング

耐久性のすぐれた防湿床材



飯田町紙基地センター
設計監理：国鉄東京建築工事局　施工：清水建設・熊谷組・鉄建建設共同企業体
使用場所：床　仕様番号：F－9®

特　長

1　耐久性：耐久性にすぐれている。
2　耐摩性：摩耗の度合が低く、ホコリなど生じない。
3　すべり抵抗性：すべり抵抗性にすぐれている。
4　復元性：弾性があり、万一亀裂ができても使用している間に復元する。
5　粘着性：多少湿っていても、コンクリート、金属、木など、どんな面にもよく粘着する。
6　不燃性：引火のおそれがなく、ガス工場、爆薬工場の床に使用されている。
7　無毒無臭：完全無毒で各種食品工場、貯蔵庫に多く使用されている。

フリントコートについてのお問合せは下記へ

FLINTKOTE®

株式会社シエル石油大阪発売所
フリントコート施工販売部

大　阪　〒532　大阪市淀川区西中島２丁目11番30号　☎(06) 303－7131
東　京　〒104　東京都中央区宝町2丁目4番地(第2ぬり彦ビル3階)　☎(03) 562－4646
名古屋　〒461　名古屋市東区東門前町3の47(日本橋ビル4階)　☎(052)931－8537
広　島　〒730　広島市東白島町１５番６号(西林ビル３階)　☎(0822)21－1224
福　岡　〒810　福岡市中央区舞鶴１－１－５(舞鶴ビル３階)　☎(092) 77－1961

建築の眼

1月号より6月号まで下記4氏で担当

故郷を失なう（ハイマートロス）

近世が生んだ思想家に荻生徂徠がいる。徂徠は元禄の世に生き、その華麗な文化のかげにひそむ矛盾をさめた眼をもって鋭く感じとっていた。分国制のもと、きびしい身分秩序にしたがって建設された江戸を中心とした城下町の都市生活を、「今ノ世ノ人、百姓ヨリ外ハ、武士モ商人モ古郷トイウモノヲモタズ、雲ノ根ヲハナレタル境界ナリ」と批判した。それは中世末期に深い地域的連帯感で結ばれた町づくりと都市連合を否定して成立した城下町に当然もたらされる矛盾であった。

現在、通信運輸の技術革新によって、世界の人々をへだてる距離は急速に小さくなった。私たちは人類の月表面への着地の瞬間を茶の間のテレビでみることさえできた。しかし反面、都市のアパートの一室で、その死をみとる人もなく、死後も気づかれずにすごされた老人のいたましい報道をきく。都市に人口が集中し、高密な居住空間をうみだしながら、かえって私たちは孤独感と疎外感を深め、なやんでいるのである。徂徠が指摘した「故郷喪失」の現象が、はるかに深刻な様相をもって日本の各地で進行しているのである。「故郷喪失」の悲劇を克服し、都市に人間的交流を回復させるための努力を多面にわたって検討すべき時にきているようだ。（Ni）

はみ出し建築

昨今のように都市が建てこんでくると、建築と環境という問題が一般に新たに認識されるとともに、建築が都市像を左右する最大の要素となる時代となった。

ところで、街を歩いたり高速道路を走っていると、ハッとしてもう一度見直す建物に出くわすことがあるが、これはその建物の姿、形の美しさに打たれる時もあるが、その形態・高さ・ボリューム、または窓や壁の色等から瞬間的に受ける一種の抵抗感である場合が多い。

このような建物に共通しているものとして、何かがそれらの建物からはみ出ていることに私は気がついた。（もちろん容積率・建ぺい率や高さ等の建築制限に適合しているのであるが）　つまりその建物の持つ一定の空間以上の周囲の空間の一部をその建物が喰い取っており、それが周囲の人間の呼吸を困難にしているのである。

日照問題や環境破壊を起したり、都市景観上云々される建物はすべてこの類に属するといえるし、自己主張や自意識過剰の建物になることこの傾向がさらに著しくなる。設計図の段階ではみ出し建築になるか否かを見きわめることのできるのはよほど非凡な建築家に限られるのだろうが、私ども大いに心すべきことであろう。（M）

街のスケイル感と……

見知らぬ外国の街で、訊ね訊ね目的地を探し歩くとき、そこいらの人達が〈右へ曲って左へ折れて5分も歩けば着きますよ〉と言う。そんな場合、別に道を間違えてもいないのに早くても7～8分、遅ければ10分もかかってしまうことがよくある。

永らく離れていた今浦島の日本へ帰って、見なれぬ街並に驚きながら人に訊き訊き目的物を探すとき、路があまり判り難くて途中で五里霧中になることも多いけれど間違いさえしなければ、人が10分と言えば多分そこへは7～8分で早ければ5分位で着くのが普通みたいだ。そこには人のスケイル感覚に根ざして実距離に対する過小評価と過大評価がある。

日本の街では、家とその隣りの間には必要以上の表情の差があるけれど環境としての視覚要素の単位が小さすぎるので、その表情は雑然さの中に埋没してしまい、街並としての性格が形造られず、街の有様は極く近隣の人々に暗黙のうちにしか判らないような構成になってしまい、はじめての訪問者のための索引付きの案内地図さえ作れない。もともとそこには人の巾広い自由な動きは存在しなかったし、だからそれへの対策も必要とせず、しかも、それを不自由と感じない〈自由の欠落〉がそこにある。（K）

地熱利用

太陽熱利用といえば、パラボラ・反射鏡などに象徴されるように地熱利用には、噴汽騒音と松川発電所の冷却塔が目に浮かぶ。しかし、これらの典型的なイメージに惑わされぬようにしよう。太陽熱利用の最たるものは植物の緑であるといった飛躍を行わぬまでも、従来、技術で屢々用いられている地熱利用形態を忘れてはならない。井水冷房や井水ヒートポンプはまさに最も賢明な地熱利用法の一つであった。還元井を用いれば地盤沈下の二次的公害を生まずに、夏冬のエネルギの蓄熱体として利用できる。この形の年間ヒートバランスは生態系に影響をおよぼさない理想像である。海抜4m以下の三角洲上の上海では長年に亘って地下水汲み上げによる地盤沈下に悩まされた。ところが冬灌夏用、すなわち地下水の冷たい夏はこれを冷房等に利用し、地上水の冷たい冬に大量水を地中に注水するという蓄熱水槽としての大地利用を行い、沈下した地盤を復帰させると共に、水温も7℃低下、水量の使用も減少したという。

目標を定めるとその最高効率化を図るため、一定のパターンを生み出して副次的公害を発生することが多い。テクノロジー・アセスメントが要請される所以である。環境庁が地熱利用に待ったをかけたのもあながち無暴とは言えぬ理由がここにある。（Na）

大林組東京本社設備部計画課長　中原信生
北島道生アトリエ　北島道生
大阪市建築指導部長　三品哲夫
京都大学助教授工学部建築系教室　西川幸治



建築用仕上げ材料

マルチタイル

マルチタイルとは　つやのよい多彩模様の立体感豊かな高級意匠壁をつくりだす建築用仕上げ材料ずす
塗膜が厚く　耐候性・耐水性にすぐれ　変褪色がなく　光沢保持性がよいので　建築外壁の防水加工に適しております
また　打ち放しコンクリートやモルタルなどの無機質材料に直接施工ができるので　左官工事が省略でき
長期間美観を保持します
デザインも　高原・筑紫・近江・箱根・吉野と以前に比較し斬新なものになりました

※詳しいカタログを差し上げますので　当社宣伝課社係へおハガキでお申し込みください

関西ペイント

〒541 大阪市東区伏見町5-27　☎06(203)5531

建築と社会

©第56集(1917年創刊)

ARCHITECTURE AND SOCIETY VOL.56 1975

■2月号特集予告
東海の新建築
■3月号特集予告
インテリア
■4月号特集予告
PC版を使用したプレハブ住宅
■5月号特集予告
社会・建築・法

1975 1

特集・図書館

SPECIAL FEATURES ON LIBRARY

年頭のことば　'75年を迎えて／日本建築協会会長塚本猛次……1

昭和49年中に竣工した新建築　大阪中央卸売市場新本場、京都市大受市営住宅、協和銀行大阪支店・大阪事務センター、西武タカツキショッピングセンター、西脇カントリークラブハウス、ホテルドゥスポーツプラザ、舞子グランドハイツ、黄桜酒造丹波工場、藤井寺市立市民総合会館、新大阪地産ビル、京都労働会館、奈良大学、荻窪勧業ビル、西道頓堀分譲住宅、ハイツ苦楽園、中百舌鳥第2高層団地、川西市文化会館、環境科学研究所、広島修道大学、日本生命博多駅前ビル……2

本年の抱負　日本建築協会常設委員会本年の抱負／日本建築協会常設委員長……28

会告　日商岩井㈱大阪本社ビル新築工事の見学会(第2回)。清酒白雪の西宮工場見学会。若い会員の集い・解体修理中の古建築見学会(3)ー清水寺釈迦堂(重文)と成就院庭園ー。日本建築協会名誉会長竹腰健造先生米寿を祝う会開催ご案内。会員の受章。……29

法令コーナー87　建築基準法の一部改正案に対する条項別の解説／梶原　明……49

読者の頁　ガラス・空間・人間／上谷重男。私の職場No.7〈会社営繕〉野沢明雄……51

建築と社会ニュース　住宅建設促進協議会。建設業のジョイント・ヴエンチャー。建築基準法改正案等講習会開催。十日会創立25周年記念祝賀会。西洋建築思潮史。住環境を住民とともにー新建。樹の話シリーズ5〈くろまつ〉……53

スケッチブック　最近竣工した新建築9点(No1054～1062)……55

建築の眼　故郷を失なう(ハイマートロス)／西川幸治。　はみ出し建築／三品哲夫
〝街のスケイル感と…〟／北島道生。　地熱利用／中原信生……57

デザインコンクール　ユニットを組み合わせた「プレハブ住宅」……60

●特集＝図書館

1 総論

これからの図書館……森　耕一……64

2 企画から作品まで

兵庫県立図書館＋明石図書館……近沢輝男／竹山清明……68

同志社大学図書館……栗原嘉一郎……77

茨木市立図書館……澤井平一……84

3 地域図書館をたずねて……篠塚宏三／中村恭三／片倉健雄……87

図書館作品実例

広島市立中央図書館・大阪府立夕陽丘図書館・福山市民図書館・龍谷大学図書館・枚方市立香里ヶ丘図書館・赤穂市立図書館……94

構造の頁7　かわった配筋法ー諸外国の例／森田司郎……111

設備の頁7　排水槽、湧水槽の計画と設備／永谷法一……112

施工材料の頁7　大規模地中障害撤去を伴う地下工事／木村征夫……113

若い会員の集いレポート　建築家のための「みどり」学習会ー街中の樹木の観察／本田盛・根来譲二　田頭良之助・原田奉紀……114

日本建築総合試験所だより29　新年のごあいさつ／坂　静雄……116

月報　日本建築協会月間の動き(昭和49年11月分)……117

表紙・きり絵デザイン　加藤義明
1931年大阪に生まれる。
大阪市美術研究所に学び、現日本美術会会員。
主な作品●「大阪の民話」(1971年)
●「上方落語より」「浪速行商風俗」(1972年)
●「大阪の街」(1973年)
●1973年NHK企画制作茂木草介作「けったいな人々」タイトル画
自宅　大阪市北区天満橋筋1-55　天満橋北団地610号
電話　06－353－7303

昭和49年度編集委員会(順不同)

編集委員長：横山誠一　松林　功
松村慶三　隅田正美　池田敏夫
編集理事：増渕昌利　鈴木基之
松村慶三　片倉健雄　西村良平
井上　洋　浜田学昭　海道清信
五十嵐定義　浅見　元　竹山清明
北垣智造　右田　宏　河目浩吉
小西　岬　八木俊樹　横川降一
白井周二　生田降史　小川克彦
菅谷健児　辻　文三　上原正行
隅田正美　大野義照　石田友美
高野考二郎　徳田裕英　松原孝史
谷口尚武　尾路義一　竹本丈太朗
山田幸一　石田繁夫　星　忠甫
渡辺　忠　川本　勝　阪田憲次
副委員長：岡田圭司　山下博司
横山誠一　西野　孝　上森　肇
隅田正美　浅野満男　三原清敬
増渕昌利　平林　孝　久保田進也
編集委員：梶原　明　渡辺　忠

編集人　松井昭光
印刷　昭和50年1月20日
発行　昭和50年1月25日
発行人　福中定三郎
発行所　(社)日本建築協会　大阪市東区北浜3－37　電06－231－9648　振替口座大阪39975
印刷所　西阪印刷株式会社　関西支社　大阪市福島区海老江上4－23　電06－458－2251㈹
売価　1部600円・送料共

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

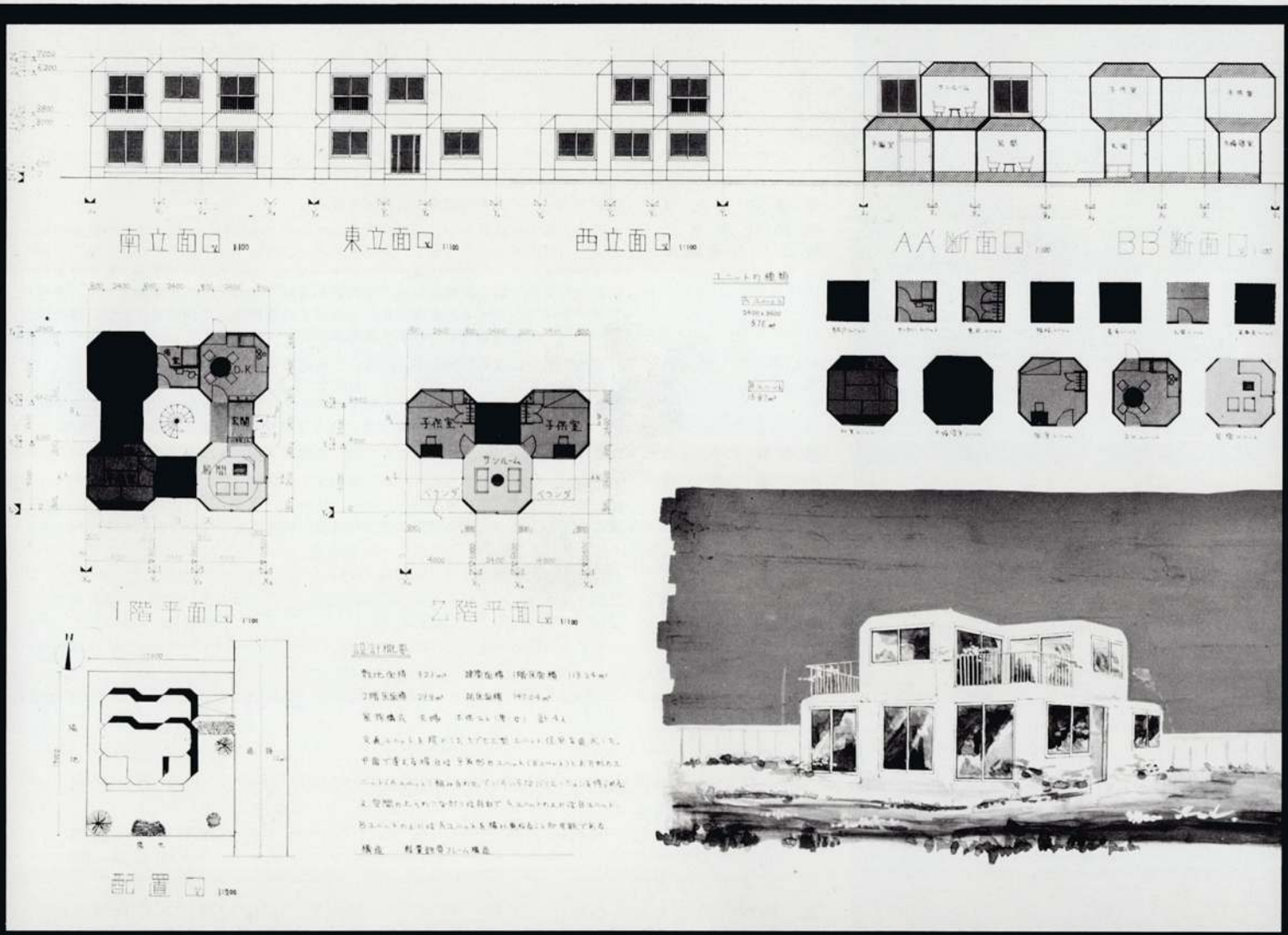
CONTENTS

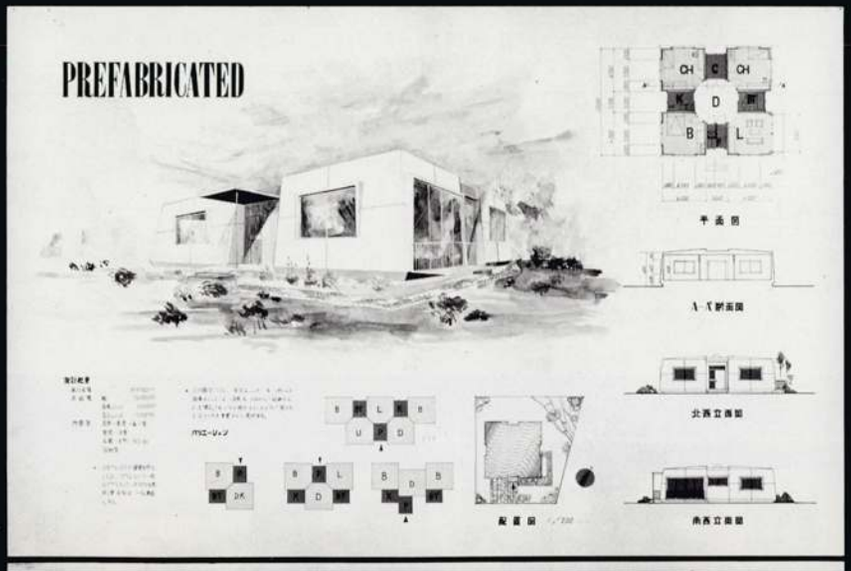
第20回工高生デザインコンクール入選作品

設計課題：ユニットを組み合わせた「プレハブ住宅」
主　　催：日本建築協会

応募作品94点のうち、予備選考、第1次から第4次までの本審査を経て、入選作品10点を決定し、うち最優秀作品1点を選定した。

応募校　12校　　**応募点数**　94点
審査会　昭和49年10月23日(水)に開催
審査委員長／野々村五四男　　**審査員**／池田有隣／出江寛／江川好巳／大久保昌一／大津敏晴／片倉健雄／梶浦恒男／亀井晃治／久保田進也／小角亨／田中弘成／前田萬亀雄／松崎淳／山本純孝（50音順・敬称略）





△最優秀賞　川内　澄夫

（大阪市立都島工業高校・2年）

プレハブ住宅をくわしく知りたくて、また、図面の練習のつもりで始めました。ユニットは、8角型のものを主にして居間や寝室をとり、正方形のものを補助として動線やサニタリーにあててみた。やっと図面が完成したことで満足だったので、入選通知を受けてびっくりした。

◁入選　水本　敦

（大阪市立都島工業高校・3年）

ユニットの組合せによって生ずる空間を、うまく利用することにねらいをおいた。居室と設備ユニットで囲まれる部分を食堂とし、各室間の有機的な連結をもたせて、家族のつながりを重視した。図面構成が粗らく表現が弱かったので駄目だろうと思っていたから、意外な気持です。

設計要項

1.敷　　地：平坦な敷地で自由に想定する。
2.規　　模：独立住宅で延べ面積は150m²以下
　　（階数は自由）
3.ユニット：1ユニットの床面積は最大30m²までとする。
　　ユニット間のジョイント方式および輸送条
　　件はとくに考慮しなくてもよい。
4.構　　造：自由とする。
5.家族構成：夫婦と子供1人または2人（男女各1人）

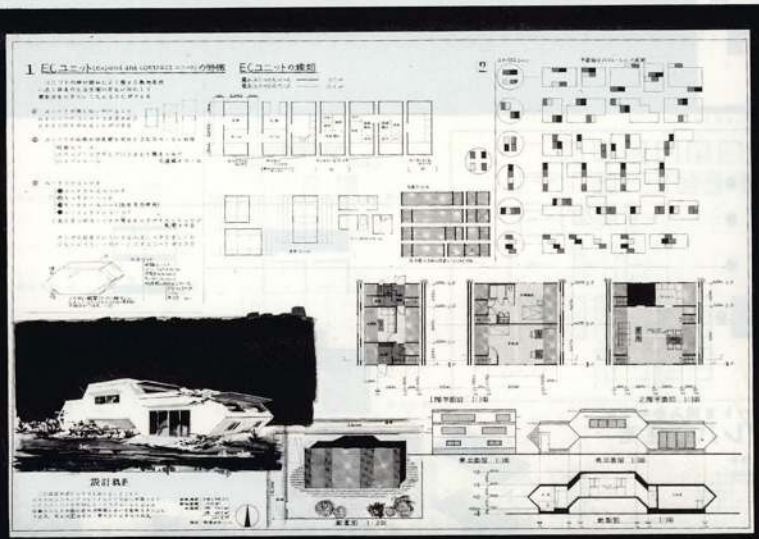
総評

今回の設計課題は〝ユニットを組み合わせた「プレハブ住宅」〟という、構造・施工その他現実性に係わる点ではとっつきにくい面もあるが、きわめて「今日的な住宅」という課題であったため、94点という多数の応募をみたことはよろこばしい。

応募作品のほとんどが、現代の求める課題の趣旨に十分こたえた努力作品ではあったが、なかにはユニット区分について明確を欠いだ作品等が、かなりみられたのは残念であった。

審査にあたっては、各審査員それぞれの立場から意見をだしていただき討議をかさね、4次にわたる審査の結果、最優秀作品を含む入選作10点を選出した。入選作品以外も、すべて努力のあとが著しく、今後のいっそうの研さんをのぞみたい。

（野々村五四男）



△入選　堀　孝義

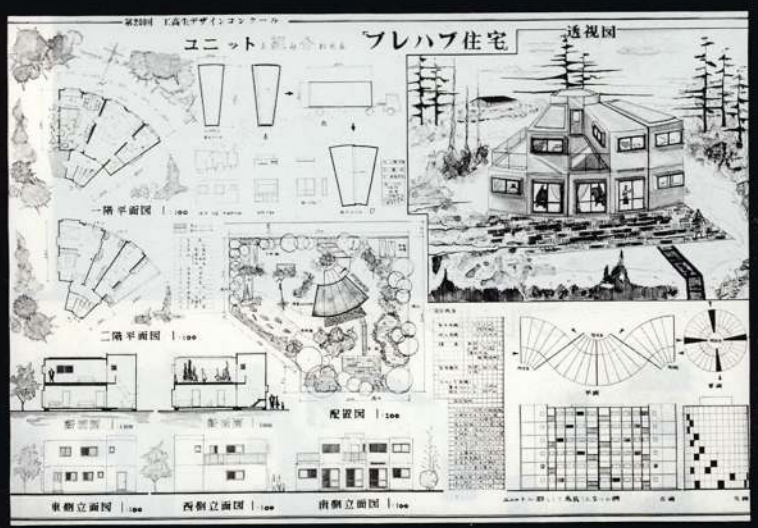
（大阪市立都島工業高校・2年）

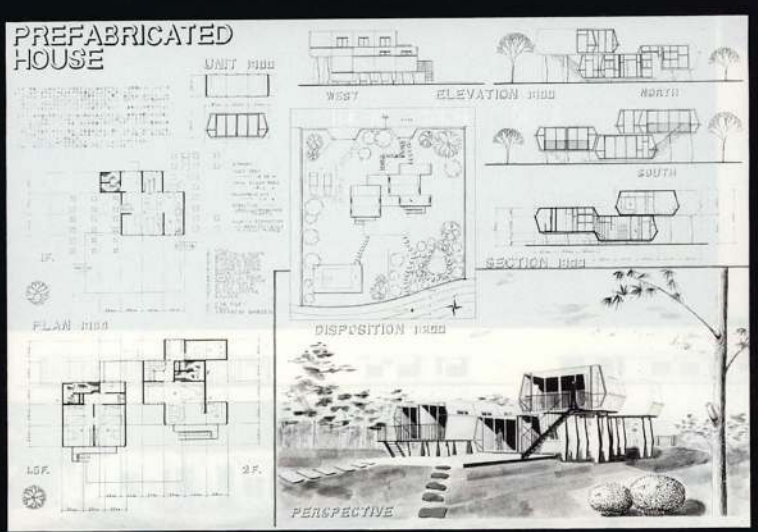
今までのプレハブにない、様々な敷地に対応できる伸縮ユニットを考えてみました。建物が人間を支配するのではなく、これを住みやすいように変えていかなければなりません。将来の生活に適合できる自由さを理想としました。苦労したが応募したことはよい勉強になりました。

▽入選　鈴木　勝

（神奈川県立神奈川工業高校・3年）

プレハブ住宅が社会的に普及するためには、プレハブの住環境と人間の問題がより深く考えられ、住むイメージと対応したプレハブ住宅が作り出されなくてはならない。そのことを強く感じて表現してみた。とくに人と住空間のあり方を大事にとりあげた点が良かったと思っている。





△入選　箱守　正美

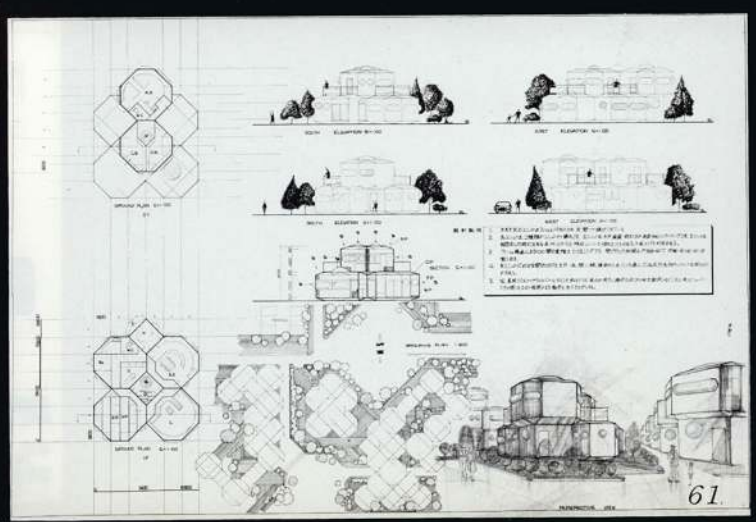
（神奈川県立神奈川工業高校・3年）

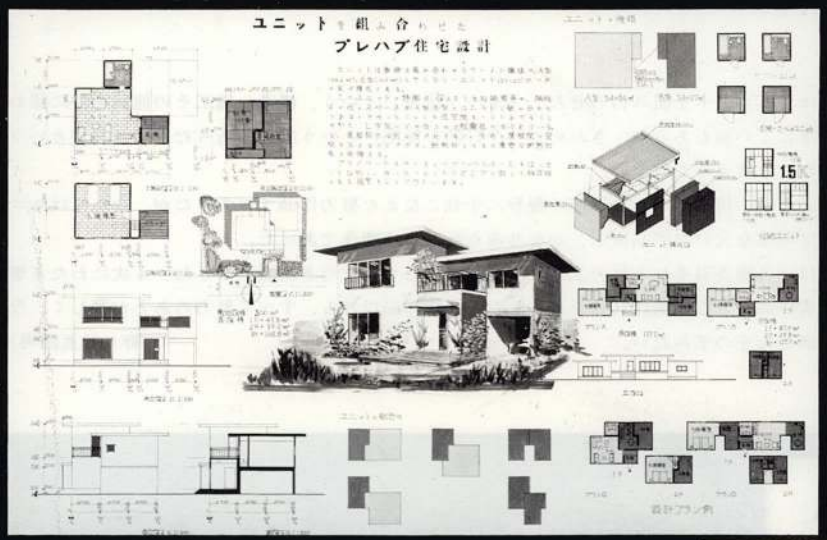
プレハブ住宅はローコストで信頼できるものが、今後も急速に発展していくと思います。単調で個性のないものとしないため、ユニットに変化のある空間を持たせようと考えました。外壁に角度をつけ、横への拡がりをもたせて、立体的に個性的なものとすることができました。

▽入選　成山　博人

（大阪府立西野田工業高校・2年）

課題に興味をもったのが手掛けるきっかけとなった。ユニットのアイディアスケッチを試みるうちに、ユニットの個々の形と特徴、ユニットの組合せた形とそれに合った背景など、また、図面のレイアウトプランの進むわりに製図ができず、物足りないまま提出した作品となった。





▽入選　金見　雅弘

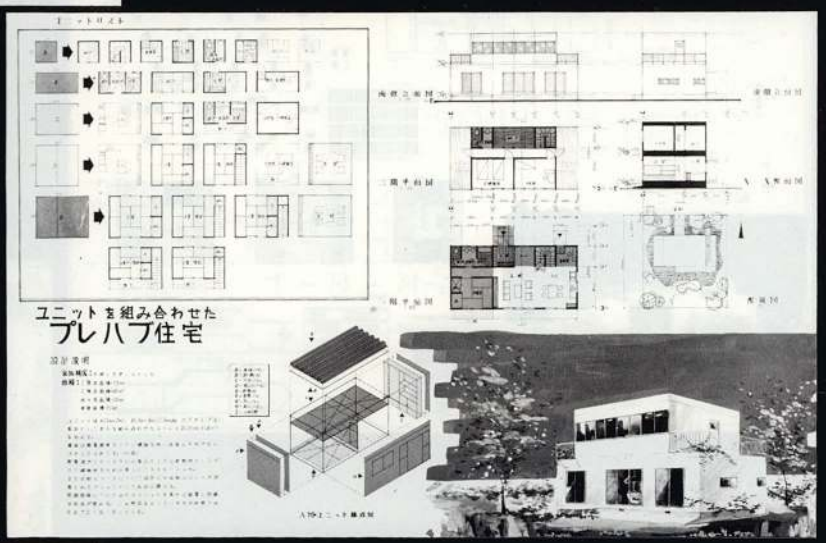
（大阪市立都島工業高校・２年）

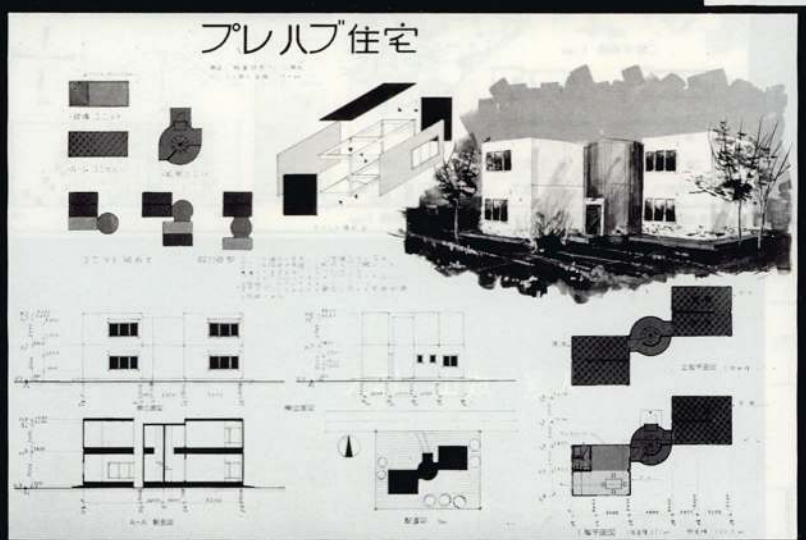
プレハブの実例と、カプセル住宅として紹介されているものを参考にした。日本住宅のイメージが強く、老人にもなじめるもので、ライフサイクルに合わせてユニットの増減ができ、屋根をバルコニーに使えるようにするなど、これからの住宅事情に適するように考えてみました。

△入選　大谷　一見

（大阪市立都島工業高校・２年）

製図の力を向上させたいという気持から、この課題に取組んでみた。プレハブについて考えてみたが、自然と調和した従来の日本住宅の住み良さをもった、新しいユニット工法をねらいとして、組合せは楽しく工夫できました。期限におわれてもよく頑張ったかいがあったと思います。





▽入選　田村　光利

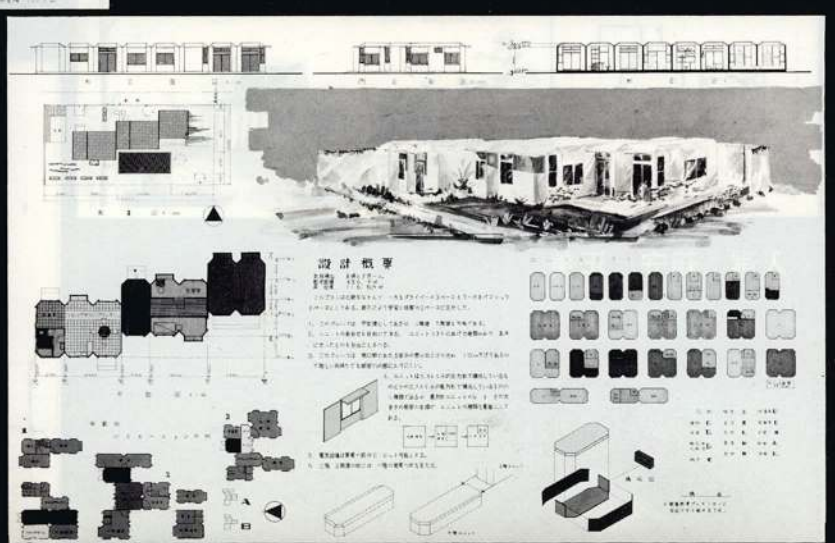
（大阪市立都島工業高校・２年）

いろいろな勉強のためにこの課題にとり組んでみました。本や展示場で調べたが、プレハブ住宅が世間で評判の良くないのはどの点だろうと考えた。どの世代の人達にもなじめるプレハブが作れたらというねがいで進めた。図面の完成に苦労したので入選は大変うれしかった。

△入選　河野　哲郎

（大阪市立都島工業高校・２年）

ユニットの組合せが単純であったので、建物の外観が殺風景になり、また、動線では回り階段にしたので、図面の表現がむつかしくなり製図に苦労しました。ユニットの種類や大きさなどもっとよく考えるべきでした。しかし、ユニットの連結などおもしろいと思いながら進めました。





特集・図書館

●総論

これからの図書館／森　耕一

●企画から作品まで

兵庫県立図書館＋明石市立図書館／近沢輝男＋竹山清明

同志社大学図書館／栗原嘉一郎

茨木市立図書館／澤井平一

●ルポルタージュ

地域図書館をたずねて／篠塚宏三・中村恭三・片倉健雄

●関西における図書館作品実例

本特集は計画の分野の企画からはじまったが、新年号にふさわしい題目をえらぶことも考えたものの、最近の地域社会における図書館活動の必要性が高まっているので、あえて、図書館をテーマに特集を組むことにした。編集企画にご協力いただいた幹事は、栗原嘉一郎・片倉健雄・松村慶三・横山誠一・八木俊樹・竹山清明の各氏である。

これからの図書館

森　　耕一

Ⅰ．公共図書館

日本の公共図書館は、いま急速に変わりつつある。しかし、この変化はまだまだ局所的であり、全体としては、たとえば10年前とあまり違っていない図書館のほうが圧倒的に多い。

公共図書館が変わるかどうかは、市長・市の幹部・市会議員・教育委員など、さらに広くは一般市民が、「図書館をどういうものと考えているか」「図書館になにを期待しているか」という図書館観に影響されるところが大きい。

ところが、地方行政のトップをはじめとして市民の間には、われわれ図書館員がねがっていることとは、　およそ違った図書館観が意外に根強く残っているのである。たとえば、図書館はもっぱら「学生が勉強をしに行くところ」で、「公園のような静かなところにあるのがよい」と考えられている。若い人の間では、さすがに徐々に減っているが、中年以上では、いまでも「入館料がいる」と思いこんでいる人が案外に多い。

ユネスコの公共図書館宣言は、近代公共図書館が具備すべき要件として

1．無料
2．地域社会の全住民に対して平等に公開
3．公費でまかなわれる
4．法律にもとづいて設置・運営される
5．民主的な機関

を挙げている。[1] 日本でも、戦後の図書館法において「公立図書館は、入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない」(同法第17条)と規定された。

ユネスコの宣言によれば、公共図書館は、多少の補助金または寄付金を受けたとしても、経常的には公費（地方公共団体の費用）でまかなわれるべきものであるから、原則として公立である。英語ではpublic libraryで、あたかもその訳語として「公共図書館」が通用しているが、その内容からいえば、「公立図書館」というほうがふさわしい。しかし、本論でも、慣用にしたがって公共図書館とよぶことにする。

1．閲覧よりも貸出

冒頭に「日本の公共図書館は、いま急速に変わりつつある」と書いたが、その変化の最たるものは，1960年代の後半に入ってから、図書の貸出がいちじるしく増加してきているということである。(その傾向は、いまなお続き、加速度的である)

第1表をみていただきたい。1961～66の5年間で、登録者が34万人、貸出図書が269万冊しかふえていないのに対して、1966～71の5年間では、登録者が142万人、貸出が2101万冊と、ケタ違いに増加している。1971年度の登録者数、貸出冊数は、それぞれ5年前の約2.5倍、3倍弱という急成長ぶりである。



日野市立中央図書館　貸出を重視した図書館の開架室。2階に参考図書室がある。

日本の図書館は、明治いらい最近まで「館内閲覧」を重視してきた（閲覧中心主義)。しかし、1960年代になって、閲覧よりも貸出を重視すべきである、「貸出」こそが公共図書館のもっとも基本的なサービスであるという考え方が強く打ち出されるようになった。この考え方を基礎にして図書館サービスを展開し、画期的な成果を収めたパイオニアが、日野市立図書館（1965年9月、移動図書館による貸出開始、1973年4月中央館開館、その間は移動図書館と分館だけ）である。

第1表は日本全国の数字であったが、もうすこし細かくみるために、年間に10万冊以上の貸出のあった図書館（都道府県立・指定都市立・区立を除く）を拾い出してみると、**第2表**のとおり、その館数は急激に増加しているのである。

さらに、1971年度に20万冊以上の貸出を達成した10館だけをとりだして、それらの過去3年間の貸出冊数・年間購入冊数・図書費の合計を計算してみると、**第3表**のとおりである。

第1表　公共図書館の推移（1961～1971）

年度	図書館数[1]	職員数[2]	個人貸出 登録者数(万人)	個人貸出 貸出冊数(万冊)
1961	780	3,699	72.3	892.5
1966	791	5,042	106.1	1161.9
1967	814	5,279	118.5	1342.0
1968	825	5,269	137.2	1530.2
1969	859	5,354	161.4	1982.3
1970	881	5,497	200.7	2419.0
1971	885	5,698	248.2	3263.0

『日本の図書館』各年度版（日本図書館協会）による。
1)，2) 各年度はじめ（4月1日現在）の数値

おどろくべきことに、各年度とも、全国800館あまりの総貸出冊数の10%前後を、わずかに10館でかせいでいるのである（正確にいうと、69年度の8.8%から71年度の10.9%へと寡占の傾向は強まっている)。

人口1人あたり2～3冊以上の貸出を達成し、その点では欧米の水準に迫る図書館もいくつか出現してはいるが、それは、ごく一部のことであって、はじめに述べたように「この変化はまだまだ局所的」なものである。そこで、先進的な図

書館は、ますますその実績を高めるとともに、後につづくものがふえ、貸出の増大を公共図書館全般に普遍化することが、現代の急務の一つなのである。

2．貸出はどうして伸びたか

さて、先進図書館においては、どのようにして貸出が伸びたのであろうか。第3表に、そのトータルを示した10市についてみると、まず、そのいずれもが移動図書館をもっている。日本では図書館のサービス拠点が少ない（ほとんどの市が本館だけ）ので、本を自動車に積んで市民の生活の場（住居・学校・職場等）に近いところまで届けるサービス形態が、図書館利用を促進するのに、きわめて有効であることの証明である。

第2に、貸出のさかんな図書館では、たいがいその貸出の50％あるいはそれ以上が児童図書である[2]。1971年度に25万冊以上の貸出を記録した6市についてみると、**第4表**のとおりである。登録率においても、児童は成人よりも高い。固定したサービス拠点に近いところ（数百m以内）では、児童の登録率はしばしば50％をこえることがある。

第3に、施設の数の問題がある。図書館のサービス・エリア（利用圏域）は意外に狭いのである。図書館の規模によって差はあるが、多くの調査の結果、利用者の7～8割が1km以内から来館している。このような実態をふまえて考えるならば、図書館は1自治体内に一つあればよいというようなものではなく、人口集中地区では、少なくとも2～4㎢に1ヵ所は設けるべき施設である。

実際、貸出の多い日野、高知などの市立図書館は、単一の施設ではなく、中央館・分館・移動図書館からなるライブラリー・システムであり、システム全体として、人口の数倍の貸出実績を挙げているのである。

かくして、最近になって、小さくとも分館（あるいはその前段階もしくは補完的なものとして分室）が多数必要であるという考えが、世論の支持を得るようになり、徐々に各地に建てられるようになってきた。

分館――community library[3]とよんでもよい――は貸出中心の図書館であって、そのほかに読書案内と軽微なレファレンスを扱う。公開書架群が中心で、書庫といわゆる“閲覧室”は分館にはいらない。逆に、読書会などのために、なるべく集会室（20～30名収容）を設けることが望ましい。

社会教育審議会施設分科会の図書館専門委員会がまとめた「公立図書館の望ましい基準案」[4]によれば、分館の望ましい規模は**第5表**のとおりである。

ただ、日本のいままでの調査では、1kmもへだたると図書館の利用がガタッと減っているが、将来ともそういうことになるであろうか。英国のChester市の調査（1966年）では1.5マイル（約2.4km）まで登録率が落ちないのである（**第6表**）[5]。1～1½マイルの地帯には、社会的・経済的に高い地位の人が住んでいたという説明があり、そこを別にしても、至近距離から1マイルまで登録率はほとんど変わらない。図書館の蔵書が量的にも質的にも充実し、夜間開館（地域の事情にもよるが、午後7時ごろまで）が実施されるならば、将来この国でも図書館への吸引力は増すことにならないだろうか。

3．立地と建物について

近畿・中国・四国15府県の県庁所在地にある、府県立図書館の位置を思いおこしてみると、10館までが公園内、城（跡）内あるいは真近に城の見えるところにある。これが、古いタイプの図書館の姿である。これからの図書館は、日常生活の動線上に存在しなければならない。たとえ参考図書館といえども、生活動線からいちじるしくへだたることは、どうであろうか。最近に新築された日野市立中央、昭島市立、浦和市立などは、駅から徒歩5分以内のところにあり、東村山市立中央は駅からはやや遠い（徒歩8分）が、市役所の真向かいに建てられている。

これからの公共図書館は、その目的・機能からいって、市民に親しみをもたれる、入りやすい建物でなければならない。図書館建築について、気づくこと（注文）をいくつか列挙してみよう。

① 街路と高低の差をつけないこと。これは、ベビー・カー、車イスの利用者のためにも望ましい。

② 官公署の建物というよりも、スーパー・マーケットのような感じに――。街路に面した側を床までガラス張りにして、外から館内の書架・本が見えるというのもattractiveである。

③ 開架室・読書室など、利用者を迎え入れる室（参考図書室・集会室を除く）は、なるべくこまぎれにしないこと。開架図書10万冊程度までは1室に収め、1ないし2のコントロール・デスクで応待が可能である。

④ なによりも人件費が高いので、少数の職員でサービスできるように配慮してほしい。分館では、コントロール・デスクをなるべく1か所にしたい（ただし、繁忙時には、そこに3～4人はりつく）。やや大きくなって、デスクを2か所に分ける場合は、成人対象と児童対象。中央館では、そのほかにレファレンス専用のデスクが設けられる。

第2表　貸出の多い図書館

年度	10万冊以上	左のうち20万冊以上
1966	2	1
1967	6	1
1968	11	2
1969	15	3
1970	30	5
1971	40	10

第3表　貸出の上位10館の実績

	貸出冊数	購入冊数	図書費(万円)
1969	1,736,068	105,447	7,063.2
1970	2,577,447	116,571	7,375.6
1971	3,537,147	131,206	8,756.4

第4表　児童書の貸出

	貸出冊数	うち児童書
日野	632,538	354,552
高知	583,502	330,899
町田	490,526	292,719
府中	416,428	200,191
豊中	285,089	160,449
松戸	274,275	133,661

第5表　分館の規模

人口[1]	10,000	15,000	20,000	25,000
貸出スペース	120	160	200	240
デスク[2]	+45	+50	+55	+60
児童	70	80	90	100
集会	35	40	45	50
その他[3]	90	110	130	150
計	360㎡	440	520	600

1)蔵書数は人口1人あたり1冊、基本図書5,000冊
2)貸出スペースは、125冊/㎡として算出
3)事務スペース，WC，機械等，全体の25％

第6表　距離と登録率

最も近い館までの距離	登録率[1]
－¼マイル	27 ％
¼－½	26.5
½－1	24.5
1－1½	32
1½－2	15
2－2½	8

1)その範囲内に住む人口に対する登録者の比率



昭島市民図書館の正面
外からも書架に並んだ本が見える。

⑤ 開架室においては、ある書架の列から、次の書架の列へと、続き具合いがわかりやすい書架配置を考えていただきたい。書架上の本は、横書の本の活字と同様、最上段の左から右へ、上から下へ、最下段に達すると、次の仕切りの最上段へと、分類番号の順にlinearに排列されている。順を追って、一列の書架の終わり（最下段の右端）に達したとき、その続きがどこにあるのか自明でないと、左すべきか右すべきか迷わされるようでは困るのである。

すなわち、書架の配置は、原理的に線型の連続性を保っていることが望ましい（その点、三方の壁面だけに並んでいるというのは、いちばん単純で、わかりやすい）。連続性が空間的・心理的に切れるとしても、2ないし3のグループにまとめてほしい。たとえば、壁面に並ぶ書架群と、それに直角の数列の書架群に分かれた（クシの歯状の）ような場合、そのいずれか一方に小説（または文学作品）、他方にその他の図書を並べるというようなことで、われわれは対処している。

⑥ 室内でも、床面が一部で2, 3段下がるというような変化はありがたくない。こういう構造をもっている図書館の館長は、たいてい「失敗だった」と表明している。ブック・トラックが使えないし、たくさんの本をかかえて（本のために足もとが見えない）書架にもどしに行く職員にとっても危険である。

便所・エレベーターにおいて、身体障害者のための配慮をしたといいながら、その配慮が十分でない、すみずみまで行きわたっていない例が多い（設計の段階から、障害者の意見を徴すべきであろう）。

⑦ 図書館の事務室は、しばしば整理作業室を兼ねているので、官公庁・会社のオフィスよりも、職員1人あたりの面積を十分に広くとってもらいたい。

II．学術図書館

図書館を大別すると、公共図書館と学術的な図書館の二つであるとする考え方がある。無料公開・公立という意味での公共図書館は、その最初のもの（マンチェスター市立図書館）ができてから、まだ120年あまりにしかならず、図書館のなかでは、きわめて若い。公共図書館が出現するまで、図書館はだれが設置したものであれ、もっぱら学者・研究者のためのものであった。

もっぱら貸出に徹する地域図書館と、資料によっては貸出どころか閲覧さえも制限することのある大学図書館とでは、その蔵書・サービスなどが対照的にちがっている。しかし、公共図書館と学術図書館——最近はresearch libraryという用語もよく使われる——は、その両極においては性格・機能を異にしているが、両者ははっきりと二分されるのではなく、中間的な領域が存在している。公共図書館の中央館のなかには、オープンの専門書が相当にあり、少なくとも学生にとって大学図書館より便利で、つかいやすい館がある。また、日本には少ないが、ヨーロッパでは大学図書館が一般市民に開放されており、ドイツのように大学図書館が公共の中央館を兼ねているという例もある。

そこで、章の見出しは「大学図書館」としたが、ここに述べることは、しばしば公共図書館の中央館などにも通用する問題であるということを、前もっておことわりしておく。

公共図書館と同様、日本の大学図書館も、欧米にくらべると、いろいろの点で遅れている。1960年ごろから、「大学図書館の近代化」が提唱され、推進されたが、その後大学紛争を経たこんにち、外からみるかぎり、いちじるしく改善が進んだとも思われない。大学図書館の場合にも、「変化はまだ局所的である」といえよう。

1．文献の増加とその対策

ここでは、日本の現状にはとらわれずに、海外の事情・動向などにてらして、将来の図書館はこういう問題をかかえて、こういう姿になっていくであろうという夢をえがいてみよう。

第1の問題は、文献の増大である。しかも、それは指数関数的な増加である。1831年以前に創立された、アメリカの10大学図書館の蔵書は、ほぼ16年ごとに倍増しているという。[6)]

大学図書館は、その性格上、収集した資料のほとんどすべてを保存しなければならないから、資料の保管スペースの確保が一つの大きな課題となる。対策はいろいろあるが、集密書架（compact storage stacks）というのも、その対応策の一つである。また、アメリカでは、いくつかの大学図書館が共同で（分担金を出しあって）保存書庫をもち、そこに各館から利用頻度の落ちた資料を寄託または移管するという例もある。

科学技術の研究には、単行書以上に、情報源として雑誌・紀要・報告などの逐次刊行物が重要である。そして、文献の増加ということは、単に一誌に掲載される論文数の増加ということだけでなく、学問の分化ということもあって、発表される場——逐次刊行物のタイトル数——の増加をともなっている。その増加も幾何級数的である。現代の科学の発達は国際的であるから、研究のためには単に国内のものだけでなく、海外の図書・雑誌まで収集し利用に供しなければならない。

このような状況下では、たとえ経済学、医学、工学などと範囲を限定したとしても、一つの図書館で資料を網羅的に集めるようなことは不可能になっている。そこで、最近アメリカなどでは、複数の図書館が協力して、なるべく広く多く集めるために、収集分担の計画を立て実施している。

このような収集・保存の面での分担は、当然のことながら図書館資料の相互利用——A図書館の利用者が、みずから出向くことなく、B図書館の資料を利用できること——を前提としている。日本では、相互利用といえば、いまのところもっぱら相互貸借（郵送）のことと考えられているが、今後はテレックス、テレファックスが導入されて、スピードアップ・効率化が図られるであろう。

2．資料の形態的多様化

印刷された資料の増加は、主として二つの理由から図書館資料の形態的変化をもたらした。理由の第1は、さきにも指摘したように、いまの図書・雑誌という形態が、その保管のために非常に多くのスペースを必要とするということである。理由の第2は紙の耐久性である。ある実験の結果によれば、「図書館にある、20世紀の前半に印刷された図書の大部分は、次の世紀には使いものにならない状態になるであろう」という。[7)]

紙——それを材料とした図書・新聞雑誌・パンフレットという形態——に代わるものとして登場したのが、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、マイクロカードなどである。はじめは既存の新聞・雑誌などをマイクロフィルムに写しとることから始まったが、最近は、論文・リポートなどを印刷に付することなく、原稿からマイクロ写真化した形で公にするものがふえてきている。

まだ当分の間、図書・雑誌という形態が消滅するとは思われないが、これからの学術図書館では、図書とともに、（伸び率においては図書以上に）マイクロ化された資料がふえていくものと思われる。したがって、これからの図書館は、マイクロ資料を読んだり、コピーをとったりする機器を用意し、利用者がそれらを自由に使えるように配慮しなければならない。

さらに、レコード、録音テープ、ビデオ・テープなどを備える図書館もふえていくであろう。図書館にそなえられる資料は次第に多様化し、図書館は単なる“図書館”ではなくなっていく。現に学校図書館界では、図書館を中核にして、図書館外に分散している図書以外の資料をも吸収統合して“教育メディア・センター”をつくろうという考え方、動きが現れている。

3．図書館の機械化

1950年代から、図書館にもコンピューターが導入されるようになった。はじめは冊子目録の作成、雑誌の受入事務などに使われたが、最近では、オン・ラインで図書の貸出・返却事務を処理する図書館も出現している（大阪大学附属図書館）。ただし、いままでのところ、A図書館では甲という業務に、B図書館では乙という業務にというように、図書館へのコンピューターの導入は部分的である。

ところが、1973年には、図書の発注・受入から利用まですべてをコンピューターで処理する図書館が出現した[8)]。それは、イギリスのWest Sussex県立図書館（24館からなるシステム）で、その全蔵書60万冊に関する情報をコンピューターに入れ、10巻の蔵書目録をつくったばかりでなく、貸出中の図書について問い合わせがあれば、図書の所在・返却予定日がテレビの画面に映しだされる。これによって、国鉄の「みどりの窓口」のように貸出の予約が容易かつ確実なものになる。

機械化は、なにもコンピューターの導入にかぎらない。分館の分を含めて年間数十万冊を受け入れる図書館での図書の整理（といっても、主に装備）は、コンベヤーをつかった流れ作業で、工場のような景観のところもある。また、ボタン一つで本を納めたボックスが出納台に出てくる、書庫出納を自動化した図書館もあるときく。

このように高度に機械化された図書館が日本に誕生するのも、それほど遠い日のことではなかろう。

注）

1）清水正三編：公共図書館の管理　日本図書館協会（1971）p 199
2）浪江虔編：子どもは本がだいすき　—図書館白書　1974—　日本図書館協会(1974)
3）地域図書館については、10年前に、栗原嘉一郎氏が適切妥当な見解を発表しておられる。
　栗原嘉一郎：公共図書館の計画をめぐって　建築と社会　44巻5号(1963)　p 40-41
4）図書館雑誌　67巻10号（1973）p 462-64
5）Luckham, Bryan: The library in society. Library Association（1971）p 34
6）Ridenour, Louis N.: Bibliography in an age of science. Univ. of Illinois Press (1951) p7
7）東京大学附属図書館　編訳：大学図書館の近代化をめざして（1963）p 25
8）森耕一：電算機による蔵書管理　図書館界　25巻3号(1973)　p．100

（もり　こういち　大阪市立中央図書館長）



兵庫県立図書館
明石市立図書館

基本計画　兵庫県建築部営繕課

兵庫県立図書館

設計監理　兵庫県建築部営繕課
施　　工　鉄建、淡路、山森共同企業体

鉄建建設株式会社
淡路土建株式会社
株式会社山森工務店

明石市立図書館

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　熊谷、関建、中村、藤井共同企業体

株式会社熊谷組
関西建設工業株式会社
中村建設株式会社
藤井建設工業株式会社



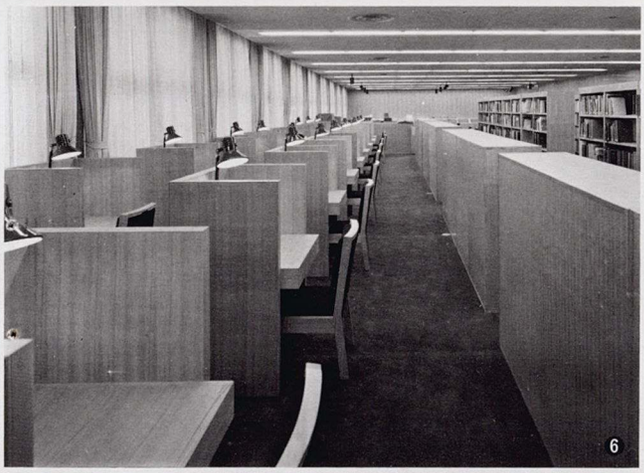


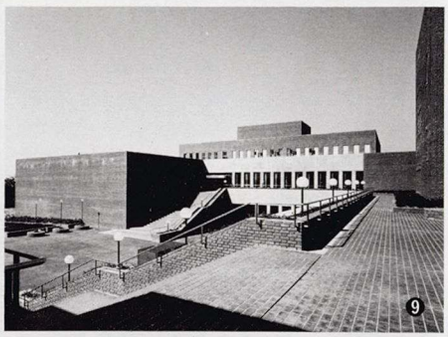






❸県立 西側スロープ部分
❹県立 来館者休憩ホール
❺県立 2階 調査相談室
（部門別相談コーナー）
❻県立 2階 郷土資料室
❼県立 新聞閲覧コーナー
❽県立 1階 資料課
（収書、整理事務室）
❾二階テラスより
❿県立 来館者休憩ホール



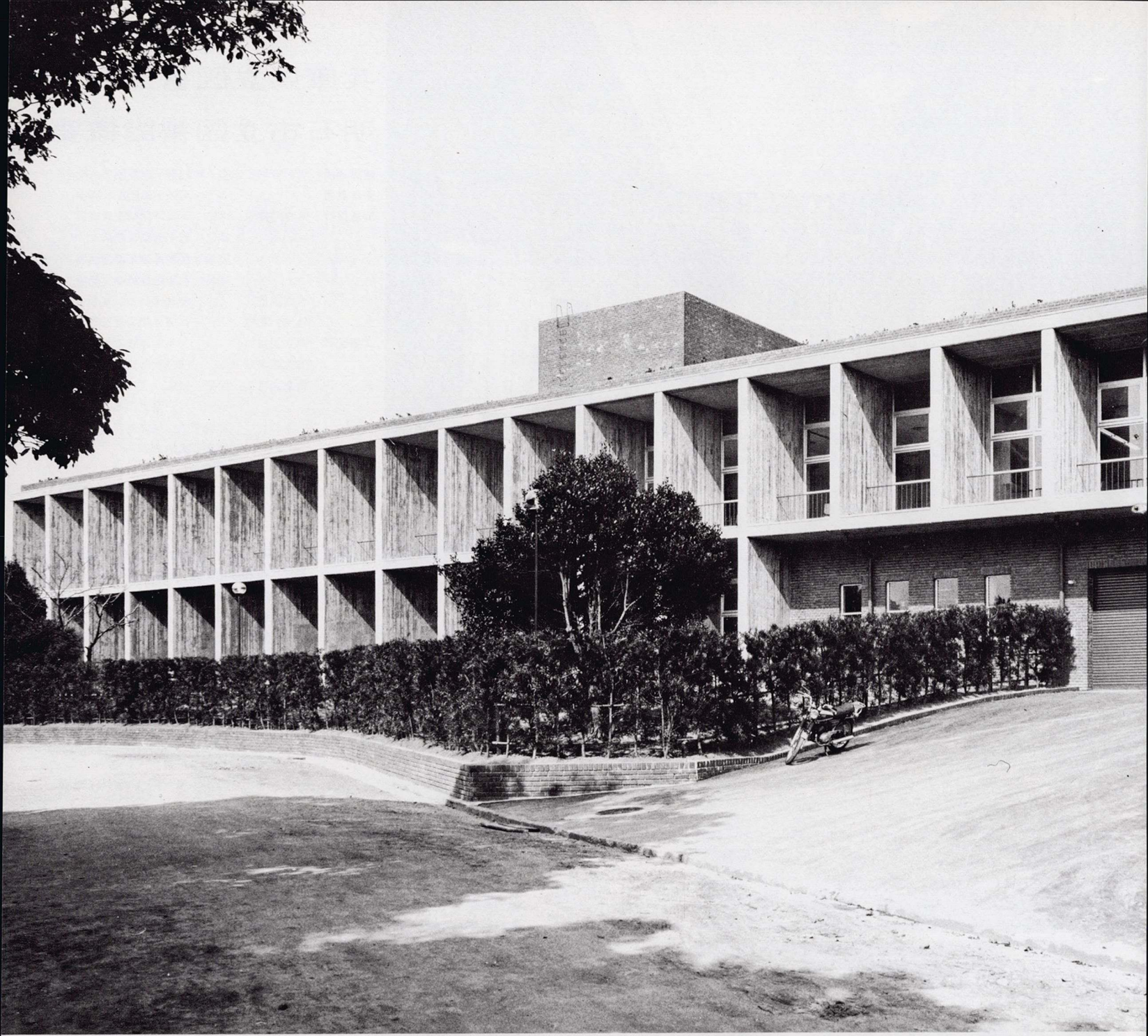






兵庫県立図書館・明石市立図書館概要

建設場所	明石市明石公園1番27号・県立明石公園内		
基本計画			兵庫県建築部営繕課
実施設計	県立図書館	建築	兵庫県建築部営繕課
		構造	和光建築事務所
		設備	兵庫県建築部営繕課
		家具	兵庫県建築部営繕課
	市立図書館		安井建築設計事務所
	外部環境		兵庫県建築部営繕課
工事監理	県立図書館		兵庫県建築部営繕課
	市立図書館		安井建築設計事務所
施工	県立図書館	建築	鉄建、淡路、山森共同企業体
		電気	神戸電気工事共同企業体
		空調衛生	東洋熱工業
		ガス	大阪ガス
		昇降機	日本オーチス
		家具	近鉄百貨店、三越百貨店
		造園	鉄建、淡路、山森共同企業体
		植栽	兵庫県造林緑化公社
	市立図書館		熊谷、関建、中村、藤井共同企業体
工期	起工 昭和48年7月 竣工 昭和49年9月		
規模	敷地面積		10,635m²
	建築面積		5,613m²〈県3,146m²市2,467m²〉
	延床面積		12,987m²〈県7,989m²市4,998m²〉
	建ぺい率		52.77%
	容積率		122.11%
	閲覧席数		470席〈県110席、市360席〉
	収蔵冊数		60万冊〈県50万冊、市10万冊〉
構造	基礎構造		場所打コンクリート杭
	主体構造		鉄筋コンクリート造
			地下1階 地上3階 塔屋1階
寸法	最高部高さ		19.80m
	最高の軒高		17.90m
	基礎下端迄		8.45m
	主なスパン		12.00m×60.00m
設備	空調設備		各階ユニット方式
			一部パッケージ方式
			ガス直焚冷温水発生機
			〈県140USRT 市185USRT〉
	給排水設備		給水市上水道
			汚雑排水市下水道
	消火設備		屋内消火栓
	電気設備		受電 6.6KV
			〈県425kw 市350kw〉
			契約容量〈県266kw 市220kw〉
			配電 交流3相3線 210V
			交流1相3線 210/105V
			変圧器 動力用
			〈県250KVA 市200KVA〉
			電灯用
			〈県175KVA 市150KVA〉
			配電盤 〈県 高圧3面低圧3面〉
			〈市 高圧3面低圧2面〉
	昇降設備		エレベーター
			〈県 交流11人乗60m/分8kw1台〉
			〈市 15人乗90m/分15kw1台〉
			ブックリフト
			〈県 交流300kg5ヶ所停止〉
	書庫内書架		県単柱式積層書架
	弱電設備		火災報知設備、放送設備、
			テレビラジオ共聴設備、
			電気時計設備、視聴覚関係設備
写真撮影	増村 征夫		❷～⓬
	名執 一雄		⓭～⓱
	東出 清彦		カラー



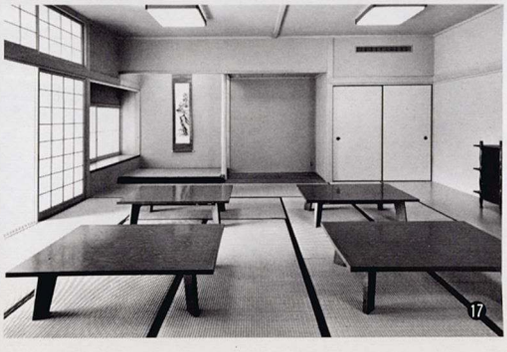

12


13


14

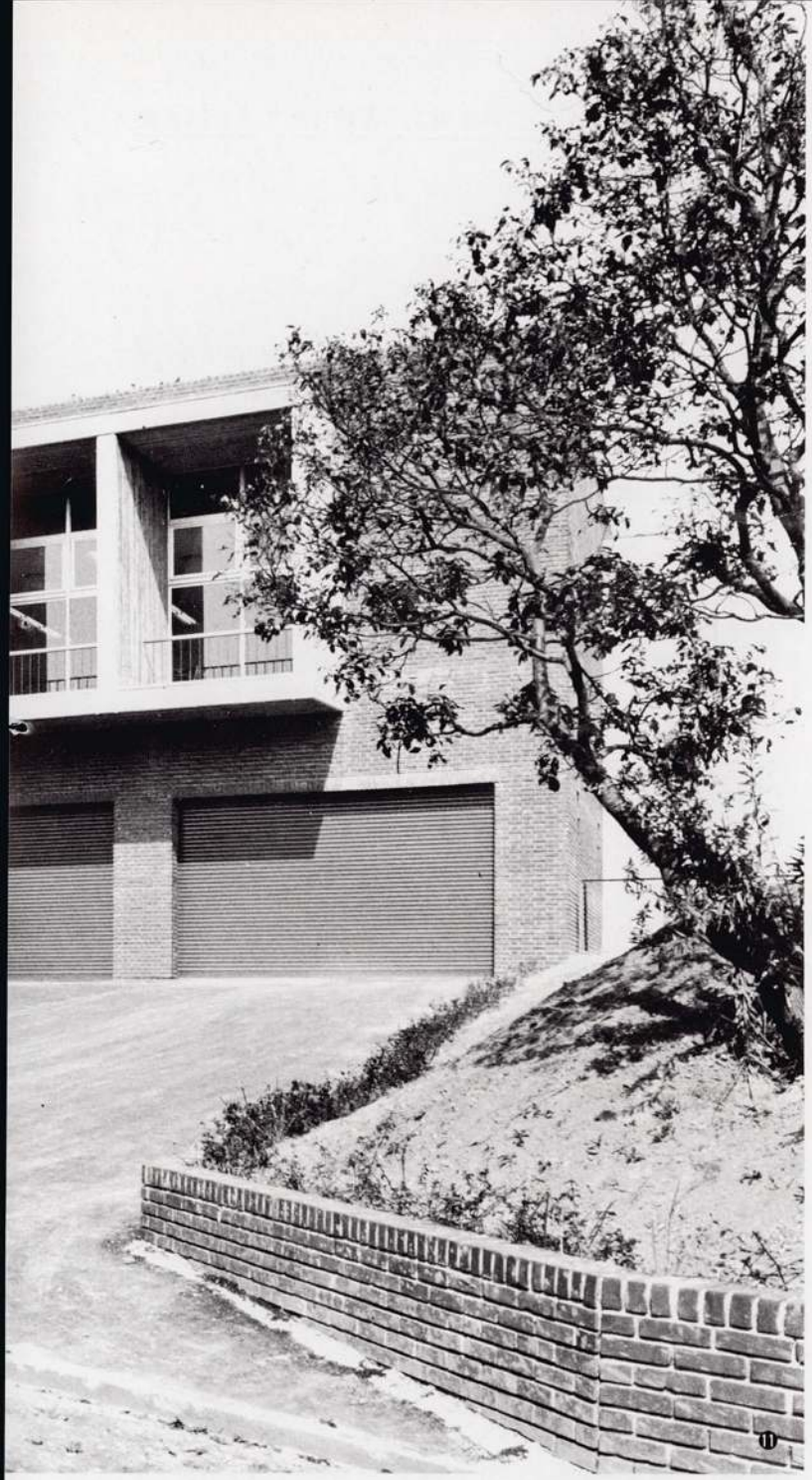

15


16

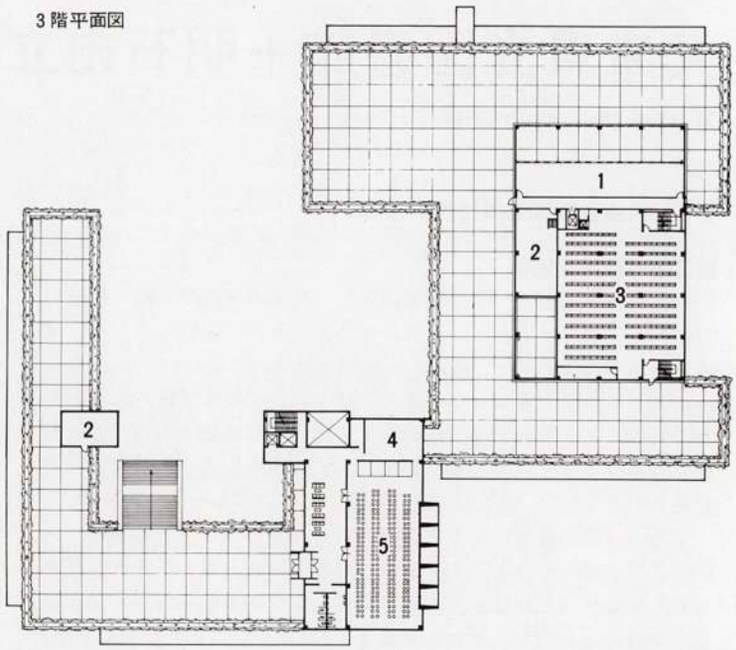

17

兵庫県立図書館・明石市立図書館

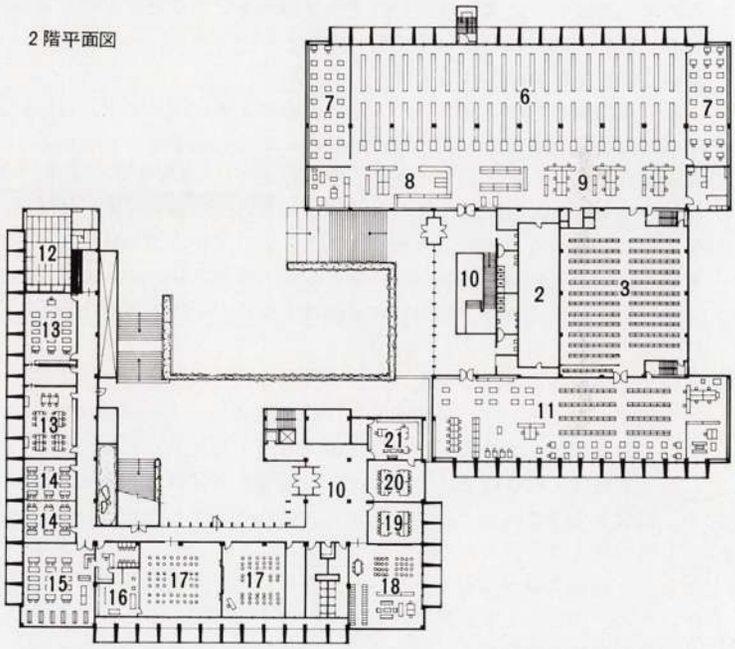
配置図・断面図・平面図



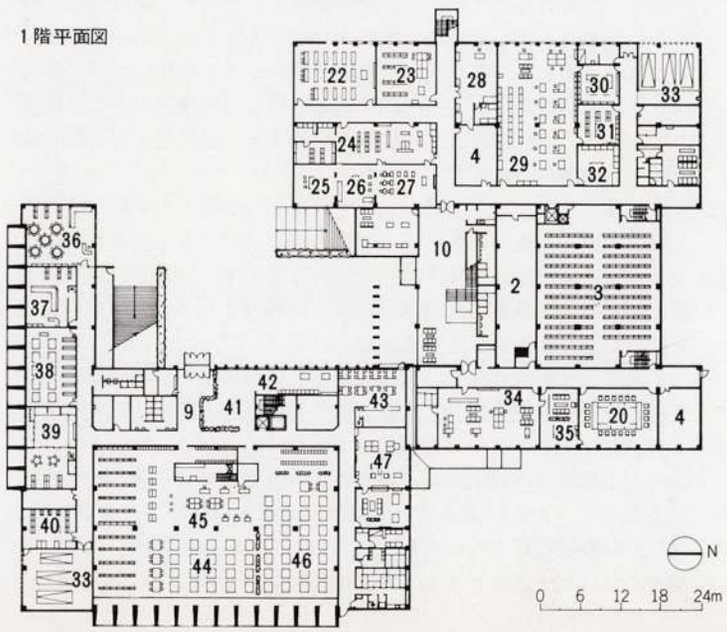
3階平面図



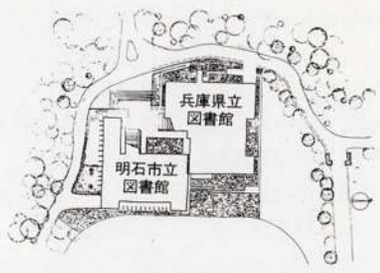
2階平面図

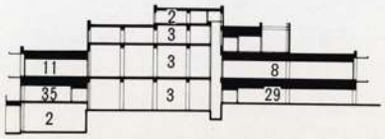


1階平面図



⑬市立 新聞雑誌コーナー
⑭市立 I階休憩コーナー
⑮市立 一般閲覧室
⑯市立 親子読書室
⑰市立 老人読書室





I 電算機室
2 機械室
3 積層書架
4 倉庫
5 大集会室
6 開架書架
7 閲覧コーナー
8 一般相談コーナー
9 主題別相談コーナー
I0ホール
I1郷土資料室
I2集会室
I3実習室
I4講義室
I5郷土研究室
I6視聴覚資料室
I7視聴覚室
I8ボランティアリーダー室
I9研究室
20公民館館長室
2I公民館事務室
22研修室
23点字資料室
24視聴覚資料室
25録音室
26調整室
27試写室
28マイクロ撮影室
29資料課
30荷解場
3I配本室
32製本室
33車庫
34総務課
35館長室
36児童読書室
37親子読書室
38少年読書室
39老人読書室
40巡回文庫基地
41休憩室
42新聞雑誌コーナー
43軽食室
44一般閲覧室
45資料課
46学習室
47事務室

兵庫県立図書館＋明石市立図書館

近沢輝男・竹山清明

§1．兵庫県立図書館建設の経緯

■最後の県立図書館

兵庫県立図書館は、昭和49年10月に、全国の県立図書館の最後の図書館として、明石市立図書館と併設された形で開館しました。関西において経済的・文化的中心の府県のひとつといってよい兵庫県にこれまで県立図書館がなかったということを知って驚かれる方もおられることと思います。経済的・文化的中心地域といっても、大阪や京都ほどでもなく、また県都である神戸市に古くから市立図書館があったために、結局は、建てられずじまいになっていました。

このように、最後になるまで建てられなかったということは、あまり名誉なことではありませんが、違う面からみると、非常な利点にもなります。それは、先に建てられた県立図書館の欠点や問題点をつかむことができ、それらを是正した形での計画がたてられるからです。兵庫県立図書館は、そのような利点をできるだけ生かした形で、構想が練られたといって良いでしょう。

■県立図書館が建設されるまで

県立図書館建設の気運のはじまりは、昭和3年に遡ります。この年の御大典記念事業として、建設の計画がたてられますが、この計画は流れてしまい、そのかわりに、翌昭和4年に「兵庫県巡回文庫」が社会教育課内に設けられました。詳しくはわかりませんが、青年団や処女会を対象とした、「戦争に協力する、国民思想の統一化」をめざす「教化総動員運動」の一環としての性格を持っていたようです。この巡回文庫は、昭和15年に疎開を行い、資料も多数を散逸し、その機能を停止しました。

昭和25年に図書館法が制定され、近代的な公共図書館をつくる法的な根拠ができました。兵庫県では、時を同じくしてサンフランシスコ条約講和記念事業として県立図書館をつくる計画がたてられました。これは、既存のドイツ人クラブを改装して図書館とする予定で、設計もできていたという、具体化寸前のものでしたが、結局これも陽の目を見ずに終わってしまったわけです。そしてその代替案として、巡回文庫が設置されました。正式には「移動公民館」と名付けられ、図書館と公民館の折衷的な性格を持っていました。第1号車は昭和26年に完成し、「文鳥号」の愛称で県下各地を走りまわりました。その後、名称も「移動図書館」とかわり、車の台数も最盛期には6台を数えるまでになりました。（ただし、残念なことに、この移動図書館は、県立図書館建設とひきかえに昭和48年度で廃止されてしまいました。）昭和28年には、社会教育課のなかに、県下の図書館行政を担当する図書館係が新設され、兵庫県の図書館行政は新しい段階へと踏み出しました。

その後、行政サイドではいくつもの県立図書館の案が検討されました。一方、一般の県民は、県立図書館の建設よりは、まだ不十分であった巡回文庫の充実を望んでいたようです。しかし、県立図書館協会からは、県下の図書館活動のまとめ役としての、県立図書館の建設が強く要求されていました。

そのような状態のなかで、昭和44年に「兵庫県立図書館等調査委員会」（以下『調査委』）が県下の学識経験者を構成メンバーとして設置され、その答申が翌昭和45年3月に出されました。この答申のなかで提起された構想が、現在の兵庫県立図書館の基本的な性格を決定しています。「調査委」は「兵庫県立図書館等建設調査委員会」（以下『建設委』）と改められ、昭和46年9月に、建設地の選定と、構想の具体化を内容とする、第2回目の答申を出しました。同じ年の4月に、「県立図書館設立準備室」が新設され、昭和49年度の開館をめざして、建設の準備と、資料の収集・整理を始めました。

§2．兵庫県立図書館の構想と機能

■県立図書館と市町村立図書館との機能の分化

これまでの県立図書館の多くが、県都に建設され、市立図書館のかわりに住民に直接サービスを行ってきました。しかし最近、市町村立図書館が増加するにつれて、住民に対する直接サービスは市町村立図書館が受け持つべきだという考え方が一般化してきました。そして県立図書館の主要な目的は、住民への間接的なサービスを行うことだといわれています。これは、市町村立図書館の不足を補っていくとともに、全県的な立場で各図書館間の連絡調整を行ってゆくことだといえるでしょう。

「調査委」の答申は、このような方向に沿って、兵庫県立図書館の持つべき機能として、つぎの三つを指摘しています。それは、相互協力体制のセンター、参考調査のセンター、資料保存のセンターの三つです。しかし、このように図書館の性格が決定されるまでには、いろいろと紆余曲折があったようです。

■県立図書館の二つの方向

当初から考えられていた県立図書館の性格は、図書館法第2条にもとづき、それに県立図書館としての特殊性を加えた性格付けをしてゆくというものでした。その基本的な姿勢は、「第一に、利用者に対して読みたい本を提供する。第二に、知りたい情報を資料を通じて提供する。」の二つに要約されるでしょう。

このようなそれまでの構想に対して、「新しく県立図書館をつくるにあたっては、既存の図書館のようなありきたりのものではなく、なにか新しいたとえば『情報センター』といえるような図書館にしてはどうか」という意見も、出されました。これは、「本のない図書館」ともいわれ、資料整理などにコンピューターを活用し、電話サービスを中心にした「情報化社会」の最先端をいく図書館をつくる、という提案であったようです。

しかしながら、このような「情報センター」を、機能させるには、普通とは比較にならない莫大な資料が必要とされ、即座に実現が難しいこと、「情報センター」だけの機能では県下の図書館行政の中枢としての働きが期待できないことなどにより、この「情報センターとしての図書館」の提案はとりあげられませんでした。

結局、前述の「三つの機能」を中心とし、それに、AVと点字資料関係の機能を付加した内容で構想がまとまりました。

■相互協力体制のセンター

「調査委」の答申では、「新しい時代の県立図書館を性格づける最大の要件は市町立等の第一線図書館との間に役割の区分を明確にし、さらに県下のライブラリー・システム【図書館網】を確立することによって、全県下にわたる広域サービスと、相互協力体制のセンターとしての役割を果たしうることにあると考えられる」と述べられています。県立図書館は、市町村立図書館に、資料を貸し出すだけではなく、県下のすべての図書館が互いに、相互貸借をはじめとする相互協力ができるような体制をつくっていく、まとめ役の役割を持っています。

ここで問題となるのは、これまで一部の例外をのぞいて、他府県立図書館において、相互協力業務がなかなか軌道に乗らなかったこと、そしてその理由として、相互協力業務を専門に担当する職員が配置されにくいことです。

兵庫県立図書館においても、建物には構想どおり協力課としてのスペースを設けてありますが、実際の組織体制のなかには、人員不足のため相互協力業務担当のセクションは存在していません。前述のように、県立図書館としての中心的な機能であり、県の図書館行政のなかでも同様の位置を占めるものでもあります。早急に人員を確保し、協力課を設置して、答申にもとづく相互協力業務が推進されることが望まれます。

■参考調査センター

図書館を通じての知識や情報の取得が、最近増加の傾向にあります。さらにその内容も高度化・複雑化してきつつあります。利用者の多種多様な疑問や質問に、直接あるいは文書や電話などで答える、というこのような参考調査業務は、県立、市町村立を問わず、大切な業務といえます。しかし、市町村立図書館では、十分な資料や職員をそろえることが難しく、利用者の要求に、全面的に答えることはできにくい状態にあります。それにくらべて、県立図書館では、より大規模な財政力をバックに、豊富な資料を整備し、知識や経験の豊かな専門職員を配置することによって、利用者にたいして十分な参考調査サービスをすることが可能です。その意味では、これは、県立図書館そのものの、とくに重要な機能ということができるでしょう。

兵庫県立図書館では、開館後も、この面の充実に力を入れているようですが、開館してからの日も浅く、資料や人員の面でまだ十分とはいえず、今後の課題として期待されます。

■資料保存センター

「調査委」の答申にもあるとおり、「先人から伝承された文化財ともいうべき歴史的な文献および資料の整備にも、最新の資料と同様に大いに意を注ぐことが肝要」です。兵庫県立図書館では、このような郷土資料のほかにも、県の行政・産業資料の積極的な収集、あるいは各新聞の県内地方版のマイクロ化などを行います。

そのほかには、県内市町村立図書館で収容しきれなくなった古い資料の保存をも行っています。市町村立図書館が住民によく利用されるためには、常に生き生きとした魅力的な資料の整備が必要です。そのためには、古い資料を多量にかかえていることがかえって邪魔であり、その排除によって、より効率の高いサービスが可能となります。そこで排除されたものが、県立図書館で保存されるわけです。

■二次資料の作成など

以上あげた「三つの機能」を十分に発揮していくためには、県立図書館の、文献目録や索引などの二次資料の作成と、市町村立図書館へのその資料を提供するサービスをぬきにすることはできません。市町村立図書館が県立図書館の資料を利用するためには、その蔵書内容をよく知っている必要があります。県立図書館は、そのために新しい蔵書目録を各図書館に配り、また、その改定をきっちりと行っていかねばなりません。これから、各図書館の相互貸借が具体化してくれば、その一層の円滑化をはかるためには、現在の各館ごとにばらばらの蔵書目録を共通の総合目録に替えてゆく必要があります。県立図書館は、その仕事を進めてゆくまとめ役としても働かねばなりません。

§3　明石市立図書館について

■これまでの経緯

昭和22年に、明石市教育委員会社会教育課のなかに「市民文庫」が設置されました。これが、明石市の図書館のはじまりです。昭和35年には、中央公民館のなかに図書係が設けられ、「市民文庫」はそこへ移りました。昭和37年には「巡回文庫」が新設され、現在も奉仕活動を続けています。

このような状況に対して、正式の図書館の建設を要求する世論も、市民の間ではかなり早くから強く存在していたようです。県立図書館が明石公園に建設されることが決定されたのを契機に市立図書館建設計画が具体化し、県立図書館と同一敷地内に、中央公民館併設という形で建設されました。そして、県立図書館と同じ昭和49年10月に開館式をむかえました。

■開館後の爆発的な貸出し冊数の伸び

市町村立図書館の活動の活発さの度合いは、貸出し冊数によって計られます。一昔前までは、来館者の数などが一応の目安としてあげられていましたが、最近は、本の貸出しこそが、市町村立図書館の持つ中心的な使命であるという考え方が、一般化してきつつあります。

新しく明石市立図書館が開館してからの貸出し冊数の増加は、目を見張るものがあります。公民館の図書室時代には、十数年の平均で、一年間の貸出し冊数がおよそ9500冊、一日平均になおすと27冊にすぎませんでした。ところが、新しく図書館になってからは、開館以来わずか50日足らずの間に、貸出し冊数が、なんと30,000冊に達しました。1日平均になおすと704冊となり、公民館時代の26倍になります。このような爆発的な貸出し冊数の増加には、いろいろな原因があるでしょうが、根本的には、市民が新しい利用しやすい図書館を待望していた、ということがいえるのではないでしょうか。



■なぜ、貸出し冊数が増加したか

では、そのような市民の読書欲を顕在化し、貸出し冊数を増加させた原因について、考えてみましょう。

第一は、公民館内の図書室という、何となく利用しにくい状態であったのが、図書館という明確な形にかわったことでしょう。三階建の一階に位置し、外部から直接に容易に利用できる形態となったために、大幅に利用者が増加したものと思われます。

第二には、蔵書の内容が新しくなり、魅力的なものになったことがあげられます。公民館時代と現在とでは、蔵書数こそ三万数千冊と大した違いはありませんが、一万冊ほど新しいものに入れ換えています。

第三は、貸出し方式が簡略化され、非常に借りやすくなったことです。明石市立図書館では「ブラウン方式」を採用し、一度登録を済ませれば、あとはカードの受けわたしだけで貸出しができるようになっています。

第四には、立地条件が良くなったことがあげられます。これまでの、公民館の所在地は、国道にはさまれた場所で、利用者の多い住宅地からは多少交通の不便な所にありました。新しい敷地は、住宅地に隣接した明石公園の端にあり、国鉄明石駅からも歩いて10分ぐらいという利用しやすい場所です。また、明石公園内にあることから、公園利用者や散歩にきた人が、ふらりと利用しやすい位置でもあります。

第五には、図書館側の積極的な姿勢があげられます。週間の休館日は、今のところ設けられていませんし、前述のように貸出し方式の簡略化にも気を使ってあります。館長のお話では、現在、約8千名の貸出し登録者数を、早急に1～2万に引きあげ、年間貸出し冊数を20万冊にすることが、現在の目標とのことです。

■学習室化した一般閲覧室

明石市立図書館には、一般閲覧室のほかに学習室が同一室内に設けられています。既存の図書館の多くが、その閲覧スペースを学生・生徒の学習の場として占領されているため、一般の利用者は非常に利用しにくいのが現状です。そのような状態になるのを防ぐため、今回の計画では、学習室を独立してつくり、一般閲覧室とは間仕切りによって分離しました。しかし、結局はうまくいかず、一般閲覧室も学習室と化してしまっています。学習室として利用されることを一方的に非難ばかりするわけにはいきませんが、図書館本来の機能からいえばマイナスであるといえましょう。

新しい考え方に立って、市立図書館活動の中心を、貸出し業務に置くとすれば、むしろ「日野方式」などを採用して、閲覧席を持たない図書館を作ってもよかったのではないかとも考えられます。

§4．二つの図書館が、同一敷地内に建っていること

■なぜ、併設されたか

明石公園のなかに、兵庫県立図書館と明石市立図書館が併設されていますが、このような例は他府県にはありません。両図書館の併設は、当初からの計画ではありませんでした。県立図書館の建設地が明石公園に決定した段階で、市立図書館の敷地難などの事情から、同一敷地内に建設される計画が具体化したものと、推測されます。もともと、県立図書館が明石公園内に建設されること自体が、あまり必然的ではなかったという見方もあり、両図書館の併設は、むしろ偶然的なできごととともいえるでしょう。





撮影　増村　征夫

このような、偶然性の強い両図書館併設の建設構想に対し、計画当初からそのメリット，デメリットが心配されましたが、今のところ、デメリットはあまりなく、メリットの方がめだつようです。

■併設のメリット

併設のメリットとして、第一に、両図書館の機能上の性格分けがはっきりしたことがあげられます。

県立図書館としては、図書の貸出しなどの周辺住民へのサービスにあまり人手をさくことなく、県立図書館として果たさねばならない業務の方へ、専念できます。また、明石市立図書館に学習室があるため、多少、入館チェックが厳しいせいもあって、学習室的な利用もほとんどなく、一般閲覧者には非常に利用しやすい状態です。

明石市立図書館にとっては、県立図書館が至近距離にあるため、参考調査業務をほとんど県立図書館にまかせ、貸出し業務に力を入れることができます。また市民からのリクエストサービスに対しても、即座に、県立から借り出せる便利さがあります。ただ、現在のところは、このような相互協力業務はまだ軌道に乗っておらず、今後の両館の緊密な協力体制の整備が課題として残されています。

もうひとつの利点は、講堂や会議室を、共同で利用できることです。共用できるスペースを、閲覧スペースや書庫スペースにまわすことができ、限られたスペースを有効に使うことができました。

（ちかざわ　てるお　兵庫県建築部営繕課長　たけやま　きよあき 同 営繕課技師）



❶ 玄関

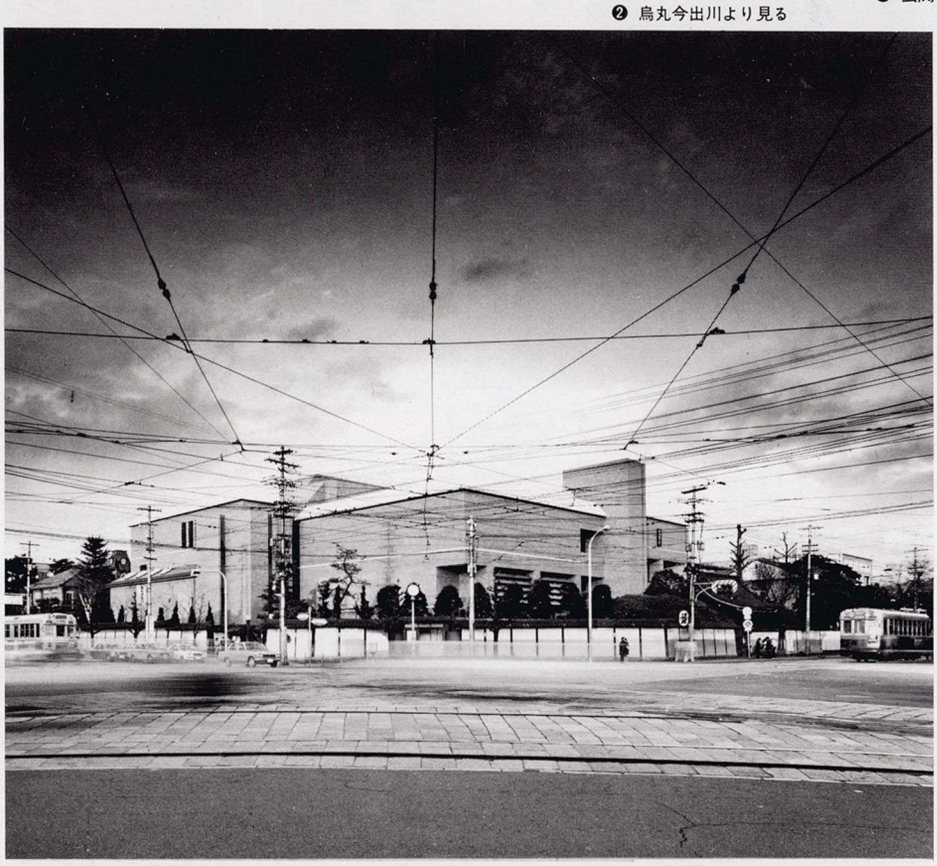
❷ 烏丸今出川より見る

同志社大学図書館

基本設計	大阪市大 栗原研究室 栗原嘉一郎・富田寛志(故)・中村恭三・ 中野明・豊田充
実施設計・監理	富家建築事務所 北野正志・梶川陽士・小笹義和・ 朝田頼孝・阪本弘・大森亘
構造	富家建築事務所 青木茂・伊藤收
設備	日本設備設計
家具	富家建築事務所
施工	大林組
電気	富士電気工業
空調・衛生	大阪城口研究所

建築概要

建築面積	2,719㎡
延床面積	9,154㎡
閲覧席数合計	1,175
図書収容能力	65万冊
構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造、地下2階、地上3階、塔屋1階
設備	全館暖冷房
主要閲覧室	
開架閲覧室	198席、5万冊
雑誌コーナー	46席、300タイトル
参考図書コーナー	108席
第1閲覧室	324席　　第1読書室　108席
第2閲覧室	60席　　第2読書室　110席
第3閲覧室	37席(個席)

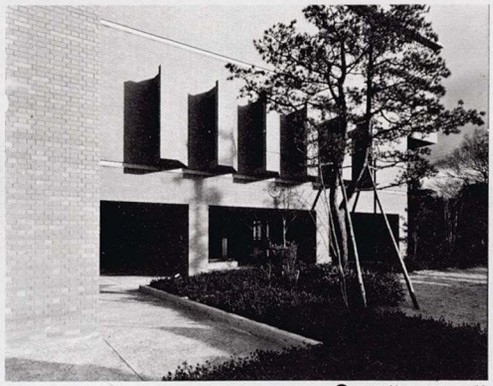




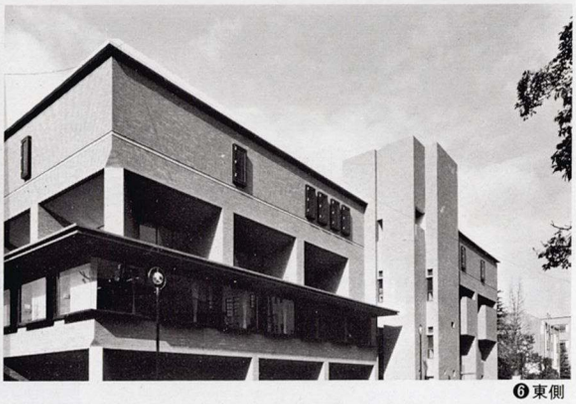
3 南面



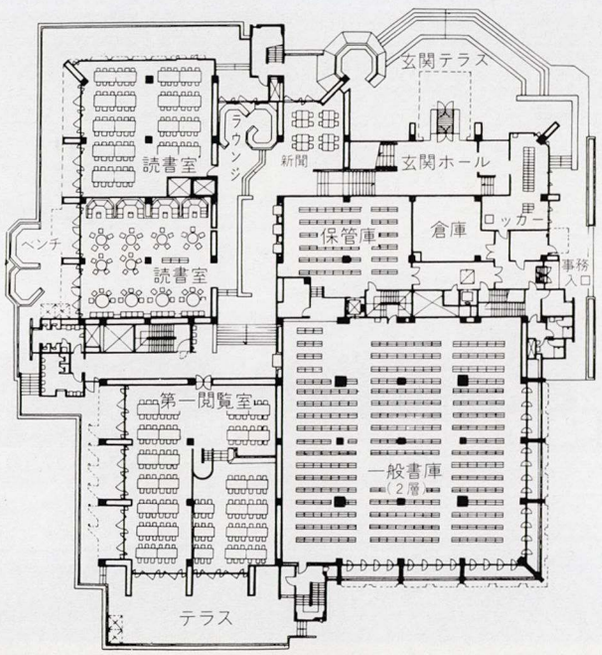
❹ 北側



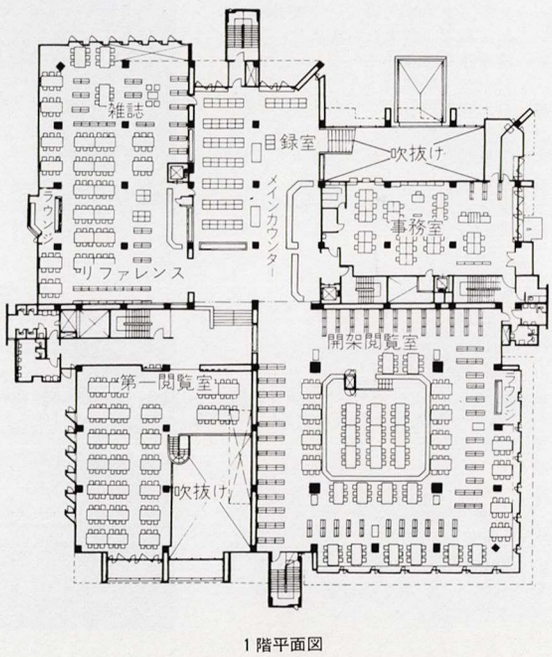
❺ 西側第一閲覧室前



❻ 東側



半地階平面図



1 階平面図



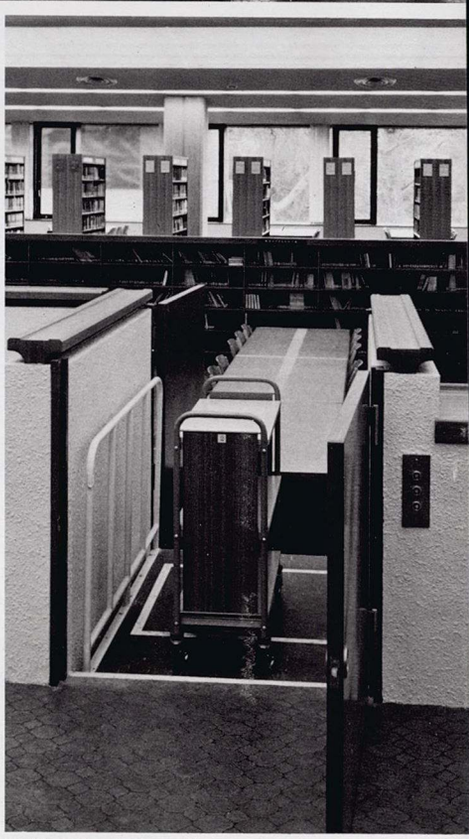
◁❼玄関ホール



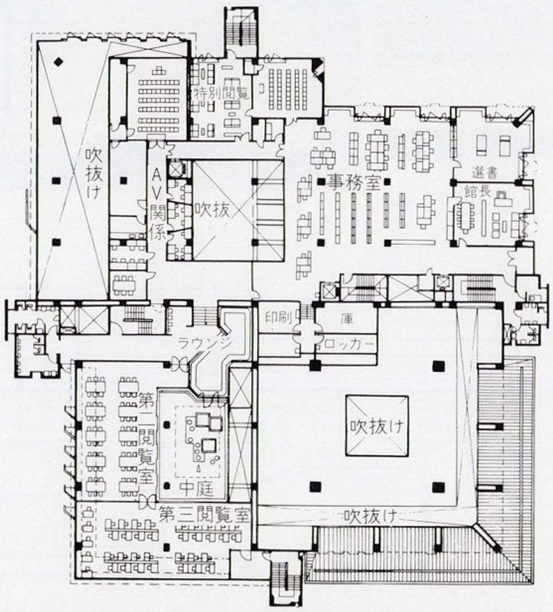
❽目録室▷



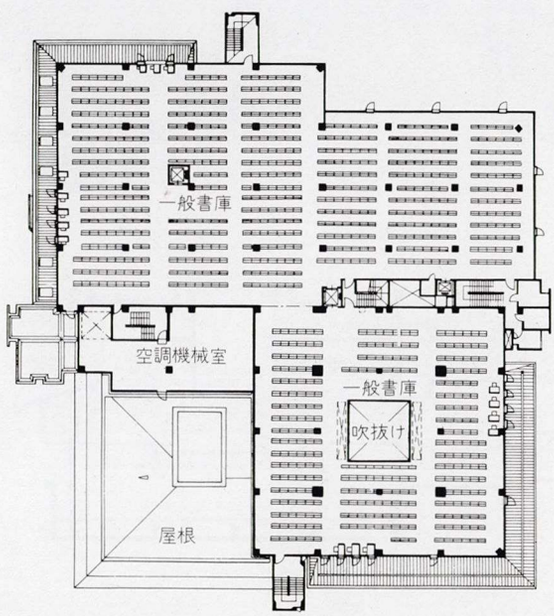
❾開架閲覧室



❿開架閲覧室内ブックトラック用リフト



2階平面図



3階平面図



△ ⑪リファレンス・雑誌室



⑫ラウンジ

▽ ⑬第一閲覧室

⑭第２閲覧室

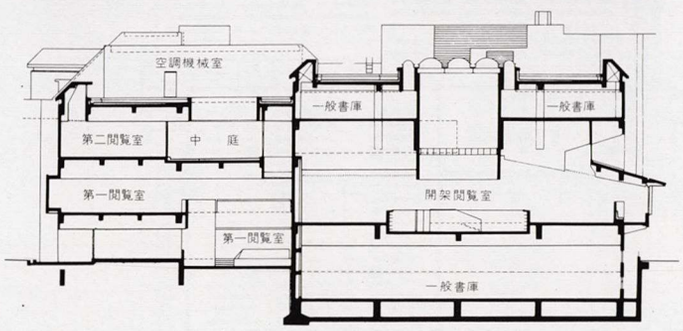
⑮第３閲覧室

写真撮影：彰国社提供
①②③④⑦⑧⑨⑩⑪⑮
写真撮影：新建築写真部（荒井政夫）
⑤⑥⑫⑬⑭

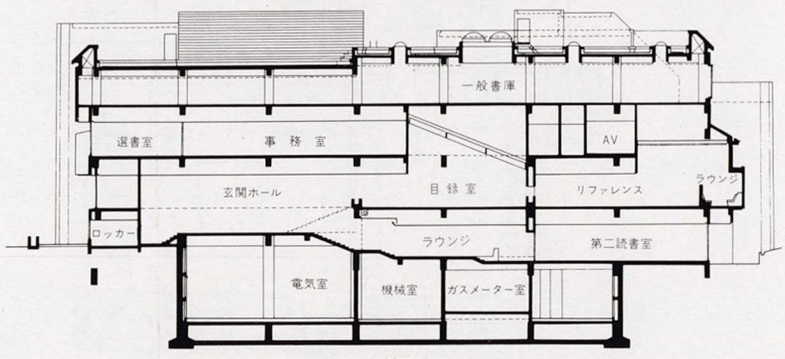








断面



断面

同志社大学図書館について

栗原嘉一郎

1．はじめに

基本設計に1年、実施設計に半年、工事に1年を費して、同志社大学図書館が竣工してちょうど1年が経過した。キャンパス内での立地の良さもあって利用状況は盛況をきわめているようで、この仕事にたずさわった者の一人として喜びにたえない。ここにこの図書館について企画から作品までの報告をすることとなったが、この報告が原則的に基本設計者としてのまとめの域を出ていないであろうことについては、あらかじめお許しをいただきたいと思う。

2．企画から設計へ

私がこの図書館の基本設計の依頼を受けたのは71年春であったが、大学側としては、当然のことながら、そのときすでに新図書館建設に向けて長期にわたる準備が積み重ねられていた。その辺りの事情については直接筆者の知るところではないのであるが、この図書館の企画はその期間に固められているので、以下本節については二、三の同志社大学学内報(注)によって経過等を要約したい。

同志社大学旧図書館は1920年（大正9年）に竣工し、当時としては外観・内容ともに立派なものであったが、近年大学が急膨張するに至り狭隘をきわめ、設備の不備とあいまって使用に耐えない状況になっていた。こうした状況下にあって新図書館建設の要望は以前から高いものとなっていたが、旧館の増改築で対処するか新館の建設にふみ切るかについてはなかなか結論が出ず、後者の方針にきまったのは1967年であった。しかしすぐには実現の方向に進まずに日時が経過するうち、何としてでも早く新図書館を建設しなければという関係者の精力的な努力がようやく実り、69年4月に至って図書館内に新図書館建築実行委員会が設けられ、新図書館の建設に向かって具体的な構想をつくるための検討作業が開始されるに至った。

この実行委員会は原則的に図書館員をメンバーとしており、下部組織として検討主題別に6グループを持つほか、問題の性質によってさらに専門小委員会や合同グループ会議を委嘱するなどして、全館員を挙げて新館建設に向けて施設・業務・組織・管理の改善・改革ならびに近代化の問題の研究・検討をおこなった。実行委員会自体はこれら下部組織での検討を基礎としつつ、グループ間の意見調整ならびに図書館としての決定機関として機能した。

およそ1年間の検討を経て、新館に盛り込むべき内容が「設計条件」という形でまとめられ大学に提出された。大学側はこれを学内の各種機関にはかって検討した結果、財政（予算）面に関して若干の疑問を残しながらも諒承の方向に進むこととなり、設計者の選定に入った。

3．設計条件

上記「設計条件」はいわば企画段階の総決算といえるので、以下にその大要を掲載することにする。なお設計の開始に当たってはこの文書に加えて、1)図書館の人員の問題として、旧館から新館にかわっても人員増の見込みはないので、効率的な管理運営ができるようにとくに考えてほしいこと、2)烏丸通り、今出川通りからの騒音を遮断すべきこと、3)外壁にはキャンパス内の多くの建物に合わせて煉瓦タイルの使用を望むこと、の3点が要望として伝えられた。

□設計条件文書□

〔展　望〕

今日の大学図書館に期待されている機能は大きく変貌しつつある。それは急速に発展する情報化時代に即応した学術情報の的確な把握と迅速な提供の能力を持つことである。図書館資料の収集・保存・利用、快適な研究・学習の場の提供と共に本学の学術情報センターとしての機能を十分に果しうることが新図書館構想の基本条件であると考える。

〔概　観〕

新図書館建設の予定敷地は今出川校地・烏丸今出川角地とし、延床面積約8,250平方メートル（2,500坪）、約7億円の建物をたてるものとする。内部構造は図書館として十分使い易く、機能的に考えるが、外観は大学の他の建物との調和を十分考慮する。建物の北側が大学のメインストリートになるので、北側を建物の実質的な正面とする。南側に建物に相応しい庭園を設ける。

収容する図書は80万冊、また全閲覧席数は1253席とする。

建物は将来の変動に対処出来る可能性を考慮したものにする。

〔所要室〕

0．入口・階段

0.1 入口

入口は利用者用と職員用を設け、職員用入口の近くに荷受口を設ける。また会議室(総務部所管)への入口を独立して設ける。

0.2 階段

利用者用と事務専用階段とをそれぞれ便利な位置に設ける。

1．利用関係施設

1.1　ホール

図書館の玄関を入ったところにあたり、利用者が各室に通ずる通路である。また利用者が図書館利用への興味をそそられるようなディスプレイなどのスペースを考える。ホールには学生ロッカー室、傘立てなどが隣接する。ホールには休憩のためのベンチ、水飲場、手洗場なども設ける。メインカウンターはホールから目のつく場所に設ける。

1.2　メインカウンター〔33㎡〕

図書館活動の中心的位置をしめ、開架コーナー、レファレンスコーナー、雑誌コーナー、目録室、書庫、ホール、事務室と密接な関係で結ぶ。とくにメインカウンターと目録室、レファレンスデスク、閲覧事務部門とはより密接な関係で結ぶ。メインカウンターで開架コーナー、レファレンスコーナー、雑誌コーナー、オ2・オ3閲覧室、A－V室、マイクロリーダー室の各閲覧スペースの出入りをチェック出来るようにする。メインカウンターと閲覧事務部門とが階層を異にする場合などは、メインカウンターの近くに閲覧作業、納本準備作業のためのスペースが必要となる。メインカウンターのスペースは閲覧事務スペースを含む。

1.3　目録室

メインカウンターの近く、またレファレンスデスクの近くに設け将来の蔵書冊数約80万冊分の目録を収容出来るスペースを考える。整理事務部門と連絡を密に出来るようにする。部屋とはせずにコーナーとして考える。

1.4　開架閲覧室

カウンターでチェックを受けたのちは開架閲覧室の各コーナーの資料が立体的に利用出来るように考える。閲覧室は全体に明るいゆったりとした感じにし、図書の損傷、亡失などの事故防止のためからもあまり背の高くない低書架をおく。

a．開架コーナー〔749㎡〕

最大5万冊の図書を収蔵し、200度設ける。図書館利用の大半がこのスペースを利用すると考えられるので、外部から入りやすい位置が望ましい。

b．レファレンスコーナー〔272㎡〕

レファレンスコーナーは図書館のどの閲覧室からも利用しやすい位置を考え、とくに雑誌コーナー、開架コーナーと隣接した位置にする。また目録室とカウンターは最も密接した位置関係を考える。レファレンスデスクはメインカウンターの一部、もしくはその付近に設け電話架設の必要がある。位置によっては電話ボックスの必要性も出てくる。最大1万3千冊の参考図書を収蔵し、100席設ける。他にアトラス入れ、辞書台などもおく。レファレンスデスクは気軽に相談が出来るようなものを考える。

c．雑誌コーナー〔119㎡〕

最大400タイトルの雑誌を展示し、52席設ける。書架は鳩小

屋式とする。雑誌係の事務室と連絡が十分とれる位置が望ましい。

1.5　オ1閲覧室〔660㎡〕

350席の大閲覧室とし、ノーチェックで入れるようにする。御所に面した南面をとるのが望ましい。原則として、係員は配置しない。管理はテレビアイ、放送設備で行なう。

1.6　オ2閲覧室〔178㎡〕

108席のグループスタディを主目的とした閲覧室とし、平常時はチェックを受けて入れるように考えておくが、試験期などはノーチェックで入れるような可能性を考え調整用閲覧室としての性格を持たす。オ1閲覧室と同じく、係員は配置せず、テレビアイ放送設備で管理する。

1.7　オ3閲覧室〔145㎡〕

50席の個席閲覧室としチェックを受けて入れるようにする。独立した静かな雰囲気の部屋にし、管理の方法はオ1・オ2閲覧室と同じ。

1.8　A－V室〔94㎡〕

52席の視聴覚関係の部屋とし、テープ、レコードなどの利用、スライド、映画等の映写、小講演などにも利用できるように防音設備を完全にした独立した部屋にする。テープレコーダーは20台とし、各テーブルにはめこみ固定し、ヘッドホーンで個別又は共同で研究、勉学できるように配慮する。そのうち数台にはレコードプレーヤーを併設する。映写については8㎜、16㎜の映写機、スライド映写機、現物投影機等を備えつける。また図書館利用の方法やルールについて利用者を教育する必要もあり、そのための機能も十分考えておく。隣接してA－V準備室を設ける。チェックを受けて入れる位置にする。

フィルム、テープ、スライド、ピクチュア等のライブラリーについても将来充実化する方向で考えることが望ましい。

1.9　マイクロリーダー室〔33㎡〕

静かな雰囲気で長時間でも利用できる部屋とし、チェックを受けて利用できる位置を考える。マイクロリーダーを10台備えつける。そのうち数台はプリンター付のものとする。

1.10　特別閲覧室

40席程度の部屋とし、外来者の図書利用、また禁帯出図書等の閲覧のためにあてる。

1.11　オ1読書室〔163㎡〕

チェックを受けずに入れる自習室とし、100席設ける。

1.12　オ2読書室〔163㎡〕

新聞、週刊誌などをおいた部屋とし、100席設ける。オ1読書室同様チェックを受けずに入れるようにする。

1.13　学生ロッカー室

400個のロッカーをおき、何らかのかたちで管理出来る位置に設け、ホールに隣接させる。

1.14　学生傘立て

ホール、学生ロッカー室に隣接させる。

2．収蔵関係施設

総計80万冊収蔵できる施設を考える。

2.1　一般書庫〔4,950㎡〕

60万冊収蔵できる書庫を考える。書庫はカウンターに近い位置を考える。書庫内には30台の可動式キャレルを置き、閲覧事務スペースと同じく冷暖房をほどこし居住性を高める。

2.2　貴重図書室

一般書庫内に3,000冊収蔵できる貴重図書室を設ける。可動式間仕切りをし、チェックを受けなければ入れないようにする。室内にキャレル1台を置く。

2.3　保存書庫

きわめて利用頻度の低い図書20万冊収蔵できる保存書庫を考える。

3．業務関係施設

3.1　事務室

図書館の3課の事務室を同一階層に集中させるのが、各パートの有機的な連けいを保ち、より有効な図書館活動を進める上からも有利ではあるが、場合によって事務室の一部が階層を異にするときは上下の関係などで一体化をはかる。事務室内は図書の流れがさくそうしないように機能的、合理的に各パートを配置する。手洗場、給湯器を事務室内に設ける。

a．庶務　〔145㎡〕

外部との関連が強い館長室、応接室、図書選択室は庶務部門と直結している必要があるが、音声など不必要な影響をさけるため、事務室と切り離す必要がある。

b．整理　〔290㎡〕

書架、目録のためのスペースを十分にとる。

c．閲覧　〔240㎡〕

カウンターと連絡のよい位置。仮受雑誌書庫を含む。簡単な製本スペース、利用者の救護スペースなども考える。

3.2　館長室〔36㎡〕

会議が出来る設備をする。

3.3　応接室〔33㎡〕

館長室に隣接させた位置。

3.4　図書選択室〔99㎡〕

荷受口と直結させ、庶務部門に近い位置におく。室内は主題別部門制に適応出来るようにアコーディオンドアーなどで区切れるようにし、書架、選択資料キャビネット、会議用円型テーブルなどをおく。

3.5　印刷室〔99㎡〕

事務室に近い位置、カウンターと十分連絡のとれる位置とし、防音設備を十分にする。当面ゼロックス複写機2台を収納する。将来マイクロフィルム撮影機なども収納するので暗室の設備が出来るようにする。

3.6　情報管理室〔165㎡〕

学術情報に関する資料の調査研究を行い、図書館利用者に情報を提供するための部屋とし、近い将来、検索用コンピューターなどを備え、情報管理機能の能率化、高度化をはかることが考えられるので、テレックスなどのコミュニケーション設備を持ち、各大学図書館の相互協力を進める。位置としては事務室の近くに設け、コンピューター導入に備え、配線、配管、空調等を考える。

3.7　図書館実習室

図書館学実習および館員研修に使用し、図書館学資料書架を設ける。約60席。特別閲覧室に隣接させる。

3.8　A－V準備室〔33㎡〕

A－V室に隣接し、A－V機材を収納する。

3.9　荷受口〔10㎡〕

図書選択室に隣接させ、図書の搬入等に利用する。場合によっては雑庫、倉庫（図書館所管）、保管庫への荷物搬入口を兼ねることも考えられる。

3.10　職員ロッカー室

男子用、女子用をわけ、更衣室を兼ねたものとし、手洗いの設備をする。ベンチ数個と約60人分のロッカーを収納する。事務室から管理出来る位置、職員出入口に近い位置にする。

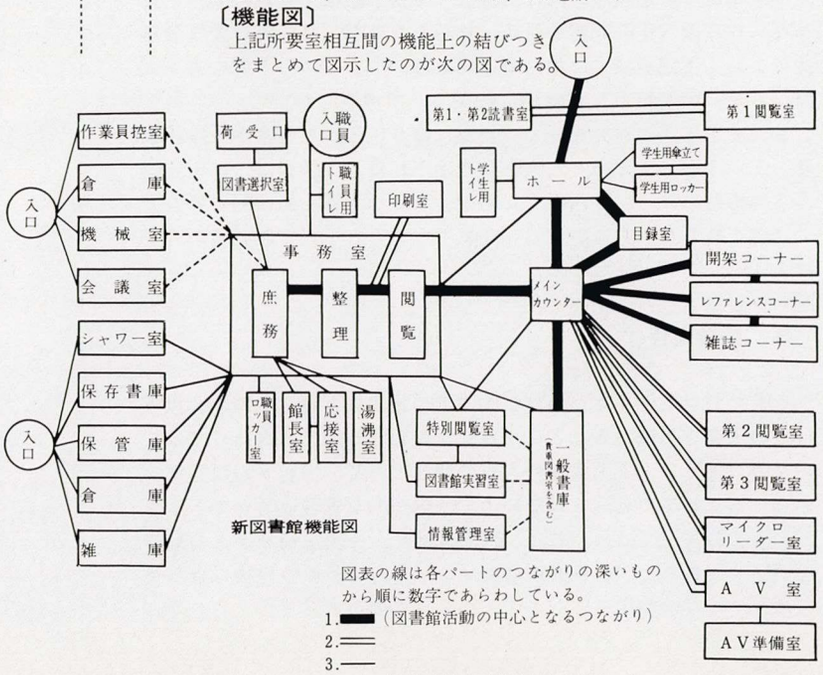
3.11湯沸室：略、3.12シャワー室：略、3.13倉庫：略、3.14保管庫：略、3.15雑庫：略、3.16作業員控室：略、3.17倉庫：略、3.18会議室：略、3.19機械室：略

4　機械諸設備

4.1 防音：略、4.2 湿度に関する機器：略、4.3 冷暖房に関する機器：略、4.4 エレベーター：略、4.5 エアーシューター：略、4.6 放送設備：略、4.7 テレビ・アイ：略、4.8電話：略

〔機能図〕

上記所要室相互間の機能上の結びつきをまとめて図示したのが次の図である。



新図書館機能図

図表の線は各パートのつながりの深いものから順に数字であらわしている。

1.■（図書館活動の中心となるつながり）

2.═

3.—

4.……（直接連絡の可能性があればよい）

4．設計から完工まで

ところで設計を始めるに当たって「設計条件」について問題と思われたことは、盛られた内容の大きさ（座席数、図書収容力、その他）に比して総面積と工費の数値が小さすぎるのではないかということであった。しかしこの点については設計を進めていくなかで解決していくということになり、ともかく設計にとりかかったが、やはりこれがいろいろの困難に会うもととなった。

私自身としては、この設計条件については、2万人もの学生を擁する大学の中央図書館として内容面もなお決して十分とはいえないと考えたこともあり、第一級の図書館建築の実現に意欲をもやしたこともあり、盛られた内容の方を重視して設計を進めたのであるが、その結果、最初の構想は総面積と工費の点で、示されていた数値をかなり超えるものとなった。実質的に設計案の検討の場となった先の実行委員会は、メンバーが図書館員であった関係上、同じく内容面を重視し筆者と立場をともにしたが、大学の公式の建設委員会や評議会・理事会などは、大学の経営上の観点もあって、内容面はともかくとして総面積や工費の枠の方が重要な問題とされた。

この両者の間の考え方のギャップはいろいろの点で実のところ少なからぬものがあり、このため設計案が確定するまでの過程は難航を重ねることとなった。しかしながら、当時の原正図書館長の献身的な努力などにより、数次の調整過程を経て、内容もある程度けずるが枠の方も上積みするという形で最終的に合意が成立し、72年春に基本設計の終了をみることとなった。その間ちょうど1年であった。なおこの調整過程で4階に予定していた情報管理室が全面削除される一方、地下に入ることになっていた総務部所管の会議室のとりやめ、吹抜けの縮小、3階書庫内部の未仕上げ、蔵書収容力・席座数の縮小等々の修正が行われたのであった。

以後は急ピッチで実施設計に入り、同年10月末に着工、折から急激な建設費の高騰が進むなかを熱意のある施工によって翌73年10月に竣工、同12月3日に開館の運びとなったものである。

ところで設計チーム内部の問題としては、基本設計者と実施設計者の関係の問題があったが、話し合いによって、相互にくさび形に関わり合い、基本設計の開始時点から竣工するまで、設計チームとしての不連続さが生じないよう努力が払われた。

また、図書館側の先の実行委員会はこの間も終始活発に機能し、基本設計が開始されてから竣工までの間に実に200回近い検討会議を開いている。図書館側のこうした真剣さと並々ならぬ意欲が設計の質にいろいろな形ではね返っているのは当然であり、その意味でこの新図書館に対して果たした実行委員会の力は非常に大きかったといってよい。設計者側としても深く敬意を表するものである。

5．作品について

設計の意図などについてはすでに他誌（新建築・建築文化74年3月号）にも述べているが、要点を述べれば、つぎのようなところである。

1）内部機能の問題としては、旧館に比して3～4倍の大きさになるのに図書館員の増員の見込みがなく、したがってきわめて効率の高い管理・運営が要求されるという厳しさに、プランニングとしてどのように応えるかの問題が大きかった。

このためには、1200席もの学生動線をスムーズに流すことがまず必要であり、設計条件にも示されていたことであるが、自習室ゾーンへの動線はメインカウンターからはずしてノンチェックゾーンにまとめるとともに、資料をともなう主要室は1フロアにまとめてできればメインカウンターで集中管理することができるように考えることが必要であった。

解決として、玄関を中心にして半階上りのレベルにメインフロアを設け、その中心部にメインカウンターを、さらにその背後に業務室と書庫へのコアを配して管理の効率を高めるとともに、玄関から半階下りのレベルに新聞閲覧コーナーおよび自習室群を設けたことによって、目的とするほとんどの室に対して1階の雰囲気のままでスムーズに到達できるようにしたことである。

2）書庫については上下に2分し、資料と関係の深い閲覧・業務室群を上下から断面的にはさみこむという、いわば変形サンドイッチ形式をとったのであるが、これによって伸びのあるメインフロアを得ることができた点は良かったと考えている。

3）大きなひろがりを持つことになる内部空間に対してどのように光を採り入れるかの問題も重要な課題となったが、豊かな空間を求める気持ともあいまって、断面計画としてトップライトの可能性を追求してみたつもりである。

とくに最も重要な室である開架閲覧室については、トップライトとともに床の中央部を下げるなどして、新しい閲覧空間の創出をねがって力を注いでいる。

なおインテリアの問題として照明計画にも意を用い、コンコース的な部分、資料のある閲覧室群、自習室群等、室の性格に応じてかなり雰囲気を変えるようにしている。また家具についてもすべて木製とし、室との調和に留意している。

4）外部の意匠としては、伝統あるキャンパスのなかでの古い建物群との調和の問題、御所に面した烏丸・今出川の交叉点で正門脇といった要所に建つことの重みには緊張もしたが、大学側から出されていた煉瓦タイル使用についての要望も積極的に評価し得たし、道路からの遮音の必要性が高いこともあって、地上階では庭園との対話を持たせながらも、全体としては壁面を基調とした彫りの深い建物にしたいと念じつつまとめたものである。

6．おわりに

以上であるが、74年6月、この図書館の設計に当たって文字通り私の片腕として力を尽くしてくれた冨田寛志君を失った。この図書館が開館以来好評のうちに1年を終えようとしているにつけて、竣工した姿を見ることなく病いの床につき、ついに帰らぬ人となってしまった氏に哀悼の祈りを捧げるとともに、建設にたずさわったすべての関係者に感謝の意を表する次第である。　1974年11月

注

1）新図書館の建設について、図書館長原正、同志社大学図書館報No. 10. 1971. 11. 1

2）同志社大学図書館のあゆみ、図書館長原正、同志社大学通信新図書館竣工記念特集号 1973. 11. 15

3）新図書館建設にいたるまでの諸種の事情について、閲覧課長前川嘉門、同志社大学図書館報No.15. 1974. 2. 1

（くりはら かいちろう　現 筑波大学芸術学系教授）

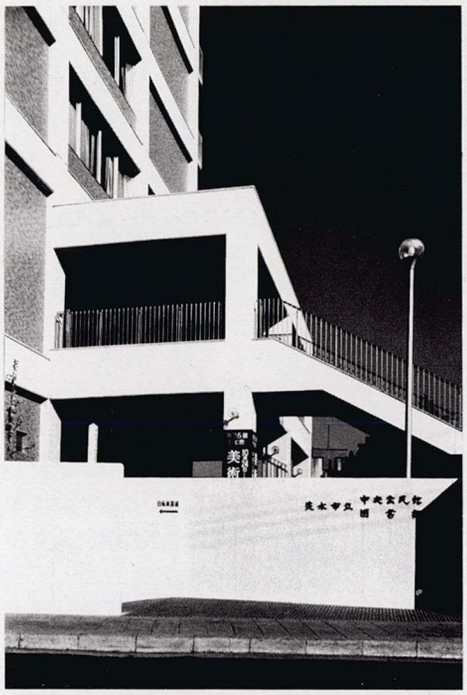
茨木市立図書館

合同庁舎建築概要

建築位置　茨木市東中条町298番地
工　　期　昭和47年1月24日～昭和48年1月16日
建物概要　地上7階、地下1階、一部地上4階
　　鉄筋コンクリート造
敷地面積　1,840.53m²
建築面積　1,102.00m²
延 面 積　6,569.09m²
設計監理　株式会社 東畑建築事務所
　　茨木市建設部建築課
施　　工　鹿島建設株式会社大阪支店

図 書 館

現在蔵書数33,000冊
将来110,000冊まで可能
地階：自転車置場　収容台数　40台
1階：小中学生室　収容人員　94人
2階：一般閲覧室　収容人員　72人
3階：参考図書室　収容人員　72人
4階：視聴覚室　収容人員　77人
　休息室・事務室・書庫・リフト1基
　移動図書車庫等



図書館アプローチ



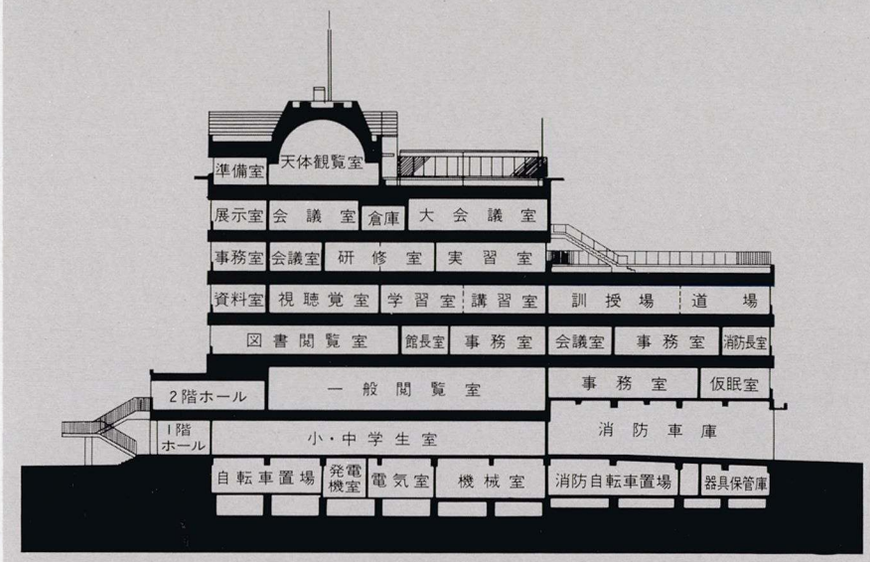
1階児童室



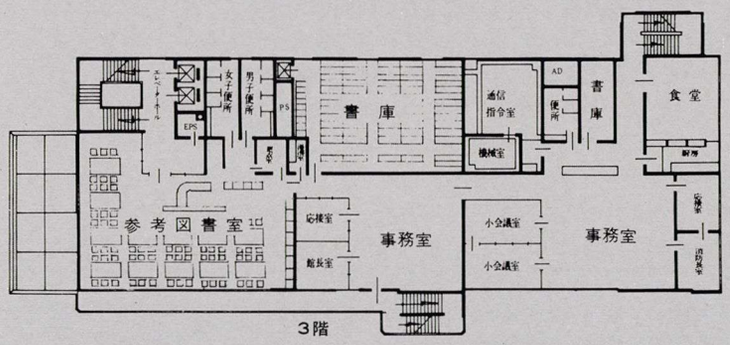
2階一般閲覧室



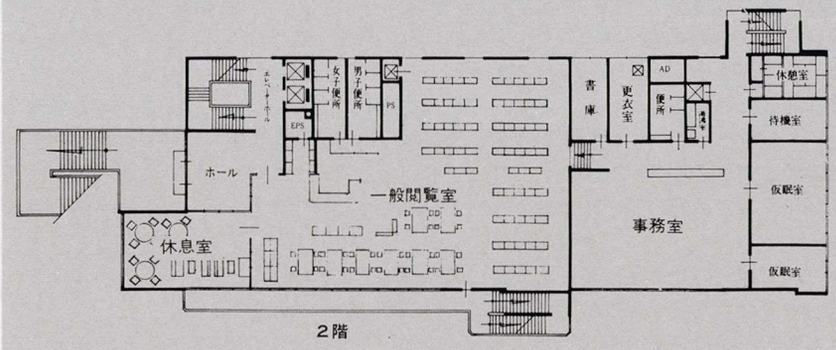
4階視聴覚室



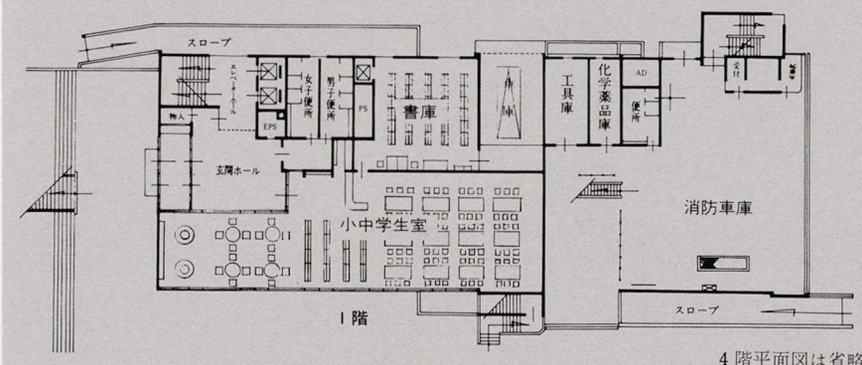
合同庁舎各階断面図



3階



2階



1階

4階平面図は省略

合同庁舎平面図

複合建築物としての茨木市立図書館

澤井平一

まえがき

茨木市は、大阪、京都両市の中間に位置し、往古より北摂の交通の要所にあたるとともに、文化、商業の中心地として発展してきたが、近年に至り、大阪のベッドタウンとして人口は急速な伸びを示し、現在では、20万人に達しようとしている。

また、茨木インターチェンジを設ける名神高速道路、国道171号、並びに大阪中央環状線等の幹線道路網の整備による近代的内陸工業や流通関連施設を有する北大阪の中核都市として位置づけられている。

本市における図書館の歴史は、昭和27年に茨木ブックステーションを設置したことに始まっているが、中央図書館、中央公民館等の設置は市民の強い要望であり、また、既設消防舎庁も老朽化し、近代的消防庁舎の建設の必要にせまられていた。

しかしながら、これらの施設をそれぞれ個別に本市の中心部シビックセンター周辺に適地を確保することは至難の技であったため、土地の有効利用と経費の節減等の綜合的見地から、図書館、中央公民館、および消防庁舎を包含する合同庁舎として昭和45年度から昭和47年度の３ヵ年の継続事業とし、実施したものである。昭和45年２月に、茨木市合同庁舎建設準備委員会（市長以下関係部課長が委員）を発足させ、基本計画の作成に入り、庁舎建設特別委員会（市議会関係委員）等の意見をおりこみ、基本計画案を作成したものである。

建物の内容として、構造、規模は、鉄筋コンクリート造り地下１階、地上７階建、建築面積は、1,102.00㎡、延床面積は、6,569.09㎡である。

なお、図書館、公民館部分は７階建で、消防庁舎部分は４階建としているが、機能、および動線上、両者を明確に分離するものとして縦割方式を採用した。特色として、図書館と中央公民館が同棟に併設されたことにより、綜合教育の効果が得られ、視聴覚室、天体観覧室の設置等により、その効果的利用が図れる。

すなわち、この建築物を合同庁舎としたことについての、考え方を要約すると、



附近見取図

1）都市化に伴い、土地利用の高度化のすすむなかで、本市の市街地には、この種の公共用地の確保が至難であった。

2）合同庁舎とすることは、個々に建設するよりも建設費、各設備等経済性において有利である。

3）その規模においても重量感があり、市の代表する建物の一つとなる。

4）予定地は、官庁街の一角にあり、おのおの公共施設が近接することにより、市民の利用上からも有利である。

5）図書館、公民館の連絡が良く、綜合教育の場として利用できる。

6）消防署は、東西北三方向が道路であり、北方向が前面道路となって、消防活動に際しては、いずれの方向に対しても出動可能で、地理的諸条件にめぐまれた適地である。また、図書館、公民館を利用する市民が、消防署を身近に見ることにより、防火の意識を高めることができる。

7）コミュニティ構想

中央図書館は計画人口30万都市の施設として、設置基準にみあうものであるが、都市化と生活圏の拡大に伴い、市民相互間の人間的交流を図れる場として、コミュニティ施設は各地域に分散配置の構想が、昭和60年を目標とする茨木市基本構想におり込まれている。

8）合同庁舎の調和

外観のとおり、建築構造と外装において違和感は解消できる。

等である。

各階別・用途別・専用床共用床別内訳

階別＼用途別	消防庁舎		図書館		中央公民館		合計
	専用床	共用床	専用床	共用床	専用床	共用床	
地下Ⅰ	390.09	100.29 352.29	263.23	126.00 352.29	0	126.00 352.29	1,005.61
地上Ⅰ	384.19	0	496.08	31.24 62.49	0	31.25 62.49	942.76
〃 2	444.73	0	533.77	67.39 134.78	0	67.39 134.78	1,113.28
〃 3	383.78	0	472.90	66.49 132.97	0	66.48 132.97	989.65
〃 4	383.77	0	139.77	84.21 168.43	302.60	84.22 168.43	994.57
〃 5	0	0	0	62.08 124.16	486.70	62.08 124.16	610.86
〃 6	0	0	0	32.39 64.79	556.94	32.40 64.79	621.73
〃 7	0	0	0	27.86 55.71	234.92	27.85 55.71	290.63
計	1,986.56	100.29	1,905.75	497.66	1,581.16	497.67	6,569.09
	2,086.85		2,403.41		2,078.83		

図書館について

茨木市基本構想にもとづく計画人口30万都市における公立図書館の設置基準にのっとり策定されたもので、立地条件としても、国鉄と阪急の各茨木駅の中間で、駅から徒歩10分ほどの所にあり、図書館を中心に半径４kmのなかに全市民の90%が包含されるほどの人口密集地域の中央に位置している。施設計画上の与えられた敷地条件は、船のような形状をした不整形のものである。

まず、車の動線と人の動線を分離する方針をたて、図書館、中央公民館部分を南側よりのアプローチとし、元茨木川宇野辺線と下中条方向線の車の動線と、図書館、中央公民館部分とは修景方式で分離し、西側には1.5m の歩道を設け、閉館時における一時の流動人員がスムーズに退出できる可能なスペースを設けることにした。また、自転車を利用する来訪者の動線は、西側からのスロープで地下１階に導き、60～70台の自転車置場を配置することにした。

なお、消防庁舎と図書館が同一のフロアーであり、かつ、縦割りにしているので、間仕切、壁面は、防音に十分配慮して相互に影響を与えないよう考慮したが、２、３、４階では非常用防火扉を設け、災害時に備えた。

建物の１階から３階全部と４階の１部まで図書館で、この延床面積は、2,400㎡あり、４階の１部より上が公民館となっている。

外装は、四七２丁掛施釉タイル（レンガ色）、柱型は吹付タイル

仕上げ（ベージュ色）のツートンカラーの明るい感じの建物である。

玄関については、1階からも、2階からも気軽に入館できるように配慮している。1階の入口は、道路より少し高くなっているが、この段差には、階段と身体障害者のためのスロープを付け、車椅子も入れるようになっている。

1階入口正面は、児童室で250㎡、約10,000冊収容の3段式木製書架と高中低3段階に分けた机と椅子を94席設けている。

壁面は、絵模様クロス貼り、窓サッシュは採光を十分に取り入れるように開口部をできるだけ大きくとり、子供室にふさわしい明るい雰囲気にしている。

部屋は長方形で、ほぼ中央に3段式両面書架を四列配置して、部屋を2分した格好にし、一方を幼児用コーナー、他方を小、中学生向きに分け、幼児コーナーにて、お母さんが子供に読み聞かせをしても支障がないように配慮している。また、1階の側面には、自動車文庫用書庫と車庫をとり（現在、ともしび号として活躍中）、車庫は、中型バス1台分の大きさである。自動車文庫用書庫は96㎡あり、車庫との関係で天井を高くし、8段式スチール書架で、約17,000冊収容できる。

2階は、一般閲覧室で372㎡、公開書架は約35,000冊収容、閲覧席は4人掛48席あり、この部室はメインルームでもあり、入りやすく、ゆったりした気分をそこなわないよう配慮した。その一つとして、天井を高くし、圧迫感を感じないようにするとともに、壁面はクリーム色、クロスは茶色とオレンジ色を基調にした模様をとり入れ、室内の配色に気を配った。また、閲覧室の南側には、60㎡ほどの休息室を作り、応接セットや安楽椅子、床にはカーペットを敷き、ホテルのロビーを思わせるような落ち着いたなかにもリラックスした雰囲気にし、日曜日には音楽を流し、軽い物語、雑誌の閲覧等ができるようにした。

3階には、参考図書室と事務室、書庫があり、参考図書室は183㎡、72席、4,000冊の参考図書を収容し、レファレンスを中心に活動している。書庫は、120㎡で密集式移動書架を採用し、56,000冊の収容能力がある。なお、図書搬入、および各階への配本には500kg積みのブックリフトが一基書庫内にあり、これを利用している。

4階では、視聴覚室93㎡77席と視聴覚資料室として50㎡ある。また、避難通路として2階以上は、各階窓側にベランダ(幅170cm)を廻し、地上1階まで外階段により通じている。

つぎに、空調計画の基本的な考え方として、合同庁舎である関係上、使用時間帯が個々に異なり、また使用目的が種々雑多な特殊な条件にあって、最も有効に利用でき、かつ、可能な限り集約してコストを下げるといった経済性も包含して計画した。具体的には、消防署系統、図書館・公民館系統に大区分し、さらに内部でも各室区分で運転できるように考慮してある。そして、これらの条件を満足さすための方式として、水熱源式小型ヒートポンプシステムを採用した。ただし、公民館の大会議室、プラネタリウム室、消防署の道場は、一般のパッケージ空調機を使用している。

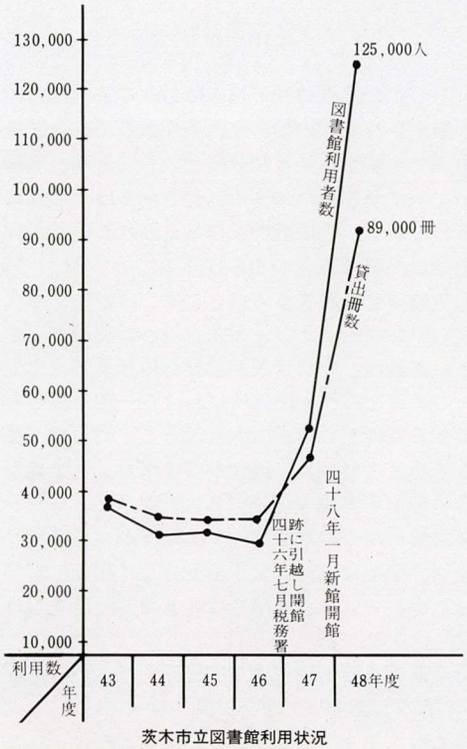
以上が概略であるが、図書館建設に当たって「市立図書館とはどうあるべきか」を検討し、つぎの点に留意した。

従来の図書館に対する一般市民のイメージは、図書館は学生の行くところであって、いつ行っても学生ばかりが勉強しているといった図書館のもつ「学生の勉強部室」、「グループ学習の場」というイメージをぬぐいさり、市民の本棚、日常生活に必要な知識や資料を得るところ、親が子供に本をねだられたら、図書館へ借りに行くようにといえるところ――といった一人ひとりの市民が図書館に親しみを持てるように、思い切って自習室をなくし、一般閲覧室においても席数を少なくし、公開書架を一連でも多く設置できるように配慮した。

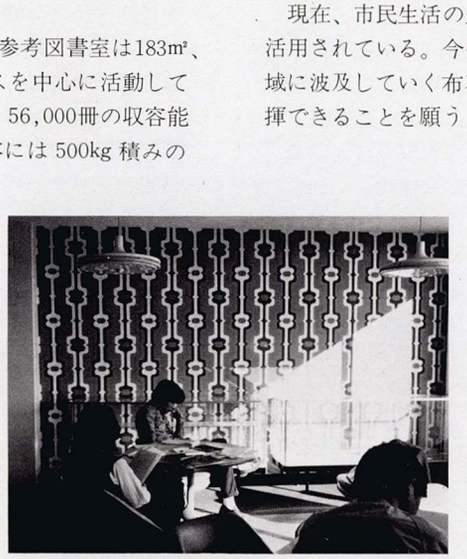
全体的に、市民の綜合教育と文化の発展のよりどころとなるよう、また、複合館のもつおのおのの機能を十分に発揮できるように留意した。

現在、市民生活の豊かさに寄与されるべき文化の殿堂として広く活用されている。今後とも、この建物における文化活動が市内各地域に波及していく布石となり、茨木市の文化生活の発展に真価を発揮できることを願うものである。

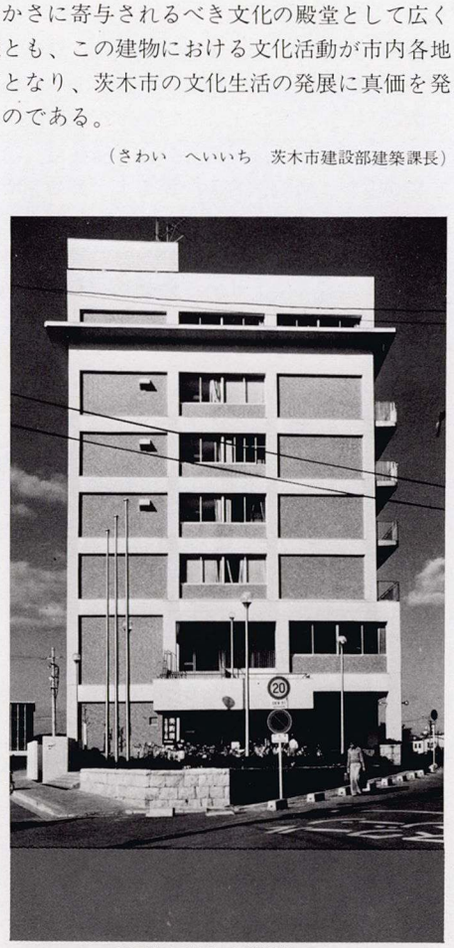
（さわい　へいいち　茨木市建設部建築課長）



茨木市立図書館利用状況


図書館閲覧室


合同庁舎全景


合同庁舎南面，図書館入口

地域図書館をたずねて

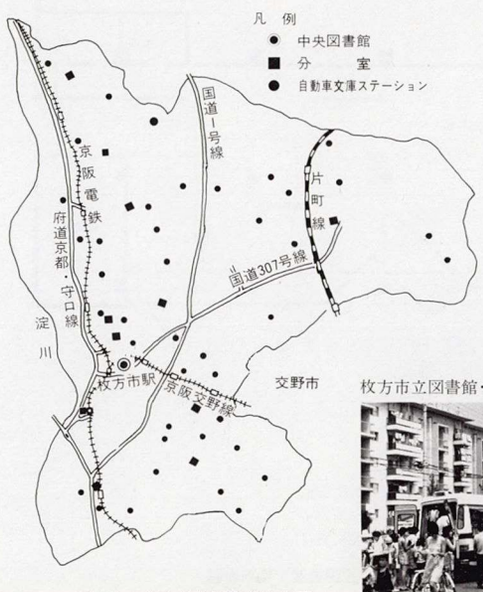
篠塚宏三
中村恭三
片倉健雄

はじめに

図書館についての今までのイメージ、それは暗い建物、むずかしい顔をした職員、よごれた古くさい本、学生によって占められた閲覧室等々。それらは前時代的な遺物でしかない。

公共図書館の基本的な機能は、資料を求めるあらゆる人々に資料を提供することであり、住民がどこに住んでいようとも最も効果的な方法で図書館サービスが受けられるものでなければならない。そのためには中央館のもとに数多くの分館が、日常生活圏内に適正に配置されなければならない。分館設置がおよばないような辺ぴな地区があるならば、自動車文庫によってカバーするという体系的な図書館網が必要である。そして、これらのうち住民に対して直接的なサービス拠点となる分館の特質は、館外への貸出しにサービスの重点をおいていることである。それは図書館に来て本を読むという時間的な余裕をもたない大部分の住民にとって、貸出し以外には図書館を利用する術がないからである。たとえ自分で図書館へ行けなくても、家族のだれかに頼んで借りてきてもらうこともできる。そうなれば分館には広い立派な閲覧室はなくてもよく、利用者が貸出しを受ける本を選ぶためのスペースとして、ブラウジング程度のものがあれば用は足りることになる。

このような図書館活動では東京都およびその周辺都市にくらべて、はなはだしい遅れをとっている関西の各都市においても、近年、住民の図書館に対する要求が次第に高まってきている。この稿は、近年急速に地域図書館の設置を進めている大阪市立図書館、図書館の充実を求める市民運動とその要求に対して、市当局も誠意をもってこたえようと努力を積み重ねている結果、利用実績の急速な飛躍をとげた枚方市、および神戸における公共図書館の現状と公共図書館とは別に、独自に読書活動をおこなっている地域施設のなかの図書室をとりあげて、その状況を報告するものである。そして最後に東京周辺に最近新しく開設された地域図書館の平面図と概要を収録した。



図－1　枚方市立図書館分布図

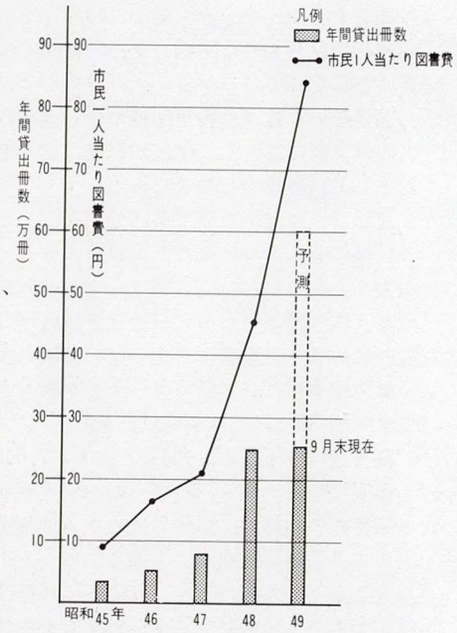
枚方市立図書館・自動車文庫「ひなぎく号」



❶ 枚方市の図書館活動

枚方市立図書館のおいたちと概要

枚方市における図書館の歴史は、昭和27年4月に大阪府立図書館が「枚方ブックステーション」を開設したことから始まる。これを母体として昭和40年の春、枚方市民会館の開館とともに「枚方市図書センター」として、その3階に市立図書館が誕生した。そして、府立図書館から借りた本と、市の予算で買った本を市民に貸出していたが、枚方市が本格的な図書館として発足したのは昭和48年度からである。市立図書館条例が制定され、7月には5ヵ所の分室を開設し、自動車文庫が30ヵ所のステーションの巡回を開始した。これが1年後に11分室、自動車文庫は1台から2台（39ステーション）に増加した。



図－2　枚方市立図書館の年間貸出冊数と図書費の推移

このような図書館の急速な発展をもたらしたのは、図書館の充実を要求する市民運動の力によるところが大きい。

この市民運動を起こすもとになったのは、昭和44年、家庭の一室や地域の集会所を借りて、100～200冊の本をおいた家庭文庫や地域文庫である。昭和47年にそのような文庫やこどもの読書に関心のある市民が、こどもに本のおもしろさを理解させるストーリー・ティング（読み聞かせ）の勉強会を始めた。そのなかで市の図書館行政の改善と発展を求めて、強力に市当局に働きかけるために「こどもの本をひろめる会」が結成された。

一方、市当局も図書館整備の必要性を認識し、市長自らその熱意を示した。関西における先進図書館の見学会や、日本では図書館行政が進んでいる高知市、町田市、調布市の市長と図書館長を招いて勉強会をおこなっている。

昭和48年1月には「こどもの本をひろめる会」から2名の代表と数名の専門家を招いて、「図書館行政策定専門委員会」を発足した。この委員会は昭和52年を目標とする「枚方図書館計画」を作成し、市当局に提出している。

予算面においても、昭和48年度は図書費が1,200万円で、関西の中小都市で図書館行政の先端をいく豊中市とともにトップにたち、本年度は2,400万円に倍増されている。さらに、大阪府立大学から図書館界のベテラン、天満氏を館長に迎えた。49年3月になって、先の「枚方図書館計画」とは別に、筑波大学・栗原教授らによって、昭和60年を目標とする図書館計画のマスタープランが作成され、より一層の図書館の充実を目ざしている。

図－1は図書館（本館・分室・自動車文庫ステーション）の分布を示すものである。

このように図書館網の整備が進むにつれて、市民が図書館を利用する実績、すなわち貸出冊数も伸びてくる。貸出冊数が多くなると図書館としても、市民の利用にこたえるべく一層の努力が要求されてくる。たとえば、蔵書数においても充分な冊数を備えなければならないし、その内容も新しく魅力的なものでなければならない。そのためには、毎年度できるだけ多額の図書購入費が必要になってくる。**図－2**はそのような貸出冊数と市民一人当たりの図書費が年とともにどのような伸びてきたかということを示すものである。

図によれば、貸出冊数は図書館の整備とともに爆発的な伸びを示し、図書費とほぼ比例して増えていることがわかる。

□香里ヶ丘図書館

香里ヶ丘図書館は、従来から香里団地内にあった住宅公団営業所の集会室を兼ねた分室を新たに移設して、市立図書館分室として、昭和49年11月2日に開館した。昭和50年度から分館として運営されることになっている。

図書館の位置は、香里団地の中心地区の商店街の一角にあり、バスの停留所にも近く、住民が気軽に立ち寄って利用し得る地域図書館としては理想的な場所にある。

建物は、今回第一期工事部分が完成したもので、ショッピング街の広場に面してつけられた入口を入ると、正面に貸出しカウンターがあり、その左右が成人書コーナーと児童書コーナーに分けられている。成人書コーナーには書架と数席の机と、ソファーやベンチが置いてある。児童書コーナーは、書架のスペースのほかにじゅうたん敷の絵本およびお話のコーナーが組み合わされており、全体としてサービススペースの半分以上を児童のためのスペースにあてている。

蔵書数は、児童書3,000冊、成人書2,000冊で児童書の方がやや多くなっている。

図書館の内部は、間仕切壁のないワンルームでカウンターから館内のすみずみに視線がよく通る。カウンター上部の天井に設けられた大きなガラス面のトップライトと外壁部の透明ガラスの大きな開口によって、非常に明るく、外からも中の様子がよくわかる開放的な空間となっている。

天満館長の話によると、香里団地は以前から家庭文庫や地域文庫等による読書活動の活発なところで、住民の図書館によせる期待や関心が高く、一日もはやく良い図書館をという要望が強かった。それでこの図書館の開館式典当日には、こどもと大人を合わせて500人もの参加者があり、館内に入りきれない多くの人々が館外にあふれ、出席していた市長をはじめ図書館の職員一同、非常に感激したそうである。

私達がこの図書館を訪れたのは、開館初日であった。土曜日のこともあり午後1時の開館前に、すでに多勢のこども達が待ちかまえていた。開館と同時にどっとこどもや主婦達が入ってきて、それぞれ自分の目あての本を選び始め、貸出しカウンターの前はたちまちのうちに登録をしたり、貸出しを受ける人達で黒山のような人だかりになり、順番を待つ長い行列ができた。館内は天窓と周囲のガラス窓から入り込む直射日光と人のいきで、熱気がむんむんとし、熱っぽい雰囲気となり、静かで落ち着いているという図書館のもつイメージとはほど遠い印象であった。

初日の貸出冊数は、1回1人2冊まで（ただし、本館と自動車文庫は3冊）という少ない冊数にもかかわらず、わずか4時間でほぼ2,000冊になるという図書館始まって以来の記録となり、紙芝居や絵本コーナーは空になった書架が目立つ。この調子でいくと今の蔵書数では、ほとんどの本が貸出されて書架が空になり、そのために利用者の不満が出るのではないかと、うれしい悲鳴とともに今後の見通しに、職員の人達は不安げな様子であった。

□枚方公園分室

この分室は、枚方公園駅前商店街のほぼ中央、公設市場の2階にある。これは「こどもの本をひろめる会」昭和47年10月の勉強会で、市長も参加しておこなわれた先進図書館の見学会で、その見学対象となった大阪市立西淀川図書館がそのモデルとなっている。

利用者は、こどものほかに立地条件を反映して買物かごをさげた主婦も目立つ。

貸出冊数は、多い日で350冊、少ない日でも300冊ほどあり、常時1,000冊ほどが貸出されている。分室のうちでは貸出冊数の多い方に属する。

見学した日は土曜日の午後で、分室のかたすみでストーリー・ティングが催されていて、30人くらいのこども達がこれにむらがっていた。

こどもを抱いた主婦にインタビューしてみた。「10才の子を頭に6才と4才と1才のこどもがある。上の二人はいままで本などは見むきもしなかったが、図書館ができてから本に興味をもつようになり読書習慣が身についてきた。下の4才の子には読み聞かせをせがまれる。図書館に来るのがたのしみで……」と語ってくれた。

× ×

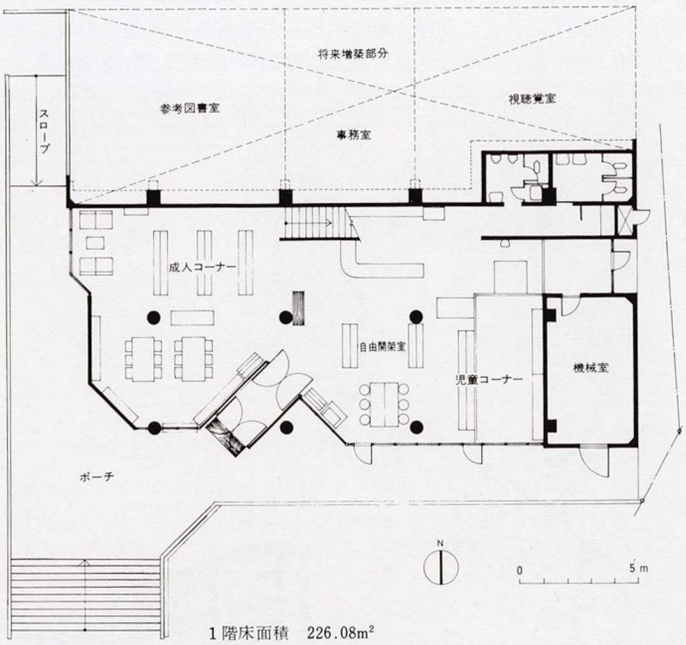
分室の蔵書数は、香里ヶ丘図書館を別にして、いずれも約2,000冊であり、その内訳は児童書7に対して成人書3の割合である。これに対して、常時1,000冊くらいが貸出されているのが現状である。ある分室で、よく利用するこどもが「ここにある本は全部読んでしまって、もう読む本がない。」と係員に話したそうである。図書館側としても、分室の蔵書数2,000冊はいかにも少ない。せめて5,000冊は置きたいが……とのことである。







トップライトや周囲の開口部はすべて透明ガラスで、内部は非常に明るい。
香里ヶ丘図書館



1階床面積 226.08m²
2階 〃 32.70m²
延床面積 258.78m²

香里ヶ丘図書館1階平面図

❷ 大阪市立図書館の分館

表－1　大阪市立図書館の概要　　注）（　）※ 自動車文庫

		中央	桜宮	天王寺	平野	西淀川	城東	備考
設置年月		昭・36・11・1	昭・25・6・1	昭. 27・12・1	昭. 47・7・1	昭. 47・1・14	昭. 48・7・13	
建物概要	構造	鉄筋コンクリート造 地上3階・地下1階	鉄筋コンクリート造 2階建の2階部分	鉄筋コンクリート造 地上3階・地下1階	鉄筋コンクリート造 2階建の2階部分	鉄筋コンクリート造 2階建の2階部分	鉄筋コンクリート造 3階建の3階部分	
	延床面積(㎡)	6880.1	約 250	2382.2	591.25	535.98	564.68	
	その他	——	1階・桜宮公会堂	自動車文庫基地	1階・平野老人福祉センター	1階・西淀川公設市場	1階・城東保健所 2階・城東会館	
職員数（定員）		89	4	26	4	5	5	
蔵書数（冊）		219,561	9,558	42,310 (19,456)※	13,819	13,739	9,875	計 328,318
年間貸出冊数(冊) （個人）		247,728	65,303	84,102 (136,106)※	99,719	113,526	101,485	計 847,969

現在、大阪市立図書館は、中央館のもとに5分館・1自動車文庫で構成されている。**表－1**はその概要である。

大阪市の新しい図書館活動は、昭和30年代中頃における中央館の設置に始まるといえる。昭和20年代後半に設置された天王寺・桜の宮の両図書館に加えて、36年11月に開設された中央館は、その規模を誇るのみならず、当時としては大胆な開架方式が採用され、図書館界から注目された。

次いで昭和42年度には自動車文庫の巡回が実施されるようになるが、この間、市民の文化的欲求も次第に高まり、行政当局へよせられる市民の声や陳情のなかにも地域の集会施設や図書館設置の要望が見られるようになった。そして、市当局も理解を深めていくなかで、昭和42年大阪市総合計画局が策定したマスタープランに、地域社会の核としての住区センター設置の構想が盛られ、図書館もその重要な要素として考えられていた。

このような背景にあって、図書館側も将来の計画について地味な研究が続けられた結果、市民に密着した施設計画が編まれるに至った。

ここでは、昭和47年から48年にかけて開設された平野・西淀川・城東の新設図書館について報告する。これらの図書館は前記マスタープランのなかから、

（1）周辺部の人口集中地域にある小規模分館の設置を優先する。

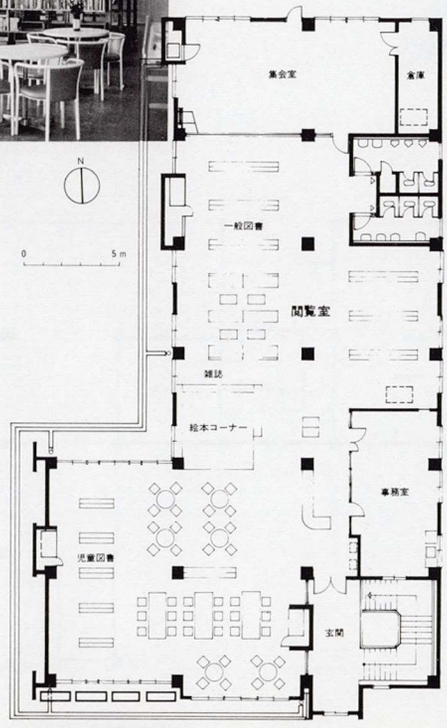
（2）市有地の高度利用のため複合施設として建設する。

という市の方針のもとで誕生したものである。

当面の目標としては、1区1館の構想があり、旭区において工事中のものが1館ある。



一般図書コーナー



大阪市立平野図書館

□平野図書館

平野図書館は、大阪市の行政区域の再編によって新しく誕生した平野区の東部、国鉄関西線の加美駅近くにあり、周囲は住宅のほかに中小企業の工場や古くからの農家も混在する町のなかにある。

建物は1階部分が平野区の老人福祉センターになっており、その2階に図書館がある併設建物である。図書館の入口は老人福祉センターのそれと区別されているが、建物内に取りこまれた階段で2階へ上るようになっているので、初めての利用者にとって、気楽に立ち寄るにはやや抵抗感を感じるアプローチである。

図書館の平面はL字型で、入口に近い方がカーペットを敷いた絵本コーナーと書架、閲覧机のある児童書コーナーがあり、奥の方に書架とソファーのある一般図書コーナー・集会室・便所等がある。入口近くにある貸出しカウンターから開架室全体を見通せる。

一日の利用者は、平均180人で貸出冊数は約460冊となっている。利用者の内訳は児童（中学生以下をいう）が全体の約7割を占め、その他は一般社会人であるが、学生の利用はほとんどないとのことである。

学生の利用が少ない原因は、本を借りて読むのではなく、勉強のために座席だけを利用する席借りのための机がほとんどないことによるのであろう。

開館以来2年を経て、貸出実績も毎年4割ずつ増加しているという目ざましい伸びを示しているが、これからも学校や近くの住民に対するPR、利用実態の調査、蔵書の整備、貸出方法の改善、館内サービスの強化等をはかることによって、一層貸出しを伸ばしていくという方針をもっている。

□西淀川図書館

西淀川図書館は、西淀川区のほぼ中央、オフィス街の端部で国道2号線に面して位置する。附近には機械・金属関係の工場と住宅が混在し、住宅密集地とはやや離れている。

この図書館は、大阪市が設置する西淀川公設市場の2階にあり、従来の公園の片すみにある図書館やあるいは市民会館などの一角にある図書館といった文化的な施設の伝統的なあり方からは離れたものである。しかし市民の日常生活に密着して設置された利用しやすい図書館という点において、開設当時としては他に例をみないユニークな存在である。

公設市場は、大阪市が建設し、市の市場局の指導のもとに各テナントによって運営される。元からあった木造の建物が老朽化したため、これの近代化のための建て替えの計画の際に、図書館側がその

2階に地域図書館を設置するというアイデアを出したものである。この大胆なアイデアに対して、市民の側が驚いたといういきさつがある。

開館以来、利用者にとって好評であり、市場側も図書館を売出し等の宣伝に利用するなどして、いわば図書館と市場との共存共栄型である。

利用者層は、児童が圧倒的に多いが立地条件の関係もあって、買物ついでに立ち寄る主婦や近くの工場や商店に働く人たちも多い。

図書館へは外部階段によって導かれる。内部は開架室・集会室・事務室に分けられ、開架室は一般図書・児童図書・絵本の三つのコーナーに分けられたワンルーム形式である。入口を入るとすぐカーペット敷の絵本コーナーがあり、L字型プランの開架室を1ヵ所の貸出しカウンターから係員の目が届くということから、カウンターの位置がやや奥まっていて、事務室や入口との位置関係（動線）に難点があるように思える。

外部まわりでは、利用者の自転車置場が必要であるという声もあった。

□城東図書館

この図書館は、城東区の西部、交通の要路である蒲生町4丁目交差点にほど近く、蒲生公園の南側に面している。附近には区役所、消防署等の官庁街のほかに、公園をはさんで中高層の住宅地等がある。

建物は、1階に城東保健所、2階に城東会館、そして3階に図書館がある複合建築である。

3階という図書館の場所としては不利な条件ではあるが、道路から図書館の入口がよくわかり、ゆったりとした屋外階段で3階へ導かれるが、途中で2階部分の会館入口前を横切るという一つのクッションがある。そこには花だんや屋外用のテーブルとイスのある休憩のスペースを設けて入りやすくする工夫がされている。

館内は、玄関ホールをはさんで事務室と開架室にわかれている。開架室は入口近くに貸出しカウンターと目録カードがおかれ、その奥にカーペット敷の絵本コーナー・児童書コーナー・一般図書コーナーがあり、新聞雑誌コーナーにはソファとテーブルが置かれている。

開館前に附近の学校や住民に「チラシ」を配布したり、ポスターを貼るなどしてPRをしたことによって、貸出実績は1日平均500冊と大阪市の地域図書館のなかでは一番高い値を示している。

利用者層についてみれば、登録者の内訳は児童85%、成人13%、学生2%で児童が圧倒的に多いが、本年度の登録更新の結果では、定着率は成人がほぼ100%であるのに対して、児童は必ずしも良いとはいえない。図書館としても今後は成人の利用に対しても力を入れたいという考えをもっている。

× ×

以上、三つの分館をめぐって、ほぼ共通していえることをまとめると、つぎのようになる。

利用者層の時間的な相違は、午前中に買物の途中で立ち寄る主婦や、幼児をつれた主婦、老人、昼休みには附近に勤め先をもつサラリーマンやオフィスレディ、そして午後からは児童の利用が多くなる。

つぎに、各館とも開架室のスペースは、蔵書数2万冊の予定で確保されているとのことであるが、事務室のスペースはせまい。当初の計画では、図書の購入や整理は中央館でまとめて処理する集中整理方式が予定されていたが、実際に業務が開始されると、図書購入のための選書に当たって、中央館へ各館から係員が出向いてくることの時間的なロスやその他の関係もあって、現在、それらの作業を各分館でおこなう分散整理方式をとっている。その上に、傷んだ本の修理などの作業も加わってくるから、少なくとも現在の倍以上のスペースが必要であるように考えられる。

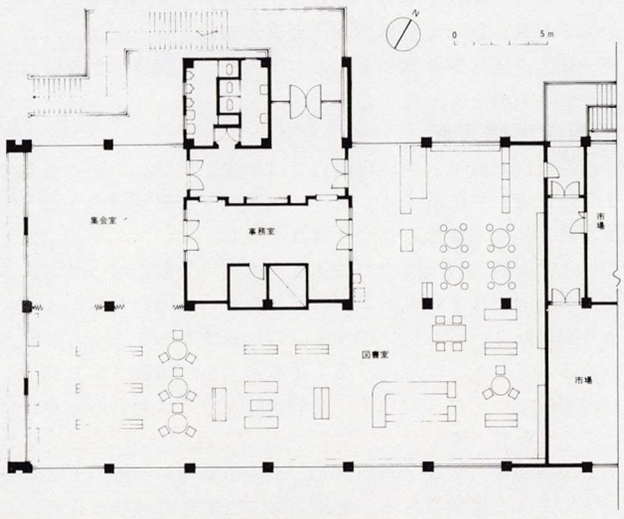
さらに、住民が気軽に利用しやすいようにするには、図書館はできるならば1階にあってほしい。これらの分館は、2館、3階にあることによって、だれもが自由にそして気軽に利用しやすいとはいえないし、開架室の形やアプローチのための階段や入口、便所等の位置関係が、1階部分のあり方によってほとんど決定されるため、必ずしも図書館としての利用に適したプランを構成しているとはいえないところに大きな問題が残る。



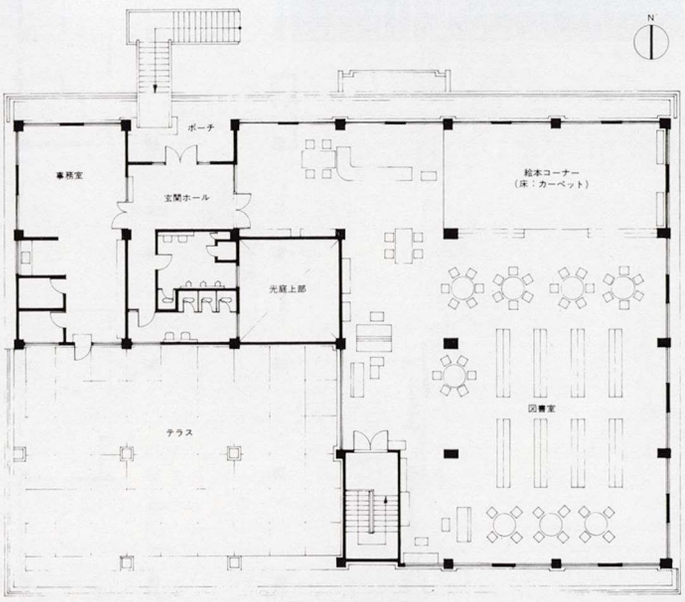


じゅうたんを敷いた絵本コーナー





大阪市立西淀川図書館



大阪市立城東図書館

❸ 神戸の地域図書館

神戸という街にはもともと何となく自由で、物事にこだわらない気風がある。行政もそれを反映してか、すぐれた着想やたまたま現れた条件を積極的に利用する柔軟さがあるのではないだろうか。地域図書館をとり上げてみてもその多様さが目につくと同時に、図書館だけでなく市民生活のための地域公共施設の今後を示唆するものがあるように思われる。

神戸市立図書館

中央図書館の歴史は古いが分館等のサービスは未だ不十分である。しかし分館・分室はそれぞれユニークな存在を示しており、王子・長田図書館のほか農協会館に同居している西神図書館がある。三宮図書館は都心の国鉄三宮駅前で民間ビル9階の貸室におかれた、サラリーマン対象の貸出図書館で、本誌63年5月号で紹介されたが、その後活動は進展して利用者も定着している。

三宮図書館。それは面積わずか85m²のビルの一室であるが、昼休みには近くの閲覧者の借出しや、街を見下ろす窓ぎわのソファーでの憩いの一時がみられる。夕方17時をすぎるとエレベーターが着くごとに押しかける人々で混雑し、閉館の19時近くまで館員は忙殺されるとのことで、1日の貸出冊数は10月の平均202冊、週末は250冊にもなる。個人登録2,211のほか団体貸出しもある。一方業務も、受入れ貸出し手続きを簡素化して、3人の職員でありながら選書から配架までわずか2日間という機動性を発揮するなど、新鮮で利用しやすい図書館をつくりあげている。

また、遅れている分館設置がやっと昨年2月に一つ実現した。東灘図書館は、区中央の国鉄摂津本山駅と阪急岡本駅の中間にあり、市バスが3系統通る絶好の立地である。マーケット等もある地域の中心であるため、開館直後から見事な活動がみられた。もちろん、貸出中心の運営であるが、開館以来9月末までの貸出冊数は720冊/日（約18,000冊／月）、土・日曜には1,100～1,200冊（内児童約60～65%）に達している。これは市立図書館の全貸出冊数の約40%にあたり、伊藤昭治館長の明快で積極的な運営と、6名の職員のチームワークがもたらした成果ともいえよう。また9月末の登録者は98%が自区内で、サービス人口に対する登録率は10.3%である。図書館が作成した資料に若干の検討を加えたところ、つぎのような傾向が読みとれた。利用圏域半径1.0km内は登録率がきわめて高く20%を超える部分がほとんどであり、この圏域を超えてなお利用率が高い部分はバス路線沿いの地区と隣接駅近傍の一部である。また登録率の低い地区は交通の便とは別に、学校開放の市民図書室や他系列施設で児童図書室をもつものの影響が現れているとみられる。

地域施設のなかの図書館

鶴甲会館、渦森会館という市街地の最も山寄りの住宅団地（神戸市住宅供給公社）の外縁に設けられた地区会館がある。これは、従来団地内施設として計画されていた集会施設を主体にして、周辺地域からの利用も意図して計画されたものである。そのなかには児童図書室があり、1,500冊前後の図書と7～8種の月刊雑誌をおいている。図書館組織とは関係がなく、専任職員もないささやかな図書室であるが、小学校の放課後には鞄をもったままの子供達がつめかけてわずかな席はいっぱいになる。乏しい図書予算ではほとんど新刊書は購えず、また子供達の多くは雑誌を手にしている。しかしそこでは、子供が自分の自由な時間を持ち、鍵っ子の生活場所でもある。休暇中と休日には、団地のお母さんの奉仕やアルバイト君の援けも得て貸出しをしている館もあるが、図書の不足と手不足は明らかな限界を持っている。市の外郭団体に運営を委託した施設ではあるがここまで周辺の人々の利用をひき出し育ててきた館長さんの努力を拝見すると、図書室もこのままにしておくのはいかにも惜しい。中央図書館の配本を受ける体制へ発展させられないものであろうか。

さきの東灘図書館の登録率の低い地域の一つにある住吉青少年センターを訪れてみた。ここではわずかな職員で児童図書室の積極的な貸出しを行っており、平日平均78冊、最大194冊（49年4～10月）



神戸市立東灘図書館
延 625m²
蔵書数 15,000冊
児童図書はとくに利用が多く、貸出中は5,000冊以上で開架書架には1,500冊くらいしか残っていない。
希望図書は予約ができ、新規購入にも積極的に希望をいれている。主婦の利用も目立つ。



渦森会館児童図書室　見晴らしのよい図書室は、放課後の子供達で一杯になる。ここでの閲覧にも十分価値があるようだが、新鮮な図書と貸出しの人手がぜひともほしい。





高倉台市民図書室　高倉台小学校の図書室と市民図書室の2つの機能をもつように設計されている。放課後は児童とともに主婦が一斉におしかけてくる。

という記録は、他の会館、児童図書室と同じ条件下で青少年センターとしての活動を行いながら得られたものとしては大きい。不十分な体制でありながら、図書館サービスの補完機能を果たしているといっても過言ではないように思われた。

学校公園の市民図書室

国鉄須磨駅から市バスで15分、山で囲まれた計画人口12,000人の高倉台団地に学校公園がある。中学校を除く公共施設をすべて中心にまとめ、近隣センターの一端におかれた地区会館と小学校施設の一部が相対して一連の機能を果たすように計画されている。そのなかで、学校図書館は放課後直ちに市民図書館に早変わりし、指導員という名の専任職員が出勤して貸出しが始まる。その時刻を見計らって訪問したが、わずか10分余り話をうかがっている間に、つめかけた児童やお母さん達がカウンターを二重三重にとり巻いてしまった。火・木・土の放課後と日曜しか開かれず、蔵書数2,900冊弱(他に学校図書が若干あるが貸出しはしない)だが、貸出数の少ない8、9月でも3,800冊、7月は5,560冊を記録した。これは蔵書回転率からみると1.32～1.98/月という驚くべき値になり、"もっともっと本が欲しいんです"という指導員の方の切実な言葉が実感として受けとれる。開館後1年以上を経て利用は衰えず、しかも一般利用が常に⅓以上あることと、そのなかの男の利用が伸びているのが目立ち、地域図書室として着実な歩み出しをしていることがうかがえた。

学校開放のなかでも、新設校におけるモデル的な施設と運営だといわれているが、図書室に関してはそれほど目立った存在ではないように思われる。しかし配置計画上の配慮と熱心な指導員(司書の仕事と変わらない)が、よく地域の人々の潜在要求と結びついたといえよう。

おわりに

いくつかの施設を訪問して得たことをあえて結論的にいえば、つぎのようになる。

- 地域図書館にとって、施設として最も重要な条件は交通の利便性であり、これによって利用は伸びる。また他施設、とくに購買施設の集積した地区にあることも生活行動との結びつきが強まり、利用を助ける。
- 図書館利用に対する要求が高まっている状況からみて、神戸のような場合は既存諸施設のなかの図書室をみ直し、これに図書館のパイプをつなぐことを検討するのが有効ではないだろうか。また地域施設が積極的に図書館の協力援助を求めることができるような制度も用意する必要があろう。
- 理想とする図書館像と現実の間には、本来の図書館のあるべき姿にはやや遠くても、地域の人々や子供達になじまれ成長してゆく段階があって、それが将来地域図書館の一層の充実をうながすのに、きわめて重要で欠かせないことのようである。

× ×

この稿は、枚方市立図書館と大阪市立図書館については、中村と篠塚、神戸の図書館活動は片倉が担当した。

ルポのためにお訪ねした各館と、資料を提供していただいた図書館のご協力に厚くお礼申し上げます。

(しのづか こうぞう　大阪工業大学助教授
なかむら きょうぞう　大阪芸術大学講師
かたくら たけお　近畿大学助教授)

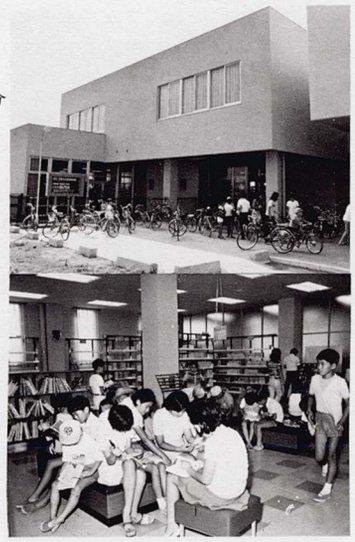
千葉市立東部図書館

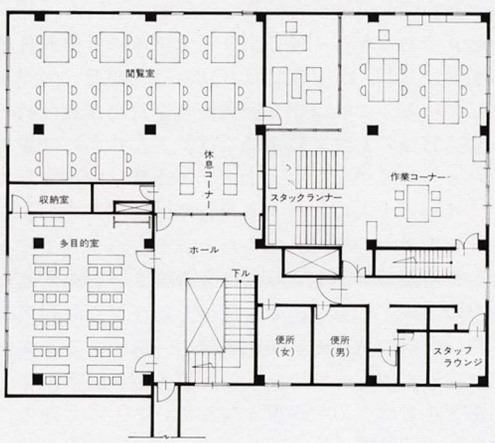
建築概要

所在地　千葉市千城台2－1－1
地　域　住宅団地内
交通機関　国鉄千葉駅からバス30分
構造・規模　鉄筋コンクリート造
　地上2階
延面積　1,147m²

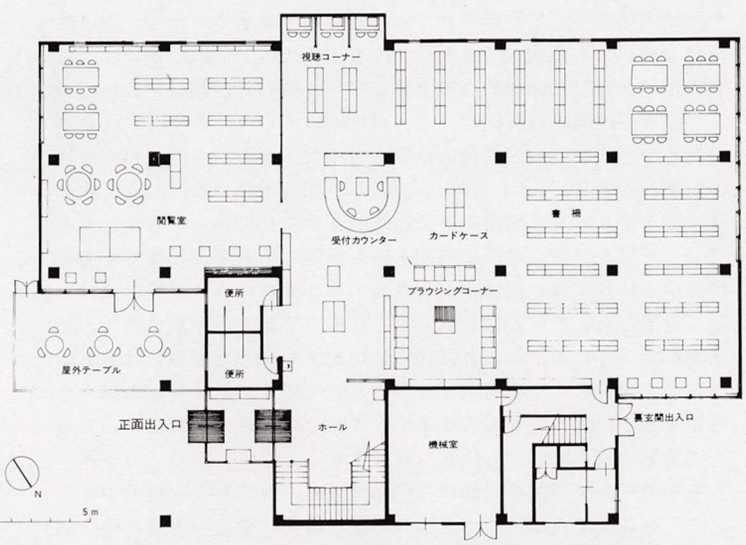
図書館データ

開館年月　昭和49年7月24日
職員数　8名
蔵書数　23,000冊
　児童用 7,000冊
　成人用16,000冊
最近1ヵ月間の貸出数　23,422冊
　児童用13,110冊
　成人用10,312冊





2階平面図



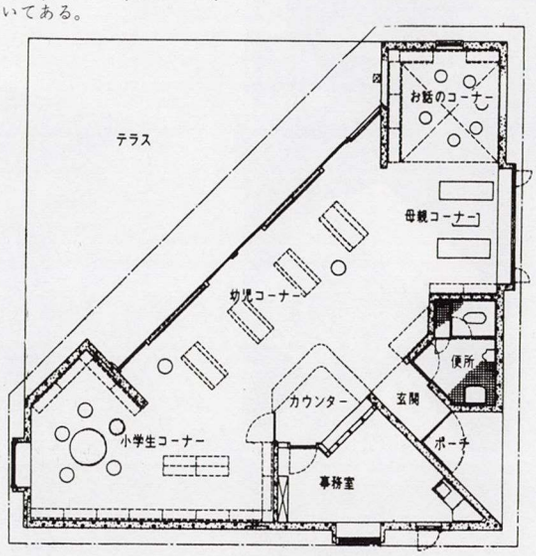
1階平面図

新設分館の実例 2

日野市立多摩平児童図書館

建築概要
所在地　日野市多摩平２丁目９番
地　域　住宅団地内
交通機関　国電豊田駅から８分
構造・規模　鉄筋コンクリート造、地上1階
延面積　107.416m²
図書館データ
開館年月　昭和46年４月10日
職員数　２名
蔵書数　11,034冊
児童用9,309冊・成人用1,725冊
最近1ヵ月間の貸出数　5,646冊
児童用4,997冊・成人用647冊
閲覧室はなく、ソファー、スツール等が少しおいてある。





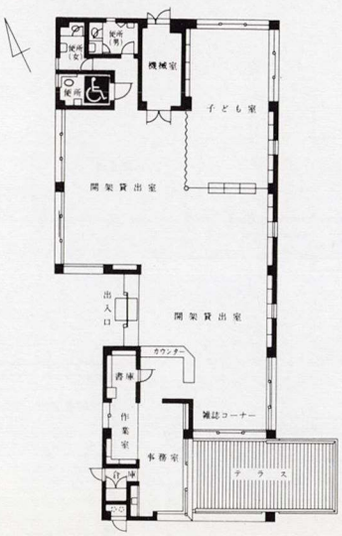
1階平面図　1：200

新設分館の実例 3

町田市立町田図書館金森分館

建築概要
所在地　町田市金森1073番地
地　域　住居地域
交通機関　国電原町田駅からバス10分
構造・規模　鉄骨造、地上１階
延 面 積　260.40m²
図書館データ
開館年月　昭和49年６月３日
職員数　４名
蔵書数　９月現在26,440冊
児童用12,122冊・成人用14,318冊
最近1ヵ月間の貸出数　9月22,639冊
児童用14,582冊・成人用 8,057冊
閲覧スペースにはソファーがおいてある。車イスでの利用もできる。



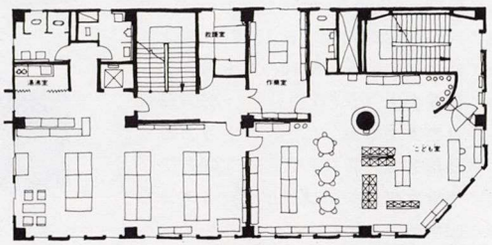


平面図

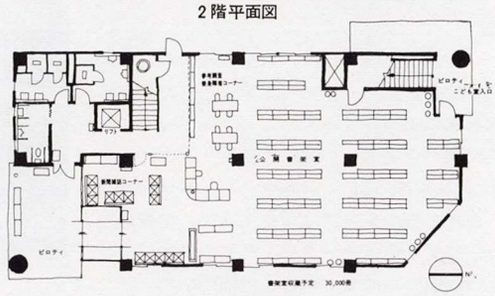
新設分館の実例 4

大田区立入新井図書館

建築概要
所在地　東京都大田区大森北1～32～5
地　域　商業地域
交通機関　国電大森から５分
構造・規模　鉄筋コンクリート造、地上４階
延 面 積　1,185m²
図書館データ
開館年月　昭和49年８月20日
職員数　16人
蔵書数　（昭和49年９月末現在）13,412冊 児童用4,188冊・成人用9,224冊
最近1ヵ月間の貸出数　17,888冊　児童用10,460冊・成人用7,428冊
身障者用施設が特徴的である。



2階平面図



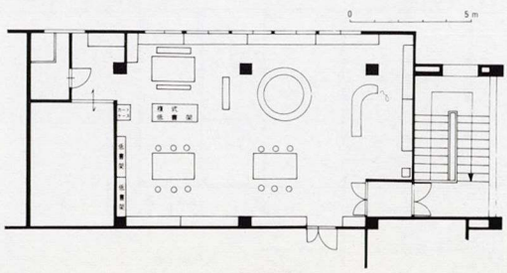
1階平面図

新設分館の実例 5

江東区立深川図書館白河分館

建築概要
所在地　東京都江東区白河3-9-7-201
地　域　近隣商業地域
交通機関　都バス白河3丁目
構造・規模　鉄筋コンクリート造
延 面 積　204m²
図書館データ
開館年月　昭和49年８月10日
職員数　３名(但し深川図書館兼務)
蔵書数　2,773冊
児童用2,773冊
最近1ヵ月間の貸出数　3,465冊
児童用3,460冊・成人用５冊
５階建都営住宅の２階の一部にある。
１階は保健所、３階以上の部分が住宅の複合施設である。





平面図

広島市立
中央図書館

設計　株式会社 山下設計
施工　フジタ工業 広島支店

所 在 地：広島市基町３番１号(中央公園内)
敷地面積：3,171.460m²
建築面積：2,494.726m²
延床面積：6,683.051m²
構造規模：ＲＣ 一部ＳＲＣ，Ｂ１，３Ｆ，Ｐ１
工　　期：昭和48年２月～昭和49年５月
蔵書能力：積層書庫（５Ｆ）　35万冊
　　自動車文庫室　5万冊
　　地階書庫（将来）　20万冊
　　浅野文庫(レールスタック)　３万冊
車　　庫：図書館車４台収容

設計要旨

この新しい市立中央図書館は、新全国総合開発計画及び広島市総合計画の一環として策定された広島市中央公園計画に基づいて、スラム・クリアランスされた中央公園の中央部に、国際平和文化都市にふさわしい〝文化施設群〟として計画された。情報化社会の中で、市民の自由な選択により主体的に情報群をコントロールする情報センターとしての機能と共に、市民相互の自由な知的交流を行う内面的広場としての機能が重視された。

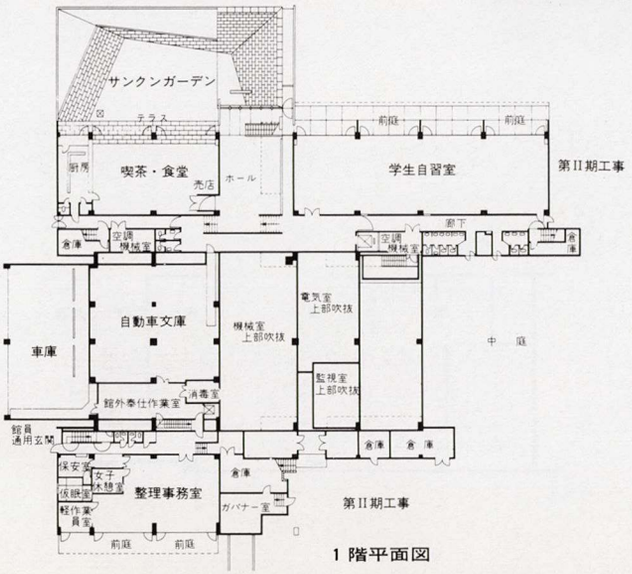
空間構成においては、要求された多様な機能に対応する空間相互が明快に有機的に交流するために、独自のシステムが設定された。つまり、建物の内外を貫通する道空間としてのコリドールは、システムの幹であり、各機能グループは、各々のロビー的空間を介して、核としてコリドールに接しており、この枝自体はエキステンション軸として設備系統を内包し、成長を可能にしている。

この軸にはさまれた幅18Mの大空間を、内面的広場として新しい核となる展示ホールが占め、閲覧室群の核となる参考閲覧室も、その上層に位置している。閲覧室群は、広島城を真近に望む北側部分の静かなスペースを占めている。工期は、二期にわけられ、第二工期工事において、A・Vホールなどが計画され、総合的文化センターが完成される。

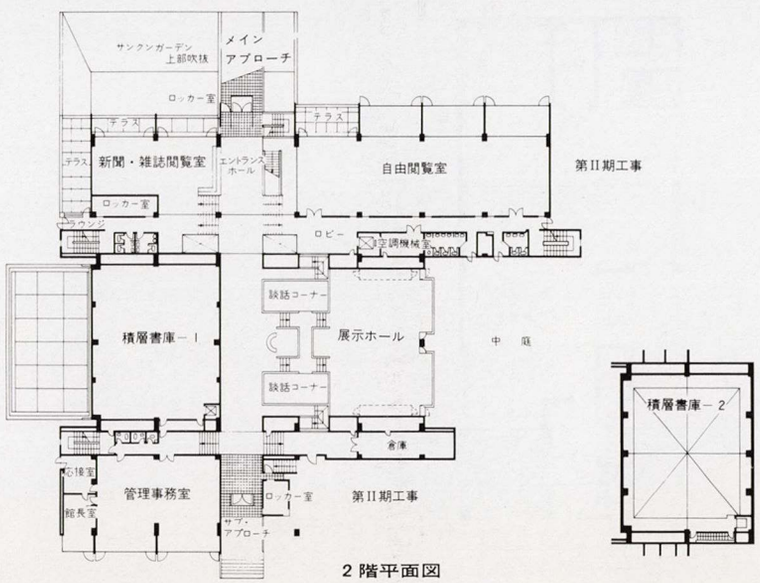



談話コーナー（２Ｆ）


展示ホール（２Ｆ）



1 階平面図



2 階平面図




ロビー（３Ｆ）


参考閲覧室（３Ｆ）


エントランスホール（２Ｆ）

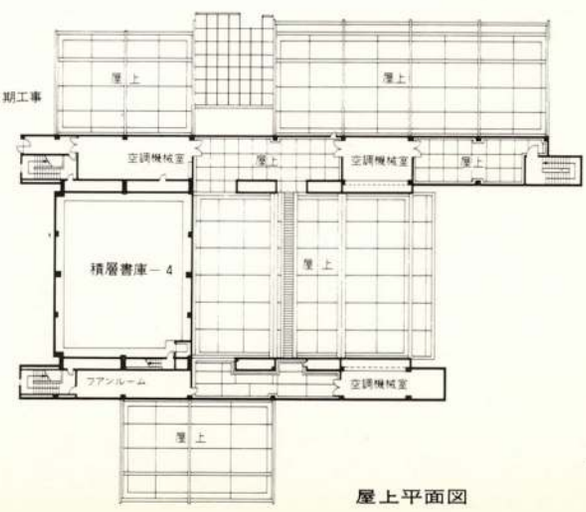

自由閲覧室（２Ｆ）


新聞雑誌閲覧室（２Ｆ）

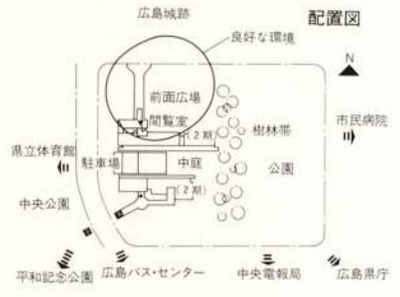
撮影　Ｃ・Ｆフォトス

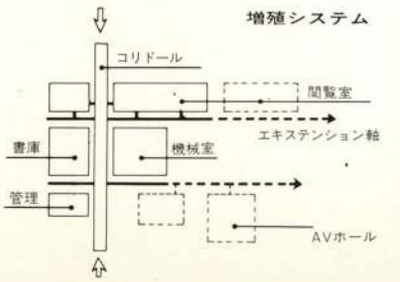


3階平面図



屋上平面図





大阪府立夕陽丘図書館

設　計：大阪府建築部
　　株式会社 浦辺建築事務所
　　株式会社 平田建築構造研究所
施　工：竹中・米田共同企業体
〈建築〉　株式会社 竹中工務店
　　株式会社 米田工務店
〈衛生〉　向井建設工業株式会社
〈空調〉　新菱冷熱工業株式会社
〈電気〉　三宝電機株式会社
〈昇降機〉　日本オーチスエレベータ株式会社
サッシ工事：〈エルミン窓〉日本エルミンサッシ株式会社
大阪市西区京町堀1-125 東洋ビル　TEL 06-441-1978
図書館家具：〈書架工事・カウンター他〉丸善株式会社
大阪市東区谷町5-27 東工ビル　TEL 06-763-1181



所 在 地：大阪市天王寺区伶人町21番地の1
敷地面積：2,736.46㎡
建築面積：1,882.49㎡
延床面積：6,363.80㎡
構造規模：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
地下1階　地上4階　塔屋2階
工　　期：昭和47年10月～昭和49年1月

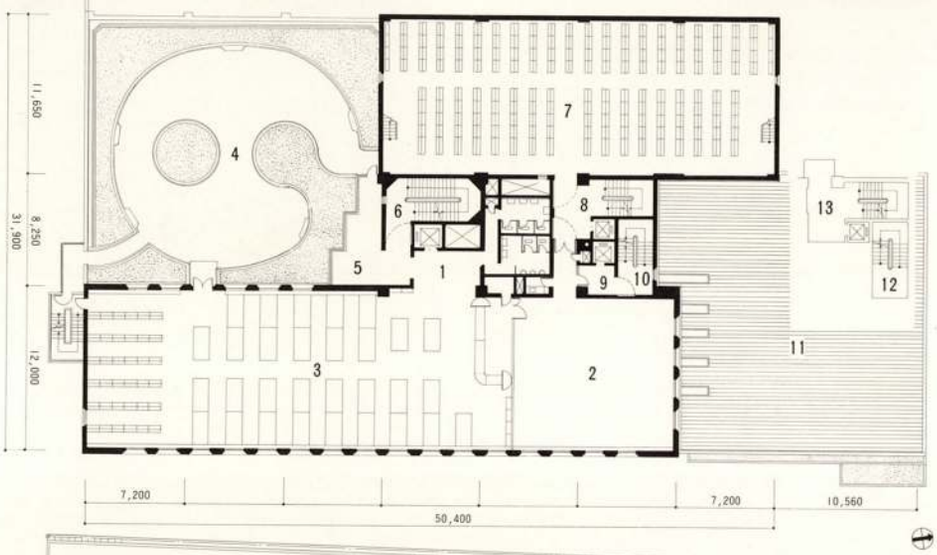


昭和12年大原社会問題研究所の土地建物、蔵書の一部を大阪府が譲り受けて以来、重なる戦災にも拘らず蔵書のみは幸に焼失をまぬがれ、その貴重なコレクションは「大原文庫」として「天王寺分館」の中心をなしてきた。この社会科学重点の公共図書館をさらに拡充し、1)特許資料、科学技術資料を中の島本館より移管して特許資料センターとしてのサービスを強化する、2)府下一円に対する自動車文庫、貸出し文庫の拡大充実を図る、3)自習室による特別サービスの向上、等の要素を付加して、府立夕陽丘図書館として新築と同時に新発足をした。閲覧室席数 652、書庫収容能力62万冊、開架図書5万冊、自習席 186、巡回バス4台の能力を備えた中型公共図書館である。谷町筋に面し、北側隣地に多くの住宅をもった夕陽丘の住居地域にあるため、建物の配置上は、北側日影を特に考慮しながら、出来るだけ屋上その他のオープンスペースを確保すると共に、外部騒音の遮断と、公共性のための開放性という2つの矛盾した要求をどのように解決するかに特に配慮した。結果としてエルミン窓による上階と、全面硝子構成の1階閲覧ホールを持ち、音の浸入を防止するために道路にそって石貼の塀をめぐらせた。谷町筋からピロティごしにガラス貼の閲覧室が見渡せるほどに開放的であるが、読書のための必要な静かさは充分確保出来ている。2階以上は書庫と閲覧管理棟とが明確に2棟に別れていて、それぞれが蔵書の増加や利用方法の変化に対応出来るよう柱のない大空間をもっている。また正面塀まわり、各空地、低層部屋上などは出来るだけ緑化を図りよりよい読書環境の創成と、周辺環境への同化を図っている。　　松村慶三／浦辺建築事務所



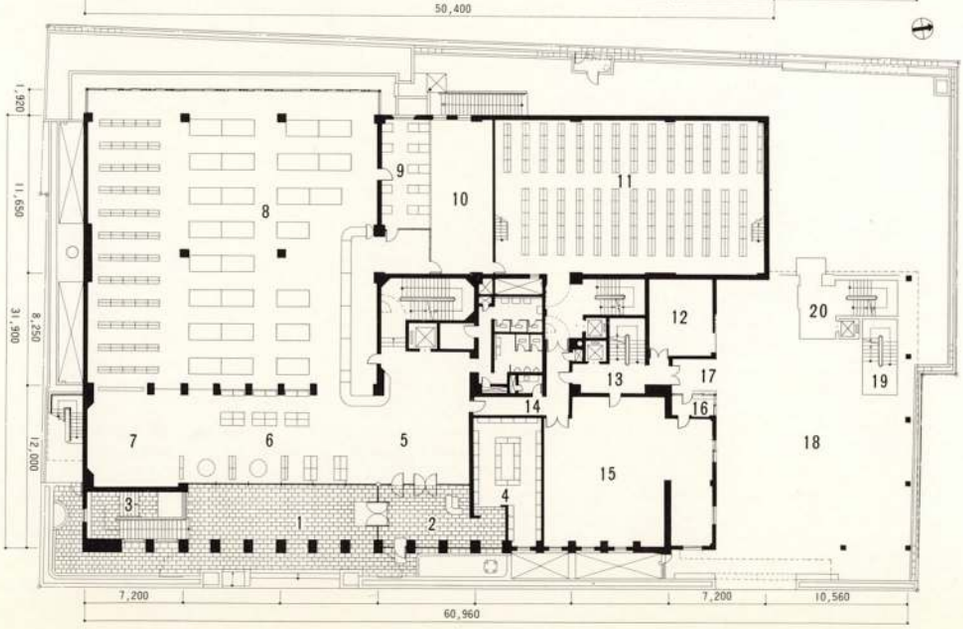


一階一般閲覧室



2階平面図

1　エレベータホール
2　産業資料課事務室
3　自然科学閲覧室
4　屋上庭園
5　休憩室
6　主階段
7　書　庫
8　書庫階段
9　サービスエレベータホール
10　サービス階段
11　車庫屋上
12　サービス階段
13　書庫階段



一階平面図

1　ピロティ
2　玄関
3　吹抜
4　ロッカールーム
5　ホール
6　目録コーナー
7　展示コーナー
8　一般閲覧室
9　特別閲覧室
10　閲覧課事務室
11　書庫
12　荷受発送室
13　サービスホール
14　廊下
15　読書振興課事務室
16　守衛室
17　職員業者入口
18　車庫
19　サービス階段
20　書庫階段

大阪府立
夕陽丘図書館



一階ホールより目録コーナー、カウンター、一般閲覧室をみる



二階屋上庭園西側よりみる



地下1階電動積層書庫



二階屋上庭園南側よりみる



▽二階エレベータホールより休憩室、自然科学閲覧室をみる

撮影：東出清彦



正面入口付近より



付近全景



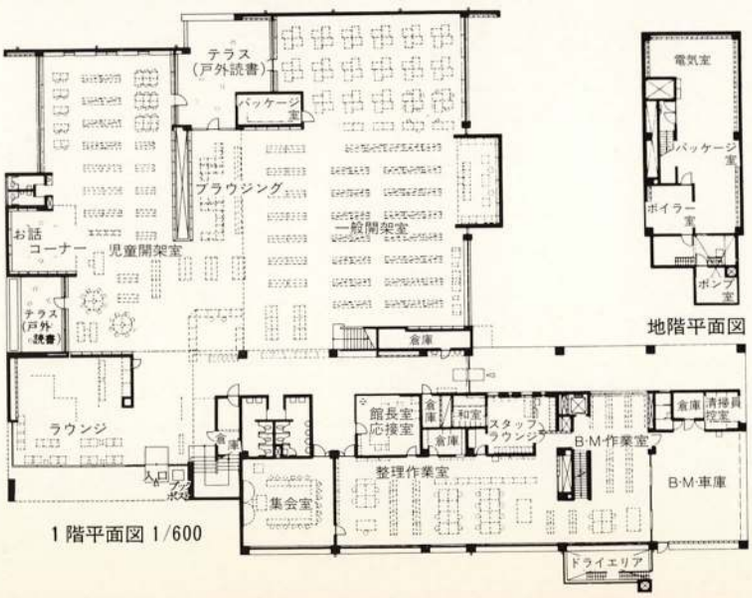
裏側全景



正面玄関

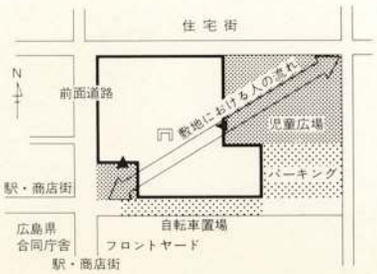
福山市民図書館

設計：日本図書館協会施設委員会
菅原峻・佐藤仁・西川馨・管孝能
施工：大成建設　広島支店



地階平面図

1階平面図 1/600



所在地	広島県福山市三吉町
敷地面積	4,812.92㎡
建築面積	1,644.01㎡
延床面積	2,441.05㎡
構造規模	ＳＲＣ、Ｂ１、２Ｆ、ＰＩ
工期	1972・12～1973・8
蔵書能力	17万冊

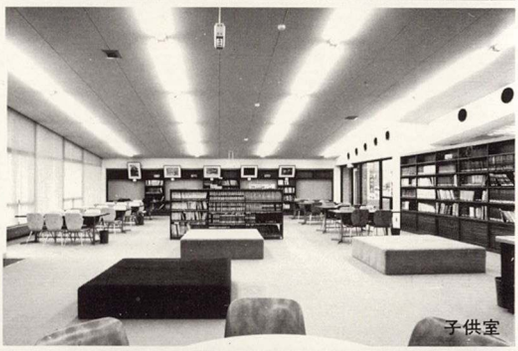

裏面全景


ギャラリー（2F）

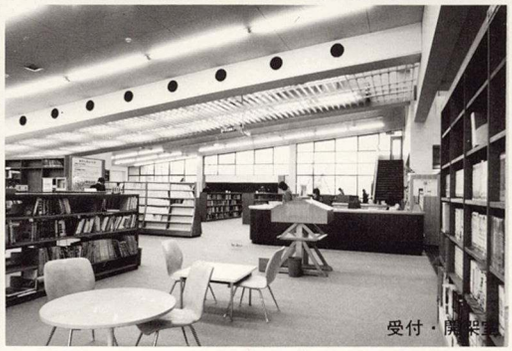

親子コーナー


学生閲覧コーナー　架室

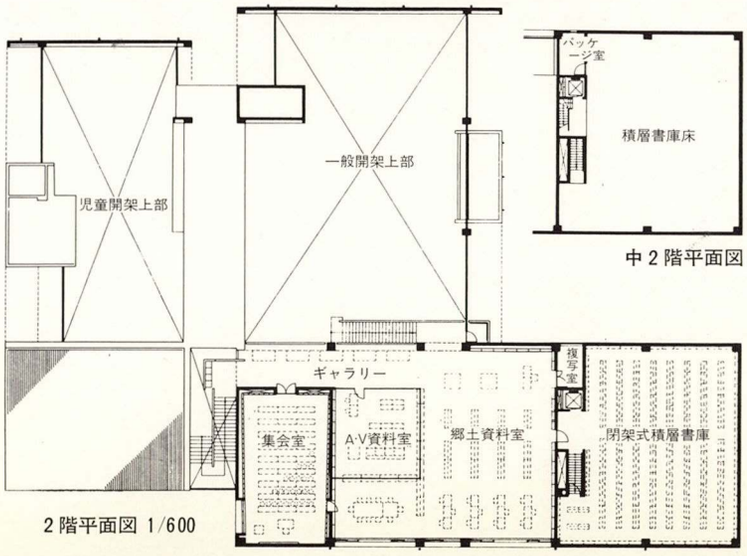



子供室


正面玄関ホール


受付・閉架室


テラス・戸外読書



2階平面図 1/600

中2階平面図

当福山市民図書館は、市役所敷地内にあった旧福山製鋼ボイラーハウスを改装して運営していた市立図書館の改築工事として計画されたもので、福山市図書館サービス網の中央館として機能する。

敷地は駅に通ずる商店街と住宅地の接する場所に位置しており、この2つを結んで敷地を斜めに横切る動線上に図書館を配して、商店街・住宅地の両方からアプローチできるように入口を2方向からとり、館内の通り抜けが可能なように計画されている。また、敷地内には付近住民のための児童遊園（900㎡）が計画された。

建物は大きく2つのブロック（1つは大空間でフレキシビリティの要求される開架貸出室、もう1つは比較的小室の固定された機能をもつ室群）に分けられ、それを8の字型に配置してその要めの部分にコントロールデスクを設けた。児童開架と一般開架は別室にせず、1つの空間として扱い、壁や書架でそれぞれの雰囲気を創っている。学生閲覧席は開架室の奥にオープンな形で設けて本との接触を第一に考えている。吹抜けでつながった2階は、郷土資料、行政資料などを中心としたレファレンス・ルームで、閉架書架を後に設けて書庫内の保存図書の利用の可能なように計画されている。外観は来館者に威圧感を与えないように、ゆるい勾配の屋根でできるだけ建物の高さを低く押えるようにし、外壁は肌触りの柔らかなレンガタイル貼りにして親しみ易さを意図している。

菅　孝能





エントランスホール



新聞閲覧室（1

龍谷大学図書館

企　　画　龍谷大学図書館建設委員会
　　鬼頭梓建築設計事務所

設計監理　株式会社中村建築設計事務所

施　　工

建築　清水建設株式会社

電気　富士電気工業株式会社
京都市上京区今出川通り堀川西入
TEL　075－431－8101（代表）

給排水衛生
空調　大進工事工業株式会社
京都市伏見区深草西浦町６－２
TEL　075－642－3741（代表）

所在地　京都市伏見区深草塚本町67

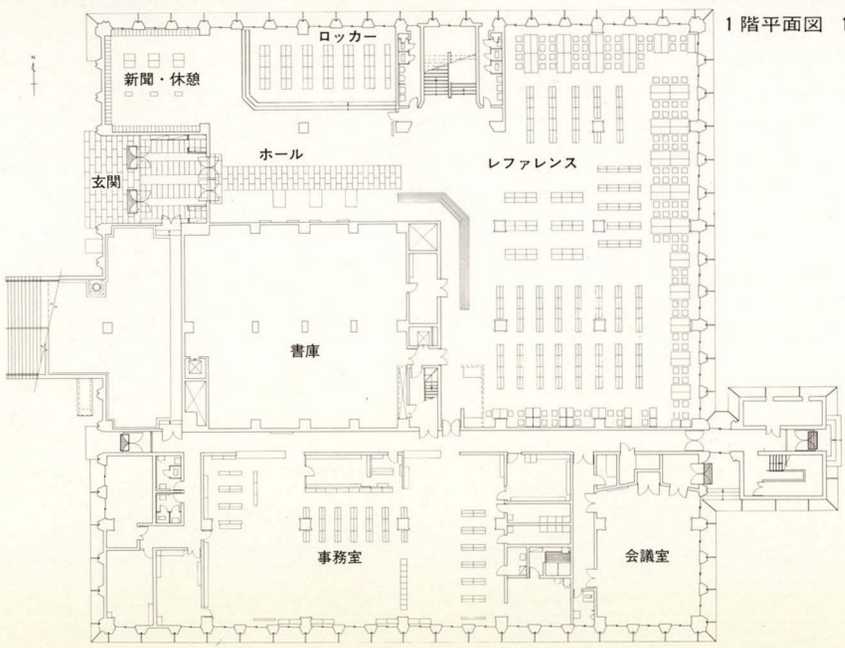
建築面積　2,517.912m²

延床面積　5,031.468m²

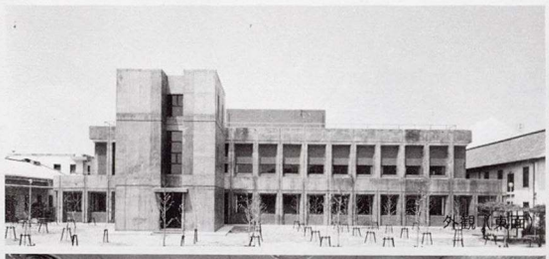
構造規模　ＲＣ、一部Ｓ、４Ｆ

工　　期　昭和47年８月～昭和48年５月

蔵書能力　35万冊　　閲覧席　540席



1階平面図　1：600


外観（東南）



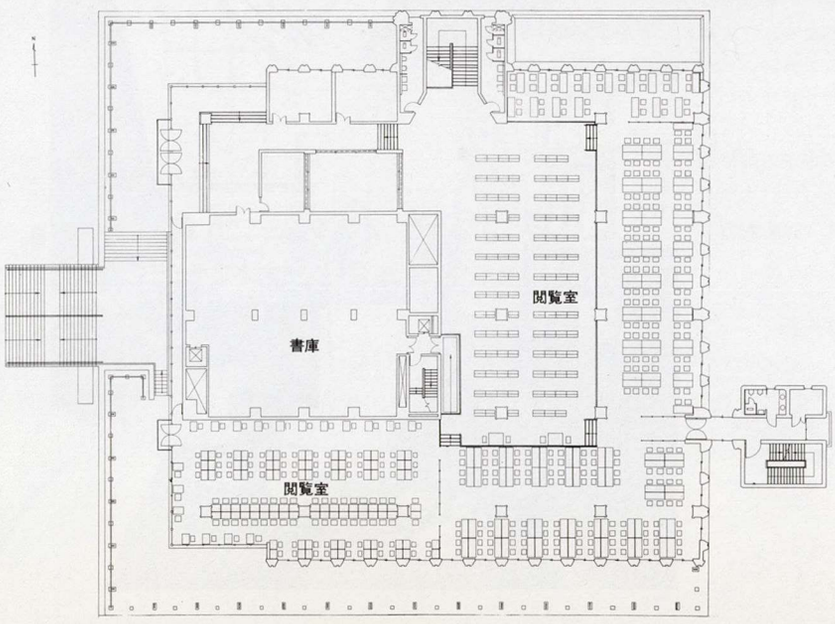

事務室（１Ｆ）


メインデスク


開架閲覧室（２Ｆ）


閲覧室（１Ｆ）

2階平面図 1：600



龍谷大学図書館 設計要旨

本図書館の主眼点は、活用されるための機能性と、その将来の発展に即応でき得るフレキシビリティであり、情報サービスの多面的な活動主体の確立であり、真に利用者のものであります。そのために固有の空間形成を明確に３つのブロックで構成し、それらの相互機能の関係と将来における他の施設群との空間的な相互関係に基づいて設定されています。利用者のためのブロック、管理運営のための事務ブロック、蔵書のためのブロック、この３つのブロックの接点にメインデスクが配され、相互間の密接な関係を考慮し、各ブロックの孤立化を避けました。

利用者の為のブロックを２つに分け、１階を研究図書館な閲覧室とし、２階を読書・学習図書館的な閲覧室とし、メインデスクのあるロビーから吹抜を通し、相互が望むことができます。各閲覧室はワンルームであり細目的により可動間仕切で仕切ることができ、また開架スペースを大きく書庫に接して配され、閲覧席と開架スペースは床及び天井に変化つけることにより、静、動の分離がなされております。２階閲覧室は開放されており外部より直接利用できよよう配慮されています。外部室間においてもこの図書館の性格が反映され、大学図書館のモニュメント的要素を加味した設計となっています。　（棚場英次郎）



枚方市立香里ケ丘図書館

設計：環境・建築研究所　　施工：第一建設工業

団地の中央、松に覆われた小山を背景に、マーケットと隣接し、小さな図書館が、建てられた。

図書館の分館、とくにこの分館の場合、利用者の大部分は子供と主婦であり、遊びや買物のような日常性の中に置かれ、さながら町角の本屋さんのような開放性が必要であり、また、利用者・蔵書数の増加、目的の発展などにより、ある程度、建物ボリュームが増殖していくものであると考え、計画が行われた。

建物は、一般閲覧部、専門部分、集会部分の３つのスペースに分け、これらのつなぎ部分をガラスの屋根とし、休憩読書コーナーを形成する事とした。専門部分及び集会部分は後に増築する為、現在機能を停止させず増築できるように、つなぎ空間を境として増築予定部分は２階屋根高迄の、舞台装置の様に起立する壁となった。

アプローチは閲覧部分へ向って、マーケット前広場から広い階段により行い、身障者や乳母車にはスロープが考慮された。

現在この図書館は、必要機能の一部を受持つのみであり、空調も後日整備され、書架カーテン、什器の充実、配置の検討、利用方法、管理方法を含め利用者や管理者により試行錯誤を繰り返えし育っていくことが期待される。壁に刻まれた開口予定部に穴が開けられる日が望まれる。　　（大西）

《本文〝地域図書館をたずねて〟88頁参照》



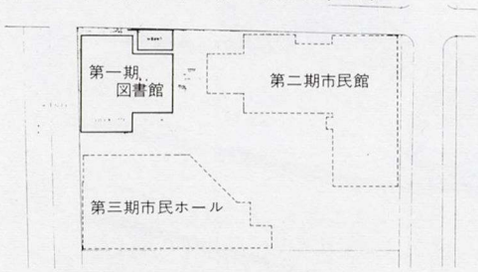


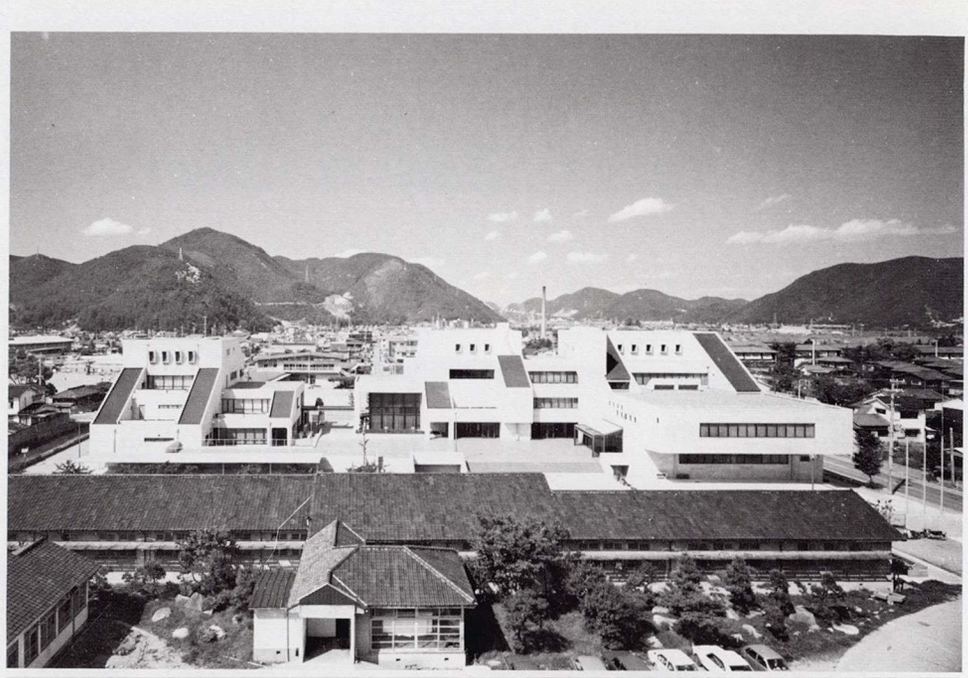
所 在 地　枚方市香里ケ丘4－2－1
敷地面積　749.49㎡
建築面積　264.57㎡（第Ⅰ期）
　　（175.77㎡　第Ⅱ、Ⅲ期）
延床面積　258.78㎡（第Ⅰ期）
　　（351.54㎡　第Ⅱ、Ⅲ期）
構造規模　ＲＣ、２Ｆ
工　　期　1974・3～1974・8
写真撮影　フォトスＵ

赤穂市立図書館

設計監理　赤穂市役所建設課
　　日建設計大阪本社
施　　工　鹿島建設株式会社

所 在 地　赤穂市加里屋中洲３丁目56
敷地面積　5,098.00㎡
建築面積　669.00㎡
延床面積　1,320.00㎡
構造規模　ＲＣ　４Ｆ
工　　期　昭和46年８月～昭和47年４月













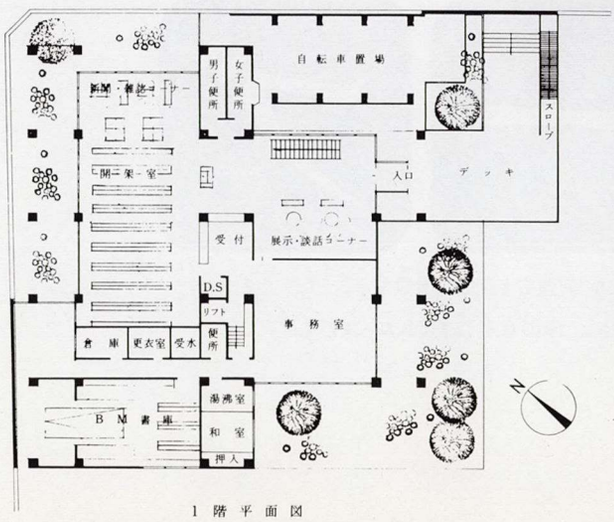
赤穂市立図書館設計について

この図書館は、赤穂市の総合文化センター計画の第一期工事である。付近の小中学校に囲まて、南面に16m道路に面した約5,000㎡の敷地には、将来計画として、約1,000名を擁するオーディトリウムをもつ市民文化ホール、各種集会場・結婚式場・文化教室等をもつ市民会館、そしてこの図書館の三棟が計画されている。配置計画としては、敷地の中心に市民の溜り＝広場＝を設定し、その周辺に三棟の建物を配置する。市民は南の幹線道路からこの日溜の広場に集まり、それぞれの目的棟へ放射線状に集散するように計画した。

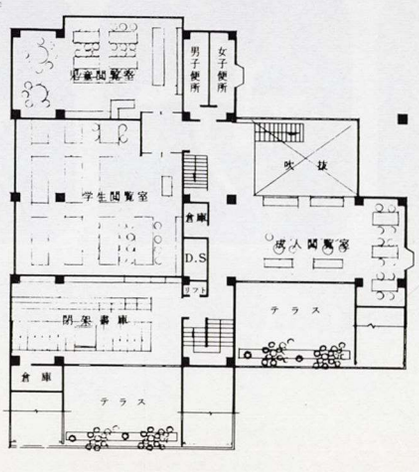
本図書館はその将来の全体計画を前提に敷地の東北端に配置された。入口は中央広場からの進入と、東側道路からの直接進入も考え、さらに二期の市民会館との連絡をも考慮して南面に設けた。１階には開架書庫、新聞閲覧室、管理者室、２階には一般閲覧室、児童閲覧室、学生閲覧室、閉架書庫、３階には講習室及び研究室である。冷暖房等冷熱源機械室は、第二期の市民会館棟の地階に集中設置するため、本館の４階には空調機、電気室のみを設けている。

蔵書計画は開架式30,000冊、閉架式5,000冊、古図書保存用10,000冊、モビル用10,000冊である。１階には館外活動の巡回車庫があり、巡回車の活躍が著しく、地域文化の向上に貢献している。

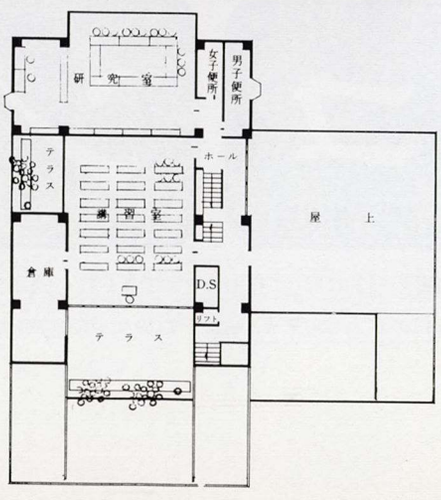
この建物が赤穂市民の生涯教育の中枢的な施設として、その役割を果すことを期待する。　　黄　進興



1 階 平 面 図



2 階 平 面 図



3 階 平 面 図

株式会社イトーキ
●札　幌〒060札幌市中央区南大通西９丁目丸菱ビル…TEL011-231-5557
●仙　台〒980仙台市一番町1-1-30やまと生命ビル……TEL0222-66-3511
●東　京〒104東京都中央区銀座1-8-19……TEL03-567-0651
●新　宿〒160東京都新宿区西新宿1-21-1……TEL03-346-3311
●横　浜〒231横浜市中区太田町6-75……TEL045-211-1361
●名古屋〒460名古屋市中区錦3-1-9……TEL052-961-1331
●大　阪〒541大阪市東区淡路町2-50……TEL06-203-5301
●広　島〒730広島市袋町3-19……TEL0822-48-2371
●九　州〒812福岡市博多区店屋町6-17……TEL092-281-4061



●写真は5連6段（A4型）の標準タイプです。

大量の図書・資料の保管に最適です!

2列の棚が同時に使える〈ジャンボファイル〉

システム コンサーブ

より快適な環境づくり
イトーキ

●図書の増加に応じて自由に増設できます。一連単位で追加購入が可能。左右のスペースがある限り、何連でも自由に増設することができます。

●前列の左右移動もスムーズです。後列から図書を取り出す場合には、前列を左右に移動させてください。棚の移動は軽くスムーズです。

カタログ請求券
コンサーブ

＊詳しくはカタログをご請求ください。

イトーキ提供●TV番組《ワールド・ゴルフ》毎週日曜日17:30～18:00 HBC・TBC・TBS・CBC・ABC・RKB

新発売 軽る～い移動書架“Z„



（写真は京都仏教大学図書館書庫）

新らしい図書館書庫を考える

図書館の書庫と言えば、積層式書架が最も多く普及され活用されて来ましたが、地価や建設費などの高騰により新らしい角度からのスペース開発が望まれています。
積層式書架では
(1) 通路・階段・リフトなどのスペースが書庫スペースの60%以上を占めている。
(2) 空調・電気・照明などの設備が各階に必要となる。
(3) 作業動線が長く非能率的である。
など、いろいろな理由から積層書架に変る図書館書架として
3倍の魅力（スペースが3倍に使える）
6倍の魅力（作業能率6倍以上）
電力を使わない魅力
その他たくさんの魅力を備えた**コンゴースーパー移動棚**…軽る～いZ.タイプ……が開発されました。
49年5月1日発売以来早くも全国各地の官公庁・図書館・企業等にて御採用いただき絶賛御好評を博しています。
省力省資源・スペース再開発に数かずの魅力を秘めた**コンゴースーパー移動棚**……軽る～いZ.タイプ……を御検討下さい。　御一報次第カタログ御送付申上ます。

SUPER K KONGO CO.,LTD 金剛株式会社

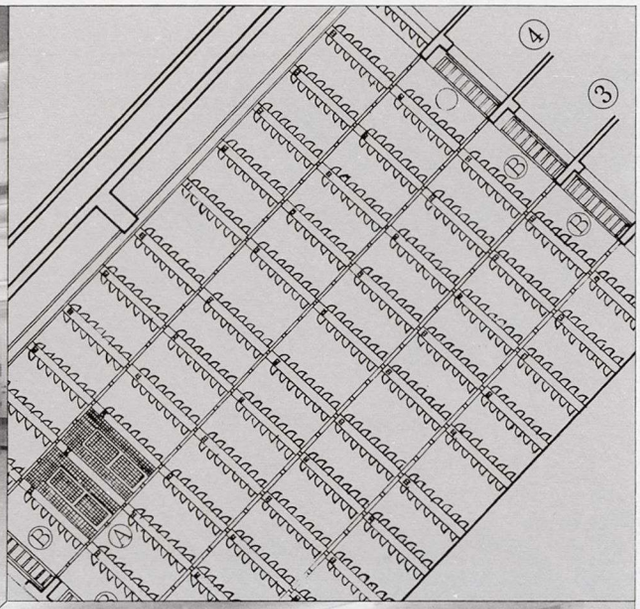
本　　社　熊本市上熊本3丁目8－1　TEL (0963)55-1161
東京支店　東京都港区六本木4丁目11-9　TEL (03)401-2175
関西支店　大阪府豊中市岡上の町2丁目6-7　TEL (06)841-4634
福岡支店　福岡市東区名島2507－33　TEL (092)681-6286
南九州支店　熊本市池田町875　TEL (0963)55-1161
工　　場　熊本市池田町888　TEL (0963)54-7622

スーパー移動書架“Z„タイプ

最も信頼性の高い移動書架 電動スタックランナー



関西学院大学図書館







東京工業大学図書館

開架方式に好評の木製側板付BS型書架

歴史の重みを支えて半世紀

大正末期スチール書架のパイオニアとして創業以来、常に業界のトップを歩み続け、その実績は国会図書館をはじめ全国の図書館に数え切れません。タイプも開架式、積層式から最近は得意とする立体自動倉庫の技術をフルに投入した電動書架（スタックランナー）が特に好評で各地でご採用いただいております。

より良い保管システムを提供する

日本ファイリング

本社・営業所＝〒101　東京都千代田区神田駿河台1－6
（主婦の友ビル6階）　電話 03(294)1751(大代表)
大阪支店＝〒542 大阪市南区順慶町通4－25
（順慶町三和ビル8階）　電話 06（271）3091(代表)

■札幌営業所 011(241)8574㈹ ■仙台営業所 0222(24)1707㈹ ■名古屋営業所 052(582)7075㈹ ■福岡営業所 092(721)7601㈹ ■広島出張所 0822(46)8226



大阪府立夕陽丘図書館様１階カウンター

より機能的，明るい図書館づくりはぜひ丸善へご相談ください

丸善の図書館家具と用品

図書館用品の総合専門店丸善では，視聴覚教材を含む多彩な家具・用品と長年の経験により，大阪府立夕陽丘図書館や茨木市立図書館など公共図書館をはじめ大学図書館，学校図書館，会社資料室などに豊富なご納入実績をもっております。
また，館内レイアウトや家具設計のご相談を承っておりますが，特に最近大いに注目されているフォトチャージング・システムやブック・ディテクションシステムなども手がけ，より使い良い図書館づくりについて総合的にお役に立っております。

《丸善の図書館家具と用品》

■ 閲覧机／閲覧椅子／カウンター　■ 積層書架／コンパック／エレコンパック　■ ブックトラック／ふみ台／パーティション　■ ブラウジング・コーナーセット　■ 雑誌架／新聞架／新聞閲覧台
■ カードケース／ファイリングキャビネット　■ カード／ラベル／フイルムルックス／印章
■ 視聴覚教材／事務機器……このほかいろいろございます。

★丸善の図書館家具と用品総合カタログ送呈

Ⓜ丸善

大阪支店（仮営業所）540　大阪市東区谷町 5-27　東工ビル……☎（06）763-1181
名古屋支店 460 名古屋市中区栄 3—2—7……☎(052)261-2251
京都支店 604 京都市中京区河原町通蛸薬師上ル……☎(075)241-2161
神戸支店 650 神戸市生田区元町通 1—63……☎(078)391-6001
東京（お茶の水・丸の内・浜松町）・札幌・旭川・仙台・筑波・八王子・横浜・静岡・金沢・大阪（梅田）・姫路・岡山・松山・広島・福岡・長崎・鹿児島・沖縄／ニューヨークに 支店・営業所 〔本店－東京・日本橋〕

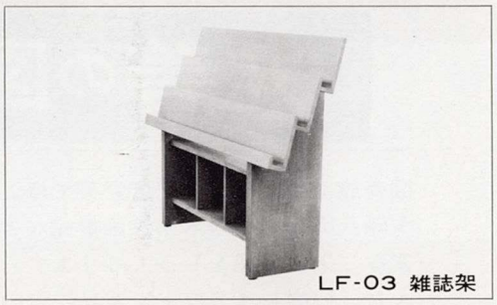
LIBRARY FURNITURE



LF-05キャレルデスク　LF-11 閲覧椅子

新しい図書館家具

ヤマグチは40年のオーダー家具の経験を生かして 新しい図書館づくりに奉仕致します。



LF-03 雑誌架



LF-07 屋根型閲覧机

図書館納入実績

- 日野市立中央図書館
- 山口県立山口図書館
- 都立中央図書館
- 山梨県立図書館
- 浦和市立図書館
- 前橋市立図書館
- 東村山市立図書館
- 相模原市立図書館
- 小平市立図書館
- 東京経済大学図書館
- 東北大学図書館
- 芝浦工業大学図書館
- 大妻学園図書館
- 専修大学図書館
- 国際キリスト教大学図書館
- 駒沢大学図書館
- 日本大学生産工学部図書館
- 東京学芸大学附属図書館
- 横浜国立大学図書館

高級家具注文製作／高級特製品（既製）

山口木材工芸株式会社

東京都北区神谷1の2－3　TEL (913)0111㈹～5

集配センター　川口市弥平町4－9

構造の頁

7

かわった配筋法 —諸外国の例

森田　司郎

わが国の鉄筋工事用の設計図はきわめて手を抜いたものが多い。配筋図が少々不備でも、あるいは、全然なくても鉄筋工が適当に配筋してくれる場合が多い。今後はいつまでもこの流儀は通用しまい。配筋工程の組織化、省力化がぜひ必要という認識が高まってきた。配筋法の原則は彼我で共通だから、かわった配筋法といっても奇想天外な配筋法があるはずがない。一見、特筆するまでもない平凡な配筋法でも、じっくり観察すると、なかなか味わいの深いものが往々ある。たとえば**写真1**は外壁の配筋例で、目地を設けているのは、ひびわれを発生させたくないという要求からである。よく見るとこの目地は完全に壁を貫通して設けられており、壁の横筋も全部目地部で切断されていることが**写真2**で判る。これならひびわれが完全に避けられよう。外壁ではこのように壁厚を増し、ダブル配筋を必ずしたいものである。

写真3は柱主筋の重ね継手の一例を示している。これは**図－1**(a)または(b)に示すように、組み上がった柱筋を差し込むだけで、重ね継手ができ上がる。継手位置が集中する弱点はあるが、鉄筋の加工、組み立ての上では大きなメリットを生むし、下手な圧接よりは、確実な継手が得られる。このような継手をjoggled spliceと呼び英米で用いられる。外側になる方のフープ量が少ないと、鉄筋端面がコンクリートを直接圧縮する部分の局部圧壊で耐力が決まる。最近では、鉄筋の組み立てを別の場所で集中的に行い、適当なユニットにまとめて、それを搬入配置する方式が注目されているが、joggled spliceはこの方式用に考案されたものである。

鉄筋の継手については、多くのスリーブ工法が開発され、わが国でも多くの輸入工法、それにヒントを得た工法が実施されるようになった。しかし、鉄筋をコンクリートを仲介として接合する方法が鉄筋コンクリートの特色の一つであるので尊重すべきものである。ここでは、わが国では普及の遅れているループ継手を紹介しよう。**図2**のようなループ状の鉄筋を重ねた継手が多用されている。とくに、プレファブ材の接合部の接続に便利である。DINIO45によるとループの内のり直径d_Bは次式を満足することが要求される。

$$d_B = \left(1.40+2.80\frac{d_b}{e}\right)\frac{\sigma_s}{F_c}d_b$$

ただし、eはループ間隔またはループと表面までの距離である。定着の場合の所要長さは$\frac{d_B}{2}+3d_b$以上であり、継手の場合の所要長さはd_B+7d_b以上である。必要ループ径d_Bを鉄筋径d_bの倍数として**表1**に示す。この継手の場合は、ループ内側のコンクリートの割裂を防ぐために、ループ面に対するかぶり厚さを鉄筋径の3倍以上要求される。また、ループ鉄筋1本当たりの引張力$\sigma_s A_s$に等しい引張力をうける補強鉄筋をループ面と直角方向に配置することが必要である。ループ状の配筋は、**図3**のような曲げ材の隅角部に用いると有効である。このような配筋で、部材の全耐力の50%（隅角を広げる方向）～80%（隅角を閉じる方向）の耐力を持ち、他の配筋法より優れている。壁構造の隅角部配筋に応用するとスマートであろう。

鉄筋の組み方というより、もっと問題を大きく考えて、コンクリート構造物の補強方式の新しい型式として特筆されるべきものに、米国で広く普及し始めているフラットスラブのＰＳ構法があろう。すなわち、梁を追放してスラブと柱のみの構造で、そのスラブをグラウトをしないストランドによるプレストレス工法で補強する方法である。ストランドは硬質紙のシース内にタール質で封入されているので、鉄筋と同様に配筋して、コンクリート打設後軽便なジャッキで緊張すれば、それでおしまいという手軽なＰＳ構法で大スパンスラブが設計できる。**写真4**はＴ．Ｙ．Lin事務所設計の現場の配筋状況で、**写真5**はこの建物の耐震コアとの接続を示している。コアはスライディグフォームで先打ちされ、スラブのＰＳ導入によって、簡単に一体化される。

（註：大林組の越本昌弘氏より写真1～3を提供いただいた。）

（もりた　しろう　京都大学助教授・工博）

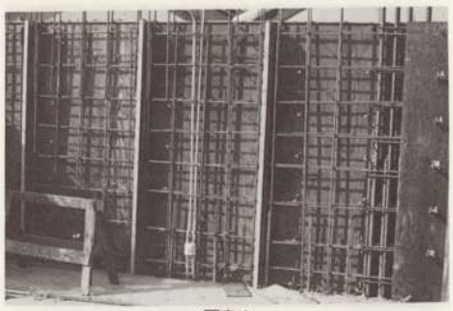


写真1

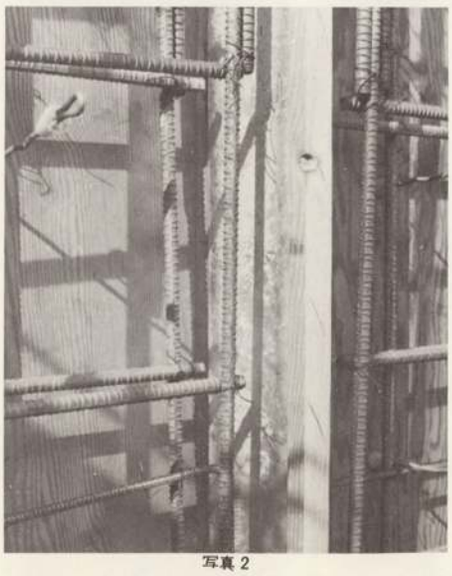


写真2



写真3

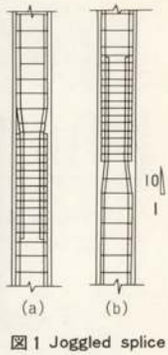


図1 Joggled splice

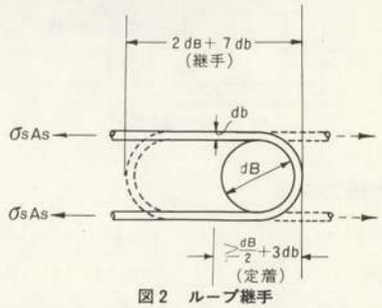


図2　ループ継手

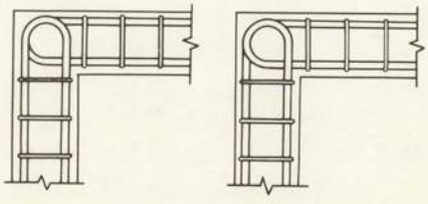


図3　ループ筋による補強

表1　所要ループ径と鉄筋径の比 d_B/d_b

鉄筋応力 σ_s kg/cm²	コンクリート強度 Fc kg/cm²	e/d_b 2	3	4	5
1600	200	23	19	17	16
	300	15	13	12	11
	400	12	10	9	8
2400	200	34	28	26	24
	300	23	19	17	16
	400	17	14	13	12

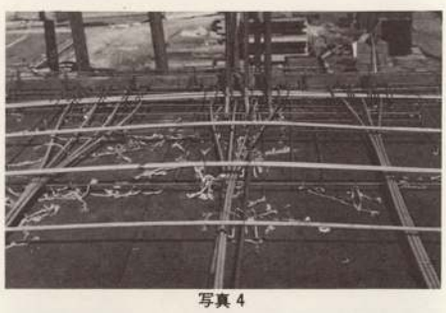


写真4

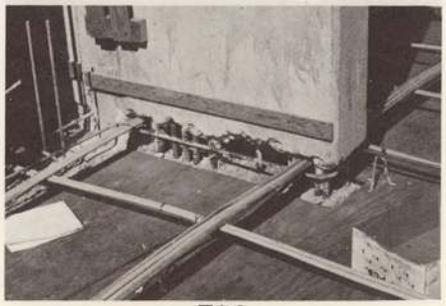


写真5

設備の頁

7

排水槽、湧水槽の計画と設備

永谷　法一

排水槽の概念

排水系統には、汚水を導くための汚水配管系統と洗面器、流し、浴室などの排水を導くための一般雑排水系統がある。排水槽とは一般ビル建物で地階のある場合、あるいは建物内の排水が自然の勾配で敷地外の下水道に放流できない場合、器具、機器からの排水（低位排水）を、いったん自然に流下させ、排水槽に導きポンプを用いて排出するためのものである。排水槽には、前記汚水配管系統からの導入汚水を溜める汚水槽と、汚水以外の排水系統を集めて溜める雑排水槽に分けられる。そのほか地階を有する建物には、地中より浸透する地下水の湧水、ドライエリヤから降り込む雨水等を溜める湧水槽から成り立つ。各槽とも、臭気や排水がもれない完全な防水構造を必要とし、かつ充分な通気管をとり外部へ直接開口を設け排気しなければならない。各槽の通気管は、建物の他の排水系の通気管との併用はできるだけさけねばならぬ。槽が二つ以上ある場合には、それぞれの槽の通気管はその水面より上部で結び、床下等でこれを結んではならない。槽の位置構造は一般に最下部の耐圧スラブを利用したものが多く、排水槽の位置はできるだけ地階の排水管の横引きを短くするため、排水個所すなわち排水主立管、屋外排水管の位置より低いレベルの排水器具（便所、厨房、浴室）などに近い方がよく、ビルの規模によっては、数個所を必要とする場合もある。

排水槽の構造

地階にあっては、耐圧スラブと地下最下階の床スラブの二重底の空間を利用して排水槽を設けるが、この内面は防水モルタル等を用いて厳重に防水工事を行う。これは、汚水の漏洩により他の水槽（市上水受水槽、空調用蓄熱槽、消火用水槽）等に汚染することを防止するためにほかならない。そのためにも計画時に平面上において排水槽と他の上水用水槽とは隣接しないよう、とくに留意しスパンで間隔を保つようにしなければならない。排水槽の深さはとくに規定はないが、ポンプアップの必要性から、ポンプの吸込部分が充分に水面下に潜るものでなければならない。サクション部が充分に水面下になければ、吸水部に渦流が発生し空気を同時に吸い込み、ポンプは不安定、不規則な運転状態となり、所定の水量を吐き出すことが不可能になる。図－1に種々ポンプの吸込状態を示し、図－2に導入路底の形状および渦が発生する型を示す。一般に導水路とポンプの吸込位置の関係を列記すると、

(1)ポンプ吸込口の幅、ポンプ吸込口の隣接間隔を充分にとり、流速を0.5m/秒以下となるようにする。

(2)渦巻発生防止のため仕切板を設ける。

(3)排水槽内の吸水部分の溜り部分に至る傾斜をゆるやかにする。

(4)各ポンプには、平等に流入できるようレイアウトする。

等があげられる。図－3には排水槽の深さを表す。d=1,000粍以上としd'=500粍程度とする。したがって槽全体の深さは、大略1,500～2,000粍程度になるのが最も多く使われる深さのようである。

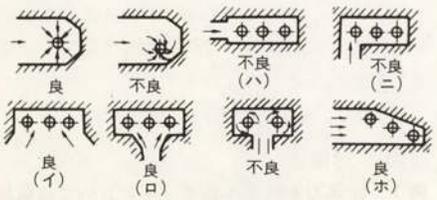
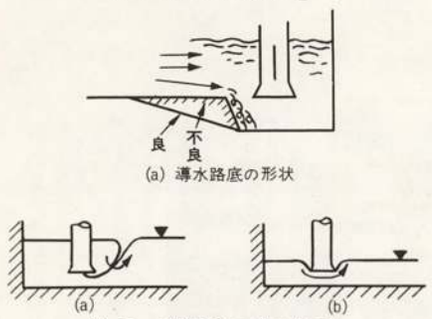


図-1　種々の吸水槽



(a) 導水路底の形状

(b) ラッパ管付近にできる渦の型

図-2

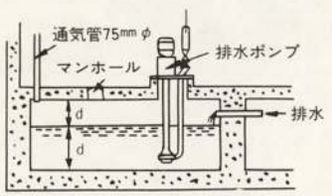


図-3　排水槽の深さ

排水槽の容量

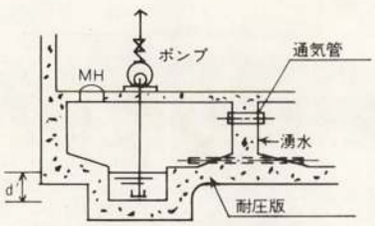
排水槽の容量は、原則的には排水量より決めねばならぬが実際は、ポンプの吐出量によって決められることが多い（表－1参照）。ポンプの口径は、汚水槽にあっては固形物も同時に排除できる構造のものを使用すべきで最小80粍以上とし、雑排水用ポンプにあっては、厨芥等も混入することなどから、最小50粍以上のものがよく、湧水槽のポンプについては、湧き水、機器のドレン、凝縮水など排水量が推定される場合は、ポンプ容量は平均排水量と同容量とし、排水槽も比較的小さくてすむ。排水槽のポンプの容量は、推定される最大排水量と同等またはそれ以上とし、排水槽は、最大排水量がその槽を満たすのに15～40分かかるような大きさとする。排水槽の容量は、それに流入する、器具の数および使用回数によって決められるが、12時間以上貯留するような大きさではいけない。ポンプ吐出量の10～20分程度の容量がもっともよい。ポンプの容量と槽の大きさとは常にバランスを保つようにし、正確にはポンプ吐出量と計画排水量の曲線をえがき最適値をえらびだし建築構造上で許される限りスパン単位で決める方がよい。

表-1

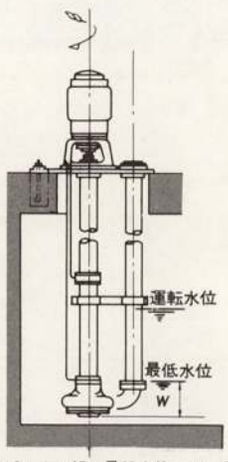
	ポンプ容量	タンク容量
最大排水時流量が算定できる場合	最大排水時流量	最大排水時流量の15分～60分
一定量が連続的に排水される場合	排水量の1.5倍	排水量の10分～20分
排水量不定、不明確、少量の場合	最小容量はポンプ口径により定まる	ポンプ揚水量の10分以上 ただし、汚物の場合は10～15分

排水槽と湧水槽の深さの関係

排水槽は最下部の耐圧版を利用するのが一般的であるのは前記の通りである。湧水槽は、地下水の滲透した水であるので耐圧版よりなお低位置に設けることになる（図－4参照）。水槽の深さについても前記のごとく、ポンプの吸込部において、渦流が発生しない程度吸入管部を潜らせることにしなければならない。



(a)　湧水槽の深さ　d'=300粍以上



(b)　ポンプの吸込部の最低水位　W=300～400粍

図-4

引用文献
建築設備計画法　ユロナ社
建築の実務　彰国社
ポンプとその使用法　丸善

（ながたに　ほういち　KK三晃空調大阪支店設計部長）

施工材料の頁

7

大規模地中障害撤去を伴う地下工事

木村征夫

§1　まえがき

都市の再開発に伴い老朽化したビルは解体され、また堀、川、海の埋立がされ、そこに土地の有効利用から敷地いっぱいに建物を構築するケースが多くなっている。この場合問題となるのは大規模地中障害である。これは設計、工事、コストに大きな影響を及ぼすので、計画時にはあらかじめ建築主、設計者、施工者は一体となり対策に当たらねばならない。ここでは大規模地中障害の状況とその対策例について述べる。

§2　大規模地中障害の状況

(1)　旧地下構造物：旧地下構造物を解体し新しく地下を構築する場合、市街地では旧地下外壁線と敷地境界の間隔が少ないことから解体のための山留が設置できず地下外壁の解体が不可能な場合が多い。

(2)　既設くい：種々の種類のくいがあるが最近とくに松ぐいが多く、昭和初期に打設されたものでも地下水面下にあっては腐触していない場合が多い。くい長としては19m程度のものもあり、その引き抜きは非常に困難である。仮に引き抜けたとしても周辺地盤への影響もあり問題が多い。

(3)　旧堀江石積、石だたみ、転石：江戸時代の大阪は堀江が発達し大阪市内にはいたるところに川が流れていた。しかし最近、当時の河川は順次埋立てされその位置が不明になりつつある。この場合、多く問題となるのは旧護岸の石積、石だたみが撤去されずそのまま埋立てされていることである。また海の埋立てにおいても旧防波堤および基礎の積石がそのまま埋め戻されている場合もある。これらは山留、基礎ぐいの施工に大きな障害となる。

(4)　その他：よく問題となるのは戦時中の不発弾がそのまま地中に埋没している場合がある。その処理は、相当慎重に行わねばならない。

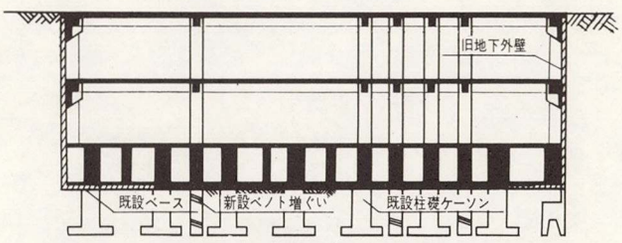
以上、主な大規模地中障害の状況を述べたが、建物計画に当たっては撤去方法等の技術的裏付けのもとに計画がなされなければならない。

§3　対策例

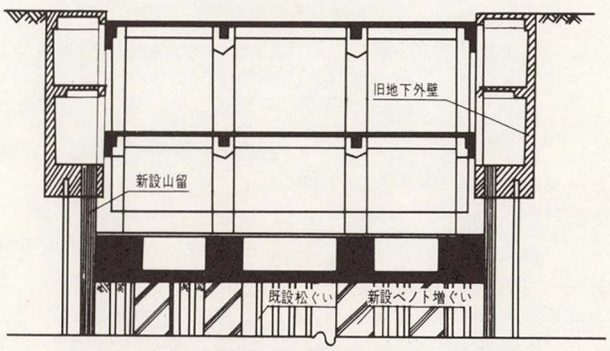
例1．伊藤万本社ビル新築工事においては敷地内旧建物を解体し敷地境界いっぱいに地下2階が計画された。旧建物は昭和初期に建設されSRC地下2階で地下外壁と敷地境界線とはほぼ接しておりその撤去と新築工事は山留を道路上に設置せねば不可能な状況にあった。また基礎は柱礎ケーソンでその撤去対策も問題となった。一方近年物価上昇は著しく地下の解体、新築の工法を安全、工期、コスト面で大きく左右することになり、問題解決に当たっては設計当初より充分これらを考慮し、旧建物地下壁を山留壁とし、旧柱礎ケーソンを新築建物ピアとして再利用することにより本工事を施工可能とし、また工費の大幅ダウンと工期短縮および安全施工を行うことができた。図－1にこの状況を示した。

例2．梅田阪急ビル第9期工事において敷地内には昭和初期に建設された地下2階RC建物とその基礎ぐいとして19mの松ぐいが多数あり、新設ベノトぐいの施工に大きな障害となった。15m以上の長尺松ぐいはわが国においても引き抜きの例がなく、引抜機の開発の必要性が生じた。敷地は国鉄、阪急高架に近接しており、たとえ松ぐいが引き抜けても周辺地盤沈下、くい支持層の攪乱は絶対に許されない状況下にあった。種々工法を検討した結果、地盤にベントナイトを充填しながら松ぐいを切削する工法を開発し、ベノトぐいの打設を可能とした。旧地下外壁については、山留壁として利用し、さらに深い部分のみ外周基礎梁内側に山留を設定する計画をし、地下施工を可能とした。図－2にこの状況を示した。

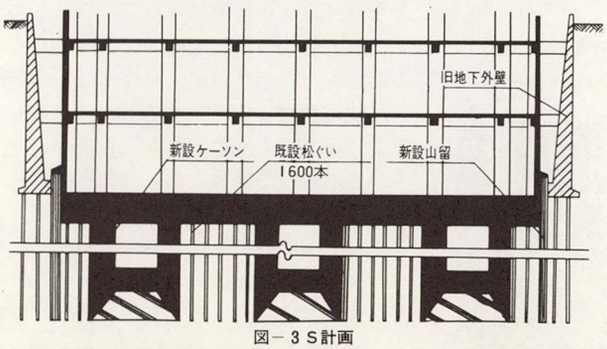
例3．計画敷地には昭和初期に建設された地下2階の建物が敷地境界と接触して建っており、地下解体用山留は敷地内に打設不可能の状況にある。また旧基礎ぐいには元口40cm径の松ぐいが使用されており、くい長は15m、くい間隔は1.2mで敷地のほぼ全面に 1,600本打設されている。このような敷地に敷地境界いっぱいに地下3階の建物が計画された。ここで問題となったのは旧地下外壁撤去のための山留が敷地内に打設できないこと、地下3階構築のための山留設置、基礎ぐい施工のために松ぐいが大きな障害となることであった。建物計画に当たっては旧地下外壁は山留として利用し、以深の部分のみ旧地下外周地中梁内側に松ぐい除去後山留を設置することとした。また新設基礎ぐいについては敷地周辺の状況から支持層地盤を攪乱できること、公共埋設管等のため地盤沈下は許されないこと、除去必要な松ぐいの本数が非常に多いことから基礎ぐいとしては直径 0.6mのニューマチックケーソンを採用し、ケーソン施工時に徐々に松ぐいを切断することで解決を計った。図－3にこの状況を示した。



図－1 伊藤万本社ビル新築工事



図－2 梅田阪急ビル第9期工事



図－3 S計画

§4　まとめ

以上、大規模地中障害の状況と対策例について述べたが、今後ますますこの種の問題が発生することが予測される。最近、基礎ぐいとして大口径場所打ちコンクリートぐいが多く採用されており、50年先を見た場合、これらがつぎの地中障害となって出てくることは明白である。また都市はますます過密化し、市街地の建物はこのほとんどが境界に隣接して建てられている。建築計画に当たっては事前調査を徹底し、地中障害を早く予測し、その対策を設計施工の一体した考え方で進めることと、工期、コスト等にも一層の建築主の理解が必要である。また対策においては省資源の立場からも、むやみに撤去するのではなくうまく利用する考えを持つことが必要である。また将来においてはそれらを充分考慮し、都市計画のスケールでの行政指導も必要であろう。

（きむら　ゆきお　KK竹中工務店大阪本店工事部技術課長）

昭和49年度・第6回若い会員の集い

建築家のための「みどり」学習会（街中の樹木の観察）第2回レポート

あいにくの雨空を恨みながら植物園に歩を進めると、40年の歴史をもつという正門前のけやき並木が静かなたたずまいでわれわれを迎えてくれる。前回に引き続き伊佐先生の講義を皮切りに園内の見学に移る。大正以来の年輪をみせるクスの木の林、以前はムクの木、エノキの樹林だったという界隈に景観を変えて育つ木々の解説を聞きながら、本降りになり出した雨の中を進む。植物園自慢のカツラの林を通り抜けるとメーン道路が明るい。クリペット、チャボヒバなどわれわれには馴みの深い造園樹の美しい植込をみながら、数百年の年月を経たという「半木の林」にとって入る。〝森の水車〟〝半木の神社〟に趣を覚えながら、この辺りの歴史を混えての先生の解説に耳を傾ける。雨足は木々に遮ぎられて消えてゆくのか物音ひとつしない静かな森だ。やがて植物生態園に入る。園芸植物を含め日本の山野でみられる植物を生態的に自然に近い状態で植えられているというだけあって、ここでは種々の樹木が観察でき「緑を知る」上でわれわれにとって頃合いの場所といえよう。ふと木立の出口に〝しいの実〟が落ちているのを教わると〝今宵のおやつはうまいぞ〟との声もあがり一同この偶然のプレゼントを拾うこと数分、花咲き揃う花壇をくぐりアメリカハナミズキの美しい紅葉を最後に出発点の会館に戻って午前の部を終了した。

昼食後、植物園西の加茂川に沿って遊歩道「半木（なからぎ）の道」を北上、上賀茂神社に向かう。この頃になるとようやく雨は上がり空もわずかに明るくなってくる。対岸では紅葉の美しいケヤキ、エノキ、ムクノキなど美しい樹形の大木の移り変わりが目を楽しませてくれる。やがて十数分、神社に着くと境内の樹木を眺めながら一巡する。カツラの大木が印象的だ。さらには明神川沿いにいかにも京情緒をとどめる家並を眺めながら数分、太田神社のカキツバタ群生地を確認の上、上賀茂神社にとってかえす。

日頃、都会生活に埋没しがちなわれわれにとって緑に対する興味を呼びおこし、その知識を与えてくれるに格好の所ではなかったか、四季折々あるいは晴天の日、またの機会に訪れてみたいものだ。

あいにくの雨中の見学にもかかわらず、伊佐先生の熱心な解説と参加者の熱意に助けられて、予定の催しを終了することができ、世話人一同感謝する次第です。

なお、今回最後の見学地上賀茂神社では京都府の佃先生のご厚意で社殿を特別に拝観することができ、この催しに一段と花を添えることができた。檜皮葺の様態を子細に説明いただき、合わせて最後は社務所で全員ゆっくりと名物〝やきもち〟で満ち足りた解散となった。

（本田　盛　記）

今回の催しには伊佐義朗先生、佃忠夫氏、上賀茂神社殿に多大のご厚意とご協力をいただきました。誌上より深く謝意を表します。

緑の文化都市へ

根来　譲二

緑を駆逐して構造物で埋めつくしていった近代文明都市は人々の心からうるおいを奪い去り、今日さまざまな社会問題をひきおこしている。「人間にとって都市とは何か」を考えるとき、今回のような建築家のための「みどり」学習会は快適な生活環境への一つの指標であり、大きな流れであるように思う。

秋雨の中、植物園での伊佐先生のお話は、わかりやすく樹木の性状、生態等をそれらの木にまつわるエピソードをまじえて楽しく園内を案内して下さった。公害地ではお目にかかれない樹木や昔なつかしい木々が目にしみる。大阪の街へこれらの木々を迎えられるのはいつの日か。

植物園をあとに加茂川堤の「なからぎの道」をそぞろ歩く、静かな京のたたずまいは大阪喧噪を忘れさせる。清らかな加茂の流れ、豊かな緑、整然とした家並み……

上賀茂から太田神社へむかう途中、クスノキやエノキの古木（御神木）を見上げながら「町の中の一本の大きな樹がその町の歴史と文化を物語っている。」という言葉を思い出す。

わが街、大阪にはない文化的緑、資産をそこかしこにもった京都がうらやましい。積極的に造成してゆく緑にはもちろん、近年さけばれている建築物や町並み保存と同じように樹木保護、自然保護にももっと関心をもってほしい。

われわれ技術者はこのような環境の中でほんとうの豊かさとは何かを考え設計してゆかなければならないことを痛感させられた。

再び上賀茂神社にもどり、社殿の説明を聞きながら、「文化は緑濃い都市から生まれるべくして生まれるなァ」と思いながら名物の焼餅をほおばると、かなたに雨あがりの比叡の山が美しかった。

（大阪市公園局）

上賀茂神社にて



シイの木の実

田頭良之助

第2回“みどり”の学習会参加証のハガキを見ると“雨でも参ります。ただし豪雨は中止”との文字がまず目に入った。不吉な予感どおり第1回とはうって変わっての雨である。けやき並木を定刻より早く来ると立派なパンフレットがもらえました。もう7～8人も熱心な参加者が来ていて。伊佐先生と休憩所の窓から“あの木がカンレンボクで中国の特産樹木で……”といって学習会が始まっていた。また“カンレンボクの種子を取って蒔くと良い”というともう実践して、取りに行って、先生に見せる人……。

雨の中、傘をさしながらの説明が始まった。ガイドブックを見ることもできず、樹木の種類も多いためか、頭が悪いせいか、あと何回も参加せねば名前が頭に入らない。今回は、樹木の採集ができぬとのことであったが、シイの木の種子は、焼いて、ポーンと音がすると食べれると先生がいわれ、落葉と水たまりの中を、苦にもせず、さがすと手いっぱいになった。不況の世の中、酒のつまみにと持って帰り、さっそくフライパンに入れて、火にかけるとポーン、ポーンとはじけ、まずは毒見！。一見ピーナツのようでやわらかかった。家族にもと思いきや“ドングリは、おしつんぼになる”といって食べなかった。

今回の京都府立植物園は、樹木の標示が付いているので覚えやすく、自然と接する機会の少ない昨今、家族を連れて、また来ようと思いました。

（KK柄谷工務店）

緑の学習会——雨にもめげず植物園へ

原田　奉紀

私は参加を申し込むときからなぜか心に期待するものがあった。それゆえ参加証をもらったときは嬉しくなり、すぐにテキストの「街路樹」を購入した。…が当日は朝から激しい雨が降っていた。この分では折角の学習会もお流れかと思いながら京阪京都三条に着いた。バスで約20分京都植物園前で下車、雨のせいか人通りがほとんどない。

ケヤキ並木の前で協会の人の顔を見て、今日は中止ではなかったと一安心〔伊佐先生の説明を聞くまでは恥ずかしながら「美しい並木道だなあー」。「何という木だろう」という程度で、仕事ではケヤキという木材を知りながら自然のケヤキを知らない。万事このような状態で先生の説明を聞くことになる。〕

集合場所の大休憩所にしばらくして伊佐先生がこられた。テキストの写真で見るよりも気さくな人のように思えた。

早速学習会が始まった。雨は相変わらず激しく降っている。最初に休憩所の窓から見えるカンレンボクの説明から始まった。（この木は先生が大変気にいられているらしく、中国南京植物園より得た種子を自ら育成したもので、現在樹令36年、樹高14m、径32cm、緑蔭



京都植物園にて

樹として良いとのこと。)説明は丁寧でユーモアのある話し方で、より私の興味をそそった。その中でとくに記憶に残ったことを二、三紹介すると、

まず「クスノキ並木」は昔はもっと枝振りもよく立派な並木道だったけれども、それが終戦直後アメリカ軍の宿舎になったとき、今ある舗装道路を作ったため、あまり木が育たなくなった。……もしこの道路が舗装されていなかったらもっとクスノキらしくなったであろう。

「なからぎの森」では…この森はこの地域に残された唯一の自然林でかつて山城盆地でみられたエノキ、ムクノキの古木、クヌギ、カツラ、カゴノキなどが深い茂みをなしている。人がこの林に立ちいったとき、人間に人間らしさをとりもどしてくれるといわれた。奈良春日大社付近の自然林、大台ヶ原の原生林を思いうかべ同じような感銘を受けたことを思い出す。その土地柄に合った木が一番その木らしく育成し、素晴らしい自然林となり、そこに訪れる人間に心の故郷を思い起こさせるらしい。建築にも同じことがいえるような気がする。都会で新しい建築に取り囲まれ、新しい建築へ夢を託しながらもふと古い社寺、建物に立ちよったとき、建物の故郷に帰ったような気がするのにも似ているようだ。そしてここ植物園にも公害の影響を受けたと思われる多数の木があった。説明では秋の素晴らしい紅葉がなぜか色褪せてきているという。憂うつなことである。今よく使われている道路の中央分離帯の緑はシャリンバイという木でこの木は本州の中部地方から四国、九州の海岸に自生する常緑低木で葉が厚くて硬く、強い光や風に耐えられる構造をそなえているため利用されるようになったという。

人が緑を破壊し公害をまき散らし、緑の最後の切札に海岸に自生する木を都市にもってきて使用せざるをえなくなってきていることを考えると、自然破壊もそこまできたかと不安と腹立たしさを感じる。建築も人間のスケールを越えた超高層ビルブームはなぜか新建築の末期的症状ととらえるのは考えすぎだろうか。

この学習会は期待通り私に考えさせられることを多く与えてくれたと思う。(大阪市交通局)



ハンバスグラス



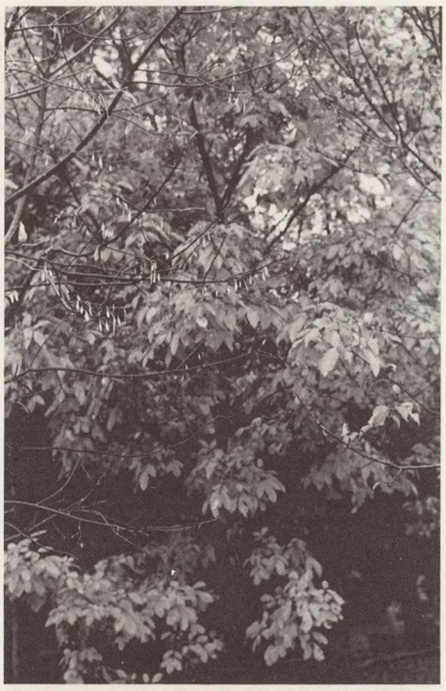
ランダイスギ



カンレンボク

日　時　昭和49年10月19日(土)　10：00→17：00
観察地　京都府立植物園・上賀茂神社・太田神社
見　学　国宝・上賀茂神社本殿、権殿その他
講　師　京都市嘱託（元京都大学農学部講師）
　　伊佐義朗氏
　　京都府文化財保護課　佃　忠夫氏
参加者　23名
●観察、見学終了后、上賀茂神社殿のご厚意で社務所を拝借し、佃講師をまじえて懇談会を催した。

写真撮影：大隅驍子(竹中工務店)



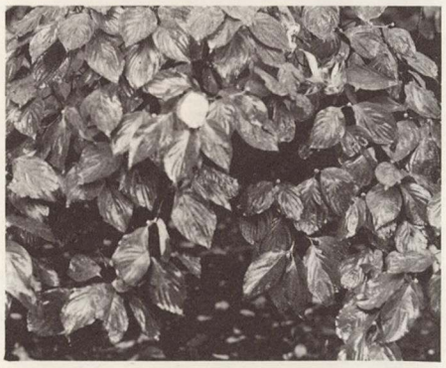
トネリコ



ネグンドカエデ



ハリギリ



ヤマボウシ



日本建築総合試験所だより 29

GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION

本試験所：〒565　吹田市藤白台5丁目125　　電話／大阪(06)872－0391代表
大淀分室：〒531　大阪市大淀区長柄西通2丁目35　電話／大阪（06）351－7217

新年のごあいさつ

理事長　坂　静雄

明けましておめでとうございます。

昨年は一般経済界の不況下にあって当所の業績にも多少の影響は受けましたものの、概ね順調に推移いたしましたこと、偏えに関係各位のご支援の賜と深く感謝いたしております。

当所では目下施設整備計画の一環として、3月末完成を目標に動風圧試験棟の建設工事を進めておりますが、新年度も引き続いて一般材料試験施設の拡充を図り関係方面のご期待に添うべく計画いたしておりますので、本年も一層のご支援をお願い申し上げる次第でございます。

謹　　告

建築技術安全審査委員会の設置について

このたび近畿ブロック特定行政庁のご要請により、建築物の一部について、その部材、構法並びに防災等の安全性を審査するため、当試験所に標記委員会を設置し、本年1月から下記取扱要領により業務を開始することになりましたので、お知らせします。

近畿建築行政連絡会議構造等審査取扱要領

次の各号に該当する構造方法等について、事前に財団法人日本建築総合試験所審査機関の技術的審査を受け、構造耐力上支障がないと判定され、かつ建築基準法施行令第3章の規定を満足するものに対しては、建築基準法第20条の規定に基づき安全性を確認されたものとして取扱う。

(I)審査を受けることにより建築基準法第20条に基き確認される高層建築物等。

(1)高層建築物

31m＜鉄骨造 ≦50m

45m＜鉄筋コンクリート造 / 鉄骨鉄筋コンクリート造 ≦50m

(2)ＨＰＣ工法（ただし、建築主事が在来工法とみなすものは除く）

(3)現場打ち及びプレキャストコンクリートによる壁式鉄筋コンクリート造で特殊なもの（個別審査）

(II)確認上、判断の根拠として審査を必要とするもの

(1)高強度コンクリート（Fc28＞270kg/cm²）及び太径鉄筋（D51φ等）、その他特殊な材料を用いるもの

(2)異種基礎を併用するもの

(3)壁式とラーメン構法の大規模な併用（立面的及び平面的併用）

(4)その他建築主事が意見を求めるのが適当と判断したもの

（例）(ア)解析が特殊なもの・(イ)継手（鉄筋）の特殊なもの・(ウ)塔状物の特殊なもの・(エ)水中構造物・(オ)吊り下げ構造物・(カ)ラツクビル及び立体駐車場で特殊なもの・(キ)プレストレスト構造で構造計画上疑義を生ずるもの・(ク)電子計算機の使用に関して判断の困難なもの（意見を求める点を申し込みの際明記する）

(カ)大規模工作物

(a)令第138条1項1号中、高さが100mを超えるもの

(b)令第138条1項2号中、高さが50mを超えるゴルフネット類

(c)令第138条1項3号中、高さが100mを超えるもの

(d)令第138条1項4号中、高さが100mを超えるもの

(e)令第138条1項5号中、高さが10mを超えるもの（原則として10mを超えるものは認めない）

(f)令第138条2項中、1.2.3号でその構造が特殊なもの

(g)製造施設でその構造が特殊なもの

別　　記

審査機関

1．財団法人　日本建築総合試験所

大阪府吹田市藤白台5丁目125番地の8　〒565 TEL 06－872－0391

2．上記法人内に建築技術安全審査委員会を設置し審査する。又必要に応じ下記小委員会を構成する。

(ア)高層建築物構造審査小委員会

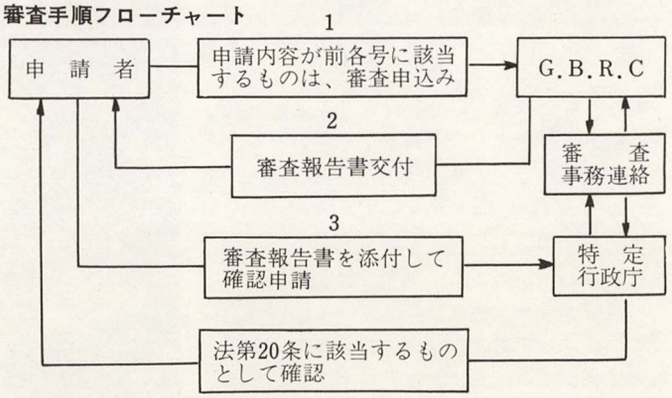
（高層建築物に付随する防災性能審査を含む。）

(イ)建築構造審査小委員会

コンクリート系、金属系、基礎系

なお、将来は防火性能審査、防災性能審査の拡充を計る予定である。

審査手順フローチャート



建築技術安全審査委員会委員名簿（五十音順）

五十嵐　定　義	阪大教授	日　置　興一郎	大市大教授
石　崎　灘　雄	京大教授	堀　内　三　郎	京大教授
井　上　　豊	阪大助教授	堀　江　悟　郎	京大教授
岡　田　光　正	阪大教授	松　浦　邦　男	京大教授
鬼　武　信　夫	近大教授	水　畑　耕　治	神大助教授
貝　戸　俊　一	大阪市役所	南　井　良一郎	京大教授
金　谷　　弘	神大教授	森　田　司　郎	京大助教授
金　多　　潔	京大教授	山　肩　邦　男	関大教授
川　村　純　夫	大市大教授	山　田　　稔	神大教授
堯　天　義　久	神大教授	六　車　　熙	京大教授
小　堀　鐸　二	京大教授	横　尾　義　貫	京大教授
鈴　木　計　夫	阪大助教授	若　林　　実	京大教授
富　永　　恵	京大助教授	脇　山　広　三	阪大助教授
鳥　海　　勲	福井大教授	鷲　尾　健　三	明石高専校長
中　村　恒　善	京大助教授		

日本建築協会

月間の動き

昭和49年11月分

評議員会

定時評議員会に代えて書面表決
11月21日付をもって下記事項について文書により、お諮りした。
昭和50年度評議員選出数決定の件

理事会

20日　4時～5時　　於会館集会室
出席者　塚本、福田正副会長ほか9理事
議事　(1)定時評議員会に代え書面表決の件
(2)名誉会長竹腰健造先生米寿を祝う会企画の件
(3)全国建築審査会会長会議に寄付金の件
(4)事務局職員下期賞与支給の件
(5)建築6団体新年交礼会開催の件
(6)建築8団体共催「建築基準法改正案等講習会」開催の件
(7)入退会者承認の件
(8)報告事項

編集理事会
20日　3時～4時　　於会館3階会議室
出席者　福田副会長　松村編集委員長、渡辺理事
議事　(1)本年度雑誌費収支経過と見込
(2)今後の方針、そのほか

事業委員会

若い会員の集い小委員会
5日　6時～8時半　　於会館集会室
出席者　西村副委員長　中村、広瀬、宮後、森下各幹事ほか9名
議事　(1)第6回「建築家のための“みどり”学習会(2)」実施報告
(2)第7回「名古屋のふるいまち、あたらしいまちをみる」参加申込について
(3)第8回「コンピュータとの対話」の企画について
(4)第9回「解体修理中の古建築見学会(3)」の企画について
(5)建築家に話を聞く会(3)」の企画について
(6)「都市と水」企画分科会について
(7)そのほか

コンピュータ分科会
5月　8時半～10時　　於会館集会室
出席者　印藤主査ほか4名
議事　(1)会告案原稿作成打合せ

名古屋の見学打合会
5日　8時半～10時　　於会館集会室
出席者　西村副委員長ほか2名
議事　(1)参加者動員割当及び調整
(2)当日のスケジュールの再確認と各委員担当役割について

樹の話シリーズ打合会
5日　8時半～10時　　於会館集会室
出席者　森下幹事ほか2名
議事　(1)12月、1月号原稿作成及び調整について
(2)カット図について

広報小委員会
6日　6時～7時半　　於会館集会室
出席者　三品副委員長、上松幹事ほか5名
議事　(1)「自然史博物館」と「身体障害者スポーツセンター」写真展示報告
(2)「データー通信局舎」の写真展示企画について
(3)「中河内及び北河内府民センター」の写真展示企画について
(4)芦屋浜（アステム）プロジェクト説明会企画延期について
(5)建築8団体共催「建築基準法改正案等講習会」開催について
(6)そのほか

見学会小委員会
7日　6時～7時半　　於会館集会室
出席者　荒川委員ほか3名
議事　(1)10月に実施した見学会の報告
(2)11月の見学会企画の参加申込状況報告
(3)50年2月以降の見学会企画について
(4)そのほか

委員会
14日　6時～8時　　於会館集会室
出席者　窪田委員長　小泉、花房、柳、西村各副委員長　打浪幹事
議事　(1)各小委員会の事業報告と事業企画について
(2)竹腰健造先生米寿を祝う会の経過報告
(3)そのほか

編集委員会

3月号インテリア特集編集幹事会
5日　5時半～8時　　於会館集会室
出席者　松村委員長、川崎浩特別幹事ほか4名
議事　昭和50年3月号「インテリア」(仮称)特集の企画のためのフリートーキング

委員会
11日　4時～7時　　於会館3階会議室
出席者　松村委員長、福田副会長ほか2名
議事　(1)12月号＝ビル防災に関する12章特集経過報告
(2)昭和50年1月号＝図書館特集報告
(3)2月号（構造物の安全性と愛知県政100年事業－新建築－）の件
(4)3月号＝インテリア特集編集幹事会案報告
(5)4月号＝PC板を使用したプレハブ住宅特集（仮称）の件
(6)5月号法令特集編幹事会の件
(7)実務の頁次年度企画の件
(8)そのほか

広告企画小委員会
13日　4時～6時　　於会館集会室
出席者　隅田副委員長ほか7名
議事　(1)11月号・12月号特別広告結果と経過報告
(2)昭和50年3月号インテリア特集広告企画

図書館特集執筆者打合
13日　5時～9時　　於会館集会室
出席者　片倉健雄、篠塚宏三、中村恭三
議事　1月号図書館特集の執筆

5月号法令特集編集幹事会
18日　5時～8時　　於会館集会室
出席者　片倉健雄ほか4名
議事　昭和50年5月号法令特集の企画

図書館特集執筆者打合
20日　10時～1時　　於会館集会室
出席者　片倉健雄、篠塚宏三
議事　1月号図書館特集の執筆

インテリア特集編集幹事会(第2回)
27日　5時半～8時半　　於会館集会室
出席者　川崎浩、中村隆一、福岡喜久雄ほか4名
議事　3月号インテリア特集のテーマと執筆者の選定

建築データシート委員会

企画分科会
7日　正午～2時　　於会館3階会議室
出席者　酒井幹事ほか2名
議事　(1)委員会運営要領(案)の修正について
(2)そのほか

Bグループ打合会
22日　午前11時～午後1時
於会館3階会議室
出席者　吉村幹事ほか3名
議事　(1) No.49号（5月号）の発行シートについて
(2)そのほか

住宅委員会

委員会
11日　5時半～8時　　於会館集会室
出席者　小西、岩本正副委員長ほか11名
関西電力㈱3名
議事　(1)関西電力㈱社員により電気の安全使

用につき説明を聞き、質疑応答
(2)くずは住宅相談所の相談員派遣について
(3)昭和49年度の住宅相談所開設について

住宅展小委員会

26日　5時半～9時　　於会館3階会議室
出席者　岩本、古郷各委員
議事　昭和49年度住宅相談所に関する件

法　規　委　員　会

委員会

18日　3時～5時　　於会館集会室
出席者　市川委員長ほか11名
議事　(1)建築関係法令の研究フリートーキング
(2)法令特集の件
(3)法令コーナー原稿の件
(4)そのほか

建　材　委　員　会

委員会

29日　5時半～8時半　　於会館集会室
出席者　小西、牧田、元木正副委員長ほか8名
議事　(1)ブラジルの建築及び一般事情について元木貞次氏より説明を聞く
(2)今後の委員会活動について

竹腰健造先生米寿を祝う会実行委員会

会場分科会

20日　5時～7時　　於太閤園
出席者　小泉主査ほか3名　太閤園　林田氏
議事　(1)会場設営について
(2)料理飲物などについて
(3)ホステスについて
(4)そのほか

委員会

26日　6時～8時　　於会館集会室
出席者　小泉、上松、森各主査ほか5名
議事　(1)収支予算案について
(2)会場分科会の経過報告
(3)竹腰健造先生よりの申入れ事項について
(4)「竹腰健造先生に話しを聞く会」記録の表紙紙質並びに表紙のタイトルについて
(5)そのほか

見　学　会

当麻寺の丸窓の席と五帖の席をみる

9日　1時半～5時
参加者　27名
講師　帝塚山学院大学教授
工学博士　岡田孝男氏

京都御苑内・京都御所と仙洞御所の拝観

28日　午前10時半～午後2時半
参加者　A班、B班共合計54名

若　い　会　員　の　集　い

名古屋のふるいまちとあたらしいまちをみる

16日及17日（1泊2日）
高蔵寺ニュータウン・江戸時代の町家と有松しぼり
参加者　38名

第20回工高生デザインコンクール表彰式

22日　2時～3時　　於会館集会室
出席者　野々村審査委員長ほか3審査員
関西建築家懇談会一の会清水和彌氏
谷口、斉藤正副委員長ほか3名
野々村審査委員長の審査結果の報告に続いて入選者に対し賞状、賞牌を谷口委員長より、最優秀作品に対して賞状と記念品を関西建築家懇談会一の会清水代表よりそれぞれ授与した後、茶話会を開催した。なお終了後、中之島センタービルの見学を行った。

講　習　会

建築基準法改正案等講習会

（建築8団体共催）
29日　9時半～16時　　於御堂会館
聴講者　850名
講師　建築基準法改正案日影規定について
建設省住宅局市街地建築課課長補佐
藤川和孝氏
建築基準法改正案遡及規定について
建設省住宅局建築指導課課長補佐
吉田正良氏
特殊建築物定期調(検)査について
大阪府建築部建築指導課主幹
西脇清氏
建築基準法関係法令について
大阪府建築部建築指導課主幹
梶原明氏

四会連合工事請負契約々款委員会

15日　正午～2時　於東京会館
当日は建設省建設業課　井上課長、西補佐が出席改正案について意見を伺った。本会より福田委員が出席

建　築　業　務　基　準　委　員　会

26日　2時～4時　於日本建築学会
出席者　山根委員ほか
議事　(1)施工監理と技能士の活用について
(2)建築業務責任と行政の一元化について
(3)そのほか

建　築　ク　ラ　ブ　朝　食　会

役員会

8日　正午～1時半　　於会館集会室
出席者　小林清氏ほか4名
議事　(1)12月の集会について
(2)そのほか

朝食会

12日　8時～9時半　於大阪グランドホテル
出席者　76名
当日は政治経済評論家　卜部和義氏より、「アメリカの対日政策と日本経済」についてのお話を伺った。

11　月　の　入　会　者（敬称略）

〔団体会員2社〕

東洋シポデック㈱　㈱前田鉄工所大阪営業所

〔個人会員20名〕

稲垣　吉紀	才田　勝	福田　博司
内田　明	鈴木　政雄	古牧　照康
内田　直樹	丹波　洋一	丸尾　公一
小川　進吾	中井　正則	三木　久良
大西　清司	中原　皓和	矢吹　英明
奥野　憲一	長渡光二郎	山田　紀一
佐藤　孝	馬場　淳司	


当麻寺　東塔


当麻寺　茶室見学会


京都御所


仙洞御所

賀　正

1975

設計事務所有志



一級建築士事務所
株式会社 **A.R.I（あり）建築事務所**

代表取締役　亀井晃治

事務所　大阪市南区谷町7丁目12番地の1　新谷町第3ビル2F　TEL（代表）大阪(06)768－1405
アトリエ　東大阪市上石切町2丁目14－35　TEL 07437(3)6137
分　室　大阪市旭区新森1－7－33－910　TEL 大阪(06)953－1284

RIA建築綜合研究所大阪支所

所長　山口文象
支所長　山家啓助

大阪・大阪市北区太融寺町33　大阪合同ビル601　電話 312－9154
東京・270－5861　名古屋・262－3941

青田設計事務所

所長　青田豊吉

姫路市坂田町54（姫路建設会館内）電話自宅　07933(2)0235
〒 670

株式会社 **赤崎建築事務所**

代表取締役　赤崎尚信

大阪市西区立売堀北通り1－90 第三富士ビル　TEL (06)541－7625代表

株式会社 赤松菅野建築設計事務所

代表取締役　赤松　修

大阪市北区梅ヶ枝町123（瑞穂ビル）　電話 06（364）5651
東　京・横　浜・大　宮・富士ノ宮

株式会社 浅野建築設計事務所

代表取締役　浅野真澄

本　社　〒543　大阪市天王寺区城南寺町9-27 カトウビル　TEL06 (768)0201番(代)
TEL06 (768)1870番
高津分室　〒543　大阪市天王寺区東高津町13-11 八竹ビル　TEL06 (768)0226番
奈良分室　〒639-02　奈良県北葛城郡香芝町下田256番地　TEL0745 (77) 7805番

株式会社 東建築設計事務所

代表取締役　東　秀保

大阪市北区天神橋筋3－67　マチスビル　電話 06 (358) 5598・3497

石川建築事務所

石川寛三
石川　宏

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町111　電話 06 (779)9491(代)
〒170 東京都豊島区駒込1－11－9　電話 03 (946)5431(代)

株式会社 泉設計事務所

代表取締役　長谷川元耶
代表取締役　宮川達郎

大阪市南区横堀7－4 (新田ビル)　電話 251－7691(代)

株式会社 泉沢建築設計事務所

代表取締役　泉沢哲史

大阪市北区真砂町48－1　オオシマビル　電話 06(364)9071～2

株式会社 伊藤建築設計事務所

代表取締役　伊藤鑛一

名古屋市中区錦3丁目3-6(日本経済新聞ビル)　電話〈052〉951-1110(代)
東京事務所　東京都千代田区神田美土代町7(久保ビル)　電話〈03〉294-6061(代)
大阪出張所　芦屋市山手町69　電話〈0797〉22-2163

株式会社 井上久雄建築設計事務所

代表取締役　井　上　久　雄

〒550 大阪市西区京町堀1丁目38　千島ビル　電話大阪 06（443）7386㈹

株式会社 井上達明建築事務所

代表取締役　井　上　達　明

〒530　大阪市北区鶴野町５１番地（安田ビル）　電話 06(372)2821(代)

建宿真智雄

株式会社 **建築デザイン** 1級建築士事務所

株式会社 **緑地デザイン** 技術士事務所

株式会社 **設備デザイン** 設備士事務所

大阪市東区南本町４－47 イトウビル
〒 541　TEL（06） 252－1011～4

東京都千代田区永田町2－14－3 赤坂東急ビル
〒 100　TEL（03） 580－1011～4

京都市中京区柳馬場通御池下る 京都朝日ビル
〒 604　TEL（075）221－1101～4

株式会社 今西建築デザインルーム

代表取締役　今　西　茂　雄

大阪市西区北堀江通２－４７ TEL 541－３０５１～３

株式会社 入江三宅設計事務所

代表取締役　三　宅　　晋

東京都港区芝西久保桜川町２８（第10森ビル） 電話 03（501）0286㈹
大阪市東区北浜４－４８－３ 電話 06（201）５３０５

株式会社 浦辺建築事務所

代表取締役　浦辺鎮太郎
取締役　松村慶三

大阪市北区梅田八番地・新阪急ビル　電話06(341)1680
東京事務所　東京都千代田区平河町２の７塩崎ビル
福岡事務所　福岡市中央区大名１－９－27西部ビル

株式会社 栄和設計事務所

取締役社長　小泉善重
専務取締役　神山一郎

本　　社　大阪市福島区堂島浜通4丁目14　TEL大阪（452）1651～4
京都連絡所　京都市南区唐橋西寺町40番地　TEL京都（691）4946

株式会社 久米建築事務所

取締役社長　永井賢城

本　　社　東京都港区西麻布1丁目13番11号　電話03（403）0251大代表
大阪事務所　大阪市北区堂島中1丁目23番地　常島中町ビル　電話06（344）2096代表

コータケ建築設計事務所

所長　高武主計

大阪市西区江戸堀5－155（新山越ビル）　TEL 06(448)0178・2408

株式会社 小林得志建築事務所

代表取締役　小林得志

〒530　大阪市北区堂島北町20　藤田ビル内　電話 06(341)5658(代)
〒662　分室　西宮市丸橋町6の16　電話 0798（66）2394

株式会社 篠田川口建築事務所
株式会社 協同設備事務所

代表取締役社長　川口喜代枝

名古屋市東区富士塚町3－2
TEL 962－7581(代)
TEL 971－2255(共同)

株式会社 昭和設計

計画・設計・監理

代表取締役社長　岡本行善
代表取締役専務　林唯夫

本社事務所　大阪市西区西長堀北通1-8 四ツ橋ビル　TEL代表 532－3421
神戸事務所　神戸市葺合区八幡通4丁目2番17号　久徳ビル　TEL078－251－0651

建築土木設計監理・建設コンサルタント

株式会社 神京設計事務所

Shinkyo Associated Architects & Engineers

代表取締役　大川慶一　　専務取締役　越智隆晴

〒650 神戸市生田区中山手通5丁目15－17浜地ビル5F県庁正面向い　TEL(078)371－2929代表

株式会社 新日本設備計画

代表取締役　長谷川幸雄

本　　社　大阪市北区金屋町2－31（佐川ビル）　電話 353－4061(代)
九州事務所　福岡市博多区博多駅前4丁目38－26（柏村ビル）　電話 431－7823(代)

株式会社 創美設計

代表取締役　中原英雄

大阪市北区末広町17.日生不動産扇町ビル9階　TEL大阪(06)312－3587代表

株式会社 大建設計

取締役社長　高橋慶夫

本　　社　大阪市西区京町堀2丁目75番地　大阪(441)9351(代)
大阪本社　大阪市西区京町堀2丁目75番地　大阪(441)9351(代)
東京本社　東京都港区新橋1丁目10番7号(大和銀行新橋ビル)　東京(572)4595(代)
名古屋事務所　名古屋市中区栄4丁目6番15号名古屋日産生命館ビル　名古屋(261)8531(代)
九州事務所　北九州市小倉北区紺屋町9番1号　明治生命小倉ビル6階　小倉(521)4285(代)
分　　室　水島・大分・室蘭

株式会社 竹内建築事務所

代表取締役　内藤一真

大阪市南区長堀橋筋2丁目35の1（日亜ビル）　電話（211）2706（代）

株式会社 田中小西建築事務所

取締役社長　小西　岬

本　　社　大阪市西区阿波座南通2－60　電話(532)4051大代表
東京事務所　東京都千代田区神田鍛冶町3ノ3(大木ビル内)　電話(256)9301代　表
名古屋事務所　名古屋市中区丸の内1の8番39号(三信ビル内)　電話(211)4035
大津事務所　大津市梅林1丁目4番15号(滋賀県教育会館内)　電話(22)5373～4番

株式会社 地域計画・建築研究所

代表取締役所長　三輪泰司
大阪事務所長　糸乗貞喜
京都事務所長　霜田稔
東京事務所長　河野通祐

本社事務所　京都市下京区四条通高倉　大和銀行京都ビル8階　TEL (075)221-5132㈹
大阪事務所　大阪市淀川区西中島3丁目20番地9号　中島ビル6階　TEL (06) 302-6121㈹
東京事務所　東京都港区芝西久保明舟町14番地　博友ビル　TEL (03) 591-0682㈹

株式会社 翼建築設計事務所

大阪事務所次長　川岡司郎
京都事務所次長　山田寛治

本社・大阪事務所　大阪市西区靱1－130(布亀ビル)　TEL06－441－2288㈹
京都事務所　京都市中京区西ノ京南原町1番地(中常ビル)　TEL 075－811－4166(代)

東西建築サービス株式会社

取締役社長　布袋國雄

本　社　大阪市東区横堀2－48　電話 202－3626
東京事務所　東京都中央区日本橋馬喰町2-1-1　電話 663－1765
(住友銀行 浅草橋ビル6階)

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役　東畑謙三

本　社
大阪事務所　大阪市東区伏見町5丁目19　電話　大阪(06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2(永田町ビル)　電話　東京(03)581-1251
名古屋事務所　名古屋市中村区堀内町2(堀内ビル)　電話名古屋(052)571-8471
北九州支所　北九州市小倉区上到津本町4丁目(九州航空ビル)　電話　小倉(093)651-4467

徳永・田村建築事務所

徳永正三・田村又夫

〒541 大阪市東区博労町2－41〈中博ビル〉　電話 〈06〉262－2310
〒103 東京都中央区日本橋兜町2－38〈太洋ビル〉　電話 〈03〉668－3056〈代〉

株式会社 内藤建築事務所

取締役会長　内藤資忠
取締役社長　片山光生

本　社　〒606 京都市左京区中大堰町189番地　電話075(781)6195代
事務所・出張所　青森・東京・松本・静岡・名古屋・京都・奈良・大阪
四国・福岡・大分

中根庭園研究所

所　長　中根金作

建設コンサルタント（造園部門）　（建設省認定　第445号）

京都市左京区下鴨森本町15　電話 075（781）1107

自宅　京都市右京区谷口唐田の内町1の6　電話 075（463）5548

公園一般・造園設計・施工・監理

株式会社 日建設計

取締役社長　塚本猛次

大阪市東区横堀2丁目38番地　電話203－2361（大代表）

株式会社日新建築設計事務所

代表取締役　藤村清一

〒530　大阪市北区壺屋町1丁目66番地　電話 06（352）6161（代表）

株式会社根津建築事務所

代表取締役　根津耕一郎

本　社　大阪市北区梅ヶ枝町81（大阪弁護士ビル）　電話(06)364－8301(代表)

阪神造園建設業協同組合

理事長　当麻英夫

専務理事　加藤亮太郎

組合員一同

事務所　大阪市北区神山町27の2　造園会館内電話大阪(312)4553代表

株式会社 彦谷建築設計事務所

代表取締役　彦谷邦一

大阪市東区横堀1－23(寺杣ビル)電話 231－2810・7634

株式会社 福永建築設計事務所

代表取締役　福永　薫

代表取締役　福永健一

大阪市南区順慶町通4ノ61　電話 (06) 251−3102・5189



株式会社 宮後建築事務所

代表取締役　宮後　健

本　社　大阪市天王寺区上汐町6−35　電話 772−0165(代表)
分　室　大阪椎寺町・大阪本町

有限会社 村野,森建築事務所

村野藤吾　森忠一

大阪市阿倍野区阿倍野筋2−3−8　電話 (624) 0926代表
研究室　大阪市南区心斎橋筋1−43　電話 (253) 0875代表
東京事務所　東京都中央区日本橋茅場町2−3　電話 (669) 5651



株式会社 安井建築設計事務所

取締役社長　佐野正一

本　社　大阪市東区島町2丁目7番地　電話 06(943)1371(大代)
事務所　大阪・東京・名古屋・神戸・九州

株式会社 洋建築事務所

代表取締役　設楽貞三

大阪市北区松ヶ枝町88(大徳ビル)　電話 358−6372(代)

株式会社 吉田建築事務所

取締役社長　吉田信武

大阪市西区北堀江上通3−22(久竹ビル)　電話 (538) 2991 代表

賀　正

1975

建設業者有志

株式会社　青　木　建　設

取締役社長　青　木　益　次

常務取締役
大阪支店長　吉　田　卯　之　松

本　社　大阪市大淀区大淀町南1の5　TEL 06 (458) 5851
東京本社　東京都渋谷区渋谷2－17－3　TEL 03 (407) 8511
大阪支店　大阪市大淀区大淀町南1の5　TEL 06 (458) 5851



株式会社　淺　沼　組

取締役社長　淺　沼　猪　之　吉

本　社
本　店・大阪市天王寺区東高津町8番地の1　電話 代表 (768) 5222
支　店・東京・名古屋・札幌・仙台・福岡・広島
営業所・旭川・秋田・盛岡・福島・水戸・北関東・千葉・立川・横浜・新潟
北陸・浜松・静岡・岐阜・長野・三重・滋賀・奈良・京都・大和郡山
和歌山・神戸・岡山・山口・高松・徳島・松山・熊本・沖縄



株式会社　新（アタラシ）工　務　所

取締役社長　新　昭　一

本　店・大阪市北区曽根崎中一丁目四三　電話 代表 大阪 (313) 1331番
支　店・東京都千代田区猿楽町二丁目一番十四号　電話 代表 東京 (291) 3741番
営業所・名古屋市中区大須四丁目一番七一号（時計ビル）　電話 名古屋 (262) 1725番



株式会社　あめりか屋

取締役社長　前　野　慶　太　郎

本　社　〒530 大阪市北区常安町17番地　電話 代表 (444) 1501番



安藤建設株式会社大阪支店

常務取締役大阪支店長　野　口　清

大阪市福島区上福島北通1－17－1　電話 代表 453－2190
本　社・東京都中央区八重州四丁目七番地　電話 大代表 (272) 7411
支　店・名古屋・仙台・静岡・九州・広島・横浜・札幌
営業所・千葉・横浜・水戸・盛岡・新潟・神戸・京都・沼津・札幌・宇都宮・北九州・熊本

株式会社 井上組

取締役社長　井上福蔵

本社　大阪市都島区網島町6番25号　大阪(351)0530　(352)4031～4
出張所　神戸市生田区加納町三丁目二番地　電話　神戸(33)1780

株式会社 今西組

取締役社長　今西壽雄

本社　大阪市天王寺区上本町七丁目二番地ノ一　電話06(772)1251
支店　東京都新宿区内藤町一番地　電話03(354)0581
営業所　京都・神戸・奈良・埼玉

株式会社 大林組

取締役社長　大林芳郎

東京本社・東京都千代田区神田司町2丁目3番地　電話 大代表(292)1111番
本店・大阪市東区京橋3丁目37番地　電話 大代表(943)1131番
支店・札幌・仙台・横浜・名古屋・神戸・岡山・広島・高松・福岡

株式会社 奥村組

社長　奥村俊夫

本社　大阪市阿倍野区松崎町1の2の3　電話 大阪(06)621－1101(大代表)
東京本社　東京都港区元赤坂1の3の10　電話 東京(03)404－8111(大代表)
支店　札幌・仙台・東京・浦和・名古屋・大阪・広島・高松・北九州・福岡

鹿島建設株式会社

取締役社長　渥美健夫
取締役大阪支店長　金田伝一郎

本社　東京都港区元赤坂1－2－7　電話 03　(404)3311(大代)
大阪支店　大阪市南区鰻谷西之町6番地（不銀ビル）　電話 06　(245)2311(大代)

株式會社柄谷工務店

取締役社長　柄谷吉太郎

本社　尼崎市玄番南之町4番地　電話大阪 06(411)1451(代)
営業所　大阪・西宮・神戸・高砂・豊田

株式会社 神崎組大阪支店

取締役支店長　江藤忠實

大阪市北区曽根崎新地1丁目21　電話 (341) 7371 (代表)
本　社・姫路市北条口86－3　電話　姫路 (23) 2021(代表)

株式会社 近畿建設

代表取締役　川崎敬三

本　　社　大阪市西区江戸堀5丁目118 和光ビル　電話　大阪06 (448)5601代
滋賀支社　滋賀県栗太郡栗東町岡193の1　電話　07755 (2)1361～2

熊谷組

専務取締役大阪支店長　泉　治郎一

大阪支店　大阪市都島区片町2丁目10番5号　電話 (352) 1151番(大代表)
本　社　東京都新宿区筑土八幡町22番地　電話 (260) 2111番 (大代表)
支　店　札幌・仙台・北関東・東京土木・東京建築・横浜・名古屋・広島・四国・福岡・福井・那覇

甲南建設工業株式会社

代表取締役　原　精一

大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号　電話(06)302－1551代表
東京都千代田区神田須田町1-18(共同ビル)　電話(03)253－4455代表
尼崎市南武庫荘2丁目7番23号　電話(06)427－9631代表
神戸市葺合区八幡通4丁目2番8号(松井ビル)　電話(078)221－6293代表
堺市宿屋町東3丁1番19号　電話(0722)29－0088

株式会社 鴻池組

取締役社長　鴻池藤一

本　　店　大阪市東区北久宝寺町4－27　電話　代表 (252) 3100
支　　店　東京・名古屋・広島・福岡・鹿児島・松江・仙台・高松・横浜・札幌・神戸・京都・金沢

佐藤工業株式会社

取締役社長　佐藤欣治・常務取締役大阪支店長　山本良勝

本　　社・東京都中央区日本橋本町4－8　電話　東京 (662) 2331(大代)
大阪支店・大阪市東区北浜1－25　電話　大阪 (203) 7221(代表)
支　　店・東京・名古屋・富山・札幌・福岡・仙台・広島

島藤建設工業株式会社 大阪支店

常務取締役　西田康治
取締役支店長　亀田晃

本社　東京都港区赤坂8丁目5番34号　電話　東京（403）1511
支店　大阪市北区茶屋町31番地の2　電話　大阪（372）6001代表

清水建設株式会社

社長　野地紀一

本社　東京都中央区宝町二ノ一
支店　大阪・名古屋・広島・高松・福岡・金沢・仙台・札幌

住友建設株式會社

常務取締役大阪支店長　小山武

大阪支店　大阪市東区北浜5丁目22番地(新住友ビル2号館)電話（220）8712
本店　東京都新宿区荒木町13番地　電話（353）代表5111番

株式会社 錢高組

取締役社長　錢高輝之

本店　大阪市西区阿波座上通3丁目2番地　電話 大阪（531）6431番(大代表)
支店　札幌・仙台・東京・名古屋・広島・福岡
営業所　青森・秋田・盛岡・福島・新潟・前橋・浦和・千葉・横浜・静岡・津
金沢・京都・神戸・岡山・松江・山口・高松・松山・北九州・大分・熊本
長崎・鹿児島・沖縄

大幸建設株式会社

取締役社長　大沢幸平

本社　大阪市西区西長堀北通一丁目五番地　電話 06(538)0881代
本社分室　大阪市東区今橋五丁目二番地　電話 06(203)0373代
東京支店　東京都渋谷区渋谷二丁目十番七号　電話 03(407)7426代
名古屋支店　名古屋市中村区若狭町一ノ二五　電話052(581)7376代
松江営業所　松江市和多見町一七五　電話0852(21)3747代
出張所　富山・岐阜・滋賀・兵庫・岡山・広島・愛媛・福岡・静岡

大末建設株式会社

取締役社長　山本末男

本社　大阪市南区大和町1番地　TEL06(213)0555(大代表)
支社　東京・大阪・九州

大成建設株式会社

取締役社長　南　幸治
専務取締役　北村善治
常務取締役支店長　佐古一

本　社　東京都中央区銀座2丁目5番11号　TEL東京(567)1511大代表
大阪支店　大阪市東区本町4丁目27番地　TEL大阪(262)1131大代表
支　店　東京・名古屋・横浜・福岡・高松・新潟・仙台・札幌・広島

大日本土木株式会社大阪支店

関西駐在常務取締役　山田豊
常務取締役支店長　高木政夫

530 大阪市北区堂島北町9　電話 06(341) 代表5931
東京本社　162 東京都新宿区市ヶ谷田町2丁目35　電話 03(268) 5511
本　店　500 岐阜市六条1483番地5　電話 0582 (72) 3141
支　店　東京・横浜・仙台・名古屋・九州
営業所　神戸・京都・奈良・大津・和歌山・上六・高松・岡山・広島

株式会社竹中工務店

取締役社長　竹中錬一

本　店　大阪市東区本町4丁目27　電話 大阪(252) 1201番(大代表)
支　店　札幌・仙台・東京・横浜・千葉・静岡・名古屋・富山
営業所　京都・神戸・岡山・広島・高松・福岡・北九州・沖縄

鉄建建設株式会社大阪支店

取締役支店長　金子越郎

大阪市大淀区天神橋筋六丁目五番地(天六阪急ビル)　電話(358) 0321(代表)
本社・東京都千代田区三崎町二丁目五番三号　電話東京(262) 3411(代表)

東海興業株式會社大阪支店

大阪駐在専務取締役　小松英二
取締役支店長　田中巖夫

本　社　東京都千代田区丸の内3−4−2 日石ビル　電話 東京(212)3261
大阪支店　大阪市北区豊宮町3−2 住生豊崎ビル　電話 大阪(373) 1181
支　店　東京・名古屋・仙台・札幌・福岡

東洋基礎工業株式会社

TOYOKISO

取締役社長　杉村繁
取締役所長　石井蔀

本　社　東京都渋谷区広尾五丁目4-12(大成鋼機ビル)　電話 03 (444)2141
大阪営業所　大阪市西区京町堀1丁目156(中谷ビル)　電話 06 (441)6678

戸田建設株式会社大阪支店

常務取締役支店長　加納秀雄

大阪市東区本町3丁目27の1（センバ・セントラルビル）電話(252) 6311(大代表)
本社 東京都中央区京橋1丁目3番地
支店 東京・関東・横浜・名古屋・札幌・仙台・広島・福岡

飛島建設株式會社大阪支店

常務取締役支店長　木脇準

大阪市東区島町2丁目28番地　電話 大阪 (942) 2481(代表)
本社 東京都千代田区九段南2丁目3番28号
電話 東京 (263) 3151(大代表)

明日をささえる

西松建設

大阪建築支店 大阪市東区釣鐘町2丁目41番地
取締役支店長　板井正彦
本社 東京都港区芝西久保桜川町13番地

日東建設株式会社

取締役会長　長久保俊夫
取締役社長　石澤六郎
取締役支店長　本澤平八郎

本社 102 東京都千代田区平河町1丁目4番地9　電話東京 03 (265) (大代表) 4281番
支店 530 大阪市北区末広町12番地(新末広ビル)　電話大阪 06 (351)代 0623 番

日本建設株式会社

社長　生田重政

本社 大阪市東区安土町4－5　TEL (261) 7591－8　〒541
支店 東京・名古屋・福岡・広島・仙台・札幌・四国・沖縄

野村建設工業株式会社

取締役社長　岩本義心

本社 大阪市東区高麗橋二丁目九番地　電話(202) 代表4791
東京支店 東京都千代田区大手町二丁目一番一号　電話(241) 代表4171

株式会社 間組大阪支店

専務取締役
支店長　岩波　光明

大阪市東区瓦町5丁目20番1号　電話 (201)2751(大代表)
本　店・東京都港区北青山2丁目5番8号　(405) 1111番(大代表)
支　店・東京・大阪・名古屋・福岡・仙台・北陸・札幌・広島・高松・海外工事局

長谷川組株式会社

取締役社長　長谷川為一

本　社　大阪市天王寺区大道町四丁目一三〇
電　話 (771) (代表) 4148・4149・4140
工作場　大阪市生野区巽四条町103の2
電　話 (791) 2744番

株式会社 藤木工務店

取締役社長　藤木鐵三

本社
大阪本店・大阪市東区両替町一丁目十三　電話　06(942) 1461(代)
支　店・東京都新宿区三栄町二三ノ四　電話　03(357) 1611(代)
倉敷市鶴形一丁目十ノ三二　電話 0864(22) 3330(代)
高松市丸ノ内十一ノ十三　電話 0878(51) 7272(代)
京都市右京区西院寿町十三　電話 075(311) 4131(代)
出張所・名古屋・津・静岡・岡山・新居浜・徳島・福岡・熊本

不二建設株式会社

取締役社長　山口吾郎

本　社　大阪市西区阿波座上通4丁目8　〒550 電話 大阪 (06) 541−5534代表・9301代表
支　店　東京都新宿区西新宿4丁目5番2号　〒160 電話 東京 (03) 377−5171代表
名古屋市中区千代田4丁目11番17号　〒460 電話名古屋 (052) 321−8481代表
出張所　仙台・福井・大垣・京都・姫路・岡山・博多・大分

株式会社 富士工 西日本支社

取締役支社長　二村和男

大阪市北区兎我野町108(聚楽ビル)　TEL 06-313-1081㈹ 〒530
本社・東京都港区高輪2−21−46　TEL 03-449-1111㈹ 〒108
東日本支社
支店・札幌・横浜・仙台・名古屋
営業所・青森・福島・千葉・浦和・宇都宮・多摩・沼津・松本・京都・神戸・岡山・高松・福岡・熊本

不動建設株式会社

取締役社長　庄野勝

大阪本社　大阪市東区平野町5丁目30番地　電話　大阪 (201) 1121
東京本社　東京都台東区台東1丁目2番1号　電話　東京 (831) 9111

未来をひらく フジタ工業

常務取締役大阪支店長　古賀文之介

大阪市北区堂島中2丁目38番地　電話（345）代表7671
本社・東京都渋谷区千駄ヶ谷4－6－15
支店・東京・札幌・横浜・名古屋・大阪・広島
九州・仙台・リマ・カラカス・サンパウロ

前田建設工業株式会社大阪支店

取締役支店長　林　甚四郎

支店　大阪市都島区東野田町2丁目4番20号　電話大阪（353）7891(代表)
本社　東京都千代田区富士見2丁目10番地の26号　電話東京（265）5551番(代表)

真柄建設株式会社大阪支店

取締役支店長　佐々木孝治

大阪支店　大阪市西区京町堀3丁目12番地　電話大阪（06）44－0641(代表)
東京本社　東京都千代田区麹町5丁目1番地　電話東京（03）263－1211(代表)
支店・営業所　東京・名古屋・金沢・富山・福井・京都・大津・神戸・新潟

株式会社 松村組

取締役社長　松村雄二

本社・大阪市北区空心町一丁目七〇番地　電話大代表大阪(353)1131
支店・東京・名古屋・札幌・仙台・広島・福岡

三井建設 株式会社 大阪支店

取締役支店長　土井岡進

大阪支店　大阪市北区中之島3－7（三井ビル2号館）　TEL　06－443－1321
本店　東京都千代田区岩本町3－10－1　TEL　03－863－3111

株式会社 村上工務店

取締役社長　村上晃一

本社　大阪市大淀区豊崎東通り3丁目16番地の16　TEL（372）2924
営業所　東京・神戸

村本建設株式会社

代表取締役社長　村本豊嗣

本　店　奈良県北葛城郡広陵町安部547　電話　大和高田　(55) 1151(代表)
大阪本社
大阪支店　大阪市天王寺区上本町9丁目49　電話　大　阪　(779)1571(代表)
東京支店　電話 東京 (265)5851(代)　名古屋支店　電話 名古屋 (241)1511(代)
福岡支店　電話 福岡 (741)0119　三重支店　電話 津 (26) 2949

望月建設株式会社

取締役社長　望月小太郎

本　社　大阪市北区堂島上1丁目18　電話大阪(344) 8651(代表)

株式会社 森組

取締役社長　森幸治

本　社　大阪市東区横堀2丁目14番地　電話　201－2761(代)
(支店)　東京・名古屋・奈良 (営業所)和歌山・尼崎・神戸・岡山・仙台・京都・滋賀・福岡・宮崎

株式会社 盛工務店

代表取締役　盛道雄

本　社　大阪市北区南森町47(成興ビル)　電話 (364) 1581(代表)
営業所　神戸・赤川・西宮

矢島建設株式会社

取締役社長　矢島浩三

本　社　東京都中央区銀座七丁目11－3　電話 東京 (572) 代1436
大阪支店　大阪市南区北炭屋町八番地　電話 大阪(244)大代1181
取締役副社長　仁平信也
支店長
支店・営業所　仙台・福岡・蒲郡・和歌山

株式會社 米田工務店

取締役会長　米田治郎兵衛
代表取締役　米田良男

本　社　〒543 大阪市天王寺区逢阪上ノ町7　TEL 大阪(06)771-7771代表

賀　正

1975

建材・設備工事業者有志

アイエム換気工業株式会社

代表取締役　松岡晃一郎

本　　社　大阪市浪速区芦原町1183　TEL (06) 561−3901代
東京出張所　東京都豊島区西池袋5−13−13　TEL (03) 982−0271
東都自動車ビル1411号
泉北出張所　堺市泉北若松台1−1−1310号　TEL (0722) 92−3321

防熱工事設計施工

株式会社 井上冷熱

取締役社長　井上浄夫

大阪市西区江戸堀1−22　電話(06)441−8531㈹
支　社　東京都中央区八丁堀4-2-2 共同ビル八階　電話(03) 551−6756
工　場　岡山市中原375　電話(0862)52−5371

タイル・瓦工事

井上窯業株式会社

代表取締役　井上秋次

大阪市天王寺区生玉町40番地　電話 771−2825(代)
営業所　豊中・奈良・寝屋川　779−5323〜4

株式会社 梅彦

代表取締役　松永彦太郎

本　　社　大阪市北区舟場町20番地　電話 06 (371) 4036代
営 業 所　大阪市北区道本町40番地　電話 06 (312) 6171代
茨木工場　茨木市字清水246番地　電話0726 (43) 6149代

大阪装飾株式会社

取締役社長　蜷川智造

本　社　大阪市西区京町堀2丁目64番地　電話代表 06 (441) 0931
営業所　東京都港区西新橋2−26−1　電話代表 03 (437) 2577

株式会社 **木下謹三商店**

取締役社長　木下光雄

〒550 大阪市西区江戸堀5丁目5番地　電話 06 (443) 0115

営業品目　アスファルト防水
三星シングル
ウレタン防水　　工事並に材料販売
カラーベスト
コーキン

株式会社 佐々木商店

代表取締役　佐々木信之
大阪市淀川区東三国6丁目25番2号　電話 06 (392) 7871(代)

株式会社 シエル石油大阪発売所

フリントコート部門

本部長　栗山和三

本　社　大阪市北区堂島浜通り1－25　電話 大阪(343) 0441大代表
分　室　大阪市淀川区西中島2丁目11番30号　電話 大阪(303) 7131 代表
事務所　東京・名古屋・広島・福岡

新日本空調株式会社大阪支店

支店長　河原義夫

大阪支店　大阪市北区堂島浜通1－25－1(新大ビル)　電話大阪 (344) 6031(代)
本　社　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第2別館)　電話東京(279)5671(大代)

須賀工業株式会社

取締役社長　須賀孝

本店　大阪市西区土佐堀通1丁目　電話 (06) 441－5171
支店　東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡・札幌・千葉・横浜・静岡・広島・高松

精研冷機株式会社

取締役社長　木内清三
専務取締役　和田正八郎

本　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地(オートセンタービル)　電話768-5031(代)
東京営業所　東京都千代田区九段南2丁目2番5号 (九段ビル)　電話262-3241(代)

鉄骨・鉄塔
橋梁・製缶　鉄構造物設計施工

株式会社 **大成鉄工所**

代表取締役　高杉善久

本社工場　枚方市出口3丁目1の11　電話（0720）31−7001〜8
京都工場　京都府相楽郡山城町西河原5　電話（0774）86−3922〜6
広島営業所　広島市横川町新町8−19（ライトビル）　電話（0822）32−8859

株式会社 **大和商会**

取締役社長　澤井修

大阪市南区高津町4番丁73　電話 代表 大阪 06(631)6221番

三星Pタイルの
田島応用化工株式会社
大阪営業所

大阪営業所　大阪市西区京町堀1−74　電話　06（441）−5951代
東京営業所　東京都千代田区岩本町3−11　電話　03（866）−6101代

東西日本アスファルト事業協同組合
西日本床工事事業協同組合

株式会社 **タテバヤシ商店**

代表取締役　舘林彦四郎

〒601 京都市南区西九条大国町37　電話（075）681−7221（代）

大阪ガス風呂ショップ
TANAKA BATH LIVING

株式会社 **タナカ風呂**

代表取締役　田中照雄

大阪市浪速区元町1丁目747　（但し国鉄湊町駅南へ50メーター西側）
電話（649）3726（ミナフロ）代
工場　守口市大宮通り4丁目25　電話（997）0171代

特許 **強力アスロン・アスタイト防水**
東西アスファルト事業協同組合
田島ルーフィング株式会社

大　阪・大阪市西区京町堀1−74　電話（06）441−5951
東　京：東京都千代田区岩本町3−11　電話（03）866−6101
名古屋・広　島・福　岡

東邦パーライト軽量断熱コンクリート、東邦パーライト軽量断熱モルタル、建設省防火認定材料(ネオパールスキン)

東邦パーライト株式会社

取締役社長　橘　泰治

本　社　大阪市東区森之宮西の町594　電話（941)9243～7(代)　営業所　東京、広島、高松、金沢

友田工業株式會社

取締役社長　友田俊夫

本社　〒534 大阪市都島区都島中通３丁目3番6号　電話大阪 06（921）0331～6

TOTO特約店　株式会社 **ナニワ**

代表取締役　吉田広助

営業所　大阪市生野区巽西２丁目７番24号　電話 757－1101(代)
本　社　大阪市天王寺区烏ヶ辻町６１　電話 771－9123(代)

株式会社 **西原衛生工業所大阪店**

取締役社長　伴　一郎

大阪市大淀区中津南通４丁目１１番地　電話大阪（458）代３５３１番

東亜印ルーフィング

東亜工業株式会社

本　社　〒581 大阪府八尾市南太子堂6丁目4番27号　電話0729－23－3921
営業所　東京・名古屋
工　場　大阪・東京・和歌山

東亜アス防水工事ビニボンデル工法
合繊不織布・TNコート使用のメンブレン防水

建設省計振発第55号認可

東亜アスファルト防水事業協同組合

〒581　大阪府八尾市南太子堂６丁目４番２７号　電話　0729－23－3921

大阪で唯一の

株式会社 **日刊建設新聞社**

取締役社長　中山豊雄

大阪本社　大阪市東区高麗橋1丁目3（東洋ビル）　電話 202−6861(代表)

日刊建設産業新聞・日刊建産速報

株式会社 **日刊建設産業新聞社**

取締役社長 花村茂彦　　常務取締役 大阪支社長 山邊敏郎

大阪支社　大阪市東区淡路町1丁目14(八千代ビル)　電話06(231)8171(代)
本　社　東京都板橋区板橋町1丁目48−8　電話03(961)1691(代)
神戸支局　神戸市葺合区八幡通4丁目2−25　電話078(291)0541〜2
京都支局　京都市上京区河原町丸太町東入俵屋町460　電話075(211)1911

株式会社 **日刊建設通信関西支社**

代表取締役会長　田中一

常務取締役 関西支社長　森三郎

大阪市西区江戸堀1−144 エハラビル　電話（444）4451代表

本社・東京都港区西新橋2−11−4　電話（502）8581代表

日本アスファルト年限保証防水（日本アス協組員）
ニトルーフシート防水 } 冷工法
NPシート2号防水 }
東洋シート防水．ウレタン．N.S塗膜防水工法（冷工法）

日新工材株式会社

代表取締役　井場正孝

大阪市西区新町北通1−17　電話（541）3785〜6・2721

マルエス印 ▲ルーフィング ▲シングル ▲ビニエスタイルSP

日新工業株式会社 大阪支店

取締役支店長 古屋才兵衛

本社営業所●東京都足立区千住東2-21-28/☎東京(882) 2424(代)
大阪支店●大阪市東淀川区瑞光通り4-30-2/☎大阪(329)7737〜40
出張所●名古屋・広島・福岡・札幌・山形・工場／東京・埼玉・山形

日本アスファルト防水工業　協同組合 関西支部

大阪市東淀川区瑞光通り4-30-2　日新工業株式会社大阪支店内
電話（329）7737〜40

エレベータ・リフト・カーリフト
設計・製作・据付・修理

日本エレベータ工業K. K.

代表取締役 長尾正大

本　　社　大阪市大淀区天神橋筋六丁目　天六阪急ビル　電話 06(351) 4927㈹
東京営業所　東京都北区田端町３１１　東京建築興業ビル　電話 03(822) 0995㈹
工　　場　大阪市東淀川区小松中通５丁目６番地　電話 06(328) 0363㈹

温水ボイラ製造・販売

株式会社 ニホンボイラ

代表取締役　岡本　了
本　社　大阪市西淀川区佃２丁目５－35　TEL 06 (474) 3441 (代)
営業所　東京・名古屋・仙台・福岡・広島・松山・新潟

HI

原田今商事株式会社

アサノセメント
アサノコンクリート
日本YTONG

取締役社長　原田守蔵

本　　社　電話06－541－７４５５(代)
水分営業所　電話06－541－３８４３～４

阪急電気工事株式会社

取締役社長　杉村正三郎

本　社　大阪市淀川区十三本町２丁目13番15号　電話　代表 06 (302)0231
営業所　名古屋市南区観音町６－７　電話　代表 052 (692)1141

Vandex®

無機質浸透性塗布防水剤

ウレタン防水剤――バンデコート・カラーバンデコート
防塵用カラー床剤―バンデコート F500
ウレタンシーラント―S-340・S-350
アクリル系コンクリート撥水剤―バンデオウータープルーフ

〈信越化学グループ〉

株式会社 バンデックス・ジャパン

代表取締役社長　村川一雄
関西営業所所長　南澤甚八

本　　社　東京都中央区八丁堀２－２７－１０　03－552－6954(代表)
関西営業所　大阪市北区伊勢町19-2 高橋ビル北２号館　06－312－５７６５

保土谷化学工業株式会社

取締役社長　原　覚

本社・建材部　東京都港区芝琴平町２番地１　TEL 03 (502) 0171
大阪支店　大阪市東区高麗橋５丁目45番地　TEL 06 (231) 1212
名古屋営業所　名古屋市中区錦１丁目17番13号　TEL 052(231) 7251

電気設備工事　計装工事

富士電業株式会社

取締役社長　田　中　　実

本　社　大阪市西区北堀江上通1丁目65　電話(538)1171代表
営業所　東京・名古屋・広島・福岡

ビニロイド　防水　責任施工
アコシート　防水　責任施工

コーキング　販売施工
ピサロン　販売施工

三星産業株式会社

〒550 大阪市西区江戸堀1－126(大栄ビル)　Tel.〈443〉9721(代)
〒101 東京都千代田区神田小川町3-28(三東ビル)　Tel.〈292〉1961(代)
出張所：札幌〈721〉6031・6307　仙台〈21〉5366(代)
名古屋〈931〉4574・3393　福岡〈78〉3361(代)

室谷商事株式会社

取締役社長　室　谷　山　水

本　社　神戸市生田区北長狭通4丁目1(英和ビル)　電話078－331－0881
支　店　大阪市北区絹笠町50(堂ビル)　電話06－364－2031

アルミ押出形材より…アルミ建材製品まで…

引戸用レール各種
階段スベリ止各種
アルミ窓格子、手すり
アルミ脚立、梯子
アルミスパンドレル

安田株式会社

取締役会長　安　田　誠　一

本　社　大阪市南区末吉橋通1丁目17　TEL06(251)7091㈹
東京支店　東京都中央区日本橋本町4-3-6 ニンジンビル　TEL03(242)1741㈹

アルミ押出工場　安田金属工業株式会社　大阪市平野区加美東4丁目6－36　TEL06(791)3936㈹

四ツ橋

耐火建材・金属建材・住設材

株式会社 山本建材社

代表取締役　山　本　武　雄

本　社　大阪市西区四ツ橋筋・四ツ橋　電話541－1861～7
東　店　東大阪市金物町3号1番　電話723－2277～8
西　店　大阪市西区立花通2（家具街）　電話541－2152～3

銘木と建材

株式会社 吉川

本　　社　和歌山市西布経町1の1　電話0734(23)5257(代)
営　業　所　和歌山県海草郡下津町下222　電話07349(2)1423(代)
営　業　所　田辺市新庄町491　電話0739(22)0259・6350
配送センター　和歌山市中島字荒代新田618－3　電話0734(25)5595

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事 専業大店

シート防水・ウレタン防水・シングル葺工事

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　TEL 06-364-0206 代表

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　(英和ビル)
電話　神戸(331) 0881～3
支店　大阪市北区絹笠町50(堂ビル5階 502号室)
電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5(電話221 2923)

OKUYAMA KAKOGYO WATER-PROOF OAM

陸屋根防水には 奥山式 特許 絶縁工法 を

カッパー防水帯

コーパータイト

新工法！
プレノテクト吹付工法

8対2の防水(冷工法)　デラタイト

特許　奥山式熱工法・冷工法綜合防水層

奥山化工業株式會社

本　社	東京都中央区銀座8－4－11	電話 03(571)2703～4・2370・4064・0264
大阪出張所	大阪市都島区都島中通り2-3-1	電話 06(921)2497・(922)7280
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話 052(811)3660・3104
札幌出張所	札幌市中央区北三条東四丁目	電話 011(231)7 5 1 1

特許　岩元式ベンチレーター
(電動式並固定型各種)

岩元式ベンチレーター　A型・B型・固定型
岩元式連塔換気装置（コンチニヤス・ベンチレーター）
新型　換気塔 NSライン　（強制換気扇付）
新型　換気塔 SFスーパー　(特殊装置による風量増幅 換気扇の能力を倍増する)
最新型　採光排気塔(風光)スーパーライン特殊増幅装置付
スカイライト工事・通風ルーパー
スチール及アルミサッシュドアー・各種シャッター製作施工
其の他　曲加工一式

(カタログ進呈)



岩元工業株式会社
大阪市東成区大今里2丁目5番22号
電　話　(981) 0615～0618

空気調和・冷暖房設備
給排水・衛生設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区芝浜松町1-2-7　電話 (434) 6171(大代)
大阪支社　大阪市東淀川区加島町357　電話 (302) 2271 (代)
支　店　北海道・仙台・名古屋・広島・福岡
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

電気・空調・給排水衛生設備
設　計　施　工

大阪電気暖房株式会社

本　社　大阪市西区江戸堀1－60　電話 (441)8231代表
支　店　東京・名古屋・大阪・福岡・仙台・金沢・広島
営業所　札幌・新潟・岡山・高松・熊本
出張所　盛岡・秋田・横浜・富山・豊田・福井・京都・神戸・鹿児島・那覇

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区高垣町一　電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル　電話 京都561局4944(代)
神戸市生田区下山手通六ノ一　電話 神戸341局5892

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備
■その他管工事一切の設計・施工

(旧斎藤久孝事務所)

斎久工業株式会社大阪支店

大阪支店　大阪市北区常安町11　電話 06－443－5041㈹
東京本社　東京都千代田区大手町2-6-2(日本ビルヂング)
電話　03－270－7411㈹
営業所　札幌・仙台・金沢・高松・岡山
出張所　福井・倉敷・広島・苫小牧

冷暖房
給排水、衛生水道
電気
厨房

環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業 株式会社 大阪支店

取締役社長　各務節
支店長　藤田初蔵
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪 (202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、北陸
出張所　横浜、金沢、静岡、高松

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町65番地　電話 (352) 1131 (代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話 (667)3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

空気調和・衛生設備

株式会社 三晃空調

東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03－344－1911
大阪本店　大阪市北区富田町16番地　電話 06－363－1371
支　店　名古屋市中村区下笹島町11－2　電話052－581－8571
広島市紙屋町1丁目2番22号　電話0822－47－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
出張所　横浜・福井・京都・神戸・松江・沖縄

――冷・暖房、衛生、機器配管、設計施工――

株式会社 清水工業所

本　社　大阪市大淀区南浜町3丁目14番地
〒531　電話 大阪 (372) 2851(代表)
東京支店　東京都中央区八丁堀4丁目11番7号
〒104　(神谷ビル)
電話 東京 (551) 8041(代表)
出張所　鳥取・群馬・宇都宮・君津
島根・福岡・松山・高松

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜通1－25 (新大ビル)
電話　(06)　344－6031 (代)
本社・東京支店　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話　(03)　279－5671 (大代)
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

空気調和　衛生設備／設計施工

須賀工業

大阪市西区土佐堀通1-14　TEL 06-441-5171
支　店　東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡
営業所　札幌・千葉・横浜・静岡・高松・広島
出張所　金沢

空気調和　地盤凍結　冷凍冷蔵

精研冷機株式会社

本　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地
(オートセンタービル2階)　郵便番号542
電話 大阪 (06) 768－5031番
東京営業所　東京都千代田区九段南2丁目2番5号
(九段ビル8階)　郵便番号102
電話 東京(03) 262－3241～4番

●空気調和設備 ●給排水衛生設備 ●塗装設備
●蒸気噴射式冷凍機 ●公害防止関連機器／設計・製作・施工

大気社

(旧社名　建材社)

本社・東京支店＝東京都新宿区西新宿2-6(新宿住友ビル12・13F)　㊫(344)1851大代
大阪支店＝大阪市北区中之島2－22　㊫(203)3721代
名古屋支店＝名古屋市中区錦2－2－13　㊫(211)1535代
出張所＝札幌・仙台・豊田・金沢・神戸・高松
広島・松山・福岡・沖縄・バンコック

一般空調設備・恒温恒湿設備・冷凍冷蔵設備
冷却乾燥設備・環境改善設備その他上記に附
帯する衛生、電気等一切の工事の設計・施工

K PLANT **ダイキンプラント株式会社**

取締役社長 北川一郎

本　社　大阪市大淀区中津本通1丁目2番地 ホーコクビル
〒531　電話　大阪(06)372－5171(代表)
支　店　東京都中央区日本橋本町3の1 共同ビル
〒103　電話　東京(03)242－5521(代表)
営業所　福　岡・名古屋・広　島・札　幌・仙　台

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通4丁目11 **電話大阪(458)3531番**
出張所＝京都・広島・天理・福岡

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

高砂熱学

大阪支店　大阪市北区芝田町55番地(北阪急ビル9階)
電話　大阪(372) 2 5 1 1(代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

平山工業株式会社

衛生・空気調和設備・設計・施工

TEL (441)㈹ 1994.(443) ㈹0331　大阪市西区江戸堀通2の2

温湿度調整装置、暖　房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30　電話(364) 6661(代)
本　社　東京都千代田区丸ノ内3-3-1(新東京ビル)
電話(211) 8511・8561(代)
仙台支店　仙台市新伝馬町60
電話(21) 4491
名古屋支店　名古屋市東区東門前町3－6
電話(971) 3621

空気調和・恒温恒湿・冷凍・冷蔵
給排水衛生 設備　設計施工

不二熱學工業株式會社

本　店　大阪市南区順慶町2－50　電話 261－2436㈹
東京支店　東京都大田区西馬込1－2－1　電話 773－1231㈹
営業所　銀座・浜松・京都・神戸・福岡

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備 設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区京町堀4丁目　TEL(443) 8071
本　社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562) 1351
支　店　名古屋・福岡

冷暖房・温湿度調整・水　道
衛　生・環境衛生施設
設計施工

山田工業株式会社

本　社　大阪市西区京町堀1丁目62　電話 06 (443)8161(大代表)
名古屋支社　名古屋市中区栄2丁目16－13 京極ビル　電話 055 (202) 0077(代表)
出張所　東京都港区北青山3丁目6－18 共同ビルディング青山3階　電話 03 (409) 8905
神戸市生田区北長狭通7丁目1の1　電話 078 (341) 1778・4386

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満橋筋1－37(天満橋北詰)
電話 (352) 3501～3
四日市支店　四日市市浜田西末広町　電話(53)7431～3
大津営業所　大津市打出浜13－15　電話 0775 ㉒9738
津営業所　津市栄町2－111　電話⑧3610

空気調和設備
給排水衛生設備　設計施工
各種プラント設備

各種送風機・風力輸送装置
空調機器類・公害防止装置　設計製作

株式会社 カンダン

代表取締役　仙田四郎
旧社名　関西煖房工業株式会社

本　社　大阪市住吉区万代東6丁目3　TEL (672)1281(大代)
営業所　東京・名古屋・京都・広島・福岡　工場　和泉・名古屋
テレックス：本社 No. 562－7688　和泉工場 No. 538－5898

Carrier
冷暖房は CARRIER キャリア

東洋キヤリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪 (384)1201～7

電気工事・計装工事
設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長　栗　原　信　英

大阪市北区高垣町16番地（東阪急ビル）
電話　大阪（313）1101（大代）
支店　東京・名古屋・舞鶴・大阪南・神戸・広島・九州

電気設備 ε 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役　山　本　博　三

本社　大阪市北区中之島3の3　朝日ビルディング
TEL　代表　(385) 1361
本社営業所　吹田市垂水町3－34－6
TEL　代表　(385) 1361
京都営業所　京都市右京区西京極郡葛野町21番地
TEL　代表　(311) 1185

電気工事設計施工

株式会社　三　興　社

代表取締役　林　　敏夫

本　社　大阪市北区絹笠町50（堂ビル7階）
電　話（361）3671（代）
支　店　東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電　話（671）1478（代）
出張所　川　崎・相　模　原・堺・福　山

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
大阪支社

支社長　姉　川　正　男

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地　電話大阪（202）0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番地5号
支　社　札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
出張所　旭川・白河・横浜・静岡・富山

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長　嘉　納　伝　三

本　社　大阪市北区絹笠町五〇（堂ビル三階）
電　話　（364）1471（代）
支　店　東京都港区新橋二一一六（ニュー新橋ビル七階）
電　話　（504）0231
支　店　名古屋市北区城見通二丁目二〇番地
電　話　（991）5131（代）
営業所　神　戸・堺・千　葉・宇　都　宮・熊　本

電気工事 中 設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長　中　本　正　明

本　社　大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電　話　大阪（931）代表 7341～5
（0388）2193
資材倉庫　大阪市城東区野江東之町3丁目11　電話大阪（931）7004
奈良営業所　奈良県御所市御国通360　電話御所（2）0122
枚方営業所　枚方市山之上西町1の1　電話枚方（43）8659・（44）9232

電気工事・計装工事・設計施工

中央電気工業株式会社

取締役会長　今　村　　騰
取締役社長　平　木　　寛
本　社　大阪市北区梅ヶ枝町56番地
電　話　大阪　大代表（312）8881
支　店　東京・名古屋・四日市・神戸・和歌山
営業所　松山・京都・草津・静岡・水島・福岡

各種電気工事設計施工・制御盤製作

野里電気工業株式会社

取締役社長　池　内　文　夫

本　社　大阪市西淀川区柏里町1丁目110番地
電話　大阪（472）代表 1101～7
支　店　東京都品川区西五反田6丁目25番11号（福島ビル）
電話　東京（491）1746（492）0182・0350
営業所　北九州市小倉区鋳物師町23番地
電話　小倉（56）5665・5818
出張所　群馬・千葉・和歌山・名古屋

電気工事設計施工

太陽工藤工事株式会社

取締役社長　小　林　四　郎

本　社　大阪市福島区上福島北1－2
TEL（06）452－1151（代）
電力工事本部　大阪市此花区恩貴南之町73
TEL（06）462－1301（代）

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長　田　中　　実

本　社　大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話大阪（541）0564～7・7148～9
営業所　東京・名古屋・広島・福岡

電気設備設計施工

高千穂電機株式会社

取締役社長　岩　崎　久　雄

本　社　大阪市都島区中野町4丁目8－10
電話　大阪（06）358－1171大代表
営業所　東京・神戸・九州

電気工事・計装工事・設計施工

株式会社　ヤマト電気商会

取締役社長　山　本　永　造

本　社　大阪市北区西堀川町15番地
電話　大阪（364）代3056
支　店　東　京・神　戸・広　島
営業所　名古屋・岡　山・水　島
出張所　札幌・滋賀・高砂・松山・三原・沖縄

営業品目

			建設省認定の防火材料
セメント系吹付材	ソリジットスタイン	基材同等	0003号
特殊リシン吹付材	エバウォール	基材同等	0003号
アクリル系吹付材	エバーサンド	基材同等	0004号
ヒル石吹付材	エバテックス	基材同等	0004号

合同特許建材工業株式会社

本　社　大阪市東住吉区駒川町3－54　電話（06)702－7814～7
東京事業所・名古屋出張所・高松出張所・福岡出張所

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量



ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町二丁目壱番壱号　電話(641)五五五

ナニワ緩勾配瓦
3寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

内外装ホーロー建材及スパンドレル(ヨドウォル・ヨドスパン)
屋根折版（ヨドルーフ）販売及責任施工

サクラ建産株式会社

大阪市都島区都島中通2丁目17番4号
電話　大阪(922) 代表4421～3

耐酸ツボ各種
陶器、ガラス製品卸問屋
セトモノのデパート



源八橋セトモノ百貨店をご利用下さい。
株式会社 吉田芳雄商店
本　店 大阪市北区旅篭町18 電話(361)3450・(364)2345
源八橋店 大阪市北区天満橋筋4—78 電話(358)1790・1838

社寺数奇屋用瓦……大仏瓦
床・壁内外装用瓦……大仏敷・貼瓦
内外装用窯変美術タイル……大仏タイル
新発売……古代土器調高温〆タイル……大仏古代タイル

株式会社 大仏

本　社　京都市東山区今熊野大仏池田町9の9　075(541)3344(代)
東京営業所　東京都千代田区内神田1丁目6番2号　03(291)0491～2
南特許ビル3F
工　場　京都清水・山城・瀬戸

株式会社 矢橋大理石商店

大阪支店

大阪市東区高麗橋二丁目九　野村ビル五階
電話　大阪　（202）4905

FUTABAYA DECORATORS,LTD



建築物船舶等造作工事、家具建具・室内装備工事
内外装飾織物・窓掛敷物壁紙類一式/設計施工

（創業大正7年）

二葉屋装備工業株式会社

取締役社長　若林繁吉
大阪府摂津市東別府3丁目7番8号
電話　大阪（06)349－9193代表
大阪府知事建築業者許可(般－48)第12064号

奉仕感謝の店

タイル工事施工

特許申請中・完全滑止タイル
SSS（サンエス）タイル新発売
（カタログ進呈）

株式会社 川岸窯業商店

本　社　大阪市西区靱本町2丁目98番地(靱本町バス停前)
電話　大阪 06（532）代0461
姫路営業所　姫路市北条口126番地（住友生命保険ビル3階）
電話　姫路0792（82）0999

青写真とマイクロフィルム
株式会社
ナイガイ
製図・トレース・複写写真

本　社　大阪市北区堂島北町16　TEL（345)9055(代表)
御堂営業所　大阪市東区本町4-27御堂ビル　TEL（252）3906
横堀営業所　大阪市東区横堀2－36　TEL（202）5260

発明賞に輝く各種特許235件所有

特許 鈴木シャッター

65年の歴史最高の技術最大の生産

防煙火・防災・防盗

鈴木式防煙火シャッター・リンググリル®シャッター・
ステンレスシャッター・アルミニュームシャッター・
40・ピーアップ®シャッター・汎用シャッター
その他特殊シャッターの製造
アフターサービスの完璧

株式会社 鈴木シヤタア商会

大阪市北区茶屋町33番地 電話大阪(06市外局番)371代表4151～6
北陸営業所 金沢市長田町119番地 電話金沢(0762市外局番) 65－5135～6
神戸営業所 神戸市長田区大橋8-4-7 電話神戸(078市外局番)611－7971
631－2021

防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社

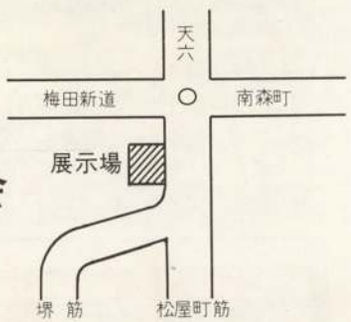
本社：大阪市東区両替町1－12 日生ビル ☎(943)6571代表
東京・横浜・盛岡・郡山・水戸・浜松・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・堺・神戸・広島・福岡他全国主要都市

年中見ていただける 皆様の見本室

タイル
常設展示場

AM.10.00～P.M.5.00
日曜・祝日は休館

全国タイル展示協会
大阪市北区南森町46番地
八千代ビル南館2F
TEL (06)364－2059



腐らない・燃えない・軽い

ケミカラーオーシマメタル

屋根材・壁 材・谷樋棟包水切りに
スタンダードメタルの 大島応用化学 東大阪市新庄 (745)5121～5

豊かな生活環境をお届けします

ina

伊奈タイル・伊奈衛生陶器・伊奈ポリバス

ina 伊奈製陶株式会社

本社 愛知県常滑市　　大阪支店 大阪市西区新町南通1-62 TEL 532－6081(代)

内外

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルト（樹指）
モルタル工事

N.G.C.式

米国パブコ・アスファルトコンパウンド
米国バイヤーライト・アスファルトコンパウンド　} 販売

各種シート防工事　責任施工

新防水材リベットルーフ　責任施工

内外工業株式会社

本社　大阪市東住吉区桑津町３丁目16番地　電話（714）0182(代)

工場　大阪市東住吉区桑津町３丁目16番地

全国で好評の……新興の内外装壁材を！

インテリヤ…カラーストーン…研出し仕上！
（旭化成ミュールコート・セット品）

シンコーストーン

いつも美しい　ワンタッチ…洗出し仕上…

ミュールストーン

（旭化成ミュールコート・セット品）

純日本壁の最高峰

ヤマト緊楽

吹付…に
塗付…に
完全耐火　} 主材 石綿

●全国有名建材店へ御問合せ下さい　●カタログお送りします

（株）新興建材工業所

大阪市西区南堀江通６丁目39番地　TEL大阪（538）2951～5・（541）5757～9

営業所　東京・高槻・明石・姫路・四国・中国

発売元

新興壁材工業（株）

大阪市住吉区粉浜本町４丁目２６番地　TEL 大阪（672）１６６１～３

（株）九州新興建材工業所

福岡市博多区上牟田八田町２６の１　TEL 福岡（41）５２２５～６

公共図書館

佐藤仁・西川馨 B5判　198頁　収録図版350　口絵写真28枚　**価4200円**

本書は、地域社会の核として活発な活動を続ける公共図書館に焦点をあて、これからの図書館建築のあり方を具体的に解説したもので設計者、学生、更には公共施設関係者のための最新の参考書です。

■目次

Ⅰ公共図書館は大きく変わりつつある
1.公共図書館とは
2.わが国に公共図書館はなかった
3.どこでも誰でも利用できるために

Ⅱ図書館建築をどう進めたらよいか
4.図書館計画にあたって
5.建築設計上の要点
6.図書館家具
7.設備と材料

Ⅲ公共図書館設計例
日野市立中央図書館　昭島市民図書館　福山市民図書館　浦和市立中央図書館　町田市立町田図書館　四日市市立図書館　山口県立山口図書館　相模原市立図書館　日野市立多摩平児童図書館　東京都立中央図書館　ハンザ地区図書館　ロバニエミ図書館　ベクシェ図書館など全19棟

付／図書館建築関係法規抄　建設計画書の実例　見学して参考となる図書館

■本書の内容

公共図書館とは——戦前・戦後にわたるわが国の図書館活動の軌跡を再検証し、旧来の図書館建築と対比させながら、地域社会における市民への広範なサービス活動に基礎をおいた公共図書館の姿を浮彫りにしてあります。

図書館の地域計画とは——これまでの単なる建物設計の考え方から利用する地域住民を主体とした、分館の配置、移動図書館の運営を含む一つの全体的なシステム図書館網ともいえる図書館の地域計画の方法を提示しています。

建築設計のための手引きとして——敷地の選定から、規模・拡張計画、他の公共施設との複合建築化の問題等、多様化する今日の図書館活動に即した図書館建築のあり方、造る上での考え方を設計運営面より懇切に解説してあります。

豊富な実例を収録——内外の最新の公共図書館19棟の設計例(配置図・平面図・立面図等収録)と本文の理解に必要な図表、写真を多数収載してあります。

■既刊・好評発売中

ユース・ホステル建築

吉江憲吉　日本におけるユース・ホステル建築の第一人者である著者の20年余にわたる研究の集大成です。西欧諸国及び日本の最新のユース・ホステルの実際の姿を、豊富な写真と図面で紹介しながらその企画・設計・施工・管理上不可欠なデータを収録して懇切に解説した指導書
B5判　178ページ　定価2800円　〒140

公民館 建築設計のための手引

河野通祐　わが国における公民館活動の軌跡を建築家の眼で再評価し、公民館とは何か、建築としての公民館はいかにあるべきなのかを理論と実際面から考究、デザインの方法を提示したもので、設計者、学生、施設関係者のための好参考書
B5判　132ページ　定価2100円　〒140

■近刊

青年の家・少年自然の家

河野通祐・浅野平八

体育施設

増沢洵

井上書院 建築図書出版
郵便番号102 東京都千代田区麹町4丁目5番地
振替東京100535 電話東京(03)261-6227・6202

特許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

燃えない
われない
腐らない

長尺物・色彩自由・責任施工

品種　オリエンタルメタル(O.P.M)
オリエンタルスーパーメタル(S.P.M)
オリエンタルカラードメタル(C.P.M)
カラースーパーオリエンタルメタル(C.S.P.M)

波板規格　S小波　S大波　V波　ボックス波　Wジャンボ波

用途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
通風器・排気ダクト・モニター

オリエンタルメタル製造株式会社

本社	兵庫県尼崎市昭和南通り3－26松本ビル	電話	大阪(412) 5131代表
東京支社及工場	埼玉県蕨市塚越5丁目6番32号	電話	蕨 (42) 3115～8
大阪支社及工場	兵庫県尼崎市長洲稲川新田44	電話	大阪(488) 1081代表
九州支店及工場	福岡県遠賀郡水巻町頃末	電話	八幡(69) 2831～4
名古屋支店及工場	名古屋市中村区泥江町1の24第2中経ビル	電話	名古屋(581)2781～4

カタログ御請求下さい。



全く新しい床タイルです

三星ピサロンは、従来のビニールタイルとは製法原料配合が全く違います。塩ビの他に最近開発された新しい共重合体の特殊樹脂を用いた画期的な新製品です。軟質プレスタイプの床タイルに比べ仕上り安定性がよく、カレンダー方式の流れ模様とは対照的な静止した現代模様。ピサロンの持つエラスチックで高級な質感、すぐれた歩行感は、床タイルの新しい世界を開きました。

協同組合員が責任をもって施工いたします

三星ピサロンは、材料だけの販売はいたしません。責任施工の出来る協組員が入念な仕上げをします。

これからはピサロンの時代です

三星ピサロンの新しい色調、パターンは、現代のインテリアデザインに要求される個性的な床造りには欠かせません。東京浜松町の超高層世界貿易センタービルの4F以上の各階通路、エレベーターホールにも、使用されております。〝三星ピサロン〟はその模様がフランスの画家ピサロのタッチに似ていることから、名付けられたものです。

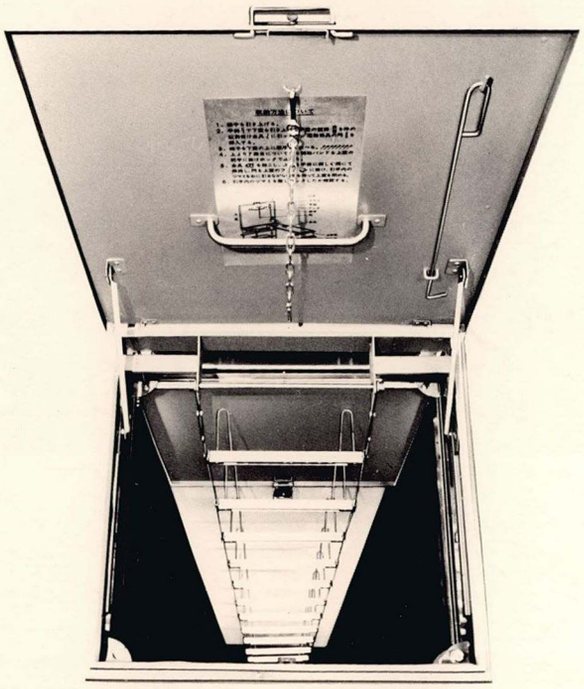
東日本床工事事業協同組合
西日本床工事事業協同組合
〈専用品〉

三星Pタイル
田島応用
TAJIMA OYO KAKO CO., LTD.

★規格＝333.3×333.3×2㎜　9枚/m²
★色数＝15色
★価格＝標準工法　2,100円/m²（300m²以上）
耐水工法　2,250円/m²（300m²以上）
階段40%高

東京／東京都千代田区岩本町3の11
電話　(866) 6101
大阪／大阪市西区京町堀1の74
電話　(441) 5951

機能と合理性を追求した新製品2種



非常用避難ハッチ ダッシャー PAT.PEND

国家検定合格

種　　別　金属製避難つり下げはしご
型　　式　折りたたみ式
型式番号　は第49～1号

特長

操作が簡単です
上蓋を開くと連動式に下蓋が開き、同時に吊りさげはしごが設置されますので、操作が簡単ですばやく脱出できます。

取付施工が簡単です
床のスラブに625×625㎜の開口部を設けておけば、あとは上、下の収納ケースを4本のボルトで結合するだけで簡単に取付施工できます。

防錆、防水も完全です
メッキ、塗装などの処理は規格に基いて完全を期すと共に、雨水などが収納ケース内に入らないよう合成樹脂パッキングを使用していますので、防水効果も優れています。

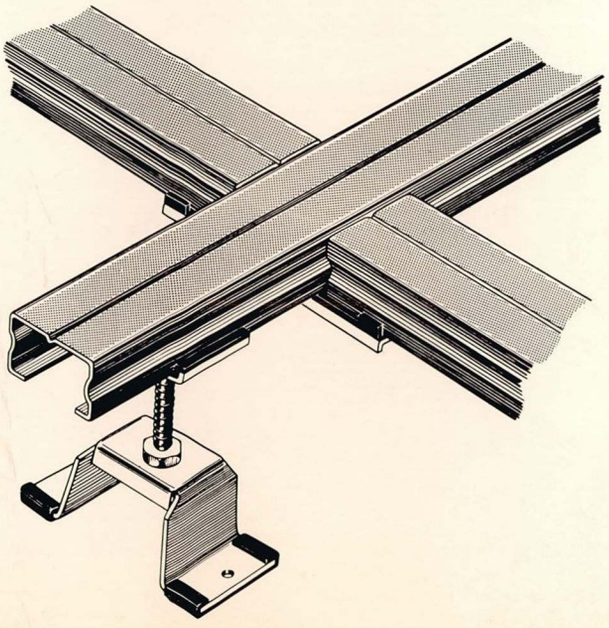
脱出が容易です
上蓋を開けると、90度で固定され、その内側に把手がついていますから、これを持って吊りさげはしごに降りられます。また脱出スペースも広くとっていますから無理なく安全に脱出できます。

下の階にも安全です
はしごは、いきなり全部下までおりず、中間までおりた状態で止まります。下の階の真下に人が居ないのを確かめてからバンドをはずすことにより、下までおろす方式になっていますので安全です。

集合住宅・学校教室に最も適した
画期的な鋼製床下地「クロスジョイント工法」

ネダコ®システム

特許・実用新案・意匠出願済〈住宅・教室用〉



特長

- 画期的なクロスジョイント工法です。
- 工期が大巾に短縮できる。
- 不燃性、安全性、精度が高い。
- 床鳴りの心配がありません。
- 高さの調整ができます。
- 開口部の補強、重量がかかる床下の補強が簡単にできます。

明日の生活環境づくりにアイディアでとりくむ
株式会社マンテン
本社　〒542 大阪市南区日本橋筋3-2 ☎(06)632-1151代・大阪建装部　〒556 大阪市浪速区日本橋東4-4-1 ☎(06)643-2277代
東京支店　〒136 東京都江東区亀戸2－3－17 ☎(03)682-3241代・名古屋出張所　〒454 名古屋市中川区百船町3－8 ☎(052)353-3177代・福岡出張所　〒812 福岡市博多区博多駅南6－12－22 ☎(092)431-4356代・札幌出張所　〒065
札幌市東区北八条東19-22 ☎(011)741-8439・広島事務所　〒730 広島市金屋町8-4 ☎(0822)62-1765・仙台事務所　〒980 仙台市中央2-7-30 角川ビル ☎(0222)63-0533代・本社工場　〒578 東大阪市水走55 ☎(0720)63-1151代
カタログ請求 本社広報課宛

■ご入会のお申込および「建築と社会」のご購読は・社団法人　日本建築協会　〒541　大阪市東区北浜3－37　電話大阪(06)231-9648・9649・9640　振替口座大阪39975番

建築と社会
昭和50年1月25日発行（毎月1回25日発行）・昭和24年3月19日第3種郵便物認可
ARCHITECTURE & SOCIETY
第58輯第1号
定価六百円（送料共）
表紙・きりえ　加藤義明